

## 共通〔教養科目〕

### 〔英語科目〕

英語1	[1クラス]・	1
	[2クラス]・	2
	[3クラス]・	3
	[4クラス]・	4
	[5クラス]・	5
	[6クラス]・	6
	[7クラス]・	7
	[8クラス]・	8
	(再)クラス	9
英語2	[1クラス]・	10
	[2クラス]・	11
	[3クラス]・	12
	[4クラス]・	13
	[5クラス]・	14
	[6クラス]・	15
	[7クラス]・	16
	[8クラス]・	17
	(再)クラス	18
英語3	[1クラス]・	19
	[2クラス]・	20
	[3クラス]・	21
	[4クラス]・	22
	[5クラス]・	23
	[6クラス]・	24
	[7クラス]・	25
	[8クラス]・	26
	(再)クラス	27
英語演習1	[1クラス]・	28
	[2クラス]・	29
	[3クラス]・	30
	[4クラス]・	31
	[5クラス]・	32
	[6クラス]・	33
	[7クラス]・	34
	[8クラス]・	35
	(再)クラス	36
英語演習2	[1クラス]・	37
	[2クラス]・	38
	[3クラス]・	39
	[4クラス]・	40
	[5クラス]・	41
	[6クラス]・	42
	[7クラス]・	43
	[8クラス]・	44
	(再)クラス	45

英語演習3	[1クラス]・	46
	[2クラス]・	47
	[3クラス]・	48
	[4クラス]・	49
	[5クラス]・	50
	[6クラス]・	51
	[7クラス]・	52
	[8クラス]・	53
	(再)クラス	54

### 〔留学生科目〕

日本語I	.....	55
日本語II	.....	56
日本語III	.....	57
日本語IV	.....	58
日本事情I	.....	59
日本事情II	.....	60

### 〔必修科目〕

情報リテラシー I	[01クラス]・	61
	[02クラス]・	62
	[03クラス]・	63
	[04クラス]・	64
	[05クラス]・	65
情報リテラシー II	[01クラス]・	66
	[02クラス]・	67
	[03クラス]・	68
	[04クラス]・	69
	[05クラス]・	70

## 共通〔教養科目〕

### 〔選択必修科目・選択科目〕

20世紀の世界史	71	芸術論	106
20世紀の日本史	72	現代社会理解	107
TOEIC I	73	自己理解の心理学	108
TOEIC II	74	社会学概論	109
インターンシップ	[情社01]・75	浄土教の歴史と文化	110
	[情社02]・76	心理学入門	111
	[心理01]・77	身近な物理	112
	[心理02]・78	人生と職業	113
キャリアと自立	79	人体の構造と機能及び疾病	114
グローバル社会と地誌	80	数理基礎	115
コンピュータ概論I	81	世界の宗教と歴史	116
コンピュータ概論II	82	政治学概論	117
ジェンダー論	83	生命の仕組み	118
スポーツ文化論	[02クラス]・84	西洋史概論	119
ドイツの言語と文化	85	総合教養演習	120
ネットワーク・リテラシー	[01クラス]・86	総合情報演習	121
	[02クラス]・87	人工知能入門	122
ビジネス英語入門	88	体育実技I	[1クラス]・123
フランスの言語と文化	[01クラス]・89	体育実技II	[1クラス]・124
ボランティアの研究	[01クラス]・90		[2クラス]・125
	[03クラス]・91	中国の言語と文化	[03クラス]・126
マルチメディア・リテラシー	[01クラス]・92	哲学概論	127
	[02クラス]・93	東洋史概論	128
メディア論	94	働くことの科学と実践I	129
異文化コミュニケーション(海外研修)	95	働くことの科学と実践II	130
宇宙の科学	96	日本国憲法	[04クラス]・131
英語記事・論文読解	97	日本史概論	132
英語圏文化論	98	脳と行動	133
音楽音響学概論	99	福祉ビジネス論	134
化学と生活	100	仏教の歴史と思想	135
科学技術史	101	仏教精神I	136
教育と社会	[01クラス]・102	仏教精神II	137
	[02クラス]・103	文化人類学	138
経営学概論	104	簿記演習	139
経済学概論	105	法学概論	140

## 情報社会学科 〔専門科目〕

### 〔必修科目〕

情報学概論 .....	141	情報社会総合演習I .....	[01クラス]・ 178
基礎演習I .....	[01クラス]・ 142		[02クラス]・ 179
	[02クラス]・ 143		[03クラス]・ 180
	[03クラス]・ 144		[04クラス]・ 181
	[04クラス]・ 145		[05クラス]・ 182
	[05クラス]・ 146		[06クラス]・ 183
	[06クラス]・ 147		[07クラス]・ 184
基礎演習II .....	[01クラス]・ 148		[08クラス]・ 185
	[02クラス]・ 149		[09クラス]・ 186
	[03クラス]・ 150		[10クラス]・ 187
	[04クラス]・ 151	情報社会総合演習II .....	[01クラス]・ 188
	[05クラス]・ 152		[02クラス]・ 189
	[06クラス]・ 153		[03クラス]・ 190
プロジェクト演習I .....	[01クラス]・ 154		[04クラス]・ 191
	[02クラス]・ 155		[05クラス]・ 192
プロジェクト演習II .....	[01クラス]・ 156		[06クラス]・ 193
	[02クラス]・ 157		[07クラス]・ 194
情報社会一般演習I .....	[01クラス]・ 158		[08クラス]・ 195
	[02クラス]・ 159		[09クラス]・ 196
	[03クラス]・ 160		[10クラス]・ 197
	[04クラス]・ 161		
	[05クラス]・ 162		
	[06クラス]・ 163		
	[07クラス]・ 164		
	[08クラス]・ 165		
	[09クラス]・ 166		
	[10クラス]・ 167		
情報社会一般演習II .....	[01クラス]・ 168		
	[02クラス]・ 169		
	[03クラス]・ 170		
	[04クラス]・ 171		
	[05クラス]・ 172		
	[06クラス]・ 173		
	[07クラス]・ 174		
	[08クラス]・ 175		
	[09クラス]・ 176		
	[10クラス]・ 177		

## 情報社会学科 〔専門科目〕

### 〔選択必修科目・選択科目〕

3DCG演習	198	企業と業界の分析 I (製造・技術・IT)	238
e-ビジネス論	199	企業と業界の分析 II (流通・物流)	239
Webデザイン応用演習	200	企業組織における人間行動	240
Webデザイン基礎演習	201	空間構成演習I	241
アート・コミュニケーション論	202	空間構成演習II	242
アート批評論 I	203	会計学	243
アート批評論 II	204	経営情報論	244
コンピュータ画像処理	205	経営管理論	245
サウンド・プログラミング演習	206	経営情報システム	246
システム管理	207	現代経済論	247
デジタルサウンド演習I	208	現代社会と宗教	248
デジタルサウンド演習II	209	現代社会と倫理	249
デジタルデザイン応用演習	210	行政学	250
デジタルデザイン基礎演習	211	行政法	251
デジタル映像表現	212	国際関係論	[1クラス]・252
データベース論	213	国際法	253
データ解析法	214	自然地理学	254
テキスト情報処理	215	情報システム論	255
テクノロジーと音楽	216	情報セキュリティ	256
デザイン演習	217	情報と職業	[02クラス]・257
ネットワーク管理	218	情報ネットワーク論	258
ネットワーク社会論	219	情報の分析と活用	259
ビジネス関連法	220	情報メディア演習	260
プログラミングI	221	情報関連法	261
プログラミングII	222	情報社会特講I	262
プログラミング入門	223	情報社会特講II	263
マーケティング論	224	情報社会特講III	264
マルチメディア論	225	情報社会特講IV	265
映像・音楽の総合表現と人間	226	情報社会特講V	266
映像と音楽	227	情報社会特講VI	267
映像環境論	228	人文地理学	268
映像制作演習	229	西洋史特講	269
映像文化論	230	知識管理論	270
音楽とメディアの歴史	231	知的財産権法	271
音楽情報演習I	[01クラス]・232	地誌学	272
音楽情報演習I	[02クラス]・233	哲学の源流	273
音楽情報演習II	234	東洋史特講	274
音楽文化論	235	日本史特講	275
音響環境論I	236	平面構成演習	276
音響環境論II	237	法学応用演習	277
		民法A(総則・物権)	278
		民法B(債権)	279

## 心理学科 〔専門科目〕

### 〔必修科目〕

心理学概論I	280
心理学概論II	281
基礎演習I(学習法基礎)	282
基礎演習II(課題演習)	283
心理学統計法I	284
心理学統計法II	285
心理学実験	286
心理学研究法基礎(心理学研究法I)	287
臨床心理学(臨床心理学概論)	288
心理演習	289
ビジネス心理学	290
一般実験演習I	[01クラス]・291
	[02クラス]・292
	[03クラス]・293
	[04クラス]・294
	[05クラス]・295
	[06クラス]・296
	[07クラス]・297
一般実験演習II	[01クラス]・298
	[02クラス]・299
	[03クラス]・300
	[04クラス]・301
	[05クラス]・302
	[06クラス]・303
	[07クラス]・304
総合研究演習I	[01クラス]・305
	[02クラス]・306
	[03クラス]・307
	[04クラス]・308
	[05クラス]・309
	[06クラス]・310
	[07クラス]・311
	[08クラス]・312
総合研究演習II	[01クラス]・313
	[02クラス]・314
	[03クラス]・315
	[04クラス]・316
	[05クラス]・317
	[06クラス]・318
	[07クラス]・319
	[08クラス]・320

### 〔選択必修科目・選択科目〕

映像・音楽の総合表現と人間	226
企業組織における人間行動	240
コミュニケーション技法	321
ビジネス心理原典講読	322
学校臨床心理学(教育・学校心理学)	323
学習心理学(学習・言語心理学I)	324
関係行政論	325
教育心理学	326
健康・医療心理学	327
言語心理学(学習・言語心理学II)	328
交通心理学	329
公認心理師の職責	330
産業心理学(産業・組織心理学)	331
社会・集団・家族心理学	332
社会心理学	333
消費者理解の心理学	334
障害者・障害児心理学	335
情報処理心理学	336
心理データ解析法	337
心理学と職業	338
心理学研究法応用(心理学研究法II)	339
心理学的支援法	340
心理実習I	341
心理実習II	342
心理調査概論	343
心理的アセスメントI	344
心理的アセスメントII	345
深層心理学	346
神経・生理心理学	347
人格心理学(感情・人格心理学II)	348
精神疾患とその治療	349
知覚心理学(知覚・認知心理学I)	350
動機づけと情動(感情・人格心理学I)	351
認知心理学(知覚・認知心理学II)	352
発達心理学	353
犯罪心理学(司法・犯罪心理学)	354
福祉心理学	355

## 教職課程

教職論 .....	[01クラス]	356	メディア教育論 .....	383
教育原理 .....		357	教育制度論(教育課程を含む。)	384
発達・学習論 .....	[01クラス]	358	学習指導I .....	385
情報科教育法I .....		359	学習指導II .....	386
情報科教育法II .....		360	教職実践演習(中・高) .....	[01クラス] 387
社会科・公民科教育法I .....		361		[02クラス] 388
社会科・公民科教育法II .....		362		
社会科・地歴科教育法I .....		363		
社会科・地歴科教育法II .....		364		
社会科教育法III .....		365		
社会科教育法IV .....		366		
教育方法・技術論 .....	[01クラス]	367		
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 ..		368		
生徒・進路指導の理論と方法 ..	[02クラス]	369		
道徳教育の理論と方法 .....	[01クラス]	370		
特別支援教育概論 .....		371		
教育相談 .....	[02クラス]	372		
教育実習I .....	[01クラス]	373		
	[02クラス]	374		
教育実習II .....	[01クラス]	375		
	[02クラス]	376		
	[03クラス]	377		
	[04クラス]	378		
教育実習III .....	[01クラス]	379		
	[02クラス]	380		
	[03クラス]	381		
	[04クラス]	382		

科目名	英語1			
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	山本 久美			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語1			
クラス	[2クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	山本 久美			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語1			
クラス	[3クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	八木 茂那子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語1				
クラス	[4クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1				
クラス	[5クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1			
クラス	[6クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	八木 茂那子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語1				
クラス	[7クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	山本 久美			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1				
クラス	[8クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。				
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。 (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。				
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験60% 平常点40%(課題提出、小テスト、確認テスト等)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。				
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語1			
クラス	(再)クラス	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 月3
担当教員	荻野 隆聡			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	紙と鉛筆に頼った翻訳学習だけでは、英語の運用能力向上は望めない。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではない。非生活言語を理解し、使えるようになるには、『なぜそうなのか?』という疑問に答えなければ、前には進めない。この授業では、そうしたコンセプトに立ち、英文の仕組みやそれを支えるルール(文法)を基礎から学んでいく。その目的は、基本を決して疎かにしないことによって、将来の英語力向上の礎を築くことにある。			
授業方針	以下の進行過程で授業を行う。  (1)まず、その授業で学ぶべきテーマの基本ルール(文法項目)について説明を行う。 (2)次に、そのルールに関する練習問題を、学生への質疑応答形式で解いていく。 (3)同じテーマを対象とした『確認・発展問題』を授業の中で、あるいは課題として活用し、理解力を更に深めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業方針や成績評価等)、英語の基本的考え方について 第2回 名詞表現のルール 第3回 冠詞のルール 第4回 英文の骨格(単語の並べ方) 第5回 英文の骨格(単語の並べ方) 第6回 『時』を表す仕組み(過去形が持つ距離) 第7回 『時』を表す仕組み(未来表現) 第8回 『時』を表す仕組み(現在完了) 第9回 『時』を表す仕組み(過去完了と未来完了) 第10回 疑問文の仕組み 第11回 ~ingが表すもの 第12回 作用を受ける表現(受動態) 第13回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第14回 仮想の世界を述べる(仮定法) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)次回の授業で行うテーマに関し、参考書等で予習し、Exercisesの問題を自力で解いてみる。 (2)テキスト内にある『確認・発展問題』にも、必ず目を通して置く。			
学習到達目標	英文の仕組みや、それを支えるルールについて、基礎的知識を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキスト各Unitのテーマに関する説明を理解できたか。 (2)テキスト各UnitのExercisesを自力で解けるようになったか。 (3)テキスト各Unitの『確認・発展問題』を自力で解けるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	テキストとして“Dear Class”(南雲堂 2015年)を使用する。 必ず購入し、授業には絶対に持参すること。テキストがなければ授業には参加できず、したがって、成績評価の対象にならない場合があるので注意すること。			
備考	(1)授業では間違いをおそれず、積極的に発言してもらいたい。 (2)課題等の提出に心掛けること。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語2				
クラス	[1クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	町田 純子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等) 40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[2クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	宇野 知佐子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に進められるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[3クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	町田 純子	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[4クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	洪沢 優介			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[5クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	荻野 隆聡			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[6クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	霜田 敦子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[7クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	豊岡 めぐみ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に進められるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2				
クラス	[8クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的に行えるようになったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語2			
クラス	(再)クラス	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 金1
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	『英語1』でも述べたように、我々にとって、英語は生活言語ではない。つまり、その理解力と運用能力を向上させるためには、「なぜそうなのか？」という疑問に絶えず答えていかなければ、前に進めない。この授業では、1年生の『英語1』に引き続き、英文の仕組みや基本ルールを学んでいくが、その多くをリーディング演習を通じて行うことを予定している。併せて、リスニングやシャドーイング訓練も適宜取り入れ、英語の総合力アップを目的としている。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。 (1)各授業で学ぶべき基本ルール(文法項目)に関する説明と問題演習を行う。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 英語力アップのための基本姿勢について 第2回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明① 第3回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明② 第4回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明③ 第5回: 『英語1』で学習できなかった文法事項の説明④ 第6回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 1(A Jewel under the Sea)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 2(Working Robots)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 2(Working Robots)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)の構文・意味の把握 第11回: リーディング Unit 3(Moomin House Cafe)のリスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 4(Rabbit Island)の構文・意味の把握 第13回: リーディング unit 4(Rabbit Island)のリスニング・シャドーイング 第14回: 学習内容の総復習 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は増強されたか。 (2)基礎的英文法の理解は進んだか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)外国語習得には、音声学習が不可欠であることを認識したか。 (5)リスニング力・スピーキング力向上のためには、毎日家庭等でシャドーイングをする必要があることを認識したか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力はアップしたか。 (3)中学・高校で理解できなかった項目を理解できるようになったか。 (4)英文を読むスピードがアップしたか。 (5)リスニング力はアップしたか。 (6)シャドーイング訓練を継続的にこなせるようになったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語3				
クラス	[1クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	霜田 敦子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	1,2年生で学習したことを土台に、総合的な英語力をさらに向上させることを目的とする。当科目ではVoice of Americaを教材としてオーセンティックな英語を聴きとる演習と内容理解を通して、語彙、文法、聞き取りにくい音声等の習得を目指す。さらに、世界の最新ニュースに触れることで、今世界で起きていることに興味を持ってもらいたい。				
授業方針	各Unit授業前に指定された問題を解きレポートとして提出してもらいます。授業では予習してきた問題と本文内容の確認をします。次回授業初めに前Unitの復習少テストを行います。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 ガイダンス: 授業概要、成績評価法、注意事項の確認をする。Unit 1 Woof! I Feel Stress, Too! (1)</p> <p>第2回 Unit 1 Woof! I Feel Stress, Too! (2)</p> <p>第3回 Unit 2 Good for You, Good for the Planet (1)</p> <p>第4回 Unit 2 Good for You, Good for the Planet(2)</p> <p>第5回 Unit 3 Magnets for Depression (1)</p> <p>第6回 Unit 3 Magnets for Depression (2)</p> <p>第7回 Unit 4 Protect the Reefs! (1)</p> <p>第8回 Unit 4 Protect the Reefs! (2)</p> <p>第9回 Unit 5 Improving Memory in the Aged (1)</p> <p>第10回 Unit 5 Improving Memory in the Aged (2)</p> <p>第11回 Unit 6 Helping Trees Talk to Us (1)</p> <p>第12回 Unit 6 Helping Trees Talk to Us (2)</p> <p>第13回 Unit 7 Healing with Rice (1)</p> <p>第14回 Unit 7 Healing with Rice (2)</p> <p>第15回 まとめ及び理解度の確認</p> <p>以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。</p>				
準備学習	<p>シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。</p> <p>【予習】毎回の授業前に指定された問題に解答し、レポートとして提出すること。</p> <p>【復習】内容理解の課題を提出し、前Unitの復習テストの準備をしてくること。</p> <p>なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。</p>				
学習到達目標	<p>(1)語彙が増える。</p> <p>(2)ニュース英語に特有の表現を理解できる。</p> <p>(3)聞き取りにくい音を理解できる。</p> <p>(4)口頭練習により自然な発音ができるようになる。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	重要な語彙を理解し、ニュースの内容、表現、音声すべてにおいて理解できているか。さらに自分でも正しく発音できるか。			
	成績評価 方法	復習テスト20% + 定期テスト40% + 課題20% (予習課題、phrase reading課題、音読課題) + WPM記録表15% + 平常点 (授業態度等) 5% 以上の総合評価により成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Health & Environment Reports form VOA Volume 4、安浪誠祐 松柏社				
備考	<p>辞書は初回授業で指示する。</p> <p>授業中は許可された機能以外のスマートホン使用を認めない。</p> <p>教科書は各自で購入すること。コピーでの使用は不可とする。</p>				

科目名	英語3				
クラス	[2クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	宇野 知佐子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	生の英語を聴き取り、その文章を丁寧に読み内容を味わうことで、話し手の心情や考え方を深く理解し総合的な英語力の向上をはかる。				
授業方針	優れた英語のスピーチを用いて生きた英語のリスニング・リーディングを学ぶと同時に、国際社会への関心や知識を深める。文中の重要単語・文法事項を含む基本的な文法知識の復習も行い、平易な英文を難なく読みこなす力を養う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Hillary Clinton's Concession Speech 第2回 Hillary Clinton's Concession Speech 第3回 Hillary Clinton's Concession Speech 第4回 Hillary Clinton's Concession Speech 第5回 Hillary Clinton's Concession Speech 第6回 Hillary Clinton's Concession Speech 第7回 Hillary Clinton's Concession Speech 第8回 Steve Jobs' Stanford Commencement Speech 第9回 Steve Jobs' Stanford Commencement Speech 第10回 Steve Jobs' Stanford Commencement Speech 第11回 Steve Jobs' Stanford Commencement Speech 第12回 Steve Jobs' Stanford Commencement Speech 第13回 Steve Jobs' Stanford Commencement Speech 第14回 Steve Jobs' Stanford Commencement Speech 第15回 期末テスト				
準備学習	・次回に扱う箇所のアイ・シャドーイング(黙読)及び重要単語を確認して授業に臨む。 ・前回授業で解説した単語・文法事項を復習しておく。				
学習到達目標	・英語スピーチを聴き取り、内容を楽しむことができる。 ・基本的な文法知識を完全に理解している。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・リスニング力・読解力が向上しているか。 ・重要単語・基本的な文法知識が確実に身についているか。			
	成績評価 方法	平常点(課題・小テスト)40%、期末テスト60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教材用プリントを配布する。				
備考					

科目名	英語3				
クラス	[3クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	町田 純子	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	英語の文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。又、リスニングの速聴やシャドウイング練習により英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクアウトできるようになることもねらいである。				
授業方針	基本的に、教科書のタスクベースで、毎回語彙のチェックから始め、翻訳訳読式で返り読みせず、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の Topic Sentence(中心となる話題文)を探すことで要旨を把握し、段落の展開方法を分析しながら練習問題にあたる。会話文等を含め、ペアワーク、ディスカッション、グループ内プレゼン等の後に全体で確認する。(多少の変更は有り)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1回目 ガイダンス Sowing Seeds of Peace, Education & Hope: Malala (Sense Group Reading) 2回目 Savings: OzHarvest Market (Scanning) 3回目 Safety: An Eye on Crime (Topic Sentences & Main Ideas) 4回目 Work: Work Balance (Making a Summary) 5回目 Exercise: Sport BMX & Urban Fun? (Paragraph Development) 6回目 Happiness: Happiness (Skimming & Content Words) 7回目 Entertainment: Sports and Games (Sentence Stress) 8回目 Medical Science Health: Medical Science (Linking) 9回目 中間試験 10回目 中間試験の講評 Psychology: Resilience (Assimilation) 11回目 Facts: Efforts to Flag Fake-news (Fast and Relaxed Pronunciation) 12回目 Intelligence: Brain Development (Assimilation) 13回目 Friendship: Yosegaki Hinomaru (Reduction) 14回目 Humanity: A Hero (Contracted Form) 15回目 期末試験と解説				
準備学習	ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。毎回、家庭での準備学習(予習復習)で、教科書を事前に読み、英単語を理解していること。(30分) 間違えた箇所を確認し理解し、授業終了時に示す課題作成をすること。(30分)				
学習到達目標	英文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解することができる。・英語の物語、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができる。・英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクアウトできる。一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英検2級合格レベルの文法力習得ができているか。(課題)／英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクアウトできるか。(中間テスト)／英語のニュース記事、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができ、又一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができるか。(期末テスト)			
	成績評価 方法	テキストPart2文法課題20%、中間試験30%、期末試験50%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『Dear Learners』Drop Everything & Read 永本義弘、町田純子、八木茂那子、Ianエルズワース 南雲堂				
備考	携帯電話の辞書機能の使用は不可。紙の辞書か電子辞書を持参すること。				

科目名	英語3				
クラス	[4クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	山本 久美			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	様々なテーマの英語演習とリスニング問題を通して、英語運用能力の養成を図る。				
授業方針	演習中心の授業なので、熱心かつ積極的に授業に参加すること。また、必ずテキストを購入して授業に臨むこと。テキストを購入しなかった場合、単位の取得は望めないなので、注意すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業の進め方、評価などについて説明する。Unit1 Nice to meet you!を学習する。 第2回 Unit1の続きとUnit2 What do you do?を学習する。 第3回 Unit2の続きとUnit3 Do you like spicy food?を学習する。 第4回 Unit3の続きとReview & Checkを学習する。 第5回 Review & Checkの続きとUnit4 How often do you do yoga?を学習する。 第6回 Unit4の続きとUnit5 What are you watching?を学習する。 第7回 Unit5の続きとUnit6 Where were you yesterday?を学習する。 第8回 Unit6の続きとReview & Checkを学習する。 第9回 Review & Checkの続きとUnit7 Which one is cheaper?を学習する。 第10回 Unit7の続きとUnit8 What's she like?を学習する。 第11回 Unit8の続きとUnit9 What can you do there?を学習する。 第12回 Unit9の続きとReview & Checkを学習する。 第13回 Review & Checkの続きとUnit10 Is there a bank near here?を学習する。 第14回 Unit10の続き今まで学んできたことを復習する。				
準備学習	宿題として出された個所は必ずやってくること。				
学習到達目標	基本的な英文を読んだり、聞き取ることができるようにする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	普通の学習態度20%、期末試験80%で成績を算出する。その60%以上を合格とする。 普通の学習態度の中に、出席状況も含まれる。			
	成績評価 方法	普通の授業時での態度・発言などと出席状況をそれぞれ点数化し、期末試験80点と合計する。			
	成績評価	成績評価基準、評価方法に記したとおりである。			
教材	Smart Choice Workbook 1 Third Edition (Oxford)				
備考					

科目名	英語3				
クラス	[5クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	豊岡 めぐみ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	コミュニケーション能力の向上と異文化理解を深めることを通じて、英語の基礎的、発展的運用能力を養うことを目標とします。この目標達成のために、この授業では、「読む」「書く」「話す」「聞き取る」といった運用能力に重点を置き、併せて文法力、語彙力の向上に努めます。				
授業方針	授業の最初に新出単語をチェックし、次にCDを聴きながら練習問題を解きます。その後1ページ程度の英文の主旨を掴み、それに対する自分の見解をまとめてください。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction 第2回 Unit 1 現在時制・現在進行形 第3回 Unit 2 過去時制・過去進行形 第4回 Unit 3 現在完了・現在完了進行形 第5回 Unit 4 未来 第6回 Unit 5 過去完了 第7回 Unit 6 受け身 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 7 助動詞 第10回 Unit 8 疑問文 第11回 Unit 9 否定 第12回 Unit 10 可算・不可算名詞 第13回 まとめ1 第14回 まとめ2 第15回 これまでの総括及び試験				
準備学習	・解けなかった問題や間違えた問題を見直し、ノートに整理しておきましょう。 ・Readingの概要をつかみ、自分で内容をまとめておきましょう。				
学習到達目標	・反復練習によって、文法・文型の基本を理解することができる ・英文の主旨・大意を正確に読み取り、英文解釈の力を養う				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記学習内容に沿って、到達目標と単位修得目標レベルを達成できているかどうかを評価基準とします。			
	成績評価 方法	・期末試験、小テスト、課題(70%) ・平常点(受講態度など)(30%)  以上を総合的に判断し評価します。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Premium Reader (Elementary), Robert Juppe & Yukio Umaba, Kinsei-do, ISBN : 9784764739086				
備考	テキストは各自で購入すること。テキストをコピーしての使用は不可とする。				

科目名	英語3				
クラス	[6クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	永本 義弘	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	1・2年で学習した内容を復習すると同時に、総合的な力を更にアップさせることを目的としている。具体的には、毎回テーマを持ったunitを通じて、語彙・文法・構文・解釈・作文・聴解の総合的な力を鍛える内容となっている。				
授業方針	以下の方針で授業を進めていく。 ① 受講者の実力と理解度を勘案しながら授業を行うが、『英語の総合力アップ』という目的に沿ったものとする。 ② 毎回学生を指名し、授業への自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各unitのトピック並びに文法テーマは、以下となる。 第1回 ① 授業方針・目的及び成績評価に関する説明 ② 英語の総合力アップを図るには？ 第2回 ① Malala ② 基本5文型(1) 第3回 ① OzHarvest Market ② 基本5文型(2) 第4回 ① An Eye on Crime ② 基本動詞(1) 第5回 ① Work Balance ② 基本動詞(2) 第6回 ① Sport BMX and Urban Fun? ② 助動詞(1) 第7回 ① Happiness ② 助動詞(2) 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 ① Sports and Games ② 比較表現(1) 第10回 ① Medical Science ② 比較表現(2) 第11回 ① Resilience ② 準動詞(1) 第12回 ① Efforts to Flag Fake-news ② 準動詞(2) 第13回 ① Brain Development ② 文法の復習(1) 第14回 ① Yosegaki Hinomaru ② 文法の復習(2) 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の構造とその意味の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。				
学習到達目標	① 語彙を増やす。 ② 基本的な文法知識を再確認する。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードをアップさせる。 ④ 内容把握のスピードをアップさせる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 活用できる語彙は増えたか。 ② 基本的な文法知識を再確認できたか。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードはアップしたか。 ④ 内容把握のスピードはアップしたか。			
	成績評価 方法	定期試験(70%)と授業内の課題(30%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	"Dear Learners" 町田純子 / 八木茂那子 / 永本義弘 南雲堂				
備考					

科目名	英語3				
クラス	[7クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	霜田 敦子	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	本科目の目的は、全体的な構造を考えながら英文エッセイを読むことに慣れることです。授業では、時間を測って行う速読、直読直解型精読、overlapping, shadowingなどの活動を通して総合的な英語力を養成します。				
授業方針	授業の流れは、速読1回目:初見で読み概要を把握する。2回目:Exersiseで全体の内容を理解したうえで読む。3回目:phrase readingで精読しoverlapping後読む。各回word per minute (WPM)を記録し自分の読みを振り返る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Unit 1: Conclusion / Reasons 第2回 Unit 2: Social Trend 第3回 Unit 3: Result / Cause 第4回 Unit 4: Several Explanations 第5回 Unit 5: Comparison 第6回 Unit 6: For and Against 第7回 Unit 7: Classification 第8回 Unit 8: History 第9回 Unit 9: Process 第10回 Unit 10: Cause and Effect 第11回 Unit 11: Definition of a New Word 第12回 Unit 12: Research 第13回 Unit 13: New Products, New Service 第14回 Unit 14: Reading Graphs 第15回 まとめ及び理解度の確認  以上はあくまでも予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。				
準備学習	【予習】指定されたexersiseやPhrase reading シートへの和訳をしてくること。機械翻訳によると思われるものは受け取らない。 【復習】次回復習テストに向け復習をすること。授業外でもoverlapping, shadowingを行う。  なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。				
学習到達目標	英文の構造を理解し、概要さらに詳細まで完全に理解する。 WPM目標150wordを目指す。 Overlappingの練習後、自信をもって音読できる。 自分の読み方を分析できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英文の構造が理解できるか。 英文の概要と詳細が理解できるか。 WPM 150word達成できるか。 英文を正しく音読できるか。			
	成績評価 方法	復習テスト20% + 定期テスト40% + 課題20% (phrase reading課題、音読課題) + WPM記録表15% + 平常点 (授業態度等) 5% 以上の総合評価により成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 Skills for Better Reading <Basic> (南雲堂) 1,800円+tax				
備考	辞書は初回授業で指示する。 授業中は許可された機能以外のスマートフォン使用を認めない。 教科書は各自で購入すること。コピーでの使用は不可とする。				

科目名	英語3				
クラス	[8クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	洪沢 優介	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	本講義ではこれまで学んできた英語の基礎的な知識(基礎文法力、基本語彙力)をより深化させ、実践的な英語運用能力を養うことに加え、「英語を学びながら教養を深める」。英語を通して人文科学、社会科学、自然科学における基礎教養を深め、学際的な基礎教養を身につけることも目的として挙げる。				
授業方針	unit毎にテーマの異なるreading materialを使って、以下の方針で授業を進めていく。 ① 受講者の実力と理解度を勘案しながら授業を行うが、『英語の総合力アップ』という目的に沿ったものとする。 ② 毎回学生を指名し、授業への自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業スケジュール)	各unitのトピックは以下の通りである。 第1回 ① 授業方針・目的及び成績評価に関する説明 ② 英語の総合力アップを図るには？ 第2回 Letters and Language 第3回 Punctuation 第4回 Poetry 第5回 Story 第6回 Music 第7回 Calculation 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 Measurements 第10回 Statistics 第11回 Business Math 第12回 Health and Nutrition 第13回 Geography 第14回 World Issues 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の構造とその意味の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。				
学習到達目標	① 語彙を増やす。 ② 基本的な文法知識を再確認する。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードをアップさせる。 ④ 内容把握のスピードをアップさせる。				
成績評価基準	達成度評価基準	① 活用できる語彙は増えたか。 ② 基本的な文法知識を再確認できたか。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードはアップしたか。 ④ 内容把握のスピードはアップしたか。			
	成績評価方法	定期試験(50%)と授業内の課題(50%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	英語で学ぶリベラル・アーツ Knowledge Expander-English for Liberal Arts- 上村淳子 アイリーン岩崎 編著 朝日出版社				
備考					

科目名	英語3				
クラス	(再)クラス	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英語のshadowingを中心にlistening,speaking力を高めることを目標に更なる語彙力upを図る。				
授業方針	授業の最初に語彙check、次にCDを聴き、話のあらすじをつかむ。次に約300-400語で書かれた英文を読み、速読、speedを記録する。その後にshadowing内容確認、grammar、speaking等英語の運用能力を高めるのに効果的なtrainingを行う。また期間中5回の小テスト、14回目には音読のtestを行う予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction と学習目標の立て方 他 第2回 Unit 1 Unit 2 3つのshadowing 第3回 Unit 3 Unit 4 英語のレシピ quiz 1 第4回 Unit 5 Unit6 emails 第5回 Unit 7 Unit 8 quiz 2 第6回 Unit 9 Unit 10 第7回 Unit11 Unit 12quiz 3 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 13 Unit 14 第10回 Unit 15 Unit 16 quiz 4 第11回 Unit 17 Unit 18 第12回 Unit 19 quiz 5 第13回 Unit 20 第14回 Oral test・まとめ 第15回 まとめ及び試験  以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。				
準備学習	毎回の授業前に指定テキストの本文、Reading とPractice に目を通し、練習問題を2度解いてから授業に臨むこと。1回目は参照物なし、2回目はペンの色を変えて時間を計り、参照物を参照しながら1回目と答えの違うところをノートに書き込む。なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。				
学習到達目標	CDの英語を聴き、理解できる。 英語による基本的な内容の説明を口頭でできる。 英語による基本的な内容の説明文を読み、要するに何が言いたいのか理解できる。 英文を内容を理解しながら速く正確に読むことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英語3 で学習する上記の内容をよく理解しているか、伝達の手段としての英語をどれくらい「自然にかつ英語らしく言いたいことを」伝達できるか。			
	成績評価 方法	定期試験(40%)+ quiz (20%)+平常点(授業内での発表・参加度他)(30%)+ Oral test(10%)の総合評価により成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『It's Time to Read ! 』八木・町田・S.Ryan著(株)南雲堂				
備考	テキストは各自で購入すること。テキストコピーでの使用は不可とする。				

科目名	英語演習 1				
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	柳田 アニー			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[2クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[3クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	レメディオス・木村	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[4クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[5クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	柳田 アニー	単位区分	◎(必修)		
		単位数	1		
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[6クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1				
クラス	[7クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	ミゲル ジェルヴェ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This is a listening and speaking class where you will improve your grammar and vocabulary. You will also have some presentations.				
授業方針	We will teach practical, everyday English. Good attendance is required.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1 Introductions Week 2 Greetings and basic grammar Week 3 Be verb usage Week 4 Numbers Week 5 Articles, This vs That Week 6 Positions and simple questions Week 7 People's character Week 8 Presentation Week 9 Describing physical appearance Week 10 Describing physical appearance Week 11 Presentation preparation Week 12 Presentation Week 13 Weather and clothes Week 14 Time Week 15 Review Summary and Test				
準備学習	You should review the previous lessons every week.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	80% of the points are from the final examination and 20% are from participation and attendance.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, the workbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習 1			
クラス	[8クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	柳田 アニー			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .			
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.			
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test			
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.			
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?		
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	Interchange Intro A Full Contact			
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.			

科目名	英語演習 1				
クラス	(再)クラス	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	レメディオス・木村			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	This class is an English language course which focuses on listening and speaking abilities. You should expect to level up your English grammar and vocabulary .				
授業方針	Almost perfect attendance is required in order to make progress in speaking fluency , pronunciation and listening skill. We teach practical English and useful in everyday life.				
学習内容 (授業 スケジュール)	Week 1- Introduce yourself Week 2- Greetings and leave-takings Week 3- Asking about Classroom activities Week 4- Countries and Cities Week 5- Nationality Language and Age Week 6- Clothings Colors and Seasons Week 7- Review Test Week 8- Times of the Day everyday activities Week 9- Places Transportations Family Week 10- Family Members Week 11- Houses and Apartments Week 12- Listening to Descriptions of Houses and Apartments Week 13- Jobs and Workplaces Week 14- Giving Opinions Week 15- Review Summary and Test				
準備学習	Before every class, you should review the last week's work in the textbook.				
学習到達目標	1:to acquire the words and phrases to communicate in spoken English 2:to learn the knowledge of English grammar to read English passages 3:to develop an ability to grasp spoken English through listening practice				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1:Whether have the basic words and phrases been acquired? 2:Whether has the basic knowledge of English grammar been developed? 3:Whether has the listening ability been cultivated?			
	成績評価 方法	70 percent for the term-end exam score, and attendance. 30 percent for the participation.			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Interchange Intro A Full Contact				
備考	You will need the textbook, a notebook and a dictionary.				

科目名	英語演習2			
クラス	[1クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[2クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	豊岡 めぐみ			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[3クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	荻野 隆聡			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2				
クラス	[4クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	八木 茂那子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。				
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験				
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。				
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。				
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。				

科目名	英語演習2			
クラス	[5クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	荻野 隆聡			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[6クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	霜田 敦子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[7クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	[8クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	洪沢 優介			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習2			
クラス	(再)クラス	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金1
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1年生の『英語1』、2年生の『英語2』を引き継ぎ、更なる応用力アップを目指していく。具体的には、より分量と難度を増した英文題材を通じて、読解力・聴解力・表現力を総合的に向上させていく。英文の仕組みや基本ルールの学習、またリスニングやシャドーイングの導入は、本授業でも継続的に実施する予定である。期間中にテキストが終了した場合は、クラスのレベルに応じて、各担当者が適切と考える教材を用いた演習を実施する。			
授業方針	以下の基本方針に則り、授業を進めていく。テキストは、『英語1』『英語2』で用いたDear Classを継続使用する。 (1)各Unitで学ぶべき基本ルール(語彙・文法・構文)の説明。 (2)Unit毎にテーマが設定されたリーディング題材を読み進め、左から右へと流れる英文を、可能な限り読み返すことなく、意味をチャンク(塊)で把握していく。 (3)リスニングおよびシャドーイングを通じて、リーディング内容を音から理解する訓練を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	概要は以下となる。 第1回: 授業方針・成績評価等に関する説明 / 実戦力を付けるための英語学習法について 第2回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)の構文・意味の把握 第3回: リーディング Unit 5 (Durian Recipe)のリスニング・シャドーイング 第4回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)の構文・意味の把握 第5回: リーディング Unit 6 (Yuzuru Biography)のリスニング・シャドーイング 第6回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)の構文・意味の把握 第7回: リーディング Unit 7 (A Short History of Harvard University)のリスニング・シャドーイング 第8回: リーディング Unit 8 (Humanitude)の構文・意味の把握 第9回: リーディング Unit 8 (Humanitude)のリスニング・シャドーイング 第10回: リーディング Unit 9 (Coffee)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第11回: リーディング Unit 10 (Mike Rowe Biography)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第12回: リーディング Unit 11 (New Measures to Reduce Cell Phone Use)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第13回: リーディング Unit 12 (The Great Wall of China)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第14回: リーディング Unit 13 (Antarctica)の構文・意味の把握 / リスニング・シャドーイング 第15回: まとめおよび試験			
準備学習	(1)各授業の前に、意味の不明な語句を調べ、独力で文の意味と構造を把握するよう努めること。 (2)次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず一度は行うこと。 (3)テキスト内にある問題にも、必ず目を通すこと。			
学習到達目標	(1)語彙力は更にアップしたか。 (2)英文法の理解はより深まったか。 (3)語彙力・文法力の向上と比例して、読解力もアップしたか。 (4)英文を読むスピードもアップしたか。 (5)リスニング・シャドーイング訓練を通じた音声学習を継続して行うことができたか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)テキストにある英文の構造と意味を把握できたか。 (2)テキストを通じて、語彙力・文法力・読解力・聴解力が総合的にアップしたか。 (3)今後も英語の学習を継続しようという意欲が湧くほどに、理解と関心が深まったか。		
	成績評価 方法	定期試験 60% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等)40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『英語1』『英語2』に引き続き、Dear Class(南雲堂)を使用する。初回授業時から必ず持参すること。テキストがなければ授業に参加できず、したがって、成績評価の対象にもならない。			
備考	(1)授業へは主体的・能動的に取り組み、間違いをおそれずに、積極的に発言すること。 (2)課題の提出を怠らないこと。 (3)テキストを必ず持参すること。			

科目名	英語演習3			
クラス	[1クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	霜田 敦子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	1,2年生で学習したことを土台に、総合的な英語力をさらに向上させることを目的とする。当科目ではVoice of Americaを教材としてオーセンティックな英語を聴きとる演習と内容理解を通して、語彙、文法、聞き取りにくい音声等の習得を目指す。さらに、世界の最新ニュースに触れることで、今世界で起きていることに興味を持ってもらいたい。			
授業方針	各Unit授業前に指定された問題を解きレポートとして提出してもらいます。授業では予習してきた問題と本文内容の確認をします。次回授業初めに前Unitの復習少テストを行います。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス: 授業概要、成績評価法、注意事項の確認をする。Unit 8 Helping the Gorillas (1) 第2回 Unit 8 Helping the Gorillas (2) 第3回 Unit 9 No More Misinformation (1) 第4回 Unit 9 No More Misinformation (2) 第5回 Unit 10 No More Mountain Birds? (1) 第6回 Unit 10 No More Mountain Birds? (2) 第7回 Unit 12 Student Walkouts (1) 第8回 Unit 12 Student Walkouts (2) 第9回 Unit 13 Immigrants in Health Care (1) 第10回 Unit 13 Immigrants in Health Care(2) 第11回 Unit 14 Droning On About Whales (1) 第14回 Unit 14 Droning On About Whales (2) 第15回 まとめ及び理解度の確認  以上はあくまで予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。			
準備学習	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。 【予習】毎回の授業前に指定された問題に解答し、レポートとして提出すること。 【復習】内容理解の課題を提出し、前Unitの復習テストの準備をしてくること。 なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。			
学習到達目標	(1)語彙が増える。 (2)ニュース英語に特有の表現を理解できる。 (3)聞き取りにくい音を理解できる。 (4)口頭練習により自然な発音ができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	重要な語彙を理解し、ニュースの内容、表現、音声すべてにおいて理解できているか。さらに自分でも正しく発音できるか。		
	成績評価 方法	復習テスト20% + 定期テスト40% + 課題20% (予習課題、phrase reading課題、音読課題) + WPM記録表15% + 平常点 (授業態度等) 5% 以上の総合評価により成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	Health & Environment Reports form VOA Volume 4、安浪誠祐 松柏社			
備考	辞書は初回授業で指示する。 授業中は許可された機能以外のスマートホン使用を認めない。 教科書は各自で購入すること。コピーでの使用は不可とする。			

科目名	英語演習3				
クラス	[2クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	宇野 知佐子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	生の英語を聴き取り、その文章を丁寧に読み内容を味わうことで、話し手の心情や考え方を深く理解し総合的な英語力の向上をはかる。				
授業方針	優れた英語演説を用いて生きた英語のリスニング・リーディングを学ぶと同時に、国際社会についての知識や関心を深める。文中の重要単語の確認と基本的な文法知識の復習を行い、大学で学ぶ英語学習の総仕上げと位置づける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Joe Biden's Inauguration Speech 第2回 Joe Biden's Inauguration Speech 第3回 Joe Biden's Inauguration Speech 第4回 Joe Biden's Inauguration Speech 第5回 Joe Biden's Inauguration Speech 第6回 Joe Biden's Inauguration Speech 第7回 Joe Biden's Inauguration Speech 第8回 Emma Watson's UN Speech 第9回 Emma Watson's UN Speech 第10回 Emma Watson's UN Speech 第11回 Emma Watson's UN Speech 第12回 Emma Watson's UN Speech 第13回 Emma Watson's UN Speech 第14回 Emma Watson's UN Speech 第15回 期末試験				
準備学習	・次回に扱う箇所の単語を辞書で調べ、本文を読んで授業に臨む。 ・前回授業で解説した単語・文法事項を復習しておく。				
学習到達目標	・英語演説を聴き取り、内容を楽しむことができる。 ・基本的な文法知識を完全に理解している。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・リスニング力・読解力が向上しているか。 ・重要単語・基本的な文法知識が確実に身についているか。			
	成績評価 方法	平常点(課題・小テストを含む)40%、期末テスト60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教材用のプリントを配布する。				
備考					

科目名	英語演習3				
クラス	[3クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	洪沢 優介			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	本講義ではこれまで学んできた英語の基礎的な知識(基礎文法力、基本語彙力)をより深化させ、実践的な英語運用能力を養うことに加え、「英語を学びながら教養を深める」。英語を通して人文科学、社会科学、自然科学における基礎教養を深め、学際的な基礎教養を身につけることも目的として挙げる。				
授業方針	unit毎にテーマの異なるreading materialを使って、以下の方針で授業を進めていく。 ① 受講者の実力と理解度を勘案しながら授業を行うが、『英語の総合力アップ』という目的に沿ったものとする。 ② 毎回学生を指名し、授業への自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業スケジュール)	各unitのトピックは以下の通りである。 第1回 ① 授業方針・目的及び成績評価に関する説明 ② 英語の総合力アップを図るには？ 第2回 Letters and Language 第3回 Punctuation 第4回 Poetry 第5回 Story 第6回 Music 第7回 Calculation 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 Measurements 第10回 Statistics 第11回 Business Math 第12回 Health and Nutrition 第13回 Geography 第14回 World Issues 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の構造とその意味の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。				
学習到達目標	① 語彙を増やす。 ② 基本的な文法知識を再確認する。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードをアップさせる。 ④ 内容把握のスピードをアップさせる。				
成績評価基準	達成度評価基準	① 活用できる語彙は増えたか。 ② 基本的な文法知識を再確認できたか。 ③ 英文の構造を掴み取るスピードはアップしたか。 ④ 内容把握のスピードはアップしたか。			
	成績評価方法	定期試験(50%)と授業内の課題(50%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	英語で学ぶリベラル・アーツ Knowledge Expander-English for Liberal Arts- 上村淳子 アイリーン岩崎 編著 朝日出版社				
備考	携帯電話の辞書機能の使用は不可。紙の辞書か電子辞書を持参すること。				

科目名	英語演習3				
クラス	[4クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3
担当教員	宇野 知佐子			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	生の英語を聴き取り、その文章を丁寧に読み内容を味わうことで、話し手の心情や考え方を深く理解し総合的な英語力の向上をはかる。				
授業方針	優れた英語演説を用いて生きた英語のリスニング・リーディングを学ぶと同時に、国際社会についての知識や関心を深める。文中の重要単語の確認と基本的な文法知識の復習を行い、大学で学ぶ英語学習の総仕上げと位置づける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Joe Biden's Inauguration Speech 第2回 Joe Biden's Inauguration Speech 第3回 Joe Biden's Inauguration Speech 第4回 Joe Biden's Inauguration Speech 第5回 Joe Biden's Inauguration Speech 第6回 Joe Biden's Inauguration Speech 第7回 Joe Biden's Inauguration Speech 第8回 Emma Watson's UN Speech 第9回 Emma Watson's UN Speech 第10回 Emma Watson's UN Speech 第11回 Emma Watson's UN Speech 第12回 Emma Watson's UN Speech 第13回 Emma Watson's UN Speech 第14回 Emma Watson's UN Speech 第15回 期末試験				
準備学習	・次回に扱う箇所の単語を辞書で調べ、本文を読んで授業に臨む。 ・前回授業で解説した単語・文法事項を復習しておく。				
学習到達目標	・英語演説を聴き取り、内容を楽しむことができる。 ・基本的な文法知識を完全に理解している。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・リスニング力・読解力が向上しているか。 ・重要単語・基本的な文法知識が確実に身についているか。			
	成績評価 方法	平常点(課題・小テストを含む)35%、期末テスト65%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教材用プリントを配布する。				
備考					

科目名	英語演習3				
クラス	[5クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	山本 久美			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	様々なテーマの英語演習とリスニング問題を通して、英語運用能力の養成を図る。				
授業方針	演習中心の授業なので、熱心かつ積極的に授業に参加すること。また、必ずテキストを購入して授業に臨むこと。 テキストを購入しなかった場合、単位の取得は望めないなので、注意すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業の進め方、評価などについて説明する。Unit1 Nice to meet you!を学習する。 第2回 Unit1の続きとUnit2 What do you do?を学習する。 第3回 Unit2の続きとUnit3 Do you like spicy food?を学習する。 第4回 Unit3の続きとReview & Checkを学習する。 第5回 Review & Checkの続きとUnit4 How often do you do yoga?を学習する。 第6回 Unit4の続きとUnit5 What are you watching?を学習する。 第7回 Unit5の続きとUnit6 Where were you yesterday?を学習する。 第8回 Unit6の続きとReview & Checkを学習する。 第9回 Review & Checkの続きとUnit7 Which one is cheaper?を学習する。 第10回 Unit7の続きとUnit8 What's she like?を学習する。 第11回 Unit8の続きとUnit9 What can you do there?を学習する。 第12回 Unit9の続きとReview & Checkを学習する。 第13回 Review & Checkの続きとUnit10 Is there a bank near here?を学習する。 第14回 Unit10の続き今まで学んできたことを復習する。 準備学習 宿題として出された個所は必ずやってくる。				
準備学習	宿題として出された個所は必ずやってくる。				
学習到達目標	基本的な英文を読んだり、聞き取ることができるようにする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	全体評価の60%以上に達していること。			
	成績評価 方法	普段の授業態度、授業における発言、出席状況、小テスト(必ずしも行うとは限らない)、期末試験を総合して評価する。			
	成績評価	授業参加度等 20% 期末試験 80%			
教材	Smart Choice Workbook 1 Third Edition (Oxford)				
備考					

科目名	英語演習3			
クラス	[6クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	町田 純子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	英語の文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。又、リスニングの速聴やシャドウイング練習により英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクアウトできるようになることもねらいである。			
授業方針	基本的に、教科書のタスクベースで、毎回語彙のチェックから始め、翻訳訳読式で返り読みせずに、直読直解するやり方で読み進めます。各段落の Topic Sentence(中心となる話題文)を探すことで要旨を把握し、段落の展開方法を分析しながら練習問題にあたる。会話文等を含め、ペアワーク、ディスカッション、グループ内プレゼン等の後に全体で確認する。(多少の変更は有り)			
学習内容 (授業 スケジュール)	1回目 ガイダンス Sowing Seeds of Peace, Education & Hope: Malala (Sense Group Reading) 2回目 Savings: OzHarvest Market (Scanning) 3回目 Safety: An Eye on Crime (Topic Sentences & Main Ideas) 4回目 Work: Work Balance (Making a Summary) 5回目 Exercise: Sport BMX & Urban Fun? (Paragraph Development) 6回目 Happiness: Happiness (Skimming & Content Words) 7回目 Entertainment: Sports and Games (Sentence Stress) 8回目 Medical Science Health: Medical Science (Linking) 9回目 中間試験 10回目 中間試験の講評 Psychology: Resilience (Assimilation) 11回目 Facts: Efforts to Flag Fake-news (Fast and Relaxed Pronunciation) 12回目 Intelligence: Brain Development (Assimilation) 13回目 Friendship: Yosegaki Hinomaru (Reduction) 14回目 Humanity: A Hero (Contracted Form) 15回目 期末試験と解説			
準備学習	ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予・復習をすること。毎回、家庭での準備学習(予習復習)で、教科書を事前に読み、英単語を理解していること。(30分) 間違えた箇所を確認し理解し、授業終了時に示す課題作成をすること。(30分)			
学習到達目標	英文の構造を正しくとらえながら、その内容を理解することができる。・英語の物語、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができる。・英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクアウトできる。一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英検2級合格レベルの文法力習得ができているか。(課題) / 英語のリズム、音声現象にも慣れ、簡単な英語による発話がアクアウトできるか。(中間テスト) / 英語のニュース記事、論説などを最初から最後まで読み通し、英語のパラグラフの構成を理解し概要をつかむことができ、一般的な大学3年生程度の基礎的な語彙を身に付け、使いこなすことができるか。(期末テスト)		
	成績評価 方法	テキストPart2文法課題20%、中間試験30%、期末試験50%で総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『Dear Learners』Drop Everything & Read 永本義弘、町田純子、八木茂那子、Ianエルズワース 南雲堂			
備考	携帯電話の辞書機能の使用は不可。紙の辞書か電子辞書を持参すること。			

科目名	英語演習3				
クラス	[7クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	豊岡 めぐみ			単位区分	◎(必修)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	コミュニケーション能力の向上と異文化理解を深めることを通じて、英語の基礎的、発展的運用能力を養うことを目指します。この目標達成のために、この授業では、「読む」、「書く」、「話す」、「聞き取る」といった運用能力に重点を置き、併せて文法力、語彙力の向上に努めます。				
授業方針	授業の最初に新出単語をチェックし、次にCDを聴きながら練習問題を解きます。その後1ページ程度の英文の主旨を掴み、それに対する自分の見解をまとめてください。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Introduction 第2回 Unit 1 現在時制・現在進行形 第3回 Unit 2 過去時制・過去進行形 第4回 Unit 3 現在完了・現在完了進行形 第5回 Unit 4 未来 第6回 Unit 5 過去完了 第7回 Unit 6 受け身 第8回 中間試験・試験の解答解説 第9回 Unit 7 助動詞 第10回 Unit 8 疑問文 第11回 Unit 9 否定 第12回 Unit 10 可算・不可算名刺 第13回 まとめ1 第14回 まとめ2 第15回 これまでの総括及び試験				
準備学習	・解けなかった問題を見直し、ノートに整理しておきましょう。 ・Readingの概要をつかみ、自分で内容をまとめておきましょう。				
学習到達目標	・反復練習によって、文法・文型の基本を理解することができる ・英文の主旨・大意を正確に読み取り、英文解釈の力を養う				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記学習内容に沿って、到達目標と単位修得目標レベルを達成できているかどうかを評価基準とします。			
	成績評価 方法	・期末試験、小テスト、課題(70%) ・平常点(受講態度など)(30%)  以上を総合的に判断します。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Premium Reader(Elementary), Robert Juppe & Yukio Umaba, Kinsei-do, ISBN : 978476439086				
備考	テキストは各自で購入すること。テキストをコピーしての使用は不可とする。				

科目名	英語演習3			
クラス	[8クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	霜田 敦子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	本科目の目的は、全体的な構造を考えながら英文エッセイを読むことに慣れることです。授業では、時間を測って行う速読、直読直解型精読、overlapping, shadowingなどの活動を通して総合的な英語力を養成します。			
授業方針	授業の流れは、速読1回目:初見で読み概要を把握する。2回目:Exersiseで全体の内容を理解したうえで読む。3回目:phrase readingで精読しoverlapping後読む。各回word per munite (WPM)を記録し自分の読みを振り返る。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Unit 1: Conclusion / Reasons 第2回 Unit 2: Social Trend 第3回 Unit 3: Result / Cause 第4回 Unit 4: Several Explanations 第5回 Unit 5: Comparison 第6回 Unit 6: For and Against 第7回 Unit 7: Classification 第8回 Unit 8: History 第9回 Unit 9: Process 第10回 Unit 10: Cause and Effect 第11回 Unit 11: Definition of a New Word 第12回 Unit 12: Research 第13回 Unit 13: New Products, New Service 第14回 Unit 14: Reading Graphs 第15回 まとめ及び理解度の確認  以上はあくまでも予定であり、クラスのレベルや進度により変更する場合があります。			
準備学習	【予習】指定されたexersiseやPhrase reading シートへの和訳をしていくこと。機械翻訳によると思われるものは受け取らない。 【復習】次回復習テストに向け復習をすること。授業外でもoverlapping, shadowingを行う。  なお受講に当たり毎回予習に1時間、復習に1時間が必要となる。			
学習到達目標	英文の構造を理解し、概要さらに詳細まで完全に理解する。 WPM目標150wordを目指す。 Overlappingの練習後、自信をもって音読できる。 自分の読み方を分析できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英文の構造が理解できるか。 英文の概要と詳細が理解できるか。 WPM 150word達成できるか。 英文を正しく音読できるか。		
	成績評価 方法	復習テスト20% + 定期テスト40% + 課題20% (phrase reading課題、音読課題) + WPM記録表15% + 平常点 (授業態度等) 5% 以上の総合評価により成績評価を行う。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書 Skills for Better Reading <Basic> (南雲堂) 1,800円+tax			
備考	辞書は初回授業で指示する。 授業中は許可された機能以外のスマートフォン使用を認めない。 教科書は各自で購入すること。コピーでの使用は不可とする。			

科目名	英語演習3			
クラス	(再)クラス	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	荻野 隆聡			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	<p>今まで学んだ英語の知識を再確認しながら、練習問題に取り組む授業である。</p> <p>高等学校において英語教育に従事し、多くの教員と連携を図りながら、生徒の英語力向上に関わった経験を有している。また、英語検定試験合格を目指した授業・補習の実施などに携わり、資格取得の促進を促した実務経験を持つ。大学卒業後、社会で活躍するために公的資格取得が推奨されることに、本科目は実用的な英語の理解・運用を目的とした実践的科目である。【実務】</p>			
授業方針	受講生のレベル・理解度に合わせて授業を行うため、以下の学習内容は変わりうる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 授業方針・成績評価などに関する説明、ガイダンス</p> <p>第2回 主な品詞</p> <p>第3回 時制(1)</p> <p>第4回 時制(2)</p> <p>第5回 助動詞</p> <p>第6回 受動態</p> <p>第7回 完了形</p> <p>第8回 原級・比較級・最上級</p> <p>第9回 to不定詞</p> <p>第10回 動名詞</p> <p>第11回 分詞</p> <p>第12回 句と節</p> <p>第13回 関係詞</p> <p>第14回 仮定法</p> <p>第15回 まとめ及び期末試験</p>			
準備学習	授業のはじめに、前回の授業内容の理解度を確認する小テストを行うのでその準備をする。			
学習到達目標	<p>各回の文法事項を理解できているか。</p> <p>語彙力は増強されているか。</p>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	扱った文法事項・語彙を使い英語で表現できるか。		
	成績評価 方法	定期試験70%、平常点30%(課題提出・小テスト・確認テストなど)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。		
教材	初回の授業で発表する。教科書は必ず買うこと。			
備考	必ず初回の授業から出席し、予習・復習を怠らないこと。			

科目名	日本語I				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本での生活・学びに必要な日本語を身に着けるため、初級日本語文法を中心に復習・固めていきたい。キーワード:助詞・動詞の形・指示詞・自動詞 / 他動詞など				
授業方針	受講者の日本語能力が確実に向上できるよう、学生の能力に合わせた授業を行う。以下の授業計画は目安である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 初級助詞 第2回 初級動詞① 辞書形・て形・た形 第3回 初級動詞② 自他 第4回 可能形 第5回 受け身・使役 第6回 使役受け身 第7回 授受表現 第8回 願望・仮説 第9回 敬語 第10回 漢字言葉 第11回 カタカナ語 第12回 副詞・接続詞・語順 第13回 オノマトペ 第14回 数字・数え方 第15回 テスト				
準備学習	毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する確認をするので復習しておくこと。また、授業において日本語・日本文化に関する疑問について話し合うので、絶えず疑問・質問を用意しておくこと。				
学習到達目標	日本語の基本文法を理解し、使えるようにすること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各回の授業で扱った項目を用いて表現できるか。			
	成績評価 方法	定期試験60%、平常点40%(課題提出・小テスト・確認テストなど)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	開講時に指示する。				
備考					

科目名	日本語II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語 I に続く授業です。みなさんの日本語を聞く・読む能力を伸ばしながら、日本の事も紹介していきたいと思います。				
授業方針	日本語の基本文法を理解し、聞く・話す・書くを通して確実に身に着けること。そして受講者のレベルに合わせた授業を行う。以下の授業計画は目安である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 自己紹介 第2回 自己PR 第3回 伝言 第4回 東京オリンピック 第5回 日本の伝統行事・七五三 第6回 給食 第7回 数字・ごろ合わせ 第8回 日本の食べ物 寿司 第9回 ルールの説明 第10回 自然に関する言葉1 星 第11回 動物に関する言葉 第12回 言葉話す鳥 第13回 漫画の神様 第14回 天下統一を目指した3人 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。(10時間) ② 毎回授業前に予習しておくこと。(5時間)				
学習到達目標	日本語の基本文法を理解し、使えるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①場面や立場に応じた表現ができるようになったか。 ②文書から正確に情報を読み取れるようになったか。 ③文法や語彙を正しく用いて文章が書けるようになったか。			
	成績評価 方法	小テスト20%、課題の提出とその内容20%、期末試60%で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	毎回プリントを配布する。				
備考					

科目名	日本語Ⅲ				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語の重要表現文型を学び、大学生生活・勉強に使えるようにする。				
授業方針	教科書上の勉強に留まらず、学生たちの勉強・生活に役立つような例文を挙げる・あげてもらふようにする。学生の要望を聞き、レベルに合わせた授業を行う。以下の計画は参考までである。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. 中級助詞 2. 助詞の働きをする言葉Ⅰ 3. 助詞の働きをする言葉Ⅱ 4. 助詞の働きをする言葉Ⅲ 5. 名詞化の方法 の・こと 6. 複文を作る言葉Ⅰ 時間 7. 複文を作る言葉Ⅱ 仮定・逆説 8. 複文を作る言葉Ⅲ 原因・理由 9. 決まった使い方の副詞 10. 書き言葉と話し言葉 11. 否定の言い方 12. 接続の言葉 13. 推量・感嘆・提案 14. 感覚・強い気持ち 15. テスト				
準備学習	毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する確認をするので復習しておくこと。また、授業において日本語・日本文化に関する疑問について話し合うので、絶えず疑問・質問を用意しておくこと。				
学習到達目標	大学学習に必要な日本語力を身に着けること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各回の授業で扱った項目を用いて表現できるか。			
	成績評価 方法	期末試験60%、課題提出20%・小テスト20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	開講時に指示する。				
備考					

科目名	日本語Ⅳ				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した日本語文法を応用し、読める・話せる・書けるように進めていきたい。				
授業方針	日本を紹介する文書を読み、感想を述べる。読解・発表中心の授業になる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 音楽と音の効果 第2回 おもしろい日本 第3回 良い数字と悪い数字 第4回 くしゃみ 第5回 日本の食べ物 第6回 この日に食べなきゃ意味がない 第7回 お相撲さんの世界 第8回 日本の有名人 第9回 日本の歴史人物 第10回 日本の地理 第11回 第一印象 第12回 ウィックさんはあきれています 第13回 テーブルにも足がある 第14回 日本の伝統行事 第15回 テスト				
準備学習	「語彙と表現」については翌週に確認テストをするので復習しておくこと。(15時間)				
学習到達目標	「日本」への理解を深め、文章が読める、書けるようになる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	①文書内容を正確に把握できたか。 ②聞き手にわかりやすく、論理的に自分の考えや意見を述べられるようになったか。			
	成績評価 方法	小テスト20%、課題の提出とその内容20%、期末試60%で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	毎回、プリントや資料を配布する。				
備考					

科目名	<b>日本事情I</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	山下 靖子			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本に関する知識(政治・経済・社会・文化)を身に付け、日本及び日本人について理解を深め、日本の生活に活かせるようにする。同時に、自国との比較の視点のみならず、国際社会におけるかかえる問題を出身国や日本を相対化し批判的分析能力を身に付ける。日本語／コミュニケーション能力の向上も目指す。				
授業方針	前半では教師の用意した新聞／雑誌等記事、あるいは、文学を皆で読み、全体ディスカッションを行うことを中心とする。受講者にも新聞記事を取りあげスピーチをしてもらう。映像等も利用しながら、「受け身」ではなく「参加」型授業を行う。後半では、関心ある日本文化を調べてるをテーマに共通関心ごとにグループに分け、それぞれが選んだテーマに沿って調べ、プレゼンを行い、ディスカッションをおこなう。現代日本の社会、経済、文化のありさまを自分の国と比べながら理解していく。同時に日本語を使っのプレゼンテーションの練習を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 自己紹介／オリエンテーション 第2回 日本観光旅行を計画しよう① 第3回 日本観光旅行を計画しよう②<発表> 第4回 日本の歴史①新聞記事から①自分の関心ある新聞記事を見つけよう。 第5回 映像学習その1、日本の歴史②、新聞記事をもとにスピーチ 第6回 グループ学習およびプレゼンテーション① 第7回 グループ学習およびプレゼンテーション② 第8回 グループ学習およびプレゼンテーション③ 第9回 グループ学習およびプレゼンテーション④ 第10回 映像学習その2 第11回 テーマ別個人報告① 第12回 テーマ別個人報告② 第13回 テーマ別個人報告③ 第14回 テーマ別個人報告④ 第15回 テスト				
準備学習	事前の指示に従い準備を行う(資料収集、記事を読んでおく、プレゼンの準備を行う、等) ・新聞記事を読み、討論に備える → 第2-4回 事前準備として各4時間 ・映像を見ての感想 → 第5回 第10回 各2.5時間 ・グループプレゼンテーション、個別報告 → 各準備に対し、それぞれ20時間 第6-9回、第14回—14回 他テスト準備 計60時間+テスト準備				
学習到達目標	日本に関する知識を深めるとともに、比較の視点から物事を分析できる思考をもつことができるようになる。プレゼンテーションの練習を通し、日常生活や日本人とのコミュニケーションに活かせるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①日本に関する知識や日本人の考え方、習慣などについて理解を深め、実生活に活かせるようになったか。 ②自分の意見や考えをわかりやすい文章で記述することができるようになったか。			
	成績評価 方法	授業への参加態度40%、課題(作文)の提出とその内容30%、期末レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要に応じてプリント、資料を配布する。				
備考	授業詳細は授業初日オリエンテーションにて説明。				

科目名	日本事情II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金5
担当教員	山下 靖子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期からさらに踏み込んで日本を学び、自国との比較、あるいは国際社会に位置づけ、ディスカッションを行う。各自日本社会の問題点を探し、個別テーマを決め、まとめ、プレゼンテーションをおこなう。				
授業方針	日本の事情を理解するとともに、論理的な思考力を養っていく。聞くだけでなく、自ら調べ、プレゼンテーションをおこなう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 後期オリエンテーション／個人報告テーマ決め 第2回 日本社会と民族関係① 第3回 日本社会と民族関係② 第4回 第2、3回を受けグループディスカッション、発表 第5回 プレゼンテーション準備② 第6回 プレゼンテーション準備① 第7回 輪読① +レジュメ作成 第8回 輪読② +レジュメ作成 第9回 輪読③ +レジュメ作成 第10回 プレゼンテーション①+ディスカッション 第11回 プレゼンテーション②+ディスカッション 第12回 プレゼンテーション③ 第13回 プレゼンテーション④ 第14回 プレゼンテーション⑤ 第15回 授業内エッセイ				
準備学習	随時指示に従い、準備。プレゼン担当の前にはPPを利用するなどしてレジュメを作成。 ・参考文献を読み、まとめておく、輪読準備 → 第2回—4回 各4時間 ・プレゼンテーションのテーマについて考え関係資料を読む、輪読準備、レジュメ作成第5回—第9回 20時間 → 第5回—第9回 20時間 ・プレゼンテーション準備 28時間 → 第10回—第14回 その他エッセイに向けて準備 合計 60時間+エッセイ準備				
学習到達目標	課題文献を読みレジュメをまとめることができる。 課題に対する関連資料を日本語でまとめ、プレゼンテーションを行うことができる。自国との比較、グローバルな視点から考察を行うことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	課題文献を日本語で読み理解できる。 課題テーマに関する資料をみつけ、まとめることができる。			
	成績評価 方法	授業への参加態度60%、期末レポート40%で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要に応じてプリント、資料を配布する。				
備考					

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	望月 修			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	網代 孝			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	光岡 重徳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	光岡 重徳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシー I				
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	網代 孝			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実習を通して、コンピュータによる情報処理にかかわる基礎的な知識と技能を習得し、情報の活用力を高めることを目標とする。コンピュータの基本操作、実務で広く使われている応用ソフトウェアの使用法、プログラミングの基礎などについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。				
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 コンピュータの仕組み：ハードウェアとソフトウェア 第3回 Windowsの基本操作とファイル管理 第4回 文書作成(1) 基礎 第5回 文書作成(2) レイアウト 第6回 文書作成(3) 作表と罫線 第7回 表計算(1) 基礎 第8回 表計算(2) セル番地と数式 第9回 表計算(3) 関数の基礎 第10回 表計算(4) 関数の応用 第11回 表計算(5) グラフ 第12回 アルゴリズムとプログラミング(1)基礎 第13回 アルゴリズムとプログラミング(2)応用 第14回 計測と制御 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)				
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。				

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	高橋 広治			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/L教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	網代 孝			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/L教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水2
担当教員	光岡 重徳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	光岡 重徳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	情報リテラシーⅡ			
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	網代 孝			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報リテラシーⅠに引き続いて、さらに高度な情報活用力を習得することを目標とする。応用ソフトウェアの高度な活用法やデータベース、情報システムなどについて学習する。なお、通常はPC/LL教室を使用するが、必要に応じてノートPCを使った演習も行う。			
授業方針	近年のコンピュータの発展は目覚ましく、現在コンピュータは社会活動のあらゆる場面で幅広く使われており、その重要性は増すばかりである。一方、コンピュータを使いこなし、情報を十分に活用できるようになるには、ある程度多くの時間をかけて訓練をつむ必要がある。この授業ではその訓練を徹底して行う。授業への出席は もちろん重要だが、それ以外の時間での自習も重要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本の確認と演習 第2回 文書作成発展演習(1) 表組みによるレイアウト 第3回 文書作成発展演習(2) オブジェクトの挿入と編集 第4回 文書作成発展演習(3) 様々な文書1 第5回 文書作成発展演習(4) 様々な文書2 第6回 表計算発展演習(1) グラフ機能 第7回 表計算発展演習(2) データベース機能 第8回 表計算発展演習(3) 統計分析 第9回 プレゼンテーション(1) 基礎 第10回 プレゼンテーション(2) 実践 第11回 データベース(1) 設計と作成 第12回 データベース(2) 検索と抽出、レポート 第13回 情報システム(1) 基礎 第14回 情報システム(2) 応用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(20時間) (2)授業で行った課題を自分のノートPC等を利用して反復練習する。(40時間)			
学習到達目標	(1)毎回の課題の内容を習得する。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)毎回の課題の内容を習得したか。 (2)様々な場面でコンピュータを活用できるようになったか。		
	成績評価 方法	平常点50%+課題・試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文科系のためのコンピュータリテラシ[第7版](サイエンス社、2019年、草薙信照著) (2)その他、必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	情報リテラシーⅠで学んだ知識と技能があることを前提として授業を行う。実習科目なので、授業への出席は特に重要である。必ず教科書を用意して授業に臨むこと。			

科目名	20世紀の世界史				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	未定			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	20世紀という時代には、二度にわたる世界大戦、ナチスのユダヤ人大虐殺(ホロコースト)、東西陣営による冷戦、ベトナム戦争等、歴史上きわめて大きな意義を有する出来事が多く起こった。その影響は現在の世界情勢にも、深い影響を与え続けている。本講義では、こうした20世紀の世界史について学習する。				
授業方針	20世紀の世界史に関するドキュメンタリー番組『映像の世紀』(NHK制作、1995～96年放送)を視聴したうえで、その次の週の授業で前回の映像を解説する形で講義を行なう。つまり、映像回→講義回(解説回)の二回でワンセットの授業になる。映像回には毎回ワークシートを配布するので、視聴の間に適宜作業をしてもらう。ワークシートは各回の最後に提出してもらう(チェックしたうえで次回授業時に返却する)。また、講義回にはコメントシートを配布するので、講義内容に関するコメントを書いてもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	おおよそ以下の順番で授業を進める予定だが、変更もありえる。 第1回:オリエンテーション 第2回:第一次世界大戦に関する映像 第3回:第一次世界大戦に関する講義 第4回:ナチスの台頭に関する映像 第5回:ナチスの台頭に関する講義 第6回:第二次世界大戦に関する映像 第7回:第二次世界大戦(とくにホロコースト)に関する講義 第8回:東西冷戦に関する映像 第9回:東西冷戦に関する講義 第10回:「核を伴った冷戦」に関する映像 第11回:「核を伴った冷戦」に関する講義 第12回:ベトナム戦争に関する映像 第13回:ベトナム戦争に関する講義 第14回:番外編:「ユーラシア外交史」に関する講義 第15回:まとめ及び試験				
準備学習	高校世界史の教科書の20世紀にあたる箇所にあらかじめ目を通しておくこと。教科書はどの出版社のものでも構わない。				
学習到達目標	受講生が20世紀という時代の世界史の大まかな流れを理解できること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)映像回・講義回を問わず、毎回の授業に積極的に参加しているかどうか。(2)20世紀の世界史に関する関心と理解が深められているかどうか。			
	成績評価 方法	(1)平常点(毎回のワークシートやコメントシートの提出状況・記述状況、受講態度)50% (2)試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:とくに指定しない。映像回にはワークシートを、講義回(解説回)にはレジメを配布する。(2)参考文献は授業中に適宜紹介する。				
備考	視聴する映像には一部衝撃的なシーンも含まれているので、登録・履修に際しては留意されたい。				

科目名	20世紀の日本史				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	久米 高史			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	(テーマ)20世紀の日本史(特に経済史・経営史を中心に) (内容)戦後75年以上にもなる日本経済は、欧米型の市場経済とは異質の、独特の性格をもっていると指摘されるが、日本人の経済観念は、本当に「世界の非常識」なのかを考察する。また昨今社会問題となっている「談合」についても、その歴史及び日本人の経済観念との関係について浮き彫りにする。 (目的)この講義を通じて、「歴史を通して現在を見る」目を養う。				
授業方針	テキストとして、①武田晴人『日本人の経済観念』(岩波現代文庫、2008年、1100円+税)②武田晴人『談合の経済学』(集英社文庫、1999年、533円+税)を用い、加えて毎回プリントその他の資料を配布して授業を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 導入講義『日本人の経済観念』第1章(1)「企業と出資者」を基に講義する。キーワード 企業の安定 銀行法の歴史 第2回 第1章(2)「近世商人の伝統」「財閥の総有制」を基に講義する。キーワード 三井家 財閥 第3回 第2章 市場と競争(1)「市と取引」を基に講義する。キーワード マーケットメカニズム 日本の「市」 第4回 第2章 市場と競争(2)「手段としての競争と協調」を基に講義する。産業資本 商業資本 機会主義的行動 第5回 第3章 契約と紛争解決(1)「あいまいな契約」を基に講義する。キーワード 契約観念の日・米・欧比較 第6回 第3章 契約と紛争解決(2)「紛争解決の手段」を基に講義する。キーワード 契約変更 アメリカの大企業 第7回 第4章 労働の規律と雇用の保障(1)「勤勉さと時間の規律」を基に講義する。キーワード 勤勉の意味 第8回 第4章 労働の規律と雇用の保障(2)「職人から従業員へ」を基に講義する。キーワード 労働力市場の流動性 第9回 第4章 労働の規律と雇用の保障(3)「立身出世とホワイトカラー」を基に講義する。キーワード 大戦景気 第10回 第5章 国益と政府(1)「目標としての国益」を基に講義する。キーワード 藩専売 貿易 第11回 第5章 国益と政府(2)「最後の拠り所としての政府」を基に講義する。キーワード カルテル トラスト 第12回 『談合の経済学』第1部を基に講義する。キーワード 談合の歴史 第13回 『談合の経済学』第2部を基に講義する。キーワード 談合の功罪 第14回 『談合の経済学』まとめ 第15回 講義全体の総括:まとめ及び試験				
準備学習	①シラバスに書かれている指定テキストの該当箇所を、事前に読んでくる。(30時間) ②講義終了後、講義を復習の上、LiveCampusにて実施する小テストに解答する。(30時間)				
学習到達目標	①20世紀の日本史について、特に経済史を中心に学ぶことにより、現代の政治・経済・社会に対する歴史的教訓が身につける。 ②教養を深めることによって、困難な世の中を生き抜く力を養う。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①日本の経済・社会の歴史を学び、理解する。 ②講義で学んだ内容を、教養として今後の学習や人生に活かせるようになる。			
	成績評価 方法	①授業への積極的取り組み+毎講の設問課題への解答+講義後LiveCampusで実施される小テストへの解答を3つセットで50% ②学期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書:①武田晴人『日本人の経済観念』(岩波現代文庫、2008年、1100円+税)②武田晴人『談合の経済学』(集英社文庫、1999年、533円+税)および、配布プリント。 (2)参考書 適宜授業で紹介する。				
備考	講義は指定テキストと配布プリントを中心に進める。指定テキストと筆記用具を必ず持参すること。				

科目名	TOEIC I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	最終的には、TOEIC試験でのスコアアップを目標とする。TOEICは一昨年問題形式が一部変更され、難易度が増したが、語彙・文法・構文・読解・聴解面での総合力向上が要であることは当然である。本授業では、過去問形式に準拠したリスニングとライティング演習を中心に進めていくが、同時に音声面や読解面での実力アップも目指す。また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験も伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	① テキストにあるTOEIC形式の問題を解きながら、基礎レベルの英語力を確実に習得するとともに、さまざまな場面で使われる表現や語彙、コミュニケーションスタイルについて解説していく。 ② 毎回の授業内では、学生を何度か指名し、演習問題に対する自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各Unitに沿った学習内容を紹介すれば、以下となる。 第1回 ① 授業目的・方針および成績評価に関する説明 ② TOEIC試験に関する説明 第2回 体の一部をベースにした表現(1) 第3回 体の一部をベースにした表現(2) 第4回 色が意味する表現(1) 第5回 色が意味する表現(2) 第6回 動物を使った表現(1) 第7回 動物を使った表現(2) 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 食べ物・飲み物を使用した表現(1) 第10回 食べ物・飲み物を使用した表現(2) 第11回 生活習慣から生まれた表現(1) 第12回 生活習慣から生まれた表現(2) 第13回 遠回しの表現(1) 第14回 遠回しの表現(2) 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 前回の授業で学んだ語彙、文法、構文、表現を繰り返し復習すること。 ② テキスト以外にも、TOEIC語彙集や過去問集を通じて、実戦感覚を養っておくこと。				
学習到達目標	① 基礎的文法力の理解を進める。 ② TOEIC必須語彙を増強させる。 ③ リスニング力を向上させる。 ④ TOEIC試験で500点前後を取得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① テキスト内容は理解できたか。 ② 語彙力はアップしたか。 ③ 英文を読むスピードはアップしたか。 ④ リスニング力はアップしたか。 ⑤ 過去問や練習問題において、正答率がアップしたか。			
	成績評価 方法	定期試験 70% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等) 30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキスト: "TOEIC L&R Test:500 Power Phrases" 竹村日出夫 / 永田喜文他著 南雲堂				
備考	テキスト必携。				

科目名	TOEIC II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	TOEICも英語力を試すものである以上、語彙・文法・構文・読解・聴解面での総合力が向上しない限り、得点力向上は望めない。本授業では過去問形式に準拠しながら、リスニング演習とライティング演習を反復していく。そうした訓練を通じて、基礎学力の要である語彙力・文法力も充実させ、TOEIC本試験での得点力アップを目指す。また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験も伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	① 受講学生の実力並びに理解度を勘案しながら授業を進めていくが、『TOEIC本試験での得点力アップ』という目的に沿って行うのは、前期と同様である。 ② 前期に引き続き、毎回授業内で受講者を指名し、積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業スケジュール)	各Unitに沿った学習内容を紹介すれば、以下となる。 第1回 ① 授業目的・方針及び成績評価に関する説明 ② TOEIC試験に関する説明 第2回 センスの良い表現(1) 第3回 センスの良い表現(2) 第4回 ビートの効いた表現(1) 第5回 ビートの効いた表現(2) 第6回 困難なときの表現(1) 第7回 困難なときの表現(2) 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 誇張する表現(1) 第10回 誇張する表現(2) 第11回 評価をする表現(1) 第12回 評価をする表現(2) 第13回 人間関係の表現 第14回 暮らしの表現 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の意味と構造を把握するように努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。 ③ テキスト以外にも、TOEIC語彙集や過去問集で実践感覚を養っておくこと。				
学習到達目標	① 基礎的英文法の理解を深める。 ② TOEIC必須語彙を増強させる。 ③ 語彙力・文法力の向上と比例して、読解力をアップさせる。 ④ シャドーイングを通じて、リスニング力を向上させる。 ⑤ 全体を通じて、前期よりも英語力を向上させる。				
成績評価基準	達成度評価基準	① テキストの内容を理解できたか。 ② 語彙力は増えたか。 ③ 英文を読むスピードはアップしたか。 ④ リスニング力はアップしたか。 ⑤ 前期よりも得点力はアップしたか。			
	成績評価方法	定期試験 70% 平常点(課題提出、小テスト、確認テスト等) 30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキスト: TOEIC L&R Test: 500 Power Phrases 竹村日出夫 / 永田喜文他著 南雲堂				
備考	テキスト必携。				

科目名	インターンシップ				
クラス	[情社01]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	林 信義			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。				
授業方針	長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. ガイダンスの実施……日程は掲示により連絡する。 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成 ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジネスマナー教習……マナー講座を開講するので受講すること。 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出、日誌の提出				
準備学習	ビジネスマナーを身につけること。				
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。			
	成績評価 方法	日誌50%、報告書50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特になし				
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。				

科目名	インターンシップ				
クラス	[情社02]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	時間外
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。				
授業方針	長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. ガイダンスの実施……日程は掲示により連絡する。 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成 ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジネスマナー教習……マナー講座を開講するので受講すること。 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……長期休業期間等を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出、日誌の提出				
準備学習	ビジネスマナーを身につけること。				
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。			
	成績評価 方法	日誌50%、報告書50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特になし				
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。				

科目名	インターンシップ				
クラス	[心理01]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	河原 哲雄			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。				
授業方針	夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. ガイダンスの実施……火曜日5時限目「就職支援プログラム」 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成(本学が紹介した企業・官庁への申し込みが単位取得の条件となる) ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジネスマナー教習……土曜日1日間を使って就職課が指導 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ(指導教員とともに準備を進める) 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出 日誌の提出				
準備学習	1 ビジネスマナーを身につけること。(10時間) 2 経験した職務についての記録および考察。(20時間) 3 最終的な報告書の作成。(30時間)				
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。			
	成績評価 方法	日誌、報告書。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特になし				
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。				

科目名	インターンシップ				
クラス	[心理02]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	時間外
担当教員	河原 哲雄			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インターンシップとは、学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度である。就業体験を通じて、職業意識を確立し、勉学への一層の動機付けを図り、社会を学ぶことを目的としている。アルバイトと異なり、職場体験型で労働を実践することに重点をおき、実務能力・実社会への適応能力を向上させる。				
授業方針	夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。実習先の企業等は学生の希望する業種を聞いて決定する。また、原則として、履修者に制限を設ける。(演習での無断欠席等の多い学生には履修を許可しない。)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1. ガイダンスの実施……火曜日5時限目「就職支援プログラム」 ↓ 2. インターンシップ申し込み……インターンシップ関連協会等への登録、自己PR表等の作成(本学が紹介した企業・官庁への申し込みが単位取得の条件となる) ↓ 3. 企業とのマッチング……演習指導教員による推薦 企業・官庁による面接・試験 ↓ 4. ビジスマナー教習……土曜日1日間を使って就職課が指導 ↓ 5. 企業側の受け入れ……1)受け入れ先企業への希望票登録 2)受け入れ決定後の書類作成、先方との打ち合わせ(指導教員とともに準備を進める) 3)インターンシップを行う上での覚書の取り交わし、誓約書等の作成(学生本人) ↓ 6. インターンシップ実習 ……夏期休業期間を利用して、企業や官庁で実習を行う。 学生本人は毎日日誌をつける。 ↓ 7. 終了後…… 報告書の作成・提出 日誌の提出				
準備学習	1 ビジスマナーを身につけること。(10時間) 2 経験した職務についての記録および考察。(20時間) 3 最終的な報告書の作成。(30時間)				
学習到達目標	①毎日日誌をつけ、その日の仕事で学んだことについて考えることを目的とする。 ②インターンシップ終了後に報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことについてまとめることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①毎日日誌をつけ、その日仕事で何を学んだかについて考えたか。 ②報告書を作成し、社会で必要とされている能力、それを身につけるために学生時代にしなければならないことを理解したか。			
	成績評価 方法	日誌、報告書。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特になし				
備考	ガイダンス等の日程は掲示により連絡するので、掲示に十分注意すること。				

科目名	キャリアと自立				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	西田 優, 藤田 拓勸			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>■挨拶 担当教員は就職指導のプロです。採用担当者時代の本音をすべてお話します。一緒に、沢山の小さな挑戦を始めましょう！</p> <p>■授業概要 現代日本人の人生において、「働く時間」は非常に大きな割合を占める。本授業では、大学3年次に、社会に出て働く準備を進めるために必要な心の持ち方、具体的な知識や技法などの講義・演習を展開する。</p> <p>この科目は、企業での人事・採用業務経験に基づいた講義を行う実践的科目です。【実務】</p>				
授業方針	<p>個別の学習到達目標を包含する以下の全体目標を達成するために講義と演習を交えて授業を展開する。</p> <p>(1)社会に自らが提供した価値への対価として収入を得るということの意味を知ること (2)自分が築きたいキャリアを一旦思い描き、そのスタートラインに立つための意志を持つこと</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第01回【講義・演習】キャリア論概説、職務適性検査(受験・自己採点) 第02回【講義・演習】日本の産業のいま、性格検査(受験・後日結果返却) 第03回【講義・演習】コミュニケーション理解:論理的思考、学力検査(受験) 第04回【講義・演習】コミュニケーション理解:グループディスカッション 第05回【講義・演習】コミュニケーション理解:自己紹介書(履歴書) 第06回【講義・演習】コミュニケーション理解:プレゼンテーション 第07回【講義・演習】コミュニケーション理解:個人面接・集団面接 第08回【講義・演習】キャリア論1、職種適性検査(受験) 第09回【講義・演習】キャリア論2 第10回【講義・演習】人生の振り返り1 第11回【講義・演習】人生の振り返り2 第12回【講義・演習】働くことの意味 第13回【講義・演習】学生生活と社会人生活 第14回【講義・演習】働くために必要な準備 第15回 レポート作成</p>				
準備学習	授業終了時に示す課題に取り組むこと				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶然の要素が非常に多い環境下で自らキャリアを築くことの必要性を理解すること</li> <li>・日本の産業における業種・職種、それらへの就職活動の実態を理解していること</li> <li>・日常生活の中で筋道立てて考え、判断や決定をくだそうと考えられること</li> <li>・先輩社会人のキャリアに興味と敬意を持てること</li> <li>・自らの今後のキャリアと現在の行動との関係性に興味を持てること</li> <li>・社会や経済の動きに興味を持てること</li> <li>・自分の経験・考え・思いを伝える表現力を駆使できること</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアと自立の重要性について理解できていること</li> <li>・自分を客観的に知り、それを話す、書くなどして表現できること</li> </ul>			
	成績評価 方法	毎回の講義時の小レポート60%、期末レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	グローバル社会と地誌			
クラス		対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木3
担当教員	横田 浩一			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	今日の世界を理解するためには複眼的な洞察力が要求されるのは論を待たない。それでは、グローバリゼーションという現象をどこかで起きている他人事ではなく、自分の生活に食い込んでいる諸要素として読み解こうとする時、我々はそのようなメカニズム(仕組み)とダイナミズム(動き)を垣間見ることができるのだろうか。この授業では、特に中国に焦点を当て、社会・文化の変化について考察していきたい。			
授業方針	パワーポイント等の講義資料を用いるほか、ビデオなどの映像も積極的に利用する。講義の前後またはリアクション・ペーパーなどを通し、疑問を持った点について質問してほしい。また、授業で紹介する書籍を読むことで理解を深めてほしい。中国に関する事前の知識は必要としないが、中国の社会や文化について興味を持ち、積極的に知識を吸収し、主体的に考える姿勢が必要とされる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション: 授業の内容、方針、評価の方法について 第2回 中国社会の基礎知識: 内的な多様性、共産党の支配体制、戸籍制度など 第3回 1949年以降の現代中国史 第4回 中国人の人間関係①: 行動原理としての「関係」、「面子」、「人情」 第5回 中国人の人間関係②: 仕事を通じた中国人との付き合い 第6回 中国の社会問題①: 民族問題 第7回 中国の社会問題②: 都市と農村の格差 第8回 風水: 環境認識の方法 第9回 映像を通して中国を知る 第10回 食文化の多様性 第11回 中華圏のポップカルチャー 第12回 社会のIT化: 主にスマホ以降の中国社会の変化について 第13回 中国大陸と香港・台湾: 中国の台頭による両者との関係の変化 第14回 華僑華人の歴史と現状 第15回 まとめと復習			
準備学習	授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。			
学習到達目標	グローバリゼーションという現象をめぐる多角的な理解と、自文化の尺度だけでモノゴトを判断しない国際的な視点を養うことが、この授業の到達目標である。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎回の講義内容の理解度に加えて、各自の問題意識をどこまで深く探究しているかを重視する。		
	成績評価 方法	試験(70%)、授業への参加態度(30%)に基づき総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席を確認できない者は、単位を認定しない。また、単位認定に関して特別な配慮などは一切ない。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	この授業では特定のテキストを用いないが、必要な教材や資料がある場合には授業中に配布する。また、参考文献がある場合は別途指示する。			
備考	講義の進捗度に応じて各回の内容や順番を変更する場合がある。			

科目名	コンピュータ概論I			
クラス		対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 木3
担当教員	高橋 清隆			単位区分 ◎(必修),_(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	現在、日本社会は少子高齢化や自然災害などの社会課題に対して、ICT技術を活用することで、今までにない新たな価値を生み出し対処しようとしている。そこで期待されているのが、IoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)、5G(第5世代移動通信)などの技術である。本講座では、私たちの身の周りにあるコンピュータの活用した具体例について理解を深めることにより、これから学ぶ様々なICT技術を理解するための多角的な視点を養う。			
授業方針	私たちの社会の中において、コンピュータがどのように登場して普及したかの歴史、現在、未来を概観する。そして、様々な分野で活用されることで、単体としての自動計算機から複合体としての情報システムへ発展したのかを具体的な例を用いて解説する。これによって、私たちの社会でコンピュータが活用される事例の理解を通じて、今後どのような分野でコンピュータを活用できるか考える上で必要な視点を習得することができる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 社会の中のコンピュータ 第2回 コンピュータの誕生 第3回 コンピュータの大型化と高速化 第4回 普及のきっかけとなった小型化 第5回 ネットワークによるシステム化 第6回 コンピュータを構成するハードウェア 第7回 コンピュータで動作するソフトウェア 第8回 コンピュータの扱う情報表現(0と1による表現) 第9回 マルチメディアの情報表現(文字、画像、音声) 第10回 ネットワーク社会の未来(IoT, AI, 5G) 第11回 身近にある情報システム 第12回 企業情報システム(製造、流通、金融の例) 第13回 戦略と情報システム(経営戦略、DX) 第14回 インターネットビジネス(電子商取引、広告) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	・各授業のテーマについて教科書やインターネットなどで事前に調べ、関連する専門用語の意味などについて理解する(20時間) ・講義中に課す課題に取り組む(10時間) ・授業の要点をまとめて、分からなかった点を明らかにして復習する(30時間)			
学習到達目標	・コンピュータの誕生から現在に至る変遷を説明することができる。 ・コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの概要を説明することができる。 ・コンピュータが扱う情報の特徴を説明することができる。 ・企業が活用する情報システムの概要を説明できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・コンピュータの誕生から現在に至る変遷を説明することができたか。 ・コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの概要を説明することができたか。 ・コンピュータが扱う情報の特徴を説明することができたか。 ・企業が活用する情報システムの概要を説明できたか。		
	成績評価 方法	講義中に課された課題40%と期末試験60%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書 「コンピュータ概論 情報システム入門<第8版>」 共立出版 [編著] 魚住勝臣 参考書 随時、指定する			
備考	【実務経験】民間企業における情報通信システムの研究開発および国際標準化の業務			

科目名	コンピュータ概論II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	高橋 清隆			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現在、日本社会は少子高齢化や自然災害などの社会課題に対して、ICT技術を活用することで、今までにない新たな価値を生み出し対処しようとしている。そこで期待されているのが、IoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)、5G(第5世代移動通信)などの技術である。本講座では、コンピュータの基礎を学び、コンピュータの動作のしくみについて理解を深めることにより、これから学ぶ様々なICT技術を理解するための基盤となる知識を身につける。				
授業方針	多くの分野で活用され、我々も日々の生活で利用しているコンピュータの動作のしくみ、および、動作をつかさどるソフトウェアについて概観する。そして、コンピュータをより便利にする技術を解説して、今後の応用分野について論じる。これによって、現代の情報化社会で活用されているコンピュータに関する基礎知識を習得することができる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 コンピュータ概論Iのふりかえり 第2回 コンピュータを構成するハードウェア 第3回 計算のできる仕組み 第4回 記憶する仕組み 第5回 オペレーティングシステム 第6回 プログラミング 第7回 データベース 第8回 コンピュータネットワーク 第9回 情報セキュリティ 第10回 インターネット(TCP/IP, World Wide Web) 第11回 情報システムに関する法制度 第12回 すべてのモノをつなげるIoT(モノのインターネット) 第13回 ビッグデータの活用を促進するAI(人工知能) 第14回 無線通信を変革する5G(第5世代移動通信) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・各授業のテーマについて教科書やインターネットなどで事前に調べ、関連する専門用語の意味などについて理解する(20時間) ・講義中に課す課題に取り組む(10時間) ・授業の要点をまとめて、分からなかった点を明らかにして復習する(30時間)				
学習到達目標	・コンピュータを構成するハードウェアのそれぞれの特徴を説明できる。 ・コンピュータの動作をつかさどるソフトウェアの種類とそれぞれの特徴を説明できる。 ・コンピュータを便利に利用するための技術の概要とそれぞれの特徴を説明できる。 ・コンピュータの応用分野としてIoT/AI/5Gの概要を説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・コンピュータを構成するハードウェアのそれぞれの特徴を説明できたか。 ・コンピュータの動作をつかさどるソフトウェアの種類とそれぞれの概要を説明できたか。 ・コンピュータを便利に利用するための技術の概要とそれぞれの特徴を説明できたか。 ・コンピュータの応用分野としてIoT/AI/5Gの概要を説明できたか。			
	成績評価 方法	講義中に課された課題40%と期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 「コンピュータ概論 情報システム入門<第8版>」 共立出版 [編著] 魚住勝臣 参考書 随時、指定する				
備考	「コンピュータ概論 I」を受講していることが望ましい。 【実務経験】民間企業における情報通信システムの研究開発および国際標準化の業務				

科目名	ジェンダー論			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	金3
担当教員	宇野 知佐子		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	私たちが無意識にもつ「女だから」「男のくせに」などという考えや思い込みが、学校、家庭、スポーツなど身近な社会の様々な場存在することを明らかにする。政治・経済・社会の主流の男性＝人間という歴史ではなく、女性や非主流の男性の存在に目を向け、そこから見えてくる政治的・社会的状況を明らかにし、歴史に対する新たな理解、現在を分析する視点、未来の展望を考える力を養う。			
授業方針	現在のジェンダー問題を様々なテーマに基づいて解説を行う。各テーマの論文や研究書を紹介しながら、主に日本における「女らしさ」「男らしさ」の変遷と、背後の政治権力や社会的状況を考察する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロ 近代社会とジェンダー</li> <li>2. セックスとジェンダー</li> <li>3. セクシュアリティとジェンダー</li> <li>4. 文化・歴史の中のジェンダー</li> <li>5. 家族とジェンダー1</li> <li>6. 家族とジェンダー2</li> <li>7. 家族とジェンダー3</li> <li>8. 労働とジェンダー</li> <li>9. フェミニズムと男性学</li> <li>10. 暴力とジェンダー</li> <li>11. メディアとジェンダー</li> <li>12. 教育とジェンダー</li> <li>13. スポーツとジェンダー</li> <li>14. 服装とジェンダー</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
準備学習	毎回の授業について、次回までに質問やコメントを考えておく。 前回の授業のキーワードの意味を確認しておく。			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーの基本概念を理解している。</li> <li>・「女らしさ」「男らしさ」は社会が構築したものであり、それらによる思い込みがしばしば偏見や排除の原因となることを理解している。</li> <li>・ジェンダー視点を体得し、過去や現代社会を観察する際のツールとなっている。</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー問題の背後にある、政治権力や社会状況が理解できているか。</li> <li>・ジェンダーという観点から、現代社会の様々な問題について自らの考えを論じることができるか。</li> </ul>		
	成績評価 方法	平常点(コメント、小テストを含む)40%、期末試験60%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて資料を配布する。</li> <li>・参考書については講義の中で指示する。</li> </ul>			
備考	<p>参考文献:</p> <p>伊藤公雄『ジェンダーの社会学』放送大学教育振興会, 2013</p> <p>落合恵美子『21世紀家族へ』有斐閣, 2019</p>			

科目名	スポーツ文化論			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 火1
担当教員	茂木 宏子			単位区分 ◎(必修)_(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	私たちが社会生活を営んでいくうえで、いまやスポーツは大きな影響を与える文化現象になっている。スポーツに関わる諸相や変遷をテーマごとに取り上げて、その社会背景とともに多面的な視点から捉えて理解を深めていく。なお、この科目は、講師自身がジャーナリストとして20年余り取材活動してきた経験をもとに講義を行う実践科目であり、現代スポーツが抱える「負」の部分にも触れながら、21世紀のスポーツのあり方を考える。【実務】			
授業方針	スポーツに関わる諸相をテーマごとに取り上げて基本的な事項を学習するとともに、私たちが日頃接しているスポーツについても掘り下げながら社会との関係を読み解いていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 スポーツ文化論とは何か 第2講 スポーツの概念と歴史 第3講 オリンピックの復活と変遷 第4講 メディア化するスポーツ 第5講 消費文化としてのスポーツ 第6講 スポーツと政治・権力 第7講 スポーツとジェンダー・人種問題 第8講 スポーツする身体 第9講 スポーツと教育 第10講 職業としてのスポーツ 第11講 スポーツファンの文化 第12講 スポーツと地域社会 第13講 日本のスポーツ文化 第14講 グローバル化するスポーツと共生社会 第15講 まとめ及び試験			
準備学習	指定した参考文献に目を通し、事前に授業の大枠をつかんでおくこと。日頃から試合の勝敗結果だけでなく、スポーツに関連したニュースや話題について関心を持つよう心がける。			
学習到達目標	現代社会におけるスポーツを取り巻く状況と課題を客観的に理解し、自分なりの意見を論理的に発せられるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各回で講義するスポーツの諸相や課題について理解し、自分なりの考えを論理的に表現できるか。		
	成績評価 方法	2/3以上の出席が単位取得の前提。簡易レポート(60%)、定期試験(40%)を合計して評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書は特に使用しない。ただし、以下の書籍を参考文献とする。 ・よくわかるスポーツ文化論 改訂版／井上俊・菊幸一編／ミネルヴァ書房／2020年、2,500円＋税 ・スポーツを考える／多木浩二著／ちくま新書／1995年、760円＋税 ・教養としてのスポーツ人類学／寒川恒夫編／大修館書店／2004年、2,500円＋税			
備考	毎回の講義で課す簡易レポートに、キーワードと講義内容に関する自分の考えや意見を記述し、講義終了時に提出すること。			

科目名	ドイツの言語と文化			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	火4
担当教員	藤崎 剛人		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	ドイツ語とドイツの文化について、入門的な講義を行います。ドイツ語については、『ドイツ語アルファ 改訂版』(朝日新聞出版社)を教科書として、ドイツ語初級文法の、さらに基礎的な部分を学びます。ドイツの文化については、毎回配布する教員が用意した資料(オンライン受講の場合はダウンロード可。)をもとにして、毎回ドイツの歴史や社会の様々な分野について、講義していきます。具体的な項目については「学習内容」を参照してください。			
授業方針	1コマを言語パートと文化パートに分け、半分は言語、半分は文化、といったかたちで進めていきます。 〈言語パート〉 教科書に基いて、ドイツ語初級文法の基礎的な部分を勉強します。日本語や英語との比較も交えながら、なるべく丁寧にゆっくりと進めていきます。学んだ内容を定着させるため、定期的に簡単な小テストも行います。 〈文化パート〉 教員が用意した資料(レジュメ)をもとにして、毎回ドイツの歴史や社会の様々な分野について、講義していきます。特に歴史については回数を多くとり、近現代史を中心に講義			
学習内容 (授業スケジュール)	第1回: 授業ガイダンス/アルファベットと発音/ドイツの基本データ 第2回: あいさつができる/ドイツの地理と自然・交通 第3回: 自己紹介ができる/ドイツと日本・ドイツの教育制度 第4回: 食べ物・飲み物の好き嫌いが言える/ドイツの食べ物とスポーツ *小テスト 第5回: 趣味やスポーツについてたずね・答えることができる/ドイツの音楽と美術 第6回: 自分の家族や職業について説明できる/ドイツの文学と神話 第7回: 町の建物のついてたずね、道案内をすることができる/ドイツの都市と建築 第8回: 買い物のやりとりをすることができる/ドイツの政治経済と環境対策 第9回: 気に入った物などについて話すことができる/近世までのドイツ社会 *小テスト 第10回: 行き先と交通手段が言える/ウェストファリア体制とナポレオン戦争 第11回: 一日の行動や時刻についての表現ができる/ドイツ統一とドイツ帝国 第12回: 過ぎ去った出来事について話すことができる1/第一次世界大戦とワイマール 第13回: 過ぎ去った出来事について話すことができる2/ナチスと第二次世界大戦 第14回: 休暇中の予定を離すことができる/戦後ドイツのあゆみ 第15回: まとめ及び試験			
準備学習	〈言語パート〉 教科書に準じ、その単元の練習問題等など宿題として課します。その他、小テストや学期末試験のための勉強が必要になります。 〈文化パート〉 レジュメの最後に、次回授業のキーワードを記しておくので、それについて調べておいてください。			
学習到達目標	〈言語〉 ・ドイツ語文法の基礎を習得し、さらなる学習の土台をつくる。 ・ドイツ語と日本語の相違点や共通点を比較できるようになる。 〈文化〉 ・ドイツの文化や社会について、様々な事柄を教養として身に着ける。特に現代日本のあり方ともかかわってくる近現代史については、ひとつの流れとして理解できるようになる。 ・日本とは異なった社会の文化や歴史を学ぶことで、自文化を相対できる広い視野をもてるようになる。			
成績評価基準	達成度 評価基準	〈言語〉 ・それぞれの単元におけるキー・フレーズを覚えているか。格変化などの文法を理解しているか。 ・基礎的な単語や文法を用いた文を作成できるか。あるいは日本語に訳することができるか。 〈文化〉 ・学習したドイツの歴史の様々なキーワードについて覚えているか。また、それについて説明できるか。 ・学習したドイツの社会や文化の内容について第三者に聞かれたとき、日本との違いも踏まえながら自分の言葉で説明できるか。		
	成績評価 方法	小テスト30% 期末試験70%)  ※期末試験では、授業で配布したプリントを持ち込み可とします。 ※対面での実施を基本とし、試験日には出席していただきます。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	『ドイツ語アルファ 改訂版』(朝日出版社)			
備考				

科目名	ネットワーク・リテラシー				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	網代 孝			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	Windowsの基本操作、およびインターネットを使った情報の収集・発信などについての知識・技能を習得する。特に、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用法・セキュリティの確保に関する知識、検索エンジンを用いた情報の収集などの操作技能を習得する。また、HTMLおよびCSSの文法と機能について理解し、コードの打ち込み(タグ打ち)・ブラウザ表示・修正の一連の作業によって、自力でWebページが作成できるようになることを目指す。				
授業方針	ネットワーク・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回の序盤は知識の習得が中心になるが、回数が進むにつれてPC作業の比率が上がっていく構成となっている。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本操作I (コンピュータの基本操作) 第2回 基本操作II (WindowsとGUIの基本) 第3回 情報通信ネットワークの仕組みと運用管理 第4回 情報セキュリティ 第5回 インターネットの利用I (基本:情報収集・検索) 第6回 インターネットの利用II (応用:コミュニケーション、ビジネス) 第7回 電子メールの基本操作 第8回 Webページによる情報発信、HTMLの概要 第9回 Officeを用いたWebページデザイン 第10回 ホームページの制作I (HTML基礎) 第11回 ホームページの制作II (HTML発展) 第12回 ホームページの制作III (CSS基礎) 第13回 ホームページの制作IV (CSS発展) 第14回 サーバーへのUP方法、ホームページ制作課題 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)				
学習到達目標	(1) キーボード・マウスによるWindowsの入力操作を修得する。 (2) メモ帳やペイントなどの基礎的なアプリケーションを使えるようにする。 (3) ネットワークシステムを理解し、インターネットを使いこなすことができる。 (4) HTML・CSSを理解し、タグ打ちでWebページが作成できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) コンピュータおよび情報機器の操作が習得できたか。 (2) インターネットを通して情報の活用・収集・検索などが行えたか。 (3) タグ打ち・ブラウザ表示・修正までの一連の作業を習得し、Webページが作成できたか。			
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 教科書: 文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書: できるホームページHTML&CSS入門(佐藤和人・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-2966-4) (3) その他: 必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	・大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。				

科目名	ネットワーク・リテラシー			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 金4
担当教員	網代 孝			単位区分 ◎(必修)_(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	Windowsの基本操作、およびインターネットを使った情報の収集・発信などについての知識・技能を習得する。特に、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用法・セキュリティの確保に関する知識、検索エンジンを用いた情報の収集などの操作技能を習得する。また、HTMLおよびCSSの文法と機能について理解し、コードの打ち込み(タグ打ち)・ブラウザ表示・修正の一連の作業によって、自力でWebページが作成できるようになることを目指す。			
授業方針	ネットワーク・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回の序盤は知識の習得が中心になるが、回数が進むにつれてPC作業の比率が上がっていく構成となっている。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 基本操作I(コンピュータの基本操作) 第2回 基本操作II(WindowsとGUIの基本) 第3回 情報通信ネットワークの仕組みと運用管理 第4回 情報セキュリティ 第5回 インターネットの利用I(基本:情報収集・検索) 第6回 インターネットの利用II(応用:コミュニケーション、ビジネス) 第7回 電子メールの基本操作 第8回 Webページによる情報発信、HTMLの概要 第9回 Officeを用いたWebページデザイン 第10回 ホームページの制作I(HTML基礎) 第11回 ホームページの制作II(HTML発展) 第12回 ホームページの制作III(CSS基礎) 第13回 ホームページの制作IV(CSS発展) 第14回 サーバーへのUP方法、ホームページ制作課題 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)			
学習到達目標	(1) キーボード・マウスによるWindowsの入力操作を修得する。 (2) メモ帳やペイントなどの基礎的なアプリケーションを使えるようにする。 (3) ネットワークシステムを理解し、インターネットを使いこなすことができる。 (4) HTML・CSSを理解し、タグ打ちでWebページが作成できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) コンピュータおよび情報機器の操作が習得できたか。 (2) インターネットを通して情報の活用・収集・検索などが行えたか。 (3) タグ打ち・ブラウザ表示・修正までの一連の作業を習得し、Webページが作成できたか。		
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程14条に定める。		
教材	(1) 教科書:文科系のためのコンピュータリテラシー[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書:できるホームページHTML&CSS入門(佐藤和人・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-2966-4) (3) その他:必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	・大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。 ・心理学科の学生向けに、授業難易度および単位取得難易度が低くなるように配慮する。			

科目名	ビジネス英語入門				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	ビジネス英語を初めて学ぶ学生を対象としている。所謂、グローバル化と高速通信技術の進歩に伴い、ビジネス英語の分野も多岐に亘るようになった。本授業では、新たなビジネス環境に対応したビジネス英語を、その基礎から総合的に学ぶことを目的としている。また、民間企業海外部勤務と外務省通訳としての実務経験を伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	① 受講者の実力や理解度を勘案しながら授業を進めていくが、ビジネス英語の基礎力を身に付けるという目的には忠実に沿っていく。 ② 毎回の授業において、受講生を適宜指名しながら、演習問題に対する自主的・積極的な参加を促していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各授業の学習内容は以下となる。 第1回 ① 授業目的・方針及び成績評価に関する説明 ② ビジネス英語の必要性に関する説明 第2回 <ビジネス通信の基本> ① 手紙 第3回 <ビジネス通信の基本> ② ファックス 第4回 <ビジネス通信の基本> ③ 電子メール 第5回 <ビジネス通信の基本> ④ 電話 第6回 <社交関係での表現> ① 面会の申入れ 第7回 <社交関係での表現> ② ホテルの予約 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 <社交関係での表現> ③ レセプションへの招待 第10回 <社交関係での表現> ④ 資料の送付依頼 第11回 <社内での表現> ① 会議の通知 第12回 <社内での表現> ② 議事録 第13回 <社内での表現> ③ 物品の購入 第14回 <社内での表現> ④ 日程の中間報告 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明な語句を調べ、文意と構造の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。 ③ 平素から、ビジネス英文を書く訓練を通じて、実戦感覚を養うこと。				
学習到達目標	① ビジネス関連の語彙は増えたか。 ② 初歩的なビジネス英語は、何も見ないで書けるようになったか。 ③ 将来、企業においてビジネス英語を活用していきたいという希望を抱くようになったか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 基礎的な語彙力の定着度。 ② 簡単なビジネス英文の理解力。 ③ 簡単なビジネス英文を使った表現力。			
	成績評価 方法	定期試験(60%)と授業内での課題(40%)で成績評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	Essentials of Global Business English 豊田暁著 南雲堂				
備考					

科目名	フランスの言語と文化			
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	丸山 真幸			単位区分 _(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	「文法」と「発音」を両輪にして、初級フランス語の基礎を学びながら、「フランス文化」の大まかなイメージを掴むという、理論的かつ実践的な授業。			
授業方針	本授業の土台はあくまで初級フランス語の学習ですが、教科書に付属するフランス文化紹介の映像DVDをそのつど一緒に見てゆくなどして、フランス文化のイメージを、あるいはそのより現実に近いイメージを、学生みなさんに掴んでもらえればと思っています。ただし語学に関しても、単なる語学学習というわけではなく、日本語には存在しない「冠詞」や「名詞の性数」など、「異文化」であるということ意識しながら学んでゆければと思っています。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1週 フランス語の基礎(アルファベ、発音のルール)、数字0~20 第2週 辞書の引きかた(1)、主語人称代名詞、動詞ETRE、形容詞 ◆日仏交流の歴史(国立西洋美術館)／フランスの音楽を聴く(1) 第3週 辞書の引きかた(2)、「自己紹介する」 ◆フランス絵画における印象派 第4週 辞書の引きかた(3)、名詞と不定冠詞、指示代名詞CE、形容詞の性・数の一致と位置 ◆フランスの音楽を聴く(2) 第5週 「物を指し示す」 第6週 第1群規則動詞(-ER動詞)、定冠詞、疑問文 ◆ルーヴル美術館の歴史(1) 第7週 ◆ルーヴル美術館の歴史(2) 第8週 「尋ねる」 ◆フランスの憲法(ラ・マルセイエーズ)／フランスの音楽を聴く(3) 第9週 指示形容詞CE、動詞AVOIR、否定文 ◆フランス社会学紹介(ブルデュー「文化資本」) 第10週 「買い物をする」 ◆フランスの日本人芸術家(岡本太郎) 第11週 部分冠詞、数字20~60 ◆フランスの音楽を聴く(4) 第12週 数字70~1000 ◆「文化資本」と私たち／シュルレアリスム紹介／フランスの音楽を聴く(5) 第13週 ◆フランスのろう文化 第14週 まとめ及び問題演習 第15週 まとめ及び定期試験			
準備学習	予習や課題といった授業に臨む下準備を、時間をかけて、事前に済ませておく必要があります。語学の学習は積み重ねなので、もちろん復習も必須です。授業毎に最低でも3時間、合計で45時間と想定して下さい。			
学習到達目標	初級フランス語の基礎を身につけ(とりわけ発音のルール)、フランス文化の大まかなイメージを掴む。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業期間を通して積み重ねてきた学習成果を、紙媒体の辞書を使いこなしているかも含めて、「文法」と「発音」の初歩ルールの理解度を中心に確認する。たとえば、主語人称代名詞と動詞の活用を対応させられるか、肯定文から否定文を作成できるか、固有名詞や人名を発音ルールにしたがってカナ表記できるか等。		
	成績評価 方法	レポート50% 定期試験50% ただし当然、授業内容を理解できレポートを作成できる日本語の能力は必須。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書は、藤田裕二『パリ-ボルドー:フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』(朝日出版社)および『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)。レポート課題図書は、中条省平『世界一簡単なフランス語の本』(幻冬舎新書)および山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』(新曜社)。			
備考	授業運営や成績評価の方針といった最重要の情報をお伝えする初回には、必ず出席すること。			

科目名	ボランティアの研究			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 水5
担当教員	高野 葉朗			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	多様なボランティアや社会課題、福祉現場の事例等に触れることで、ボランティアをより身近なものと感じ、実践へ繋げる。また、複数の支援者・被支援者の気持ちに触れることで、多様性を実感し、多角的な視点に立って物事を考えられるようにする。講義内ではグループワークなども用い、コミュニケーション能力や倫理観、自分の意見を述べる力を養う。			
授業方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアや社会課題、福祉現場の「いま」を知るため、できるだけ多くの「生」の声を提供する。</li> <li>②事例を多く学ぶため、AV機器などを活用する。</li> <li>③ボランティアを実践に移すため、良質のボランティアプログラムの紹介を行う。</li> <li>④グループワークなどを行い、双方向的な講義とする。</li> <li>⑤本授業は全て日本語で行います。</li> </ol>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業の進め方とアンケート。</li> <li>2.導入。ボランティアに関するいくつかの事例を紹介し、ボランティアをより身近なものとして捉える。</li> <li>3～7.複数のボランティア活動の実例に触れ、社会課題を理解し、ボランティアの多様性を認識する。</li> <li>8～11.福祉の現場や社会課題についての実例に触れ、職員として、ボランティアとして、また一個人として求められるものを考察する。</li> <li>12.社会人として仕事とボランティアを両立している方の実例に触れ、自らのライフプランを思案する。</li> <li>13.学生ボランティアの体験談を聴き、ボランティア活動をより身近に感じ、自らの実践を検討する。</li> <li>14.まとめ</li> <li>15.レポート作成</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業で示す課題についてレポートを作成する。/30時間</li> <li>②授業中に質問を投げかけるので、各授業のテーマに沿って事前に予習してくる。/30時間</li> </ol>			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①身近なもの(実践の選択肢のひとつ)としてボランティアを捉えられるようになる。</li> <li>②多様なボランティアや社会課題、福祉現場の実例を聞き、自ら課題を考えられるようになる。</li> <li>③支援者、被支援者の話やワークを通して、多角的な視点に立って考えることを知る。</li> <li>④ボランティアを通して、自らのライフプラン、キャリアに関する考えを持ち、ボランティアへの参加を誘発する。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアや社会課題、福祉現場の実例を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>②ボランティアの可能性を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>③ボランティア活動の背景にある社会課題や多様性を理解し、それを説明できるか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	第2回～第14回のリアクションペーパー5点×13回=65点(各1～5点で評価)②期末レポート35点		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材				
備考	①やむを得ない理由で課題を提出できなかった場合、講師に連絡の上、指示に従うこと。②病気・公式行事等で期末レポートを受けられなかった場合、追試験に準ずる課題を希望する者に対してのみ、別途、指示しますが、再試験に準ずる課題は設定しませんので、注意してください。			

科目名	ボランティアの研究			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水5
担当教員	高野 葉朗			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	多様なボランティアや社会課題、福祉現場の事例等に触れることで、ボランティアをより身近なものと感じ、実践へ繋げる。また、複数の支援者・被支援者の気持ちに触れることで、多様性を実感し、多角的な視点に立って物事を考えられるようにする。講義内ではグループワークなども用い、コミュニケーション能力や倫理観、自分の意見を述べる力を養う。			
授業方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアや社会課題、福祉現場の「いま」を知るため、できるだけ多くの「生」の声を提供する。</li> <li>②事例を多く学ぶため、AV機器などを活用する。</li> <li>③ボランティアを実践に移すため、良質のボランティアプログラムの紹介を行う。</li> <li>④グループワークなどを行い、双方向的な講義とする。</li> <li>⑤本授業は全て日本語で行います。</li> </ol>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業の進め方とアンケート。</li> <li>2.導入。ボランティアに関するいくつかの事例を紹介し、ボランティアをより身近なものとして捉える。</li> <li>3～7.複数のボランティア活動の実例に触れ、社会課題を理解し、ボランティアの多様性を認識する。</li> <li>8～11.福祉の現場や社会課題についての実例に触れ、職員として、ボランティアとして、また一個人として求められるものを考察する。</li> <li>12.社会人として仕事とボランティアを両立している方の事例に触れ、自らのライフプランを思案する。</li> <li>13.学生ボランティアの体験談を聴き、ボランティア活動をより身近に感じ、自らの実践を検討する。</li> <li>14.まとめ</li> <li>15.レポート作成</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業で示す課題についてレポートを作成する。/30時間</li> <li>②授業中に質問を投げかけるので、各授業のテーマに沿って事前に予習してくる。/30時間</li> </ol>			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①身近なもの(実践の選択肢のひとつ)としてボランティアを捉えられるようになる。</li> <li>②多様なボランティアや社会課題、福祉現場の実例を聞き、自ら課題を考えられるようになる。</li> <li>③支援者、被支援者の話やワークを通して、多角的な視点に立って考えることを知る。</li> <li>④ボランティアを通して、自らのライフプラン、キャリアに関する考えを持ち、ボランティアへの参加を誘発する。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアや社会課題、福祉現場の実例を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>②ボランティアの可能性を理解し、それを人に説明できるか。</li> <li>③ボランティア活動の背景にある社会課題や多様性を理解し、それを説明できるか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	第2回～第14回のリアクションペーパー5点×13回＝65点(各1～5点で評価)②期末レポート35点		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材				
備考	①やむを得ない理由で課題を提出できなかった場合、講師に連絡の上、指示に従うこと。②病気・公式行事等で期末レポートを受けられなかった場合、追試験に準ずる課題を希望する者に対してのみ、別途、指示しますが、再試験に準ずる課題は設定しませんので、注意してください。			

科目名	マルチメディア・リテラシー			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金1
担当教員	網代 孝			単位区分 ◎(必修)_(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	マルチメディア技術に関して、音声・画像データの形式およびコンピュータ・シミュレーションに関する知識を習得する。また、画像編集・動画編集のためのソフトを利用して、各種マルチメディアデータを編集するための操作技能を習得する。さらに、PowerPointの高度な機能とその使用法を理解し、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになることを目指す。Accessのフォーム・レポートの詳細機能についても学習する。			
授業方針	マルチメディア・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回のごく序盤のみ知識の習得が中心となるものの、全体的にPC作業の割合が高い構成となっている。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報メディアとマルチメディア表現 第2回 図形処理と画像表現 第3回 コンピュータ・シミュレーション 第4回 ペイントツールによるドットレベルの画像編集 第5回 画像データの編集・加工(1) 基本操作 第6回 画像データの編集・加工(2) レイヤー 第7回 図形データの編集・加工(1) ドロー系ソフトの基本操作 第8回 図形データの編集・加工(2) オブジェクトの移動と変形 第9回 図形データの編集・加工(3) 色の設定 第10回 動画データの編集 第11回 プレゼンテーション(3) オブジェクトによる装飾 第12回 プレゼンテーション(4) アニメーション設定 第13回 データベース(3) フォームの詳細 第14回 データベース(4) レポートの詳細 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)			
学習到達目標	(1) 音声・画像データの符号化・複合化の原理について理解する。 (2) コンピュータ・シミュレーションの方法・種類について理解する。 (3) 画像・動画編集アプリケーションを用いて、各種マルチメディアデータの加工ができる。 (4) PowerPointの高度な機能を用いて、プレゼンテーションが作成できる。 (5) Accessのフォーム・レポートの詳細機能について理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) マルチメディア技術全般について理解しているか。 (2) 画像・動画編集ソフトの基本的な使用法、およびそれらを用いた各種マルチメディアデータの基本的な加工法が習得できたか。 (3) PowerPointの高度な機能を用いて、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになったか。 (4) Accessのフォーム・レポートの詳細機能を理解し、操作方法が習得できたか。		
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1) 教科書:文化系のためのコンピュータリテラシ[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書:できるAccess 2016 Windows 10/8.1/7対応(広野忠敏・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-8066-5) (3) その他:必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	・大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。			

科目名	マルチメディア・リテラシー			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	網代 孝			単位区分 ◎(必修)_(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	マルチメディア技術に関して、音声・画像データの形式およびコンピュータ・シミュレーションに関する知識を習得する。また、画像編集・動画編集のためのソフトを利用して、各種マルチメディアデータを編集するための操作技能を習得する。さらに、PowerPointの高度な機能とその使用法を理解し、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになることを目指す。Accessのフォーム・レポートの詳細機能についても学習する。			
授業方針	マルチメディア・リテラシーでは、PC/LL教室のコンピュータを用いた講義・実習を中心に行う。講義がメインの回では、授業時間の半分～3/5程度で概念・システム・専門用語などに関する説明を行い、残りの時間で課題をこなして提出する形式となる。実習がメインの回では、説明を聞いて閲覧資料を見ながら課題をこなしていき、最後にまとめて提出する形式となる。講義回のごく序盤のみ知識の習得が中心となるものの、全体的にPC作業の割合が高い構成となっている。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報メディアとマルチメディア表現 第2回 図形処理と画像表現 第3回 コンピュータ・シミュレーション 第4回 ペイントツールによるドットレベルの画像編集 第5回 画像データの編集・加工(1) 基本操作 第6回 画像データの編集・加工(2) レイヤー 第7回 図形データの編集・加工(1) ドロー系ソフトの基本操作 第8回 図形データの編集・加工(2) オブジェクトの移動と変形 第9回 図形データの編集・加工(3) 色の設定 第10回 動画データの編集 第11回 プレゼンテーション(3) オブジェクトによる装飾 第12回 プレゼンテーション(4) アニメーション設定 第13回 データベース(3) フォームの詳細 第14回 データベース(4) レポートの詳細 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 次の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)			
学習到達目標	(1) 音声・画像データの符号化・複合化の原理について理解する。 (2) コンピュータ・シミュレーションの方法・種類について理解する。 (3) 画像・動画編集アプリケーションを用いて、各種マルチメディアデータの加工ができる。 (4) PowerPointの高度な機能を用いて、プレゼンテーションが作成できる。 (5) Accessのフォーム・レポートの詳細機能について理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) マルチメディア技術全般について理解しているか。 (2) 画像・動画編集ソフトの基本的な使用法、およびそれらを用いた各種マルチメディアデータの基本的な加工法が習得できたか。 (3) PowerPointの高度な機能を用いて、文書データから視覚効果の高いプレゼンテーションが作成できるようになったか。 (4) Accessのフォーム・レポートの詳細機能を理解し、操作方法が習得できたか。		
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1) 教科書:文化系のためのコンピュータリテラシ[第7版](草薙信照・植松康祐 共著、ISBN978-4-7819-1439-8) (2) 参考書:できるAccess 2016 Windows 10/8.1/7対応(広野忠敏・できるシリーズ編集部 共著、ISBN978-4-8443-8066-5) (3) その他:必要に応じて補助教材を配布する。			
備考	・大学より供与されたノートパソコンを有効に活用し、自宅にて予習復習を行い習熟度の向上を図る。 ・心理学科の学生向けに、授業難易度および単位取得難易度が低くなるように配慮する。			

科目名	メディア論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	二本木 かおり			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	私たちが媒介するメディアは、昔から、私たちのものの見方を変更し、社会のあり方を大きく変革してきました。ラジオの登場は音楽の聴き方を変え、テレビの登場は団欒のあり方を変え、インターネットは人との関係の仕方を変えています。そうした、社会を変革するメディアの力を観察し、未来へ向けて、よりスムーズな社会を形成するためのメディアのあり方を探ることが、この授業の目的です。				
授業方針	身近なメディアの特徴を、その背景・歴史も含めて、社会的な目線から分析します。今やメディアは、個人的な生活と切り離せないばかりでなく、そうした個々人の生活と経済活動の媒介ともなっており、だからこそ急速に発展し、それ故に生じる危険性も見逃せません。ただし、様々なことを可能にし、新しい世界を築き上げてきたのもメディアです。誰もが発信者となる今、メディアの活路を健全に展開すべく、一人ひとりが身近なメディアをあらゆる観点から吟味するための総合的な視線を持つことを目指し、そのための受信力・発信力強化の土台作りも行いま				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 メディアとは何か 第2回 レコードとラジオ 一回性をなくした音楽、文化の変容と交流 第3回 テレビ テレビ報道 人々の視線を操る 第4回 テレビ 家族の団欒の形、エンターテインメント価値の変質 第5回 テレビ 多チャンネル化、データ放送による個人ツール化 第6回 ポケベル・携帯電話 新たな交流文化の形成、記憶ツール 第7回 カラオケ 自己表現としてのカラオケと、共同体意識としてのカラオケ 第8回 インターネット マスメディアから双方向メディアの時代へ 第9回 インターネット 金銭的見返りを求めない労働 第10回 インターネット SNS ライフスタイルの拡大と拘束 第11回 スマートフォン 公共空間を私的空間へ 第12回 メディアと報道 視聴覚情報特有の方向付け、権威と個人 第13回 メディアと広告 欲望の動機付けとフィルターバブル 第14回 メディアとコンテンツ コンテンツ第一の現代 第15回 試験				
準備学習	各回のテーマに入る前に、講義で取り上げるメディアに対する自分自身を分析的に見ておきましょう。普段どう利用しているのか、昔とどこが同じでどこが違うのか、何に価値を置いて判断しているのか。単に便利だというだけでなく、メディアが人の意識や人間関係のあり方に作用していることを自分自身の実感として自覚した上で、メディアを利用した情報収集・情報発信を心がけてください。				
学習到達目標	単純にメディアを利用するためのリテラシーだけでなく、何ゆえのリテラシーなのか、社会的視点から理解する力を持つことが目的です。主体的な情報受信力、責任ある情報発信力はもちろん、メディアによって動きを変化させる社会のありようを冷静に捉える力を身につけます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	メディアを社会と関連づけて総合的に俯瞰できるか。具体的なメディアのあり方から大きな社会構造分析へと繋げていけるか。問題点の指摘だけでなく、未来の可能性を発見する力を育てているか。情報を論理的にキャッチし、誤読されないよう主体的に発信できるか。これらの面を評価します。			
	成績評価 方法	各講義終了時に提出する「本日の講義の概要」 40% 試験 60% * 出席そのものは評価しませんので、注意してください。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	テーマにより、音声・映像資料を利用します。				
備考	講義でメディアの捉え方のサンプルを展開し、試験でそれをみなさんなりに展開してもらいます。講義内容の転記や感想を求める試験ではありません。その点を踏まえて、自分なりの主体的なノートを積極的にとって「本日の講義の概要」に取り組み、授業内容を消化してください。				

科目名	異文化コミュニケーション(海外研修)			
クラス	[1クラス]	対象学年		開講学期 前期
				曜日・時限
担当教員	永本 義弘			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	<p>世界が国際性と相互依存性を深める中、異文化コミュニケーションの能力は今後益々必要なものとなる。この授業では、</p> <p>①異文化コミュニケーションで要となる英語によるコミュニケーション能力を育成すること、  ②異文化コミュニケーションを行う上での問題点及びそれらへの対応策を理解すること、  を目的とする。</p> <p>また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験を伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。</p>			
授業方針	<p>夏休みの後半2週間を利用して、異文化が重層的に共存するフィリピン・セブ島にある語学学校 Kredo において集中的に研修を行う。具体的には、</p> <p>①ネイティブ・スピーカーの教授者を相手に様々な場面での実用英語表現を繰り返し練習することにより、英語コミュニケーション能力を高める、  ②異文化コミュニケーションを行う上での問題点及びそれらへの対応策を現地での経験豊富な実務者からセミナー形式で指導を受ける、  ことを眼目とする。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1講 セミナー1 [フィリピンにおける異文化受容の歴史 - 市内史跡の見学]</p> <p>第2講 異文化コミュニケーションの英語1(フィリピン文化を知る)</p> <p>第3講 異文化コミュニケーションの英語2(日本文化を説明する)</p> <p>第4講 異文化コミュニケーションの英語3(自己紹介等の英語)</p> <p>第5講 異文化コミュニケーションの英語4(挨拶等の英語)</p> <p>第6講 セミナー2 [異文化を旅する]</p> <p>第7講 旅する英語1(空港等での英語)</p> <p>第8講 旅する英語2(ホテルやお店等での英語)</p> <p>第9講 旅する英語3(病院等での英語)</p> <p>第10講 セミナー3 [異文化で仕事をする]</p> <p>第11講 ビジネス英語・IT英語1(仕事場面での英語)</p> <p>第12講 ビジネス英語・IT英語2(イラストレーターを使う等)</p> <p>第13講 ビジネス英語・IT英語3(Webサイトを制作する①)</p> <p>第14講 ビジネス英語・IT英語4(Webサイトを制作する②)</p> <p>第15講 まとめ及び課題レポート作成</p>			
準備学習	<p>講義1回につき1時間の予習及び1時間の復習を要する。  海外渡航に必要な基本的会話表現を整理しておくこと。</p>			
学習到達目標	<p>①様々な場面で必要となる基本的な実用英語表現を使いこなすコミュニケーション能力を向上させること。  ②異文化コミュニケーションにおける問題点とその対応策を理解すること。</p>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>①毎日日誌をつけ、その日に学んだ実用英語表現を整理し、実際の場面で使えるようにしてあるか。  ②異文化コミュニケーションに関する現地実務者のセミナーを聞き、問題点とその対応策をレポートとして纏められているか。</p>		
	成績評価 方法	日誌50%、課題レポート50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	<p>1. Basic English 1 Kredo 編  2. IT English Kredo 編</p>			
備考	定員および研修費用等は別途掲示する説明会に必ず出席して確認すること。			

科目名	宇宙の科学				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	高橋 広治			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	宇宙の構造と進化を科学的に理解することを目標として、宇宙科学諸分野における重要事項を系統的に解説する。具体的には、太陽系から出発して、恒星の世界、銀河の世界、そして宇宙全体の歴史と進化へと話を進める。				
授業方針	近年、宇宙に関する我々の知識は急速な発展を遂げている。これは主として、観測技術の進歩に応じて、新しい種類の天体・天体現象の発見が相次いでいることによっている。宇宙を理解することは、我々が存在する世界を理解することであり、ひいては我々自身を理解することにつながる。この授業を通して科学技術に対する理解を深め、宇宙を探求する心を育ててもらいたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 宇宙について学ぶことの意義 第2回 宇宙観の変遷(1)古代～中世 第3回 宇宙観の変遷(2)近代～現代 第4回 太陽系(1)概要 第5回 太陽系(2)個々の天体 第6回 太陽 第7回 天体の観測 第8回 恒星の世界(1)明るさ、距離、運動／中間試験 第9回 恒星の世界(2)温度、スペクトル 第10回 恒星の一生 第11回 銀河系 第12回 銀河と宇宙 第13回 宇宙の歴史と進化 第14回 太陽系の起源と系外惑星 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)LiveCampusで配布する資料に基づいた予習。(30時間) (2)ノートと資料の整理と復習。(30時間)				
学習到達目標	(1)宇宙についての基礎的な知識を習得する。 (2)自然界の現象を科学的に考察する態度を身につける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)宇宙についての基礎的な知識を習得できたか。 (2)自然界の現象を科学的に考察する態度を身につけることができたか。			
	成績評価 方法	平常点25%＋中間試験25%＋期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	英語記事・論文読解				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	英文記事・論文を本格的に読むための構文把握力並びに読解力を涵養することを目的としている。今回は政治・経済・法律といった社会科学的なテーマではなく、現代人や現代社会が抱える心的問題に焦点を当てた論文を中心に読んでいく。また、民間企業海外勤務と外務省通訳としての実務経験を伝えながら、英語学習の意欲向上を図っていく。【実務】				
授業方針	英文記事・論文を読むための読解力が求められている以上、基礎的な語彙や文法知識は、各自が自助努力で身に付けなければならない。各授業では、一定量の英文読破をノルマとするため、『予習が前提』の授業を展開していく。受講学生は、毎回授業内で指名され、発表を求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	各回のreading materialのトピックは、以下となる。 第1回 ① 授業方針・内容及び成績評価に関する説明 ② 『英文を読む重要性・必要性』について 第2回 Never Fail: Achieving Your Goals 第3回 FYI: Cyberpsychology 第4回 Kick it! Addictions Old and New 第5回 Mind over Matter: Boosting Brain Power 第6回 Don't Worry! Handling Stress and Anxiety 第7回 Best Behavior: A Better, Nice You 第8回 まとめ及び中間試験 第9回 About Face: Appearance and Personality 第10回 True or False?: Spotting Liars 第11回 What a Jerk!: Dealing with Difficult People 第12回 So Sad: Depression in Japan 第13回 For the Children's Sake: Effective Parenting 第14回 It's All Good: Happiness and Positive Psychology 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	① 各授業の前に、意味不明の語句を調べ、文全体の構造とその意味の把握に努めること。 ② 次回の授業までに、前回の授業の復習を必ず行うこと。 ③ 一文単位の理解を超えて、reading material全体の論理構成の把握に努めること。				
学習到達目標	① 基礎レベルを超えた語彙力を身に付ける。 ② 英文の構造を掴み取るスピードをアップさせる。 ③ 文章論理を意識しながら、英文を読めるようになる。 ④ 英文を読むスピードをアップさせる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 基礎レベルを超えた語彙力が身に付いたか。 ② 英文の構造を掴み取るスピードはアップしたか。 ③ 文章論理を意識しながら、英文を読めるようになったか。 ④ 英文を読むスピードはアップしたか。			
	成績評価 方法	定期試験 60% 課題提出 40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	PRACTICAL PSYCHOLOGY Jim Knudsen著 南雲堂				
備考					

科目名	英語圏文化論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	永本 義弘			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近・現代の国際関係において覇権を握ってきたのは、英語圏の国であった。したがって、その代表国であるイギリスとアメリカについて知ることにより、現代世界の特徴の一側面を垣間見ることができる。この授業では、英米2か国の歴史・社会・文化について概観し、日本を含む現代世界に英語圏国家が如何なる影響を与えているのかを学ぶ。また、民間企業海外部勤務と外務省通訳としての実務経験を伝えることにより、現在の英語圏文化の一端にも触れる。【実務】				
授業方針	<p>基本的には、次の流れで授業を進めていく。</p> <p>① 授業の初めに、扱うテーマに関する簡単な解説を行う。</p> <p>② 受講生各自が問題意識を持ち、そのテーマの何について掘り下げたいのかを話し合う。</p> <p>③ 発表者を1～2名指定し、次回の授業においてプレゼン形式(レジュメの提出を含む)で発表をしてもらう。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 ガイダンス(授業方針、成績評価等について)、英語圏とは</p> <p>第2回 英語の歴史</p> <p>第3回 イギリス国王と議会(議院内閣制について)</p> <p>第4回 近代イギリスの工業力(産業革命を中心として)</p> <p>第5回 植民地帝国への道(近代イギリスを支えた工業力と軍事力)</p> <p>第6回 2つの世界大戦とイギリス</p> <p>第7回 現代のイギリスを旅する</p> <p>第8回 ジェントルマンとは何か</p> <p>第9回 アメリカ社会の特徴を歴史から考察する(モンロー主義、孤立主義、理想主義等について)</p> <p>第10回 議院内閣制と大統領制</p> <p>第11回 2つの世界対戦とアメリカ</p> <p>第12回 第2次大戦後の超大国としてのアメリカと東西冷戦</p> <p>第13回 英語圏文化が世界に与えたもの(1)</p> <p>第14回 英語圏文化が世界に与えたもの(2)</p> <p>第15回 まとめ及び期末レポート</p>				
準備学習	毎回の授業のテーマについて自学自習を行い、ある程度の予備知識を持って授業に臨むこと。資料はテキスト、関連図書、インターネットなど幅広く利用すること。				
学習到達目標	英語圏文化の源であるイギリスの歴史と社会、そして、現在の英語圏を代表するアメリカの歴史および社会を知ることによって、現代世界の一側面を学ぶ。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎回の授業で扱うテーマに関し、テキスト内外の知識をどれだけ身に付けたか。また、それらをどの程度自分の言葉で表すことができるかが最大の基準となる。			
	成績評価 方法	① 期末レポート: 60% ② 課題提出: 40%			
	成績評価	人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	授業内で随時資料を配布する。				
備考	授業には積極的・主体的に参加すること。特に、自分が関心のあるテーマについて、授業内で発表することが求められる。				

科目名	音楽音響学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	丸井 淳史			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽を理解する方法の一つとして、音響の側面からの視点があります。この講義では、音楽と音響に関わる様々なことがらについて幅広く基礎から解説を行います。				
授業方針	音とはなにかという基本的なことから様々な分野での音の扱われ方や考え方について、具体的な事例を取り上げつつ歴史から最先端の技術動向までを解説します。幅広いテーマを扱い、音響の世界全体を俯瞰できる講義を目指します。音響学の深い理解には数学や物理が欠かせませんが、大学入学までにそれらを専門的に勉強してこなかった学生でも理解できるよう配慮します。 下記の授業スケジュールに挙げたように広範な講義内容になりますが、極端に高度になりすぎることのないよう、実例や体験を交えつつ、受講生の興味に合わせて柔軟に対応し				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 ガイダンス(講義概要、音とは何か) 第 2回 楽器音響(1)管楽器 第 3回 楽器音響(2)弦楽器・打楽器 第 4回 空間音響(1)部屋での音の振る舞い 第 5回 空間音響(2)残響の測定とその利用 第 6回 電気音響(1)オームの法則、フレミング左手の法則 第 7回 電気音響(2)マイクロホンとスピーカーの仕組み 第 8回 電気音響(3)マイクロホンの種類と用途 第 9回 電気音響(4)音のデジタル記録方式 第10回 音響技術史(1)音記録の歴史 第11回 音響技術史(2)音の伝送と空間表現の歴史 第12回 心理音響(1)音の高さと音の大きさの知覚 第13回 心理音響(2)音色の知覚と評価 第14回 心理音響(3)音の到来方向の知覚 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	特に指定する準備学習はありませんが、上記の講義内容に書かれたキーワードを図書館やインターネットで調べておくことをおすすめします。また、次の講義はそれまでの内容を踏襲するので、講義内での集中と授業後の十分な復習を期待します。				
学習到達目標	授業スケジュールに挙げた各項目について理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義の項目についての試験を行い、理解度を判断します。			
	成績評価 方法	試験70%、発言・質問など授業への貢献30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定めます。			
教材	(1)教科書 とくになし (2)参考書 講義内で紹介します (3)その他 必要に応じて資料を配付します				
備考					

科目名	化学と生活				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	岩佐 健太郎			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	食品添加物や医薬品など人体に影響する物質、エネルギー・環境問題に関わる物質、科学技術を支えている物質など、現代人は多種多様な化学物質に囲まれて生活している。化学は様々な物質を合成し、その性質を理解するための学問である。安全で豊かな生活のために、身の回りの物質や化学的な現象に対して関心を持つことは大変重要である。本科目では化学の基礎、および生活、科学技術、生命、環境に関わる様々な物質の性質について学び、理解することを目的とする。				
授業方針	高校で化学をほとんど勉強してこなかった学生もいることを前提にして基礎から講義を行う。化学の理論的・学問的な解説は必要最小限にとどめ、化学の現象や化学の技術に関する様々なトピックを紹介していく講義とする。講義中は主にスライド(パワーポイント)を用いる。また講義資料のプリントを配布する。指定の教科書の内容に沿って講義を行い、図やイラストを用いてわかりやすく説明する。授業の終了前に小テストを行い、講義の理解度を確認する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 「物質科学の基礎Ⅰ」 原子の構造と原子を構成する粒子 原子の種類 分子とイオン 第2回 「物質科学の基礎Ⅱ」 周期表と元素の性質 第3回 「物質科学の基礎Ⅲ」 化学結合 化学式 化学反応式 第4回 「生活と物質Ⅰ」 生活の中の無機化合物 (ガラス セメント 金属材料) 第5回 「生活と物質Ⅱ」 有機化合物① (表記法 異性体 官能基) 第6回 「生活と物質Ⅲ」 有機化合物② (芳香族化合物 反応性) 第7回 「生活と物質Ⅳ」 生活の中の有機化合物 (洗剤 医薬品) 暮らしの中の貴金属 レアメタル 第8回 「生活と物質Ⅴ」 電池 (ダニエル電池 乾電池 太陽電池 燃料電池) 第9回 「生活と物質Ⅵ」 日常のなかの高分子 (樹脂 繊維 ゴム) 第10回 「生命にかかわる物質Ⅰ」 タンパク質 (アミノ酸 タンパク質の摂取 高次構造) 第11回 「生命にかかわる物質Ⅱ」 核酸① (DNAの構造 核酸塩基 DNAの複製) 第12回 「生命にかかわる物質Ⅲ」 核酸② (RNA タンパク質の合成) ビタミンとホルモン 第13回 「地球の環境と化学Ⅰ」 環境に影響を及ぼす物質 (大気汚染物質 地球温暖化 ダイオキシソ類) 第14回 「地球の環境と化学Ⅱ」 エネルギーの化学 (化石燃料 原子力 再生可能エネルギー) 第15回 レポート作成				
準備学習	指定の教科書の講義内容に該当する箇所を読み、予習すること。(20時間) 講義内容の復習、教科書の章末問題を演習、小テストの復習を行うこと。(20時間) 授業と関連する内容についても化学の教科書、関連書籍、インターネットなどで調べて理解を深めるよう努めること。(20時間)				
学習到達目標	① 原子の構造、元素の性質、周期表の見方、化学反応式の書き方を理解できるようになる。 ② 生活に役立つ化学物質や技術について学び、化学的な観点から説明できるようになる。 ③ 生命活動にかかわる物質の構造と生体内での役割について理解し、説明できるようになる。 ④ 環境問題やエネルギー問題について化学の知識を使って理解し、考察できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 原子構造、元素の性質、周期表、化学反応式、構造式などの化学の基礎事項を理解したか。 ② 身近な化学物質、技術、材料などについて、化学組成や分子構造を理解し、説明できたか。 ③ 生体分子や生理活性物質の分子構造と機能や役割などを理解し、説明できたか。 ④ 環境問題とエネルギー問題について化学の観点から考察できるようになったか。			
	成績評価 方法	学期末レポート70%、小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 「身のまわりの化学－物質・環境・生命－」 大場 好弘(著) 化学同人				
備考	連絡先 E-mail: iwasa-k@sit.ac.jp				

科目名	科学技術史			
クラス	対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
			曜日・時限	木3
担当教員	詫間 直樹		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	今日、科学技術のアウトプット(科学知識や人工物など)は社会のすみずみまで浸透している。また、大抵の社会問題に科学技術が絡んでくるようになって来ているので、科学技術なしには問題を語ることも解決することもできないと言ってよいほどの状況にある。この授業は、科学・技術がこれほどまでに大きな存在となった歴史的経緯をたどり、科学・技術に対する理解を深めることを目的とする。			
授業方針	講義形式で行う。スライド(PowerPoint)を用いる。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。 科学技術に関する個別の専門的知識は必要としない。文科系の学生にも分かりやすいように、科学と技術の歴史的・社会的性格を論じる。 毎回の授業終了後に、授業に対するコメントをリアクションペーパーに記入し、Live Campusに提出してもらう。この作業は、記憶を定着させ理解を深めるための有効な作業であるので、あなどらずにしっかり記入してもらいたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス(授業の目的・進め方, 成績, その他)およびイントロダクション(「科学」「技術」「科学技術」の簡単な定義と由来) 第2回 古代ギリシャ・ローマの科学と技術 第3回 中世の科学・技術(1)(西欧における農業生産の拡大、都市の発達、イスラムの科学・技術、12世紀ルネサンス、など) 第4回 中世の科学・技術(2)(火薬、鉄砲、製紙、活版印刷、など) 第5回 科学革命への先駆け ― 地動説の発達 第6回 科学革命と科学の制度化 第7回 産業革命の始まり 第8回 産業革命の他部門への波及 第9回 産業革命のイギリス以外の国々への波及 第10回 科学の専門職業化 第11回 第二次産業革命 第12回 戦争と科学・技術 第13回 大量生産方式 第14回 イノベーションのリニアモデルとノンリニアモデル 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	① 毎回の授業の前までにその前の週の授業内容について、復習を充分しておくこと。(30時間程度) ② 中間レポートには十分な時間を掛けて取り組むこと。(15時間程度) ③ 期末試験の前には再度復習を行い、2000年に及ぶ歴史のおおよその流れを把握しておくこと。(10時間程度) ④ 毎回の授業で紹介する関連文献やインターネットサイトについて積極的に閲覧し、理解を深めることを推奨する。(5時間程度)			
学習到達目標	・科学技術の歴史がどのように展開してきたのか、その流れをイメージできるようになること。 ・科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・科学と技術の歴史について、基本的な事柄を説明することができるか。 ・重要な出来事や人物について理解し、概略を説明できるか。 ・社会における科学技術のあり様とあり方について、具体的な事例と結び付けて説明できるか。 ・科学技術の歴史について書かれた文章を読み、要点をまとめることができるか(中間レポート)。		
	成績評価 方法	毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。 期末に試験を行う。また、学期の中頃に中間レポート課題に取り組んでもらう。 リアクションペーパー(30%)、中間レポート(20%)、期末テスト(50%)。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書は指定しない。毎回資料を配布する。必要に応じて参考になる文献を紹介する。			
備考				

科目名	<b>教育と社会</b>				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	小島 博明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育と社会」では、現代社会におけるさまざまな教育問題を取り上げて、今何が起きているのか(現状の把握)→なぜそうなったのか(歴史的背景や状況の客観的分析)→今後はどうすればいいのか(課題の整理)を多角的に考えていく。→その上でそれらについて自分の考えを述べることができ(発表能力)→さらに自分の考えをエッセイとしてまとめることができる。(文章表現能力)				
授業方針	一授業に一課題を提示する。それについて話し合うことから始め、友達の意見や教師の説明を聞くことを通して自分の考えを構築する。最後に、その構築した自分の考えをエッセイとしてまとめる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 導入(話し合いの仕方、エッセイの書き方など)、科目「教育と社会」の教育と社会との関係とは 第2回 日本の学校の歴史 第3回 最近の学校(中高一貫教育) 第4回 学力格差と社会階層 第5回 小学校における英語必修化 第6回 グローバリゼーションと学校 第7回 よい教師とは 第8回 よい学校とは 第9回 教師の多忙 第10回 道徳教育 第11回 個性重視教育 第12回 いじめ 第13回 体罰 第14回 青年とアイデンティティー 第15回 テスト(今までのトピックから、レポート形式で)				
準備学習	日頃から文献を購読するとともに、新聞などで報じられる教育問題に関心を持ち、何が起きているのか、なぜそうなったのか、どんな対策が考えられるのかなどを考える習慣をつける。具体的記には下記の課題をやる。 ①第1週～7週 基礎文献(第1回目の授業で指示)を読む。(合計30時間) ②第8週～15週 数社の新聞の「社説」を読む。(合計30時間)				
学習到達目標	①現代社会のなかで教育をめぐるどんな問題が起きているのか、現状の把握 ②なぜそのような状況になったのか、歴史的背景や状況の客観的分析 ③今後はどうすればいいのかを多角的に考え、課題を整理 ④自分の意見を適切に表現することができる発表能力 ⑤エッセイを適切に書くことができる文章表現能力				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標に照らして評価する。			
	成績評価 方法	平常点30%、レポート70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	教育と社会				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	小島 博明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育と社会」では、現代社会におけるさまざまな教育問題を取り上げて、今何が起きているのか(現状の把握)→なぜそうなったのか(歴史的背景や状況の客観的分析)→今後はどうすればいいのか(課題の整理)を多角的に考えていく。→その上でそれらについて自分の考えを述べることができ(発表能力)→さらに自分の考えをエッセイとしてまとめることができる。(文章表現能力)				
授業方針	一授業に一課題を提示する。それについて話し合うことから始め、友達の意見や教師の説明を聞くことを通して自分の考えを構築する。最後に、その構築した自分の考えをエッセイとしてまとめる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 導入(話し合いの仕方、エッセイの書き方など)、科目「教育と社会」の教育と社会との関係とは 第2回 日本の学校の歴史 第3回 最近の学校(中高一貫教育) 第4回 学力格差と社会階層 第5回 小学校における英語必修化 第6回 グローバリゼーションと学校 第7回 よい教師とは 第8回 よい学校とは 第9回 教師の多忙 第10回 道徳教育 第11回 個性重視教育 第12回 いじめ 第13回 体罰 第14回 青年とアイデンティティ 第15回 テスト(今までのトピックから、レポート形式で)				
準備学習	日頃から文献を購読するとともに、新聞などで報じられる教育問題に関心を持ち、何が起きているのか、なぜそうなったのか、どんな対策が考えられるのかなどを考える習慣をつける。具体的には下記の課題をやる。 ①第1週～7週 基礎文献(第1回目の授業で指示)を読む。(合計30時間) ②第8週～15週 数社の新聞の「社説」を読む。(合計30時間)				
学習到達目標	①現代社会のなかで教育をめぐるどんな問題が起きているのか、現状の把握 ②なぜそのような状況になったのか、歴史的背景や状況の客観的分析 ③今後はどうすればいいのかを多角的に考え、課題を整理 ④自分の意見を適切に表現することができる発表能力 ⑤エッセイを適切に書くことができる文章表現能力				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標に照らして評価する。			
	成績評価 方法	平常点30%、レポート70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	経営学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	本吉 裕之			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	会社(組織)の仕組みや経営に関する基礎的事項を学ぶ。様々な業種・業態を取り上げ、その業務内容や組織の一般的な形態や役割について学習する。また企業の社会における存在意義やそこで働く意味、社会生活/企業組織、経営活動などの実態や心構えについて学ぶ。この科目は実務経験者による授業です。【実務経験】JTB、一休.com宿泊施設等への営業及び新サービスの企画・開発に取り組み、宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	会社組織及び経営に関する基礎的事項の概略を解説する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 この授業でどんなことを学ぶのか(目的/狙い)。 第 2回 社会と企業 第 3回 企業経営の歴史 第 4回 企業の見方や捉え方(産業分類と特徴、組織と役割) 第 5回 企業の見方や捉え方(製造業:食品) 第 6回 企業の見方や捉え方(製造業:工業製品) 第 7回 企業の見方や捉え方(金融) 第 8回 企業の見方や捉え方(旅行・サービス業) 第 9回 企業の見方や捉え方(情報・通信・IT) 第10回 企業の見方や捉え方(ゲーム) 第11回 企業の見方や捉え方(公共サービス) 第12回 企業の仕組み:会社は誰のものか・経営倫理/コンプライアンスの考え方 第13回 企業の仕組み:企業活動の目的 第14回 総復習と課題 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	資料を通読する。				
学習到達目標	企業や組織の役割や機能、社会との関係を理解する				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	○企業の中で行われていること、その意義について基本的理解を得る ○企業活動の目的について基本的理解を得る			
	成績評価 方法	授業への貢献、レポート、テストを30%:30%:40%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	○参考資料は都度紹介・配布する				
備考					

科目名	<b>経済学概論</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1
担当教員	松田 正典			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>経済学とは、生産・労働・消費・所得分配・投資・金融・課税・公共事業・貿易等から成る経済の諸活動について、なぜ現在のようになっているのか？そこにはどのようなメカニズムが働いているのか？どのような問題があるのか？より良くするためにはどうすればよいのか？そもそも「良い」状態とはどのような状態のことなのか？等について明らかにしようとする学問である。</p> <p>本講座では 我々の生活と切り離せないこうした経済学の基本的な枠組みを学ぶ</p>				
授業方針	<p>「経済」が上記のようなものである以上、経済学を学ぶには、「その『現場』においてはどのような活動が行われているのか？」についてのリアリティあるイメージを持つことが不可欠である。この講座においては、そのイメージをしっかりと持ち帰るところから丁寧に進めてゆく。加えて、テキストの指定の章(16頁前後)を一読して来ていることを前提に、そこで説明されている知識とその具体的な使い方を定着させるべく、思考や議論のために授業の時間を使う。そうした中から皆さんが共に学ぶ友人を得ることも期待する。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 イン트로ダクション 及び 分業の利益  第 2回 需要と供給  第 3回 価格メカニズム  第 4回 市場の効率性  第 5回 市場の失敗  第 6回 市場の限界  第 7回 労働市場  第 8回 GDPとは何か  第 9回 GDPの決定要因  第10回 消費需要と投資需要  第11回 貨幣と金融  第12回 政府の役割  第13回 外国貿易と為替レート  第14回 経済成長  第15回 まとめ及び試験  (ただし、以上の内容は、進行状況その他の理由により、期の途中で若干変更される可能性があります。)</p>				
準備学習	<p>【予習】  教科書の指定範囲を事前に読み、そこでの解説を一通り理解し、かつ、理解不能な点を明確にして来ること。毎回、解説の冒頭に、皆さんの疑問点を質問します。  (初回の授業の予習範囲は、教科書の第1章。)</p> <p>【復習】</p>				
学習到達目標	<p>・「市場」の働きとその不完全性や限界について理解できるようになる。  ・「国民経済」という大きな単位・視点から経済活動をとらえられるようになる。  ・政府や中央銀行が行う経済政策と効果について理解でき、そのあり方について考えられるようになる。  (以上、全て、基本的なレベルにおいて。)</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>・「市場」の働きとその不完全性や限界について説明できる。  ・「国民経済」という大きな単位・視点から経済活動を説明できる。  ・政府や中央銀行が行う経済政策、効果、そのあり方について説明できる。  (以上、全て、基本的なレベルにおいて。)</p>			
	成績評価 方法	<p>・授業への参加姿勢(議論のリード、発言の量と質 等)50%  ・期末試験50%</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める</p>			
教材	<p>【教科書】  『1からの経済学』(中谷 武・中村 保 編著、発行:碩学舎・発売:中央経済社)</p>				
備考	<p>今年のNHK大河ドラマの主人公渋沢栄一は当学近くの旧岡部藩血洗島出身で、「日本の資本主義」の父。主著『論語と算盤』の表題は、「経済発展と企業経営には、哲学と経済・会計のセンスが必要」との意味。授業でも、彼の言葉を紹介して行きたい。</p>				

科目名	芸術論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	坂口 周輔			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	西洋美術を中心にした様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきます。さらに、作品をめぐる印象や解釈を言葉にしていくための論理的能力を高めていくことも目指します。基本的には毎回の授業でいくつかの芸術作品を取り上げ、その作品に関する情報や背景を解説します。そのあと作品そのものに焦点をあて、その作品の特徴をいろいろな側面から探っていきます。一緒に「芸術とは何か」を考えていきましょう。				
授業方針	毎回いくつかの芸術作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。できるだけみなさんの発言を求めていきたいと思っています。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 芸術と美:ヴィーナス 第2回 芸術と美:パリの審判 第3回 芸術作品を見る:原始美術 第4回 芸術論を読む:バタイユとゴンブリッチ 第5回 芸術作品を見る:ゴシック建築 第6回 芸術作品を見る:ゴシック建築(2) 第7回 芸術作品を見る:イタリア・ルネサンス 第8回 芸術作品を見る:イタリア・ルネサンス(2) 第9回 芸術作品を見る:バロックの時代 第10回 芸術作品を見る:聖から俗の世界へ 第11回 芸術作品を見る:近代(新古典主義・ロマン主義) 第12回 芸術作品を見る:近代(印象派) 第13回 芸術作品を見る:近代から現代へ 第14回 これまでのおさらい 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう(30時間) また芸術に興味を持つことが大切です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しようと努めてください(15時間)				
学習到達目標	様々な芸術作品を見ることによって芸術をより身近なものにします。さらに作品を見て何かを考えたり述べたりする判断能力を身につけます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容をしっかりと把握し、身につけられたのかをチェックします。			
	成績評価 方法	授業への参加度30%、定期試験70%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	1)教科書の指定はなし。 2)参考書は、毎回の内容に応じてその都度紹介する。				
備考					

科目名	現代社会理解				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業は、今後就職活動を経て社会人となっていく3年生を主たる対象として、今後の就職活動、社会生活を営んでいく上で役に立つ「教養」を習得してもらうことを目的に、毎回時事問題などのテーマを取上げ、ネット検索、他人の意見を参考にしながら各自が自分の頭で考えていく内容です。講師の42年に渡る実務経験、社会観察に基づく実践的な授業です。【実務】				
授業方針	この授業は「教えない授業」です。毎週の「時事テーマ」について、各自がネット検索をしながら、関連知識について自分自身で纏めていきます。時事問題に興味を持ち、その本質、歴史、今後について考えられるようになることを目指します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 インターネットリテラシー/ネット検索コンテスト、論理的思考？(イントロダクション) 第2回 事実を「正しく」知る 第3回 歴史的視点を忘れない 第4回 日本とは何か？日本も世界と地続きだ 第5回 世代を繋ぐもの 第6回 地域という視点 第7回 芸術とは何か？ 第8回 文化とは何か？ 第9回 スポーツの歴史と今 第10回 「趣味」は何のためにある？ 第11回 「生きがい」という言葉は日本語以外にない？ 第12回 「働く」とはどういうことか？技術を理解する(世界を変える新たな技術) 第13回 何のために生きるのか？ 第14回 人生100年時代の本質 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	予習は特に必要ないが、時事問題やニュースなどについて、日頃から注意を払い、「これはどういうことなのか」と常に考えておく訓練をしておく、授業に役に立ち、各自の学ぶ意欲、理解度に大きなプラスになろう。				
学習到達目標	現代社会で起こっている事象について知り、説明ができることに加え、それに対する自分なりの意見が言えるようになることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	現代社会で起こっている事象について理解し、説明や自分なりの意見を言うことができるか。			
	成績評価 方法	予習は特に必要ないが、時事問題やニュースなどについて、日頃から注意を払い、「これはどういうことなのか」と常に考えておく訓練をしておく、授業に役に立ち、各自の学ぶ意欲、理解度に大きなプラスになろう。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜配布				
備考	毎回必ずPCまたはスマートフォンを持参すること				

科目名	自己理解の心理学				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	石井 国雄			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	自分とは何だろうか。この講義では、自己を理解する方法として心理学で研究されている理論や手法を紹介し、自分自身について科学的な手法を活かして理解できるようになることを目指す。				
授業方針	パワーポイントを使った講義形式で行う。毎回の授業終了前にリアクションペーパーを記入し、次の週に質疑応答を行う。なお、自己に関する理解を深めるため、授業内で調査や実験を行うことがある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス:「自己」を科学的に捉える 第2回 より良いコミュニケーションのための自己理解 第3回 「自分」はどこからやってくるのか:自己概念の形成 第4回 自分をどのように見せるか:自己開示と自己呈示 第5回 正しく伝えることの難しさ:自己表現 第6回 どうやったら目標に向かって進めるか1:自己制御 第7回 どうやったら目標に向かって進めるか2:自己コントロール力の向上 第8回 ネガティブな気持ちを自分の力に変える:人間関係とストレス 第9回 自分に対する思い込み:ステレオタイプの影響 第10回 集団の中の自己:社会的促進・社会的抑制 第11回 男/女らしさと自分:ジェンダーと性役割観 第12回 カウンセリングから学ぶ 第13回 自己とキャリア形成:職業適性という考え方 第14回 やるべきことの先延ばし 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①事前に指定した資料を通読する(15時間) ②授業時に配布する資料を基に復習をする(30時間) ③授業内で紹介する文献や情報について、自分の関心のあるものを調べる(15時間)				
学習到達目標	講義内容を通し、自分自身について心理学的な視点を用いて考えることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自己という概念を理解し、説明できるか。 自己に関する理論をもとに、自己を科学的な視点から捉えられるか。 自己を理解するための方法について、具体的に説明できるか。			
	成績評価 方法	平常点(授業課題,リアクションペーパーへの評価)40%,期末試験60%として、総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は指定しない。毎回資料を配布する。 [参考書]松井豊・櫻井茂男(2015).スタンダード自己心理学・パーソナリティ心理学(ライブラリスタンダード心理学9).サイエンス社 その他、参考書は随時授業内で紹介する。				
備考					

科目名	<b>社会学概論</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	辻井 敦大			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	私たちは、人と人がつながって作られている「社会」のなかで生きています。この「社会」は、目には見えませんが、私たちが何かを考え、行為する時に大きな影響を及ぼしています。この授業では、私たちが今を生きる「社会」を捉える道具として、社会的なものを見方を紹介します。まず、社会学の基礎的な学説史と重要な概念を説明したのち、個別のテーマの理解を通じて、現代社会とはいかなる社会であるのかを考えていきます。				
授業方針	受講生には社会的なものを見方を身につけ、実践的に活用することで、現代社会(やそこに生きる私たち自身)について理解を深めることを期待します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 社会学とは何か 第2回 社会学理論と社会調査の系譜① 第3回 社会学理論と社会調査の系譜② 第4回 社会学理論と社会調査の系譜③ 第5回 社会学理論と社会調査の系譜④ 第6回 社会学理論と社会調査の系譜⑤ 第7回 社会学理論と社会調査の系譜⑥ 第8回 現代社会とはいかなる社会か① 第9回 現代社会とはいかなる社会か② 第10回 現代社会と家族をめぐる社会学 第11回 現代社会と地域をめぐる社会学 第12回 現代社会と労働をめぐる社会学 第13回 現代社会と文化をめぐる社会学 第14回 現代社会と社会問題をめぐる社会学 第15回 まとめ				
準備学習	①社会問題に関する記事やニュースに普段から触れ、自分なりの疑問・関心を持っておくこと。(30時間) ②毎回配布する資料に参考文献を記載するので、それを参照するなどして復習しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	社会学の基礎的な理論、学説史を理解し、社会的なものを見方を習得すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	基礎的な社会学史を理解し、自分の言葉で説明できるか。 重要な社会学概念について理解し、具体的な事例を交えながら説明できるか。			
	成績評価 方法	平常点(コメント・シート)20%、期末レポート80%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。			
教材	教科書は特に指定しない。授業中適宜資料を配布する。また、必要に応じて参考文献を紹介する。				
備考	授業に主体的に参加する学生を歓迎します。				

科目名	浄土教の歴史と文化				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	宮井 里佳			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>本学は浄土宗開祖の法然上人の仏教精神に基づいている。その法然浄土教を中心に、本講義では浄土教の歴史を論ずる。法然浄土教の意義について、浄土教の歴史における法然の位置づけ、日本仏教史・歴史における法然の位置づけの二方向から考察する。また、浄土思想・信仰が寺院(建築)や仏像(彫刻)、極楽・地獄図(絵画)といった美術や文学に表現されていることを、具体例を通して考察する。</p>				
授業方針	<p>一つには、基本的な浄土教の知識を身につけることを目標とするが、本来的には、浄土教の歴史を素材として、思想史的なものの見方を獲得すること、とりわけ法然浄土教をモデルとして、新しい思想が成立し受容される過程を理解することを目標とする。ほぼ毎回コメント・シートの提出を求め、また小テストを実施し、翌日にそのフィードバックを行う。2回程度の小レポートを実施する。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 仏教の基礎知識  第2回 浄土教とは何か  第3回 浄土三部経(1):『無量寿経』と『観無量寿経』  第4回 浄土三部経(2):『阿弥陀経』  第5回 浄土思想の起源と中国への伝来  第6回 法然の依拠した中国浄土教/中国浄土三祖①曇鸞(1)  第7回 中国浄土三祖①曇鸞(2)  第8回 中国浄土三祖② 道綽  第9回 中国浄土三祖③ 善導  第10回 日本の浄土教—法然以前/平安期の浄土教美術  第11回 法然浄土教①:法然の生涯と時代背景  第12回 法然浄土教②:法然浄土教の特徴と鎌倉新仏教  第13回 法然浄土教③:「一枚起請文」  第14回 浄土教美術:「地獄絵」を中心に  第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>①小テスト課題に取り組み、質問事項を整理すること。(20時間)  ②レポート課題に取り組むこと。(20時間)  ③紹介された参考文献を読むこと。(20時間)</p>				
学習到達目標	<p>①浄土教に関する基本的知識 ②浄土教の歴史 ③法然浄土教成立の意義 を理解し、説明できるようになること、④浄土教の文化を知って説明できるようになることを目標とする。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>①浄土教に関する基本的知識が獲得できたか。 ②浄土教の歴史が理解できたか。 ③法然浄土教成立の意義が理解できたか。 ④浄土教の文化について知見を深めたか。</p>			
	成績評価 方法	<p>小テストおよびコメント・シート 40% 小レポート20% 期末試験(またはレポート)40%</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める</p>			
教材	<p>(1)教科書 資料(パワーポイント)を配布する。  (2)参考書 授業中随時紹介する。</p>				
備考	<p>「仏教の歴史と思想」を履修しておくことが望ましい。</p>				

科目名	心理学入門				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	田邊 資章			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	自分と相手の「心」を科学的に把握しなければならないことはないし、逆に科学的ではいけないこともあるかもしれない。しかしながら、相手と共有する「心」を考えると、相手もそれを確認できる方法が保証されている必要があるだろう。心理学が「心」をどのように表現しているのかを紹介していく。				
授業方針	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や相手の「心」の働きを考える手がかりを得る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学への招待(心理学が扱う「心」とは) 第2回 見え方や見方の心理(人間行動の基盤) 第3回 学ぶこと(経験による行動の獲得・維持・変容・消失) 第4回 覚えること 第5回 考えること(新しい考え方の獲得や考え方の変化) 第6回 育つこと・育てること 第7回 その人「らしさ」(人格の構造や形成) 第8回 「知能」 第9回 人と人とのやりとり(人間関係に関連する問題) 第10回 ことば(文法や文の産出/言葉を伴う学習) 第11回 動機づけと情動(欲求との関係は?) 第12回 産業と組織の心理学(人間と職場・仕事との関係) 第13回 老年の心理学(加齢変化/死と死にゆく過程) 第14回 「心」の病 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	事前に授業に関連することを調べ、専門用語の意味などを理解していること(40時間)。各回の内容について復習すること(20時間)。				
学習到達目標	心理学には様々な人間理解の視点があることを理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	日常場面における現象について、心理学的に整理できるようになったか。			
	成績評価 方法	期末試験80%、毎回のコメントシート20%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書:山村豊著 心理学[カレッジ版](2017) 医学書院 参考書:講義中に適宜紹介する。				
備考					

科目名	身近な物理				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	西村 拓史			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	身近な物事を具体例にしながら、物理学について横断的な講義を行う。				
授業方針	中学・高校までの物理を新たな視点から学びなおし、理解を深めると同時に、物理学を日常生活で活用できるようにする。また、大学以降の物理学や先端的な話題にも触れていく。ただ講義を聴くだけではなく、簡単な演習課題を行うことで、実用的な計算能力も身につける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 ガイダンス(物理学とは何か) 第2講 身の回りの物理量と国際単位系 第3講 身の回りの物質の構造と状態 第4講 身の回りの保存則と対称性 第5講 身の回りの運動と力学 第6講 身の回りの熱力学1(熱力学現象) 第7講 身の回りの熱力学2(情報と生命活動) 第8講 身の回りの波と音 第9講 身の回りの電磁気学1(電気と磁気) 第10講 身の回りの電磁気学2(電気回路と電子工学) 第11講 身の回りの電磁波(光と相対性理論) 第12講 現代社会における量子力学とその応用 第13講 原子構造と放射線の基礎知識 第14講 コンピュータと物理学(シミュレーション、人工知能等) 第15講 まとめ				
準備学習	演習課題のレポートを作成すること。また、学習内容を定着させるため、復習に努めること。合計60時間。				
学習到達目標	物理についての基礎知識を学び、物理学を日常生活で活用できるようにする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習到達目標の習熟度による。			
	成績評価 方法	小テスト50%、演習課題のレポート50%の総点による。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	参考書は必要に応じて授業中に紹介する。				
備考	高校で物理を習っていない人、物理を苦手だと感じている人の受講も歓迎する。				

科目名	人生と職業			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	火5
担当教員	西田 優, 藤田 拓勸		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>この授業は、社会に出て働く上で必要な考え方・知識・スキルを修得することを目的としています。</p> <p>この授業の中では、採用担当者時代の本音や、社会で自立して働く為のキャリアの築き方をすべてお話します。私と一緒に、沢山の小さな挑戦を繰り返し、一歩ずつこれからのキャリアを築いていきましょう！その過程で、「自分が変わる物語」がはじまります。</p> <p>この科目は、大手上場企業での人事・採用業務経験に基づいた講義を行う実践的科目です。【実務】</p>			
授業方針	<p>現代日本人の人生において、「働く時間」の割合は非常に大きい。そこで本授業では、社会に出て働く準備を進めるために必要な心の持ち方、具体的な知識や技法などの修得を目指します。</p> <p>全15回の授業参加後の到達目標は以下のとおりです。</p> <p>(1)社会に自らが提供した価値への対価として収入を得るということの意味を知ること  (2)自分が築きたいキャリアを一旦思い描き、そのスタートラインに立つための意志を持つこと</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第01回【講義・演習】オリエンテーション: キャリア論概説、適性検査(受験・当日自己採点)  第02回【講義・演習】世界における日本の産業(業種・理系文系それぞれの学生が就き得る職種)  第03回【講義・演習】コミュニケーション理解: 誰にでもできる論理的思考  第04回【講義・演習】コミュニケーション理解: 今日からできるグループディスカッション  第05回【講義・演習】コミュニケーション理解: 読んだ人が会いたくなる自己紹介書(履歴書)  第06回【講義・演習】コミュニケーション理解: 人をひきつけるプレゼンテーション  第07回【講義・演習】コミュニケーション理解: 自分を伝える個人面接・集団面接  第08回【講義・演習】キャリアとは何か  第09回【講義・演習】キャリアを考える必要性  第10回【講義・演習】人生の振り返り  第11回【講義・演習】ライフスタイルとキャリア  第12回【講義・演習】働くことの意味  第13回【講義・演習】学生生活と社会人生活  第14回【講義・演習】働くために必要な準備  第15回レポート作成</p>			
準備学習	授業終了時に示す課題に取り組むこと(45時間)。講義前に予習をして内容をある程度理解しておくこと(15時間)			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶然の要素が多い環境下でもキャリアを築くのは自らだと理解していること</li> <li>・日本の産業における業種・職種、それらへの就職活動の実態を理解していること</li> <li>・日常生活の中で判断や決定を要する際に、まずは筋道立てて考えようと思えること</li> <li>・先輩社会人のキャリアに興味と敬意を持てること</li> <li>・自らの今後のキャリアと現在の行動との関係性に興味を持てること</li> <li>・社会や経済の動きに興味を持てること</li> <li>・自分の経験・考え・思いを伝える表現力を駆使できること</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアと自立の重要性について演習を通じて理解できていること</li> <li>・自分を客観的に知り、それを表現する書類をかけること</li> </ul>		
	成績評価 方法	毎回の講義時の小レポート60%、期末レポート40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材				
備考				

科目名	人体の構造と機能及び疾病				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金1
担当教員	加藤 奈津江			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	1. 身体構造と機能及び疾病や障害(病気の成立に関する病態)を解説する 2. 心理に関する支援が必要な主な疾病についても解説する				
授業方針	身体構造とともに、器官系、器管、組織、細胞の機能について学習するとともに、各種の疾病について、心身の健康も踏まえ、授業を進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス 人体の構造(個体—器官系—器官—組織—細胞) 第2回 心臓の構造と循環器系疾患 第3回 腎臓の構造と泌尿器系疾患 第4回 呼吸器の構造と呼吸器系疾患 第5回 消化器の構造と消化器系疾患 第6回 骨の構造と働き、骨疾患と障害 第7回 神経(シナプス)の構造と中枢神経の働き 第8回 脳血管疾患・認知症での心理的支援 第9回 内分泌疾患と代謝性疾患(糖尿病など)での心理的支援 第10回 悪性新生物での心理的支援(緩和ケア含む) 第11回 遺伝性疾患での心理的支援 第12回 感染症の種類と原因(後天性免疫不全症候群含む)での心理的支援 第13回 難病(ALSなどの神経難病)・依存症(アルコール依存症など)での心理的支援 第14回 心理的支援が特に必要な疾患について、課題と共に総復習 第15回 定期試験				
準備学習	1. あらかじめシラバスの内容の該当する教科書のページを読み、基本的な用語の意味を理解しておくこと(第1回から第14回 2時間×14=28時間) 2. 理解度を確認するために、授業の最初に前回授業の内容の確認を行うため、各回の授業内容を復習しておくこと(2時間×13=26時間) 注)第14回授業後は 定期試験対策として6時間の準備学習とする 準備学習の総時間 60時間				
学習到達目標	人体の構造を知ることにより、各器官系の働きの知識を得ることができる。器官系に障害がおきると疾病になる。その原因を習得することにより、心理的なケアとともに、どのように対処していくかを考えることができるようにする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 人体の構造について理解しているか 2. 疾病の原因について、各器官系のどこに障害がおきているか理解しているか 3. 心理的支援の必要な疾病については、対処の仕方について理解しているか			
	成績評価 方法	課題20% 定期試験80%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。			
教材	公認心理師の基礎と実践 人体の構造と機能及び疾病(21巻)(遠見書房) 必要に応じて資料配付				
備考					

科目名	数理基礎				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	高橋 広治			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	数理的な思考力は、理系分野に限らず、一般に文系とみなされている分野においても重要である。本授業は、講義と演習を通して、社会で必要とされる数理的思考力の基礎を身につけることを目的とする。				
授業方針	本授業は数学的な内容を扱うが、数学の授業ではない。数理的な思考法を身につけ、実際問題に応用できるようになることを重視する。また、就職試験で問われる数理的な能力にも注目する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 数と式(1) 第2回 数と式(2) 第3回 数と式(3) 第4回 数と式(4)／集合 第5回 推論(1)／第1回小テスト 第6回 推論(2) 第7回 推論(3)／図表の読み取り 第8回 場合の数(1) 第9回 場合の数(2) 第10回 確率(1)／第2回小テスト 第11回 確率(2) 第12回 グラフと領域／物流／ブラックボックス 第13回 総合演習(1) 第14回 総合演習(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業ノートを整理し、復習する。(30時間) 課された練習問題を解く。(30時間)				
学習到達目標	(1)基礎的な数理的な手法に関する知識と技能を習得する。 (2)問題解決において、数理的な思考法を応用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)基礎的な数理的な手法に関する知識と技能を習得できたか。 (2)問題解決において、数理的な思考法を応用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点20%＋小テスト20%＋期末テスト60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	世界の宗教と歴史				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	大澤 真生			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>テーマ:世界の宗教と人間の営み          目的:世界の諸宗教の概要と歴史を理解し、現代を生きる私たちの思考の営みに役立てる。          内容:世界史及び思想史において重要な役割を果たしている主だった宗教とその思想について基礎的な知識を獲得し、それらの宗教にまつわる人間社会の歴史的・文化的・思想的な諸問題について検討する。</p>				
授業方針	講義ごとに配布する原典資料・講義内容をまとめたレジュメをもとに授業を進める(履修人数によっては変更する可能性がある)。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>※聴講者の興味によって講義の内容は適宜変更する。以下は目安。</p> <p>第一回 ガイダンス 講義の概要・進め方を確認する。          第二回 宗教とは何か 宗教とはどのような人間の営みなのか          第三回 一神教① ユダヤ教          第四回 一神教② キリスト教          第五回 一神教③ イスラム教          第六回 仏教①          第七回 仏教②          第八回 宗教と差別・戦争          第九回 宗教と資本主義①          第十回 宗教と資本主義②          第十一回 宗教とフェミニズム          第十二回 宗教と日本思想①          第十三回 宗教と日本思想②          第十四回 まとめ及び質疑応答          第十五回 試験</p>				
準備学習	毎回の授業で使うレジュメ・資料等は前日までに公開するので、それを使って適宜予習すること。さらに余暇を利用して、授業中に紹介した文献などを図書館等で入手して読み、学習内容を深めることが望ましい(本講座の予習時間の目安は30分、復習時間の目安は60分)。				
学習到達目標	授業において紹介した世界宗教の諸問題について正しく理解し、自身の言葉で説明することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	定期試験期間に筆記試験を行う。試験範囲は講義の全内容を含む(多肢選択問題および記述問題)。			
	成績評価 方法	期末試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業毎に、内容に沿ったレジュメと資料を適宜配布する。				
備考					

科目名	政治学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	一ノ瀬 佳也			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義は、政治学の基本的な概念や制度について学ぶ入門として位置づけられる。自分たちの社会を支える様々な制度や仕組みを理解して、現代社会が直面する政治課題について具体的に検討していく。				
授業方針	本講義においては、毎回授業の内容に関わる具体的な問いを提起するので、受講生には積極的に自分の意見を述べるのが期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 ガイダンス;政治学について考える 第2講 正義について考える① 第3講 正義について考える② 第4講 政治の仕組み 第5講 国家と政党 第6講 選挙の仕組み 第7講 官僚・利益団体と世論 第8講 前半のまとめ 第9講 民主政治と何か 第10講 民主政治の変容と全体主義の勃興 第11講 福祉と政治 第12講 国際政治:平和構築とは何か 第13講 戦後日本の政治 第14講 後半のまとめ				
準備学習	事前に教科書や参考書を読んできてください。もし理解できない箇所があったら、授業の中で積極的に質問してください。				
学習到達目標	政治学についての基本的な用語や概念を知ることによって、自分たちの社会を支える政治の制度や仕組みを理解できるようになります。また、そうした制度や仕組みを支える政治の哲学や思想についても論じていきます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) 授業中にいかに積極的に意見を提起しえたか (2) 政治学の用語や概念をよりよく理解できたか			
	成績評価 方法	(1)授業参加 70% (2) レポート 30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 教科書はしていない。 (2)参考書 阿部齊『政治学入門』岩波書店、1996年。 川崎修・杉田敦編『現代政治理論』(第2版)、有斐閣アルマ、2012年。 砂田庸一、稗田健志、多湖淳『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア、2015年。 川出良枝・谷口将紀『政治学』東京大学出版会、2012年。				
備考					

科目名	生命の仕組み				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	月1
担当教員	坂井 隆浩			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	生命科学の基本的概念および知識に基づき、分子・細胞・個体における「生命の仕組み」を理解する。				
授業方針	中学・高校で学んだ生物学の復習を織り交ぜ、生命科学の基礎的な事項に重点を置いた解説を行う。予習および復習がしやすいように、指定した教科書を中心にした内容の講義を行う。講義の前半には、前回の講義の復習、講義の後半には練習問題を交えた復習を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 生物の基本概念 第2講 タンパク質と核酸 第3講 遺伝子の発現と遺伝 第4講 バイオテクノロジー 第5講 生体膜と細胞の構造 第6講 代謝 第7講 細胞内輸送と分解 第8講 シグナル伝達系 第9講 神経系の機能と恒常性 第10講 発生 第11講 ゲノムと進化 第12講 免疫とがん 第13講 創薬と生命科学 第14講 生物の情報科学 第15講 まとめ及び試験				
準備学習	①教科書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) ②授業終了時に確実に習得すべき「ポイント」を示すので、授業当日復習もかねて図書館などを活用し復習する。(30時間) ③毎回授業の最後に、当日の授業内容に係る練習問題を実施するので、必ず予習・復習を怠らないこと。(15時間)				
学習到達目標	①細胞の構造や機能について説明できる。 ②生物のからだの構造や組織・器官の働きについて説明できる。 ③生命活動を支える分子の構造や役割について説明できる。 ④遺伝子の構造と機能について説明できる。 ⑤生命活動に必要なエネルギーの産生について説明できる。 ⑥生体内の情報伝達機構について説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①細胞の構造や機能について理解できたか。 ②生物のからだの構造や組織・器官の働きについて理解できたか。 ③生命活動を支える分子の構造や役割について理解できたか。 ④遺伝子の構造と機能について理解できたか。 ⑤生命活動に必要なエネルギーの産生について理解できたか。 ⑥生体内の情報伝達機構について理解できたか。			
	成績評価 方法	レポート:50%、期末試験:50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。			
教材	教科書:理系総合のための生命科学 第5版 東京大学生命科学教科書編集委員会 羊土社 ISBN:978-4-7581-2102-6				
備考	基礎に重点を置いた分かりやすい講義を実施するように心がけますが、分からない点や疑問点が生じたときには積極的に質問してください。				

科目名	西洋史概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	高橋 裕子			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	西洋史を概観する。各時代における西洋の政治や社会、経済、文化などの特質を理解し、なおかつ、現代社会に生きる上で、それを実際の思考に運用できるようにすることを目的とする。				
授業方針	図版や写真を紹介し、西洋の歴史や文化というものを肌で感じられるように授業を進めていく。現代の社会を見つめる際に、歴史の知識をどのように役立てればいいのか、歴史(学)というものの見方には、どのような意義があるのか、受講に際して、常に意識の片隅に置いてもらいたい。登録者の人数によっては、グループによる議論や発表を組み込んでいく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 ケルト 第 2回 古代ギリシア 第 3回 古代ローマ 第 4回 キリスト教の成立と発展 第 5回 中世の西ヨーロッパ世界(1) 第 6回 中世の西ヨーロッパ世界(2) 第 7回 ビザンツ帝国 第 8回 シチリア王国 第 9回 宗教改革(1) 第 10回 宗教改革(2) 第 11回 オランダの発展 第 12回 帝国主義 第 13回 第一次世界大戦 第 14回 第二次世界大戦 第 15回 レポート作成  上記を一応の目安とし、適宜内容を検討しながら授業を進めていく。				
準備学習	1)講義中に参考書を紹介するので、事前に目を通しておくこと(30時間)。 2)授業後は復習を行い、学期末のレポート作成に備えること(30時間)。				
学習到達目標	西洋の歴史や文化に関する深い知識を身につけ、現代社会を考察するに際してそれを役立てることができるようになることを目標とする。講義をヒントに各人が調べ、読み、分析および検討することにより、自ら考える力を身につけてほしい。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	西洋世界の歴史や文化を理解し、その知識を現代社会に生きていく上で役立てることができるようになる。			
	成績評価 方法	学期末レポート100%(毎週きちんと聞いていないとできない内容ですので、心して登録して下さい)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書:特に指定しない。 (2)参考書:授業中に内容に応じて指示する。				
備考					

科目名	総合教養演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	岡本 浩行,上村 信秋,三浦 一郎,田村 行夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	就職(教員採用、公務員、民間)の試験には、一般教養のテストがあります。それは社会人として最低限の教養や一般常識があるかどうかを調べるためです。本授業はその社会人として最低限の教養を身につけ、就職試験や実際仕事をするとき役立つ内容を行います。				
授業方針	人文科学、社会科学、自然科学の知識分野を中心に、数的処理(非言語分野)や文章理解(言語分野)にも役立つ内容を演習方式で問題を解きながら解説を行います。また、面接試験等でも必要な時事の内容も随時取り入れて行きます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>授業の順序は変更になる場合があります。 最初の授業の時に確定した順序の時間割を配付します。</p> <p>第1週、自然科学 化学の分野 第2週、自然科学 物理の分野 第3週、自然科学 生物の分野 第4週、自然科学 地学の分野 第5週、自然科学 数学の分野 第6週、人文科学 日本史の分野 第7週、人文科学 世界史の分野 第8週、人文科学 地理の分野 第9週、人文科学 思想・文学芸術の分野 第10週、社会科学 政治・法律の分野 第11週、社会科学 政治・法律の分野 第12週、社会科学 経済の分野 第13週、数的処理(非言語)の分野 第14週、国語・文章理解(言語)の分野 第15週、まとめ及び試験</p>				
準備学習	8月9日に行う、キャリア支援センター・就職課主催の「公務員・就職筆記試験対策講座」に出席することが望ましい。また、当日に教材を配付するので予習は必要ないが、授業終了後の復習に力を入れ授業で行った内容に関しては必ず取得し知識を確認すること。また、2月3日にも行うキャリア支援センター・就職課主催の「公務員・就職筆記試験対策講座」に出席するとより知識が確実なものになります。				
学習到達目標	一般常識を身につけ、就職試験における教養科目が確実に解けるようになる。 また、社会に出ても恥かしくない教養を取得できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	一般常識が身についたか。 また、興味を持って世の中の事を常に気にするようになったか。 社会人になる自覚と自信がついたか。			
	成績評価 方法	随時授業終了後行う小テストと期末試験の結果で評価する。 配分割合は、小テスト40%、期末テスト60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	毎回プリント教材を配付します。				
備考					

科目名	総合情報演習			
クラス		対象学年		開講学期 後期
				曜日・時限
担当教員	未定			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	ITパスポート試験に合格できるようなITに関する知識を習得・理解すること。			
授業方針	各自、学習内容について調査研究し、レポートを作成して、調査結果を発表する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1) ITとコンピュータ 2) コンピュータ構成機器 3) ネットワーク構成機器 4) コンピュータシステム 5) 有線ネットワークシステム 6) 無線ネットワークシステム 7) 情報セキュリティ 8) 表計算とデータベース 9) 企業と法務 10) 企業活動と経営戦略 11) ソフトウェア開発 12) システム戦略 13) プロジェクトマネジメント 14) サービスマネジメント 15) まとめ及び試験			
準備学習	毎回、学習内容に関連する事柄について、教科書や参考書を熟読し、レポートを作成する。			
学習到達目標	ITパスポート試験に合格できることを目標とする。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	ITパスポート試験出題範囲であるテクノロジ系、ストラテジ系、マネジメント系の各分野の理解度		
	成績評価 方法	期末試験100%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。		
教材	(1)教科書:受講者と相談して決定する (2)参考書:随時、指定する			
備考				

科目名	人工知能入門				
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火5
担当教員	井上 聡			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	AIを活用、開発するエンジニアを目指すためには、その開発手法のみならず、これまでのAIの歴史、現在の研究動向、応用事例、そして今後の見通しなど広範にわたっての知見が必要となる。 AI研究の入り口としてこれらを修得し、日本ディープラーニング協会G検定の受験、取得を目指す。				
授業方針	本講義は(社)ディープラーニング協会G検定の受験、取得を目的とするために、公式テキストに沿って講義を進行する。 内容はジェネラリストに必要と思われる、歴史、動向、応用事例などの解説が中心となり、実装などの技術的観点は2年次以降の機械学習系科目、深層学習系科目において修得することになるが、本講義はその導入的な位置づけとなる。 講義の進行にしたがって小テストやレポートを課し、その習熟度を確認しながら講義を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 ガイダンス 第2講 人工知能(AI)とは？ 人工知能の定義と歴史 第3講 人工知能をめぐる動向 探索と推論 第4講 人工知能をめぐる動向 知識表現 第5講 人工知能をめぐる動向 機械学習と深層学習 第6講 人工知能分野の問題例 第7講 機械学習の具体的手法(1) 第8講 機械学習の具体的手法(2) 第9講 ディープラーニングの概要 第10講 ディープラーニングの手法概説(1) 第11講 ディープラーニングの手法概説(2) 第12講 ディープラーニングの応用事例(1) 第13講 ディープラーニングの応用事例(2) 第14講 ディープラーニングの実用に向けて ～倫理や法律～ 第15講 試験				
準備学習	講義前に指定教科書、配布資料などを熟読し講義の流れを把握しておく(20時間) 前回の講義内容を復習しておく(20時間) 講義後に課された課題を完成させる(30時間) 準備学習合計70時間				
学習到達目標	1. 人工知能の定義、歴史を理解する。 2. 人工知能の現在動向を知る。 3. 機械学習にはさまざまなアルゴリズムがあることを知る。 4. 深層学習の研究分野について理解する。 5. 深層学習の応用事例、それにともなう法律問題、倫理問題について考察する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 人工知能の定義と歴史、現在の動向を理解できたかどうか。 2. 機械学習にさまざまなアルゴリズムがあることを理解できたかどうか。 3. 深層学習の概要、研究分野を理解できたかどうか。 4. 深層学習の応用事例、また活用にともなう倫理問題や法律の存在を理解できたかどうか。			
	成績評価 方法	講義内での小テストと小レポート30%と期末試験70%で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	ディープラーニングG検定公式テキスト 翔泳社(一般社団法人 日本ディープラーニング協会監修)				
備考					

科目名	体育実技I				
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	馬場 雄, 茂木 宏子			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	現代社会における私たちの生活環境は利便性の向上、情報社会の進展、労働形態の変化などにより便利で快適な生活ができるようになった反面、それらのことは運動不足やストレスの増加につながり人々の健康を脅かしている。こういった生活環境の中でストレス等を軽減するために、本授業はだれもが楽しむことのできる運動を通して楽しみや充足感を得ることでストレスの軽減を図り、健康への意識を高めることを目的とする。				
授業方針	かつて経験したことのあるチームスポーツとしてのバスケットボール、サッカー、ソフトボール、ソフトバレーボール等や個人種目としてのテニス、バドミントン、卓球等を軸として、競技の経験・未経験を問わず数多くの競技を積極的に実践して「楽しく汗をかく」を大前提として授業を展開していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 体育実技の方針について(名簿作成・評価基準・授業の流れ・出欠確認方法・約束事等の確認)及び実技 第 2回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(1) 第 3回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 4回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 5回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第 6回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(2) 第 7回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 8回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 9回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第10回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(3) 第11回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第12回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第13回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第14回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各自その種目に適した服装・シューズを用意し、楽しく運動できるように身体を整えておくとともにルールを理解しておく。				
学習到達目標	受講生は時間中はチームを構成する一員である。励まし助け合うチームワークの醍醐味を体感すること。連携プレイ型、攻守一体プレイ型、個人競技型等のスポーツに参加する喜びを得ることによって、心身両面の健康に対する意識を高める。さらに生涯スポーツにつなげていく。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。			
	成績評価 方法	平常点(授業への意欲・ルールの理解・リーダーシップ・チームワーク・コミュニケーション・安全性等を考慮)100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	体育実技II				
クラス	[1クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	馬場 雄, 茂木 宏子			単位区分	_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	現代社会における私たちの生活環境は利便性の向上、労働形態の変化などにより便利で快適な生活ができるようになった反面、それらのことは運動不足やストレスの増加につながり人々の健康を脅かしている。こういった生活環境の中でストレス等を軽減するために、本授業はだれもが楽しむことのできる運動を通して楽しみや充足感を得ることでストレスの軽減を図り、健康への意識を高めることを目的とする。				
授業方針	かつて経験したことのあるチームスポーツとしてのバスケットボール、サッカー、ソフトボール、ソフトバレーボール等や個人種目としてのテニス、バドミントン、卓球等を軸として、競技の経験・未経験を問わず数多くの競技を積極的に実践して「楽しく汗をかく」を大前提として授業を展開していく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 体育実技の方針について(名簿作成・評価基準・授業の流れ・出欠確認方法・約束事等の確認)及び実技 第 2回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(1) 第 3回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 4回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 5回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第 6回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(2) 第 7回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第 8回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第 9回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第10回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(3) 第11回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第12回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第13回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第14回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各自その種目に適した服装・シューズを用意し、楽しく運動できるように身体を整えておくとともにルールを理解しておく。				
学習到達目標	受講生は時間中はチームを構成する一員である。励まし助け合うチームワークの醍醐味を体感すること。連携プレイ型、攻守一体プレイ型、個人競技型等のスポーツに参加する喜びを得ることによって、心身両面の健康にたいする意識を高める。さらに生涯スポーツにつなげていく。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。			
	成績評価 方法	平常点(授業への意欲・ルールの理解・リーダーシップ・チームワーク・コミュニケーション・安全性等を考慮)100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	体育実技II			
クラス	[2クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	馬場 雄, 茂木 宏子			単位区分 _(選択)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	現代社会における私たちの生活環境は利便性の向上、情報社会の進展、労働形態の変化などにより便利で快適な生活ができるようになった反面、それらのことは運動不足やストレスの増加につながり人々の健康を脅かしている。こういった生活環境の中でストレス等を軽減するために、本授業はだれもが楽しむことができる運動を通してもたらされる楽しみや充足感を得ることでストレスの軽減を図り、健康への意識を高めることを目的とする。			
授業方針	かつて経験したことのあるチームスポーツとしてのバスケットボール、サッカー、ソフトボール、ソフトバレーボール等や個人種目としてのテニス、バドミントン、卓球等を軸として、種目の経験・未経験を問わず数多くの競技を積極的に実践して「楽しく汗をかく」を大前提として授業を展開していく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 体育実技の方針について(名簿作成・評価基準・授業の流れ・出欠確認方法・約束ごと等の確認)及び実技 第2回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(1) 第3回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第4回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第5回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第6回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(2) 第7回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第8回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第9回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第10回 各種目の講義・基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム(3) 第11回 基礎個人技術および基本ルールの習得・簡易ゲーム 第12回 コンビネーション技術の習得・簡易ゲーム 第13回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第14回 審判法の基本・簡易ゲーム・試合 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	各自その種目に適した服装・シューズを用意し、楽しく運動できるように身体を整えておくとともにルールを理解しておく。			
学習到達目標	受講生は時間中はチームを構成する一員である。励まし助け合うチームワークの醍醐味を体感すること。連携プレイ型、攻守一体プレイ型、個人競技型等のスポーツに参加する喜びを得ることによって、心身両面の健康に対する意識を高める。さらに生涯スポーツにつなげていく。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(授業への意欲・ルールの理解・リーダーシップ・チームワーク・コミュニケーション・安全性等を考慮)100%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	中国の言語と文化				
クラス	[03クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	坂田 杏樹			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業では中国語の基本発音とすぐに使える実用性の高い中国語会話を学びながら、中国の文化、習慣と最新事情を紹介していこうと思います。				
授業方針	教科書(プリント)をもとに会話を練習しながら文法を説明していきます				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 中国と中国語の紹介 第2回 発音(母音・子音・声調) 第3回 あいさつ 第4回 紹介する 第5回 返事する 第6回 お礼を言う 第7回 謝る 第8回 聞き返す 第9回 依頼する 第10回 支払い 第11回 呼びかける 第12回 許可を求める 第13回 必要性を訴える 第14回 困難を訴える 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。(30時間) ② 毎回授業前に予習しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	中国語のしくみ(文法、発音)を理解でき、簡単な会話ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 中国語の発音ができたか？ ② 中国語で自己紹介できるか？ ③ 場面に応じて、習った中国語を話せるか？			
	成績評価 方法	小テスト20% 課題20% 定期試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 プリント (2)参考書 なし				
備考					

科目名	哲学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	真田 乃輔			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「哲学的に思考する」とはどのようなことか、が本講義の主題となる。われわれはこの問いに、歴史的な手法をつうじて接近することになる。つまり、本講義では、主として西欧の、過去の古典的な、また重要な哲学上の学説がいくつか取り上げられ、その各々について概要が説明されることとなる。過去のすぐれた学説を知ることをつうじて哲学的思考そのものについての反省と主体的なその実践とをともに深化させること、これが本講義の目標である。				
授業方針	(1) そのつど配布される関連する資料にもとづき講義形式で授業はおこなわれる。(2) 資料の内容の大半は、関連する著述家からの引用により占められる。文章を精確に読解する能力を身につけること、これもまた本講義の目的の一つである。そもそも、哲学することと文章を読むことは切り離されえない。(3) 授業終了前に、毎度、小テストを課す。そこでは、授業内容についての正確な理解にもとづいて、その内容についてみずから疑問や意見を提起することが求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第一回 インTRODクシヨ(哲学とはどのような学問か?): 文献学としての哲学, 哲学の原体験としての「驚き」</p> <p>第二回 アウグスティヌス(1): その哲学史的位置づけ, その哲学の根本問題と起源、デカルトの哲学との関係</p> <p>第三回 アウグスティヌス(2): その認識論と神の存在証明について</p> <p>第四回 トマス・アキナス(1): 哲学と神学との区別と総合——中世哲学の根本問題としての「信仰と知」の問題との関連で</p> <p>第五回 トマス・アキナス(2): その神の存在証明について</p> <p>第六回 デカルト(1): その哲学史的位置づけ——どのような意味でデカルトは近代哲学の出発点に位置づけられるのか</p> <p>第七回 デカルト(2): その形而上学(神と人間の精神をめぐる思考)について</p> <p>第八回 ライプニッツ: 「個」であるとはどういうことか?</p> <p>第九回 ルソー『人間不平等起源論』: その社会批判</p> <p>第十回 カント(1): 『純粋理性批判』</p> <p>第十一回 カント(2): 『実践理性批判』</p> <p>第十二回 ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』: 時間と自由をめぐるその思索</p> <p>第十三回 ハイデッガー『存在と時間』(1): 根本問題、「世界」をめぐるその思索</p> <p>第十四回 ハイデッガー『存在と時間』(2): 「他者たち」と「死」をめぐるその思索</p> <p>第十五回 まとめと試験</p>				
準備学習	<p>① 講義内容の整理(20時間)</p> <p>② 講義内容の補完: 各回で紹介される古典や関連する参考文献にみずから目を通す(40時間)</p>				
学習到達目標	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できるようになる。② 哲学的古典に属する文章を精読することにある程度慣れる。③ 豊富な内容を含み、広い射程を有した古典を読む意義を理解する。④ 紹介される(一つないし複数の)学説について、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できたか。② 自分なりの問題関心をもって、一つないし複数の哲学的古典を選ぶことができたか。③ ②と関連して、当該古典について、その内容の正確な理解にもとづいて、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができたか。			
	成績評価 方法	期末試験70%、小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 特定の著作を教科書として指定し、使用することはしない。そのつど資料を配布する。 (2) 参考図書については、必要に応じてそのつど明示・指示する。				
備考	上記「学習内容(授業スケジュール)」は、状況によっては変更されうる。				

科目名	東洋史概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	堀井 裕之			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講座では中国史について、初期王朝の形成から中華人民共和国の成立にいたるまでの政治・社会・経済の流れを、中国と日本を含む周辺諸国との関係を視野に入れて概観する。アジア地域の歴史の中で日本がどのように位置付けられるか、考えるための視点を獲得してもらいたい。				
授業方針	講義が中心となるが、折に触れてリアクションペーパーの提出を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1:「中国」とは何か？ 2:中国初期王朝の形成 3:春秋・戦国から秦の統一 4:漢帝国の形成と拡大 5:儒学の官学化と豪族の台頭—前漢後半期～後漢時代— 6:中華の分裂と諸民族の内遷—後漢末～五胡十六国時代— 7:中華再統一への道—南北朝時代— 8:大唐世界帝国の形成 9:東部ユーラシアの変動と再編—北方諸民族の台頭と宋王朝の盛衰— 10:モンゴル帝国による大統合と東西ユーラシアの交流 11:明の「北虜南倭」と清朝の平和—14世紀後半～18世紀末の東部ユーラシア世界— 12:清末の動乱と社会の変容 13:中国のナショナリズムの形成と辛亥革命 14:中華人民共和国の成立と展開 15:試験				
準備学習	配布した地図、年表に目をとおしておくこと				
学習到達目標	①現代に至るまでの中国史の大まかな流れ、各時代の特徴を説明できる。 ②アジア地域の歴史のなかで日本がどのように位置付けられるのか。日本の歴史を相対化する視点を獲得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	中国の歴史の流れを把握できたかどうか、論述形式の試験をとおして確認する。			
	成績評価 方法	定期試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	岸本美緒『中国の歴史』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年)				
備考					

科目名	働くことの科学と実践I			
クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
			曜日・時限	月5
担当教員	林 信義,秋田 祐介,井上 聡,皆川 佳祐,田中 睦生,吉澤 浩和,森沢 幸博,福島 祥夫		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	働くための専門的かつ実践的な知識習得を目的に、機械工学、生命環境化学、情報技術、経営学の専門教員が、開発、生産、物流・販売の事業サイクルに関する科学的、専門的知識の講義を行う。			
授業方針	講義形式のみならず、演習形式を取り入れ、働くことに関する実践的、現実的な感覚を磨く。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1 授業全体の展望(林) 2 開発① 経済活動におけるAI技術の活用(井上) 3 同上 4 開発② 発電、機械製作技術開発、機械に関する安全(皆川) 5 同上 6 開発③ 植物品種改良技術開発(秋田) 7 同上 8 自らのデータベースの拡充を(福島) 9 選択と確率(田中) 10 16年間の会社員(エンジニア)生活の経験談 ～私のプロジェクトX～(吉澤) 11 未来社会を創造するテクノロジーとメディアデザイン(森沢) 12 生産① 生産プロセスと人的資源管理・安全衛生管理(林) 13 物流① 物流の役割と業務(林) 14 販売① 商品開発と経営戦略(林)／授業全体の振り返り(林) 15 まとめと試験(林)			
準備学習	①授業中に課す小レポート・課題に取り組むこと(30時間) ②期末レポートを作成すること(30時間)			
学習到達目標	将来どのような職業を希望するにせよ、職業人として開発・生産・物流・販売の事業サイクルの仕組みを理解することがなぜ重要なのかを説明できるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	期末試験(レポート)のほか、授業で取り組む小レポート・課題などから上記学習到達目標の達成度を評価する。		
	成績評価 方法	小テスト・レポート・課題50%、期末試験(レポート)50%で総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	特に指定しない。適宜、資料を配布する。			
備考				

科目名	働くことの科学と実践II				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	林 信義,松浦 宏昭,西田 優,藤田 拓勸			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大手民間企業の実務経験者のみによる実践的講義で、ディスカッションを頻繁に実施する。				
授業方針	ディスカッションを積極的に行い、働くことについての実践的知識の獲得を目指す。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 授業全体の展望(西田) 2 企業の製品開発と販売戦略の実際(松浦) 3 日本が誇る生産技術(西田) 4 物販とITサービス(1)(林) 5 物販とITサービス(2)(林) 6 IT産業の実態—IT企業の実務から学んだこと(藤田) 7 ITツールを活用した仕事の効率化(藤田) 8 AIとデータサイエンスが拓く社会(藤田) 9 実務家講話(1)(大手企業実務・採用経験者／司会:藤田) 10 実務家講話(2)(大手企業実務・採用経験者／司会:藤田) 11 実務家講話(3)(大手企業実務・採用経験者／司会:藤田) 12 日本の人口減少と地球の人口爆発を踏まえたビジネス(西田) 13 日本社会のダイバーシティを踏まえた働き方(西田) 14 社会に出るための心構え(西田) 15 まとめと試験(西田)				
準備学習	①授業中に課す小レポート・課題についての予習と復習を行うこと(30時間) ②期末レポートを作成すること(30時間)				
学習到達目標	働くための心構え及び働く現場で生きる実践的な知識への理解を深める。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	期末試験(レポート)のほか授業で取り組む小レポート・課題などから上記学習到達目標の達成度を評価する。			
	成績評価 方法	小テスト・レポート・課題50%、期末試験(レポート)50%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	特に指定しない。適宜、資料を配布する。				
備考					

科目名	日本国憲法				
クラス	[04クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	篠原 亘			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日本国憲法に関する基礎知識を習得すること、及び、具体的憲法関連問題の論点を見抜き、解決策を導き出す能力を身につけることを目的とする。				
授業方針	日本国憲法に関する理論や制度を説明することはもちろんであるが、基本的には具体的な事例(判例)ベースで講義を展開し、皆で解決策を検討してゆく。難易度としては、初心者を想定したレベルとなっている。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 憲法と立憲主義 第2回 日本国憲法史 第3回 包括的基本権—人権の享受主体・自己決定権— 第4回 包括的基本権—幸福追求権— 第5回 包括的基本権—法の下での平等— 第6回 包括的基本権—法の下での平等(男女間)— 第7回 精神的自由—思想・良心の自由— 第8回 精神的自由—信教の自由— 第9回 精神的自由—表現の自由— 第10回 経済的自由—勤労者の権利、職業選択の自由— 第11回 人身の自由—刑事手続と憲法— 第12回 「権利の濫用」について(映像教材を題材に) 第13回 参政権—1票の格差を中心に— 第14回 国務請求権—生存権— 第15回 振り返り・まとめ				
準備学習	次回講義時に前回講義の内容を確認した上で話を進めてゆくの、講義終了後と次回講義開始前に内容を確認し、不酌訂はまとめておくこと。また、講義メモを確認する過程において、講義資料を元に自身のノートをまとめること。60時間				
学習到達目標	1 社会における(憲)法の役割を理解し、(憲)法についての基本的な知識を習得すること。 2 憲法学(法解釈)の意義を理解し、法学の基本的な解釈技術を身につけること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	日本国憲法についての基礎知識をどの程度習得できているか、及び、現代社会において問題となる憲法訴訟問題の解決策を提示することができるか、について評価する。			
	成績評価 方法	定期試験100%(15回中、10回以上の出席がない場合には、期末試験の受験資格はない。)裁判傍聴に行ったレポートを提出した場合には、追加点を加算する。(最大15点程度。)※Covid19の影響によりテーマを変更することがある。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	レジュメを用いて講義を行う。 六法を購入しない場合、下記サイトの憲法を随時参照できる状態にしておくこと。 <a href="https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=321CONSTITUTION">https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=321CONSTITUTION</a>				
備考	1 アクティブラーニングの一環として、インターネットに接続できるスマホやタブレット・PC等を準備すること。 2 私語等、他者への迷惑行為は厳禁。 3 脱帽など、常識ある受講態度で臨むこと。				

科目名	日本史概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	中村 陵			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>「日本のあゆみ」          本講義では古代から現代にかけての日本史を通観し、日本がいかなるあゆみをたどり、現在の日本社会が形成されてきたかを学びます。講義では最新の研究成果を取り入れ、日本史上のできごとの因果関係を説明し、理解を深めてゆきます。日本史の流れを把握し、できごとの因果関係を理解することは、現在国内外で起きている諸問題を解決する手がかりとなるでしょう。</p>				
授業方針	本講義はライブキャンパスで配布する資料をもとに授業を進めてゆきます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション:クニ形成前提としての縄文・弥生社会 第2回 倭国とヤマト王権 第3回 律令国家と平城京・平安京 第4回 院政と武士の台頭 第5回 鎌倉幕府と執権政治 第6回 南北朝と室町幕府 第7回 戦国乱世と天下統一 第8回 江戸幕府の成立と治世 第9回 幕政改革と江戸幕府の動揺 第10回 開国と倒幕運動 第11回 明治維新と開化政策 第12回 自由民権運動と大日本帝国の成立 第13回 内外の戦争と政党政治 第14回 アジア・太平洋戦争と敗戦 第15回 戦後の日本と世界				
準備学習	高校日本史の教科書や資料集を精読しておくといと思います。復習をする際も教科書・資料集を用いつつ、配布資料を再度確認してください。				
学習到達目標	日本史上のできごとについての理解を得られると同時に、予測不能な今後の社会を考えるうえで歴史的に分析する洞察力や見識を身に着ける下地とし、広い視野をもつことができるようになることを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史の流れを把握することができたか</li> <li>・日本史上における諸問題について内在的な理解や多角的な考察ができたか</li> <li>・興味・関心をもって授業に臨めたか</li> </ul>			
	成績評価 方法	平常点100%(小レポート4回)。分量・課題等の詳細はライブキャンパスに通知します。通知日時は初回講義で説明します。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特に指定せず、資料をライブキャンパスに配布します。講義当日までに各自でダウンロードし、講義に臨んでください。				
備考	講義の進捗状況によっては講義内容を変更する場合があります。また、講義の妨げとなる行為(私語、携帯電話・スマートフォンの使用など)は禁止します。				

科目名	脳と行動				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	亀谷 秀樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	人の行う様々な行動は脳の働きによって生み出されている。この講義では、記憶や睡眠、自己意識などの身近な問題を取り上げて、脳科学の最新の知見を紹介する。また、記憶や睡眠を改善し、自己意識を高める方策について、脳科学に基づいて具体的に考察する。さらに、ニューロマーケティングなどの脳科学の応用分野について解説する。				
授業方針	脳の構造や働きは非常に複雑であるので、視聴覚教材を使用して、興味をもって受講できるようにしたい。毎回授業の最後に小レポートを提出してもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 脳科学の基礎知識1:イントロダクション 第 2回 脳科学の基礎知識2:脳の構造 第 3回 脳科学の基礎知識3:ニューロンの働き 第 4回 神経伝達物質と行動1:ドーパミンと薬物依存 第 5回 神経伝達物質と行動2:ドーパミンと統合失調症 第 6回 記憶の脳科学1:記憶のメカニズム 第 7回 記憶の脳科学2:忘却とPTSD 第 8回 記憶の脳科学3:記憶力を高める 第 9回 睡眠の脳科学1:睡眠のメカニズム 第 10回 睡眠の脳科学2:夢の脳科学 第 11回 社会脳1:共感性 第 12回 社会脳2:愛着 第 13回 脳科学の応用:ニューロマーケティング 第 14回 脳を鍛える:脳と運動 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	①初回の授業で参考書を紹介する。授業に臨む際には予めこれらの教材を読んで、基本的な用語の意味などについて理解しておくこと。 ②授業中に脳に関する多くの専門用語がでてくるので、授業終了後に必ず復習しておくこと。				
学習到達目標	①脳科学の基本的な用語について理解している。 ②記憶、睡眠の神経機構について理解している。 ③精神疾患の神経機構について理解している。 ④脳科学の応用分野について理解している。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①脳の構造・生理的機能に関する基礎知識を習得しているか。 ②脳が様々な行動を生み出すメカニズムを正しく理解しているか。 ③脳科学に基づいた記憶や睡眠の改善策を提案できるか。			
	成績評価 方法	課題レポート50%、期末試験の成績50%の割合で総合的に評価する。 別紙(成績評価と単位認定について)参照			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	1. 教科書は特に指定しないが、講義中に参考書を紹介する。 2. その他、適宜視聴覚教材を用いる。				
備考					

科目名	福祉ビジネス論			
クラス	対象学年	1年	開講学期	前期
			曜日・時限	水3
担当教員	小林 充明, 照木 篤子		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>本授業は、第1部と第2部に分かれる。</p> <p>第1部では、さまざまな社会的福祉事業を、ビジネスの側面、そして法的かつ制度的な問題から検討する予定である。</p> <p>第2部では、外からは見えにくい聴覚障害者の実像にせまり「情報保障」の必要性について理解した上で、社会参加のための一手段であるノートテイク(要約筆記)の基礎技術習得を目指す。</p>			
授業方針	<p>第1部で、「福祉とビジネスは両立するのか」を常に問いかける姿勢を身につけるよう、経営理論と事例研究から多種の福祉ビジネスを検討する。</p> <p>第2部では「障害」について考え、特に聴覚器官と構造、聴覚障害者の心理や国内法、国際条約、差別事例など広く捉えた上で、「要約筆記」基礎技術の習得を目指す。</p> <p>授業前半はプレゼン形式の講義、後半は実習を行う。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 福祉とビジネス【keywords】定義の検討と、よりよいビジネス・モデルの構築に向けて</p> <p>第2回 顧客志向経営【keywords】CS、ニーズとウォンツ、シーズ</p> <p>第3回 福祉用具産業に関する経営学【keywords】製品開発のための経営戦略。法制度、並びにバリアフリーとUD</p> <p>第4回 さまざまな福祉サービスの経営学【keywords】介護事業の形態(特養・老健・サ高住・訪問介護・短期入所・通所介護)、障害者福祉、保育サービス</p> <p>第5回 CSRと障害者スポーツ【keywords】BOPビジネス、ソーシャル・ビジネス、エコシステム、パラリンピック種目</p> <p>第6回 介護の世界—介護業務とは何か—【keywords】職務内容、福祉に関するさまざまな法的問題や資格制度等</p> <p>第7回 IT技術と福祉ビジネス【keywords】IoT・AI技術の導入(労働生産性と介護職員の観点から)</p> <p>第8回(前半) 福祉ビジネス再考とまとめ【keywords】福祉とビジネスは、共存できますか？ (中間試験)</p> <p>第8回(後半) 聴覚障害の基礎知識(医学、心理、法)、コミュニケーションの多様性、情報保障と必要な配慮</p> <p>第9回 日本語の特徴と構造、効率的なノートテイクの基礎、実習1</p> <p>第10回 要約テクニックⅠ—短縮・漢語表現、縮約化と再構築、削除技術、実習2</p> <p>第11回 通訳としてのノートテイクとは、要約筆記の三原則、実習3</p> <p>第12回 要約のテクニックⅡ—視覚情報・共有情報の活用、障害当事者の講演、実習4</p> <p>第13回 通訳倫理とマナー、障害関係法・社会的施策(障害者雇用率等)、実習5</p> <p>第14回 期末試験Ⅰ 総合演習 情報保障のノートテイク(授業内課題提出)</p> <p>第15回 期末試験Ⅱ 総合演習 情報保障のノートテイク(授業内課題提出)</p>			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布プリントとパワーポイントによる授業なので、聞き流すだけでなく、きちんと自分の言葉でまとめられるようになってもらいたい。特に前半は各授業ごとのまとめを翌週にチェックするので講義内で提示したキーワードの復習は欠かせない。</li> <li>参考文献などに目を通すこと。</li> <li>新聞・経済誌・テレビ番組等に常に目を通し、時事や一般常識への知識レベルを上げていくこと。</li> <li>後半は 実技を段階的にこなすため 欠席が次週に大きく影響するので注意が必要</li> </ul>			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの手法によっていかにヒューマニティを実現することができるかについての戦略的な思考ができるようになる。</li> <li>要約筆記の初歩的な技術を習得し、学内ノートテイク(支援)ができるようになることを目指す。</li> <li>聴覚の機能障害(impairment)により生じる、社会的不利(handicap)を理解し、誰一人取り残さない社会に向けての社会福祉の発展に寄与する。</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉ビジネスにおける基本的概要を把握できているか。</li> <li>常に問題意識を持って、福祉ビジネスの改善のために必要な知識と経営手法を得ようとする基本的な姿勢ができているか。</li> <li>聴覚障害の基礎知識と情報保障手段について理解し、説明できるか。</li> <li>技術のみならず、支援者の役割や責任範囲について、説明できるか。</li> <li>学習した技術を駆使した、ノートテイクができるか。</li> </ul>		
	成績評価 方法	<p>第1部と第2部の合計点(100点満点)で評価します。</p> <p>第1部では、毎回のコメントシート20%と中間試験80%(50点)。</p> <p>第2部では、毎回のリアクション・ペーパー30%と期末試験(授業内課題提出)70%(50点)。</p>		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	<p>(1)教科書 特に指定しない</p> <p>(2)参考書 適宜紹介する</p> <p>(3)その他 必要に応じてプリントを配付する</p> <p>(4)第2部で福祉ビジネス論所定の専用ペン(200円程度の自己負担)購買部で購入、後半の初回授業に持参。</p>			
備考	当授業を通じて、本学の理念である「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」の一端を感じてもらいたい。			

科目名	<b>仏教の歴史と思想</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1
担当教員	宮井 里佳			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	インドにおいてどのように仏教が生まれ、発展したのか。そして西域や中国などを経て日本に伝来し受容される中でどのように変化したのか。本講義では、インドから日本の仏教思想史を概観する。この講義を通して、仏教についての基礎的な知識および歴史を学ぶとともに、思想が地域や時代によって変化するダイナミズムを理解することを目標とする。				
授業方針	講義形式が中心となるが、随時問いを発して、各々が考える機会となるようにしたい。ほぼ毎回コメント・シートに感想や質問を書いてもらい、原則的に次の回の冒頭にフィードバックする。小レポート(2回程度予定)の提出を求める。出席回数ではなく、提出物の内容を重視して評価する。				
学習内容 (授業スケジュール)	第1回 導入: 仏教思想史を学ぶにあたって/ 仏教の種類区分と伝播 第2回 仏教誕生以前: ヴェーダ文化 第3回 ウパニシャドの哲学/ 新しい思想の誕生 第4回 原始仏教の思想(1): 縁起と無我 第5回 原始仏教の思想(2): 四聖諦ほか 第6回 部派仏教の思想(1): アビダルマ哲学 第7回 部派仏教の思想(2): 『ミリンダ王の問い』 第8回 大乘仏教(1): 大乘仏教の成立と特徴 第9回 大乘仏教(2): 「空」の思想 第10回 大乘仏教(3): 中期大乘「如来蔵」/ 「唯識」思想 第11回 中国仏教(1): 中国における仏教の受容と特徴 第12回 中国仏教(2): 「仏性」/ 「空」思想理解-天台智顛を中心として 第13回 日本仏教(1): 日本仏教の特徴/ 最澄(日本天台)の「実相論」 第14回 日本仏教(2): 「本覚思想」 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①講義の前に、指定の参考書の該当箇所を読んでおくこと。(20時間) ②講義の後に、指定の参考書および参考資料の該当箇所を読んで復習し、理解できなかった点について質問できるよう準備すること。(20時間) ③小レポート作成、期末試験(論述)の準備等を通して、知識を定着させ、関心のある事項については紹介する参考文献などを読んで発展的な学習をすること(20時間)				
学習到達目標	①ヴェーダ・ウパニシャド、②原始仏教、③部派仏教、④大乘仏教、⑤中国仏教、⑥日本仏教 それぞれの特徴を理解すること。⑦仏教思想史の流れを理解すること。				
成績評価基準	達成度評価基準	①ヴェーダ・ウパニシャド、②原始仏教、③部派仏教、④大乘仏教、⑤中国仏教、⑥日本仏教 それぞれの特徴を理解できたか。⑦仏教思想史の流れを理解できたか。			
	成績評価方法	コメント・シート20% 小レポート20% 期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 レジュメ(パワーポイント)を配布する。 (2)参考書 立川武蔵『はじめてのインド哲学』『日本仏教の思想』(ともに講談社現代新書)。 (3)参考文献 授業中に随時紹介する。				
備考					

科目名	<b>仏教精神I</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木1
担当教員	松川 聖業			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>★目的 本学の建学の精神を学ぶことにより、学生生活をどのように送るべきか、そして、卒業後の人生をいかに歩むべきかを、自ら深く考え、決断し、実行できるようにする。</p> <p>★内容 仏陀および法然上人の教えをはじめとした、古今東西の偉人の言行を学び、共感や疑問を通して、物事を深く考えるトレーニングを行う。また、考えたことを外に向かって発信し、かつ行動できるようになるところまでつなげたい。</p>				
授業方針	講義、演習、レポート、発表等を交え、受講者自身が成長・変化を実感できるように展開する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>《導入》</p> <p>第1回 本講義の目的について 《人生の目的を見つける》深く考える</p> <p>第2回 建学の精神(1)使命感について</p> <p>第3回 建学の精神(2)正しい人生観について</p> <p>第4回 建学の精神(3)連帯感について</p> <p>第5回 目的を持つことに重要さを知る</p> <p>《仏教の智慧を学ぶ》決断を促す</p> <p>第6回 縁起の理法について</p> <p>第7回 凡夫の自覚について</p> <p>第8回 身口意(行動・発言・心)を一致させる</p> <p>《自分を磨く》行動する</p> <p>第9回 写経体験</p> <p>第10回 時間の重要さを知る</p> <p>第11回 成功と失敗の関係を知る</p> <p>第12回 思い続けることの意義</p> <p>第13回 働くことの意義</p> <p>《まとめ》</p> <p>第14回 本講義を通して身につけてもらいたかったもの</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>①授業で学んだことを復習し、理解すること。(15時間)</p> <p>②授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。(15時間)</p> <p>③新聞を毎日読み、気になったニュース1つについて調べること。(当該事象が発生した経緯、当事者、今後どうなるか、社会に与える影響などについて)(30時間)</p>				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神を理解する。</li> <li>・人生の目的を見つける。</li> <li>・卒業後の進路を考える。</li> <li>・物事を深く考える姿勢を身につける。</li> <li>・決断し、行動する力を身につける。</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神を理解したか。</li> <li>・自分の人生について深く考え、目的を見つけたか。</li> <li>・卒業後の進路について考えたか。</li> <li>・深く考える習慣が身についたか。</li> <li>・行動する力が身についたか。</li> </ul>			
	成績評価 方法	出席時レポート100%、定期試験は課さない。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:「凡夫力」松川聖業著 MOKU出版				
備考					

科目名	仏教精神II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木1
担当教員	松川 聖業			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>★目的 「自分が変わる物語が始まる」平成26年、新たに掲げた本学のスローガンに基づき、受講者一人ひとりが、自分の人生に変化を与え、自分の物語を作り上げることができるようにする。</p> <p>★内容 仏陀や法然上人は、なぜ既存の宗教を捨て、新しい救いを求めたのか。先人の改革者の考え方・生き方を学び、新しい価値を生み出す源泉を探る。また、埼玉大宣言の5つの行動指針を身につけ、受講者自身が社会に貢献しうる人財になることを目指す。</p>				
授業方針	講義、演習、レポート、発表等を交え、受講者自身の対外的に発信する力を高める。社会の第一線で活躍するゲストスピーカーを招くことあり。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>《導入》</p> <p>第1回 本講義の目的について</p> <p>《自分を变える》</p> <p>第2回 現在の自分を知る</p> <p>第3回 考え方を変える</p> <p>第4回 行動を変える</p> <p>《新しい価値を見つける》</p> <p>第5回 仏陀の改革、法然の改革について</p> <p>第6回 埼玉大宣言について</p> <p>第7回 渋沢栄一の生き方</p> <p>第8回 ボランティアについて</p> <p>第9回 写仏体験</p> <p>《自分の物語を作る》</p> <p>第10回 表現力を高める</p> <p>第11回 聞く力を高める</p> <p>第12回 行動力を高める</p> <p>第13回 伝える力を高める</p> <p>《まとめ》</p> <p>第14回 本講義を通して身につけてもらいたかったもの</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>①授業で学んだことを復習し、理解すること。(15時間)</p> <p>②授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。(15時間)</p> <p>③新聞を毎日読み、気になったニュース1つについて調べること。(当該事象が発生した経緯、当事者、今後どうなるか、社会に与える影響などについて)(30時間)</p>				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の現状を知り、なりたい自分を思い描けるようになる。</li> <li>・先人に考え方・生き方を理解する。</li> <li>・考え方・行動を変え、自分の物語を語れるようになる。</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の現状を知り、なりたい自分を思い描けたか。</li> <li>・先人に考え方・生き方を理解したか。</li> <li>・考え方・行動を変え、自分の物語を語れるようになったか。</li> </ul>			
	成績評価 方法	出席時レポート100%、定期試験は課さない。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	文化人類学				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	横田 浩一			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	文化人類学は、地球に生きる様々な「他者」を、文化と社会をキーワードに理解することを目指す学問である。その最大の特徴は、フィールドワークという手法に基づきながら、異なる文化や社会について経験的かつ実証的に考えることにある。これは同時に、私たちの社会における支配的な価値観を相対化するだけでなく、人間の普遍性を考えることにつながる。本講義では、人間の普遍性と多様性の双方を視野に入れた「ものの見方」を身につけることを目指す。				
授業方針	この授業の目標は、人間・社会・文化を深く見つめていくための視点と知識を、文化人類学の基礎理論や各地の文化的事象を通じて獲得することにある。学説の歴史的展開なども重視するが、知識の摂取だけを重視するのではなく、文化人類学の流儀と技法を実際の生活に応用していくためのケーススタディも盛り込む予定であり、全15回を通じて「自文化と異文化」を往復できる実践的な視点を深めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション:講義の目的と授業方針の説明 第2回 文化概念と文化相対主義:人類学の基本的な発想を学ぶ 第3回 フィールドワークと民族誌:人類学の基本的な研究方法であるフィールドワークについて学ぶ 第4回 人種とエスニシティ:人種論の形成過程と、それが引き起こす現代の諸問題について学ぶ 第5回 生態と文化:生態学的適応の視点から、狩猟採集民や牧畜民の生業について講義する 第6回 家族と親族:現代の家族や親族のあり方について、生殖医療の進展を視野に入れて講義する 第7回 結婚:社会的身分の変化やインセスト・タブーなどを中心に現代における結婚について講義する 第8回 ジェンダーとセクシュアリティ:ジェンダー(社会的性別役割)の多様性や性の多義性について学ぶ 第9回 宗教:人間と宗教の関わりについて、近年の宗教人類学の議論も視野に入れて講義する 第10回 儀礼:通過儀礼を中心に解説し、人間は何のために儀礼を行うのか学ぶ 第11回 法と文化:人間はもめごとをどのように解決してきたのか民族誌から学ぶ 第12回 贈与と交換:人間社会におけるモノの多様なやりとりについて学ぶ 第13回 観光と文化:観光と文化との関係を真正性をキーワードに講義する 第14回 人類学からみる歴史:教科書で学ぶ歴史とは異なる人類学的な歴史を学ぶ 第15回 まとめと復習				
準備学習	授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。				
学習到達目標	文化人類学の全体像についての的確に把握すると同時に、自文化の尺度だけで物事を判断しない国際的な視点を養うことが、この授業の到達目標である。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	毎回の講義内容の理解度に加えて、各自の問題意識をどこまで深く探究しているかを重視する。			
	成績評価 方法	試験(70%)、授業への参加態度(30%)に基づき総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席を確認できない者は、単位を認定しないので注意すること。また、単位の認定に関して特別な配慮などは一切ない。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	この授業では特定のテキストを用いないが、必要な教材や資料がある場合には授業中に配布する。また、参考文献がある場合は別途指示する。				
備考	講義の進捗度に応じて各回の内容や順番を変更する場合がある。				

科目名	簿記演習			
クラス	対象学年	2年	開講学期	後期
			曜日・時限	火2
担当教員	松田 正典		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>簿記の目的は、会社などの日々の経済活動を記録し整理することで、儲かり具合(「経営成績」)や財産の状況(「財政状態」)を把握するための(会計学で学ぶ)財務諸表を作成することである。すなわち、財務諸表は簿記という技術があって初めて作成され得る。このように、簿記は、人類が発明し、その後の人類の経済発展に大きく貢献している重要な技術なのである。</p> <p>本講座では、そのうち、最も基本的な商業簿記の知識を学び、実務能力を実践的に身に付ける。</p>			
授業方針	<p>簿記が上記のようなものである以上、実際の経済活動においてどのような活動が行われているかについてのリアリティあるイメージを持っていることが不可欠である。この講座では、そのイメージをしっかり持つところから丁寧に進めてゆく。</p> <p>また、テキストの指定の章を一読して来ていることを前提に、そこで説明されている知識とその具体的な処理方法を記憶に確実に定着させるべく、思考や議論、実践演習のために授業の時間を使う。講座終了後には、日商簿記検定試験3級(2月下旬)の合格を狙う。したがって、当該試験受験の意志の保有を受講要</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 イン트로ダクション 及び 簿記の基礎  第 2回 商品売買(1)  第 3回 商品売買(2)  第 4回 現金預金  第 5回 債権債務(1)  第 6回 債権債務(2)  第 7回 貸倒れと貸倒引当金  第 8回 有形固定資産と減価償却  第 9回 経過勘定項目、訂正仕訳  第10回 帳簿への記入  第11回 試算表  第12回 伝票制度  第13回 精算表と財務諸表  第14回 帳簿の締め切り  第15回 まとめ及び試験  (ただし、以上の内容は、進行状況その他の理由により、期の途中で若干変更される可能性があります。)</p>			
準備学習	<p>【予習】  教科書の指定範囲を読み、演習問題に取り組み、かつ、理解不能な点を明確にして来ること。毎回、解説の冒頭に、皆さんの疑問点を質問します。  (初回の授業の予習範囲は、教科書冒頭の「スタートアップ講義」と「第1章」。)  【復習】</p>			
学習到達目標	日商簿記検定3級合格を狙えるレベルまで、知識と実際の処理能力を引き上げる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表に登場する基本的な勘定科目の内容を理解し、説明できる。</li> <li>・基本的な取引を「仕訳」として表現できる。</li> <li>・個々の仕訳が集積され、整理され、財務諸表が作成されるまでの過程を理解し、当該集計及び整理作業を実際に行え、財務諸表を作成することができる。</li> </ul>		
	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加姿勢(議論のリード、発言の量と質 等)50%</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書:『スッキリわかる 日商簿記3級 第12版』(滝澤ななみ著、TAC出版)</li> <li>・授業には、毎回電卓を持参すること(簿記検定試験受験に適したもので、安価なもので充分可。ただし、携帯電話の電卓機能は不可)。</li> </ul>			
備考	簿記は「技術」なので、「練習」とも言うべき自学自習の積み重ねで体に染み込ませることが大切である。したがって、全回出席し、上の「準備学習」で述べた予習復習を必ずすること。そうすれば、3級合格は決して難しくはない。			

科目名	法学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修),_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>目的: 法学という学問世界の全体像に対して見通しを立て、出発点をなす基礎的な事項についてしっかりと学ぶことを目的とします。</p> <p>内容: 社会規範としての様々な法制度の概要について学び、たくさんの事例の中で法規制の有り方をみなさんと一緒に考えて行きます。</p>				
授業方針	講義形式で行いますが、たくさんの判例・事例を取り上げて、みなさんによる積極的な思考・発言を求めます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 法学の基礎(1)</p> <p>第3回 法学の基礎(2)</p> <p>第4回 公法(1)公法の諸分野</p> <p>第5回 公法(2)人権とは何か</p> <p>第6回 公法(3)権利の実現とは何か</p> <p>第7回 公法(4)その他</p> <p>第8回 私法(1)私法の位置付け</p> <p>第9回 私法(2)人と法人</p> <p>第10回 私法(3)所有権</p> <p>第11回 私法(4)契約</p> <p>第12回 私法(5)商事法</p> <p>第13回 その他の法分野</p> <p>第14回 試験と解説・まとめ</p>				
準備学習	<p>① 予告した授業内容について事前に関連する資料を調査し、自分なりに予習すること(20時間)。</p> <p>② 毎回授業時に配ったレジュメなどを読み返し、学習ポイントを振り返ること(20時間)。</p> <p>③ 最終回の授業内に実施する試験のための準備学習をすること(20時間)。</p>				
学習到達目標	法学分野における基礎知識を身につけることを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	法制度の概要について理解する上で、具体的な事例問題について法規制がいかに適用されるべきかについてどの程度理解し説明できるのかをもって評価します。			
	成績評価 方法	出席・発言など授業への積極的な参加(60%)、期末試験(40%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	レジュメなど適宜配布				
備考	3年次に「法学応用演習」を受ける予定の方(公務員試験の準備など)は、本講義の履修を薦めます。				

科目名	情報学概論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報化社会における人と人のコミュニケーションでは、「情報」を受取り、理解し、更に加工・編集して発信することが要求される。前述した情報を活用する能力を「情報リテラシー」という。情報化社会で要求される情報活用能力を身につけるために、「情報」自体の特性について理解し、社会に氾濫している情報から自分に必要な情報を取捨選択できる能力の習得を目指す。				
授業方針	社会の様々な場面で発信されている「情報」の背景、状況、伝えたい主意について自ら検討し、意見を持つ力を養う				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 社会と情報(情報とは何か) 第 2回 社会と情報(情報の性質、情報とデータ) 第 3回 情報を測るⅠ(情報理論、情報の単位) 第 4回 情報を測るⅡ(情報の量) 第 5回 情報の力、情報の質、情報の価値と意味 第 6回 情報通信と情報処理Ⅰ 第 7回 情報通信と情報処理Ⅱ 第 8回 情報の表現方法(情報と情報表現者) 第 9回 情報コミュニケーション(報道における情報、情報の読み方) 第10回 情報操作(情報の扱い方) 第11回 情報システムと情報化社会(企業活動と情報システム) 第12回 組織における情報の種類と管理 第13回 主体的な情報消費者 第14回 情報産業、情報社会に向けて、情報と環境 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・指定された教科書を事前に読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(20時間) ・小レポートを通じ、自分なりの意見や疑問点を持つこと。(20時間) ・授業の内容について、復習すること。(20時間)				
学習到達目標	情報についての基本を理解し、情報の正しい活用ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	小レポート及び期末試験において、各自意見を明確化し、客観的な事案を用いて論証する点を重視する。尚、剽窃に関しては厳格に対応する。			
	成績評価 方法	小レポート(30%)、期末試験(70%)により総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 春木良且「情報って何だろう」(岩波ジュニア新書)				
備考					

科目名	<b>基礎演習I</b>				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	森沢 幸博			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。				
授業方針	授業では、コンピュータを利用して情報リテラシーや学習方法について説明します。漢字テスト(読み100問、書き取り100問)を分割して行い、70%以上の得点を必須とする。また、テーマに沿って課題を設定し、チーム単位で問題解決やディベートを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 大学とは何か 第 2回 ノートテイキング基礎 第 3回 情報リテラシー基礎 コミュニケーションマナー 第 4回 文章作成基礎(1) 論文作成、各種文章作成基礎 第 5回 文章作成基礎(2) 学術論文検索 第 6回 文章作成基礎(3) 資料検証 第 7回 図書館利用法、Webサイト活用術 第 8回 プレゼンテーション基礎(1) 各種ソフト基礎知識 第 9回 プレゼンテーション基礎(2) 資料作成 第10回 メディア活用法、情報発信とコミュニケーション力 第11回 ワークショップ(1) グループワーク 第12回 ワークショップ(2) テーマ別ディベート 第13回 最終プレゼンテーション(1) 第14回 最終プレゼンテーション(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	日常的に新聞などを読み社会的な事象に関心を持つ。授業で実施した課題や漢字テストの予習について1時間以上の学習準備をする。				
学習到達目標	大学における学習方法、情報機器の利用法、文章作成の基礎知識といった知の基本技法を身につける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文章表現について理解をし、自分の考えや他者の意見を情報機器を利用してまとめ伝えることができる。 全10回の漢字テスト平均得点70%以上			
	成績評価 方法	最終発表課題40% 小レポート+ 漢字テスト30% 期末レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:開講時指定 指定したWebサイトを資料として利用する。 参考書:適宜指定する。				
備考	すべての授業でコンピュータを利用します。ノートパソコンを用意して授業に参加してください。				

科目名	<b>基礎演習I</b>				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。				
授業方針	この授業は、教員が学生に対して、何かしらの話題を一方向的に講義するという授業ではない。個々の学生が、自分の知的能力を高めるために、主体的に学習を進めることが求められる授業である。教員と学生、および、学生同士の間での活発なやり取りを行うことを重視して授業を進める。なお、漢字の読み・書き、各100問のテストを実施し、その正解率が70%以上となることを求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学における学習 第2回 ノートの取り方 第3回 テキストの読み方(1)基礎 第4回 テキストの読み方(2)要約、感想、意見 第5回 図書館を使った情報収集(図書館実習、日程変更の可能性あり) 第6回 インターネットの利用 第7回 情報の整理 第8回 レポートの書き方(1)レポートとは 第9回 レポートの書き方(2)分かりやすい文と表現方法 第10回 レポートの書き方(3)引用と参考文献、実践練習 第11回 プレゼンテーション(1)プレゼンテーションとは 第12回 プレゼンテーション(2)ツールの活用 第13回 プレゼンテーション(3)実践練習 第14回 情報モラル 第15回 レポート作成				
準備学習	(1)次回の課題と小テストの準備。(30時間) (2)ノートの整理と返却された授業課題や小テストに関する復習。(30時間)				
学習到達目標	(1)大学で必要となる知の基本技法を習得する。 (2)自発的に学習する習慣を身につける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)大学で必要となる知の基本技法が習得できたか。 (2)自発的な学習ができたか。			
	成績評価 方法	平常点60%+期末レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する (3)その他 必要に応じて資料を配布する				
備考	ノートPCを使用する回がある。				

科目名	基礎演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>目的: 大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とします。</p> <p>内容: 基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行います。</p>				
授業方針	<p>(1) 大学での学習法を学ぶとともに、学習の基礎となる文章リテラシーの養成を目的とします。課題を毎回進めることによって、徐々に論理的な文章が書けるように訓練を行います。</p> <p>(2) 受講生には、各回1度以上の発言、毎回の課題の提出(要約小レポート等を含む)、1度のプレゼンテーション、期末レポートの作成を課します。</p> <p>(3) 漢字テスト(読み100問、書き100問)を実施し、70%以上の得点を必須とします。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 アカデミック・スキルズとは何か</p> <p>第 3回 ノートを取る</p> <p>第 4回 情報収集の基礎</p> <p>第 5回 クリティカル・リーディングの手法</p> <p>第 6回 図書館実習</p> <p>第 7回 テーマ演習①クリティカル・リーディングの練習</p> <p>第 8回 情報の整理</p> <p>第 9回 テーマ演習②情報整理の方法</p> <p>第10回 研究成果の発表</p> <p>第11回 プレゼンテーションのやり方</p> <p>第12回 テーマ演習③プレゼンテーション</p> <p>第13回 論文・レポートの書き方</p> <p>第14回 テーマ演習④レポート作成・提出</p>				
準備学習	<p>①教科書を購入し、各回の演習内容を事前学習すること。</p> <p>②漢字テストは、範囲を予告するので、事前に覚えてくること。</p> <p>③各回のテーマ演習に必要な準備学習を行うこと。</p>				
学習到達目標	<p>①課題文を正確に理解し、②内容を的確に口頭でまとめ、③課題文に対する自分の見解を加えて、④文章で書くことができることを目標とします。</p> <p>なお、漢字読み・書きのテストを100問ずつを実施し、70%以上正解しなければなりません。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>①文章を正確に理解できたか</p> <p>②自分の考えを的確に発言できたか</p> <p>③自分の考えを文章化できたか</p> <p>④辞書や図書館の使い方などを習得できたか、をもって評価します。</p>			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(出席率+態度)30%、漢字テストの結果・小レポート30%、期末レポート40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。			
教材	<p>①教科書: 佐藤望ほか『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』(慶應義塾大学出版会・第2版・2019年)</p> <p>②参考資料: 適宜に配布</p>				
備考					

科目名	<b>基礎演習I</b>				
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。				
授業方針	文献の探し方、文章の読み方と書き方、発表や意見交換の演習を多くおこない、大学での勉強の仕方を身につけられるようにサポートしていく。漢字の読み書きテストを10問ずつ(合計100問)実施し、70%の正解で合格とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学で何を学ぶか、どう学ぶか 第2回 正確に書く 漢字テストの準備 第3回 図書館の利用 文献の探し方 第4回 メモをとる ノートをとる 第5回 文章を読む① 新聞記事 第6回 文章を書く① 記事の要約・自分の考え 第7回 文章を読む② 論説文 第8回 文章を書く② 論説文の要約・批評 第9回 テーマをもとに話し合う① 第10回 テーマをもとに話し合う② 第11回 話す・聞く① 発表原稿の作成 話し方と聞き方 第12回 話す・聞く② 発表演習 第13回 話す・聞く③ 発表演習 第14回 レポートの作成方法、メールの作法 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①日常的に新聞などを読み、社会的な事象に関心を持っておくこと。(10時間) ②授業で取り上げた課題について必ず遣り遂げること。(30時間) ③漢字テストの勉強。(20時間)				
学習到達目標	知の技法の基礎(図書館の利用法、文章の読み方、書き方の基礎的な技法、話し方・聞き方の技法)を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①図書館の利用法(文献検索)を習得できたか ②文章の読み方、書き方の基礎的な技法を習得できたか ③話し方・聞き方の演習に真剣に取り組めたか			
	成績評価 方法	授業内の課題(授業態度など平常点を含む)50%、期末レポート 50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。 (2)参考書 授業のなかで随時紹介する。				
備考	演習なので毎回、必ず出席すること。				

科目名	<b>基礎演習I</b>				
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	村山 要司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。【実務経験】本クラスは企業向け研修など実務者教育の豊富な教員による。				
授業方針	1. 授業の活用法の習得 2. 主体的な学習能力の習得 3. 読解能力とレポート作成能力の習得 4. 問題発見能力の育成 5. 問題をとらえる視点の多様性と多様な価値観への理解 授業は輪読、講義、演習などの双方向的学習形態をとる。また、各回1年生前期必修の漢字テストを行い(読み100問、書き取り100問を分割して行う)、70%以上得点正解しなければならない。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学とは何か 第2回 大学生活におけるマナー 第3回 ノートの取り方、メモの取り方 第4回 テキストの読み方(1)基礎 第5回 テキストの読み方(2)要約、感想、意見 第6回 図書館の利用・図書館実習 第7回 インターネットの利用・メールの書き方 第8回 情報の整理・要約 第9回 レポートの書き方(1)基礎 第10回 レポートの書き方(2)ツールの利用 第11回 レポートの書き方(3)実践練習 第12回 プレゼンテーション(1)基礎 第13回 プレゼンテーション(2)ツールの利用 第14回 プレゼンテーション(3)実践練習 第15回 今後の大学生活について:まとめ及び試験				
準備学習	大学生活に必要な学習法を身につける姿勢をもつこと。				
学習到達目標	自発的な学習できる能力、大学生活に必要な学習基本技法が習得すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自発的な学習できる能力、大学での学習に必要な基本技法が習得できたか。			
	成績評価 方法	課題・授業態度30%、漢字テスト 20%、レポート・発表50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)特定の教科書は使用しない。 (2)参考書は演習において随時指示する (3)必要資料については配付する。				
備考	他人の意見をよく聴き、理解しようとする姿勢、論理的に思考し、自らの意見を他者に伝える姿勢をもつこと				

科目名	<b>基礎演習I</b>			
クラス	[06クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 木2
担当教員	林 信義			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的とする。基本的な知の技法を内容とし、具体的には、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」基本、および図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。本クラスは企業の実務者教育の豊富な教員による。【実務】			
授業方針	大学における主体的な学習能力の習得のために、情報を収集し、考え、発表し、討議できるように双方向対話型授業形態を取る。なお、漢字テストを行い(読み100問、書き取り100問を分割して行う)、70%以上の得点を必須とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学生活を充実させるために 第2回 ノートの取り方、メモの取り方 第3回 テキストの読み方 第4回 文章の作成(1)基礎 第5回 文章の作成(2)レポート作成 第6回 図書館の利用・図書館実習 第7回 Webサイトの活用・メールの書き方 第8回 問題解決(1)問題の発見・認識 第9回 問題解決(2)原因の探求・解決策立案 第10回 問題解決(3)実行計画の策定 第11回 グループワーク 第12回 プレゼンテーション(1)基礎 第13回 プレゼンテーション(2)実践練習 第14回 プレゼンテーション(3)実践練習 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。(40時間) 自らの考え、疑問点をまとめておくこと。(20時間)			
学習到達目標	文章の内容を理解し、自分の考えを伝えられるようになる。 自らの問題に対して主体的に取り組めるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文章の要旨、自分の考えを伝えられるか。 問題解決のプロセスを理解し、活用できるか。		
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、読んで、考えて、書いて、伝える)40%、漢字テスト30%、発表・レポート30%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、参考資料を紹介する。			
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。			

科目名	基礎演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習 I の内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。				
授業方針	感想や意見などの自分を記録するための文章の書き方を発展させ、文章の内容を読み手に伝え、読み手を動かす文章を書くことを目的として、演習を行う。テーマに沿った文書の素材の整理や文書そのものの作成を各自のノートPCを用いて行う。必要に応じて、参加者相互で作成した文書の相互確認を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 基礎演習IIの進め方 第 2回 説明文書の作成(1) 第 3回 説明文書の作成(2) 第 4回 文書の書式 第 5回 文章の読解と要約レポート作成(1) 第 6回 文章の読解と要約レポート作成(2) 第 7回 講演の要約レポート作成(1) 第 8回 講演の要約レポート作成(2) 第 9回 文書の読解と要約レポートの作成(3) 第10回 課題解決提案文章の作成(1) 第11回 課題解決提案文章の作成(2) 第12回 課題解決提案プレゼンテーションの作成(1) 第13回 課題解決提案プレゼンテーションの作成(2) 第14回 課題解決提案プレゼンテーションの実施 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	毎回出題される課題について、課題文章を各自でよく読みなおし理解すること(10時間) 毎回出題される課題について、各自で文書作成を行い回答すること(30時間) 相互コメントなどを確認し、作成した文書の改訂を各自で行うこと(20時間)				
学習到達目標	自発的な学習できる能力、大学生活に必要な学習基本技法が習得することこと。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自発的な学習できる能力、大学での学習に必要な基本技法が習得できたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題70%、期末課題30%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じて資料を配布する。				
備考	毎回各自のノートPCを用いる。				

科目名	基礎演習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習Ⅰの内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。				
授業方針	大学における学習に不可欠な基礎的素養を実践的に体得させることが、この演習の基本方針である。そのため、大学での学習が実社会との関連でどのように位置づけられるのかについての解説に続き、大学における自発的な学習の前提となる社会事象に関する問題意識の形成の仕方について実習する。その問題意識のなかから適切な演習課題を見つけ出し、それに関する情報収集、収集した情報の分析、問題の構造化を行なった後、演習課題の分析結果についての発表資料を作成、発表することにより、大学での学習のための基礎的素養を体得させる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方 第2回 グループ演習①／グループ分け・課題設定 第3回 グループ演習①／グループ発表 第4回 グループ演習①／グループ発表 第5回 個人演習①／課題の設定 第6回 個人演習①／個人発表・ディスカッション 第7回 個人演習①／個人発表・ディスカッション 第8回 個人演習②／課題の設定 第9回 個人演習②／個人発表・ディスカッション 第10回 個人演習②／個人発表・ディスカッション 第11回 グループ演習②／課題の設定 第12回 グループ演習②／グループ発表 第13回 グループ演習②／グループ発表 第14回 最終課題の設定 第15回 最終課題の発表:まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	①問題意識の形成方法について学び、問題意識を持てるようにすることを目的とする。 ②情報収集方法について学び、効果的な情報収集ができるようにすることを目的とする。 ③収集した情報の加工・分析方法について学び、加工・分析ができるようにすることを目的とする。 ④問題の把握・構造化の方法について学び、把握・構造化ができるようにすることを目的とする。 ⑤発表資料の作成方法について学び、作成できるようにすることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①問題意識の形成方法について理解し、問題意識をもてるか。 ②情報収集方法について理解し、効果的な情報収集ができるか。 ③収集した情報の加工・分析方法について理解し、加工・分析ができるか。 ④問題の把握・構造化の方法について理解し、把握・構造化ができるか。 ⑤発表資料の作成方法を理解し、作成できるか。			
	成績評価 方法	期末課題(60%)、個人課題(20%)、グループ課題(20%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1) 教科書 なし (2) 参考書 なし (3) その他 必要に応じて補助教材を配布				
備考					

科目名	基礎演習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習 I の内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。				
授業方針	テキスト:「【決定版カーネギー】道は開ける」を輪読する。演習参加者はテキストの分担箇所の内容を要約し、プレゼンテーションする。その後、参加者の間で相互に議論していく。但し、発表担当者以外の者もテキストの該当箇所を事前に読んでくることを前提とする。また、随時指定の参考書を用いるので教科書と参考書は忘れずに持参すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方、指定の教材を学ぶ目的・意義について説明 第2回 第1章-1「昨日のことは忘れよう。明日のことに思い悩むな」の輪読 第3回 第1章-2「最悪の状態を受け入れたとき奇跡が始まる」の輪読 第4回 第1章-3「健康でいることが本当の成功である」の輪読 第5回 第2章-4「事実を集めるだけで問題解決に近づく」の輪読 第6回 第2章-5「悩みは4つの質問で50%減る」の輪読 第7回 第3章-6「行動は不安を消去する」の輪読 第8回 第3章-7「小さなことにくよくよするな」の輪読 第9回 第3章-8「心配や不安は的中しないことのほうが多い」の輪読 第10回 第3章-9「あるなら探そう。ないならあきらめよう」の輪読 第11回 第3章-10「価値に見合った投資を行う」の輪読 第12回 第3章-11「愚かな人は過去を変える。賢い人は未来を変える」の輪読 第13回 第4章-12「思考が変われば行動が変わる。行動が変われば人生が変わる」の輪読 第14回 最終課題に関する説明 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・予め指定された箇所を要約し、要約した文章をワード文書にまとめておくこと。(30時間) ・指定されたテキストや資料を事前に読み、疑問点及び質問項目を予め整理しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	1) 演習を通じて自分の意見を持つこと 2) プレゼンテーションやレポート作成によって、自分の意見を人に解り易く伝える手法を身につけること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)プレゼンテーション内容およびテキスト内容への理解 (2)課題(宿題)の提出 (3)ディスカッションへの参加 (4)レポートの提出 を達成度評価の基準とする			
	成績評価 方法	レポート80%、授業参加度(課題作成、ディスカッションへの取り組み方)20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 「【決定版カーネギー】道は開ける」 D・カーネギー著、東条 健一訳 参考書 新・知のツールボックス 新入生のための学び方サポートブック(注意:古いバージョンがあるので注意すること。最新版は水色の冊子となっている。)				
備考	教科書及び参考書を常に持参すること(厳守)				

科目名	基礎演習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	宮井 里佳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習 I の内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。				
授業方針	この授業では特に、読む・書く、聞く・話す力の養成をめざす。課題文献を読んで、理解したことをことばにまとめ(話す/書く)、考えたことを発表することを中心とする。 GoogleClassroomを使用して、毎回要約文の作成などの課題とそれに対する添削・コメントを重ね、単元毎に小レポートを作成する(3回程度予定)。 ※毎回、ノートPCを持参してください。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学における勉学の意味 第2回 課題文献①－勉学の意味に関する文章 第3回 ①読解の続き 第4回 レポートの書き方(1)－要約文の作成の仕方 第5回 プレゼンテーション①に関連して 第6回 課題文献②－思想的な文章 第7回 ②読解の続き 第8回 ディスカッション②について 第9回 レポートの書き方(2)－自らの考えの文章化 第10回 課題文献③－現代社会の分析に関する文章 第11回 ③読解の続き 第12回 資料の探し方とまとめ方③に関連して 第13回 プレゼンテーション③に関連して 第14回 レポートの書き方(3)－事実と意見 第15回 レポート作成と講評				
準備学習	①課題文献をあらかじめ読んで、理解しておくこと。(10時間) ②毎回の課題(要約文などの作成)に取り組むこと。(20時間) ③添削・コメント付で返却された課題の修正に取り組むこと。(10時間) ④レポート課題に取り組むこと。(20時間)				
学習到達目標	①課題文献を正確に理解すること、②理解したこと、考えたことを適切に言語化すること、③コメントされたことに適切に対応することを目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①課題文献を正確に理解できたか、②理解したこと、考えたことを適切に言語化できたか、③議論に積極的に参加できたか、④小レポートの訂正稿が書けたか。			
	成績評価 方法	毎回の課題30% 小レポート40% 期末レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文献のコピーを配布する。 (2)参考書 適宜紹介する。				
備考					

科目名	基礎演習II			
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	本吉 裕之			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	大学生としての自覚と意欲を高め、能動的で自律的な生活・学習態度へと転換することを目的。基本的な知の技法、情報収集、マナー習得を内容とし、高校までとは異なる大学のシステムや学習方法を学び、「聴く・話す・読む・書く」を基本とし、図書館やインターネットを利用した情報収集・発信の方法、プレゼンテーション・ディスカッションの仕方、レポートの書き方を習得するための演習を行う。【実務経験】JTB、一休.com宿泊営業部長などを経て現職。			
授業方針	情報収集、文献の探し方、文章の読み方と書き方、発表や意見交換の演習を多くおこない、大学での勉強の仕方を身につけられるようにサポートする。漢字の読み書きテストを10問ずつ(合計100問)実施し、70%の正解で合格とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学で何を学ぶか、どう学ぶか 第2回 資格取得について 第3回 情報収集・データ収集 第4回 一般常識、マナー 第5回 文章を書く・記事の要約・自分の考え 第6回 レポートの書き方と、ルール 第7回 文章を書く・論説文の要約・批評 第8回 グループディスカッションの手法 第9回 グループディスカッション 第10回 グループディスカッション発表 第11回 2分プレゼンテーション① 第12回 2分プレゼンテーション② 第13回 2分プレゼンテーション③ 第14回 資格取得について 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	①日常的に新聞、ニュースなどから、社会的な事象に関心を持っておくこと。(10時間) ②授業で取り上げた課題について、時間厳守で提出する。(30時間) ③資格習得の勉強。(20時間)			
学習到達目標	知の技法の基礎(マナー、レポート作成の基礎的な技法、話し方・聞き方の技法)を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①情報収集方法についての習得 ②文章の読み方、書き方の基礎的な技法の習得		
	成績評価 方法	授業内の課題(授業態度など平常点を含む)30%、課題レポート30%、期末レポート 40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。 (2)参考書 授業のなかで随時紹介する。			
備考	課題提出については、時間厳守とする。			

科目名	基礎演習II			
クラス	[06クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	平田 文子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	大学において能動的に勉学を進める力を養成することを目的とする。特に、「読む・書く」力を向上させ、さまざまな問題や課題を発見し、その解決を図る力を養成することをめざす。基礎演習 I の内容に引き続き、読解、情報収集・発信、プレゼンテーション、ディスカッション、作文・レポート作成などのより高度化した演習を行う。			
授業方針	この授業では、読解力・文章力・ディスカッション力、プレゼン力の養成をめざす。読解力と文章力を高めるために、名著と言われる作品を読み、吟味する。与えられた課題をレポートにしてまとめ、なおかつ発表用のレジュメを作成する。ディスカッション力とプレゼン力を高めるために、作成したレポートの内容を発表し合い、議論する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 大学における学びについて 第2回 名著に触れる 第3回 名著を読み解く① 第4回 名著を読み解く② 第5回 時代的・社会的背景から作品を考える 第6回 レポート作成の仕方、資料の探し方 第7回 レポート作成 第8回 レジュメ作成の方法 第9回 レジュメ作成 第10回 プレゼンについて(効果的な発表、ツール) 第11回 レポートの内容を発表する(プレゼン①) 第12回 レポートの内容を発表する(プレゼン②) 第13回 プレゼンの振り返りとディスカッション① 第14回 プレゼンの振り返りとディスカッション② 第15回 まとめと振り返り			
準備学習	①課題文献をあらかじめ読んでおくこと。(10時間) ②資料収集(10時間) ③毎回の課題に取り組むこと。(20時間) ④添削返却された課題の修正。(10時間) ⑤試験のための勉強。(10時間)			
学習到達目標	①課題文献を正確に理解すること、②理解したこと、考えたことを適切に文章化すること、③他者を納得させる発表ができること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①課題文献を正確に理解できたか、②理解したこと、考えたことを適切に文章化できたか、③他者を納得させるような発表ができたか、④一定の水準以上のレポートとレジュメが作成できたか。		
	成績評価 方法	期末レポート60%、レジュメ・発表40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)教科書 文献のコピーを配布する。 (2)参考書 必要に応じて適宜紹介する。			
備考				

科目名	プロジェクト演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木1
担当教員	林 信義,田中 克明,本吉 裕之			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	自ら設定した課題、あるいは教員が提示する課題について、個人またはグループで、インターネット等を活用して情報を収集し、得た情報を元に課題の解決方法を組み立て、さらに調査や評価、発表などを繰り返すことにより、課題の解決方法を学ぶ。				
授業方針	本演習では、経営に関連する課題、情報に関連する課題の演習を、3名の担当教員が5回ずつ、計15回実施する。受講者を3つのグループに分け、各担当教員による演習をグループごとに順に実施する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 プロジェクト演習Iの進め方について 第2回 テーマ「ITを使った情報の整理」を理解する。ケース・スタディの課題選択 第3回 各人での調査・分析、グループ分け 第4回 グループ・ワーク 第5回 グループ・ワークのまとめ、プレゼンテーション、講評 第6回 「問題解決」の流れを理解する 第7回 問題を抽出する、原因を探る 第8回 解決策、実行計画を立案する 第9回 自分の問題を解決する、プレゼンテーション 第10回 テーマ「ITを使った問題解決」を理解する／利用する技術の確認と解決する問題の検討 第11回 グループでの問題解決方法検討と実装 第12回 グループでの問題解決方法テストとプレゼンテーション準備 第13回 グループ・ワークのまとめとプレゼンテーション 第14回 全体プレゼンテーション 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に扱った課題について、調査・検討を加え、必要に応じてグループでの議論も深めること。(60時間)				
学習到達目標	課題の設定あるいは詳細化を自ら行うことができる。 課題解決手順を自ら組み立て、実行し、評価が行える。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	必要な情報についての収集・調査を自ら行える。			
	成績評価 方法	授業中の議論への参加34%、各担当教員ごとのレポート66%(22%×3)の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じて資料を配布する。				
備考					

科目名	プロジェクト演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木1
担当教員	森沢 幸博,宮井 里佳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本演習は、学生自身が主体的に想像力を発揮して取り組むアクティブラーニング型の授業です。グループワークを中心とするデジタル・コンテンツの企画、制作実習、広報企画のプロジェクト課題を通して、情報収集、ディスカッション、プレゼンテーションの方法を学びます。次年度以降のプロジェクト活動に求められる情報活用力、課題解決力、コミュニケーション力の向上を目指します。				
授業方針	授業では、グループにわかれて情報技術を活用したコンテンツの企画書、イメージを制作するための練習を行います。2人の教員が交代で授業を担当し、それぞれの課題に取り組み、最終回にグループごとにプレゼンテーションを行い、最終課題として各人でまとめを提出します。 (A:宮井)は、GoogleClassroomを利用して文章作成の練習をします。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 世界の神話と聖書世界(A:宮井) 第2回 『旧約聖書』のモーセの物語(「出エジプト記」)(1)(A:宮井) 第3回 『旧約聖書』のモーセの物語(2)「あらすじ」(要約)の作り方(A:宮井) 第4回 『旧約聖書』の「大洪水とノアの箱舟」(A:宮井) 第5回 神話の類型—特に大洪水神話について—/「マヌの洪水」(A:宮井) 第6回 『ギルガメシュ叙事詩』の大洪水神話(1)(A:宮井) 第7回 『ギルガメシュ叙事詩』の大洪水神話(2)/韻文の要約とイメージの作り方(A:宮井) 第8回 “伝わる情報とデザイン” 概要説明 (B:森沢) 第9回 デザインワーク1(イメージボード制作)(B:森沢) 第10回 デザインワーク2(ストーリーテリング)(B:森沢) 第11回 ユーザスタディ 課題設定とデザイン思考(B:森沢) 第12回 コンテンツ企画書制作(B:森沢) 第13回 シナリオに基づくイメージ作成(B:森沢) 第14回 プレゼンテーション(企画案発表と講評)(B:森沢) 第15回 まとめ及び試験  ※(1)クラスはA→B、(2)クラスはB→Aの順で履修				
準備学習	授業時に指示するコンテンツ制作に必要な物語や世界観について理解をする(20時間) 授業で検討するコンテンツ企画に必要な図書の通読,各種イメージ制作の準備をする(20時間) 最終企画案の制作,プレゼン資料,レポート作成(20時間)				
学習到達目標	情報技術を活用したコンテンツ企画力,情報集約力について学び,わかりやすく説明できるようになる。 グループワークに必要なコミュニケーション力について学び,自分の意見やアイデアをもとに資料を作成できるようになる。 世界の文化や物語について学び,作品の発想に取り入れることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	最新の情報技術について理解を深め,自分の考えや他者の意見をまとめて伝えることができる。 デジタル技術を用いた新しいサービスやコンテンツについて学び,理解した内容をもとに説明することができる。			
	成績評価 方法	授業参加度30% 中間課題30% 発表課題40% 担当者別の評価をもとに総合的に判断する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:なし。 参考書:適宜指定する。指定した参考書を資料として積極的に利用する。				
備考	コンピュータの基本的な操作を身につけておくこと。				

科目名	プロジェクト演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木1
担当教員	高橋 広治,李 艶紅,村山 要司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本授業は、与えられた課題に対する解決策の検討、資料やコンテンツ作成、プレゼンテーション等を学生主体で取り組むことを行うアクティブラーニング型授業である。学生自ら社会に存在する様々な課題に主体的に取り組み、提言、制作、発信等を行う。				
授業方針	学生を3班に分けて実施する。班分けは履修ガイダンスまたは第1回目の授業で発表する。プロジェクトは全部で3つあり、プロジェクトごとに担当教員が異なる。学生はプロジェクト1～3を順に実施していくが、その順序は班により異なる。また、プロジェクトごとに教室が異なるので注意すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 プロジェクト1(1)プロジェクト管理手法:グループワーク&発表 第2回 プロジェクト1(2)プロジェクト計画:グループワーク&発表 第3回 プロジェクト1(3)プロジェクト管理:グループワーク&発表 第4回 プロジェクト1(4)振り返り手法:グループワーク&発表 第5回 レポート作成・提出 第6回 プロジェクト2(1)グループ作業のためのICT環境の整備【プロジェクト2では毎回ノートPCを使用】 第7回 プロジェクト2(2)データ分析課題1 第8回 プロジェクト2(3)データ分析課題2 第9回 プロジェクト2(4)データ分析課題3 第10回 レポート作成・提出 第11回 プロジェクト3(1)社会問題を法的な観点から考える(オリエンテーション・社会問題&法的観定の解説) 第12回 プロジェクト3(2)社会問題のテーマ①:発表&討論 第13回 プロジェクト3(3)社会問題のテーマ②:発表&討論 第14回 プロジェクト3(4)社会問題のテーマ③:発表&討論 第15回 レポート作成・提出 *プロジェクト1～3の実施順は班により異なる				
準備学習	課題に対する準備をする(60時間)				
学習到達目標	課題に対する所定の成果を上げられるようになること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	所定の到達目標が達成できたか			
	成績評価 方法	平常点(授業、プロジェクトへの取り組み)50%、レポート・課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜指定する				
備考					

科目名	プロジェクト演習II			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 木1
担当教員	檀上 誠, 中川 善裕			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本演習は、学生自身が主体的に創造力を発揮して取り組むアクティブラーニング型の授業です。デジタル・コンテンツ(音楽、映像)の実制作を通じて、前期で身につけた情報活用能力・課題解決力・コミュニケーション能力を向上させつつ、創造力を高めることを目的としています。			
授業方針	専門的なソフトウェアや機材を活用して、デジタルコンテンツ(音楽、映像)の制作を行います。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業概要の説明、質疑・応答、グループ分けの確認 第2回 【全体1】グループ毎に企画案(草案)の作成 第3回 【全体2】グループ毎に企画案(草案)の修正、調整 第4回 【全体3】グループ毎に企画案の最終決定 第5回 【全体4】中間発表: 班内で音楽制作担当者または映像制作担当者を決定する (以下、音楽担当=音、担当: 中川、映像担当=映、担当: 檀上) 第6回 【音1】: 音響作品の制作手法の違いについて 【映1】: 映像制作のワークフロー、編集手法の違いについて、 第7回 【音2】: オーディオ編集Ⅰ (アプリケーションの操作方法を学ぶ) 【映2】: 映像編集Ⅰ (アプリケーションの操作方法を学ぶ) 第8回 【音3】: オーディオ編集Ⅱ (音響素材の取り込み、編集・加工、データ出力の方法を学ぶ) 【映3】: 映像編集Ⅱ (映像素材の取り込み、編集・加工、データ出力の方法を学ぶ) 第9回 【音4】: ワークショップⅠ (企画案を基にした音楽素材の制作) 【映4】: ワークショップⅠ (企画案を基にした映像素材の制作) 第10回 【音5】: ワークショップⅡ (音響素材の編集・加工) 【映5】: ワークショップⅡ (映像素材の編集) 第11回 【音6】: ワークショップⅢ (音響作品の空間表現) 【映6】: ワークショップⅢ (映像素材の加工) 第12回【全体5】音楽と映像のデータを合わせて編集・加工する、素材の確認・修正作業 第13回【全体6】音楽と映像のデータを合わせて編集・加工する、最終調整 第14回 最終発表、講評 第15回 まとめ及び試験 ※第6回から第11回まで 音楽担当者は3043室で制作する 映像担当者は3038室で制作する			
準備学習	・音響・映像機器の取り扱い方に関する知識、関連事項は予め学習しておくこと(30時間) ・興味の対象を増やし、アイデアの創出につながるよう意識づけしておくこと(30時間)			
学習到達目標	・情報技術を活用したコンテンツ企画力、情報集約力について学び、わかりやすく説明できるようになる ・グループワークに必要なコミュニケーション力について学び、自分の意見やアイデアを反映させたデジタルコンテンツを制作できるようになる			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・最新の情報技術について理解を深め、他者の意見を理解し、自分の意見を伝えることができる ・デジタルコンテンツに関する知識・技能の習得に努め、コンテンツを制作できる		
	成績評価 方法	授業参加度30%、レポート30%、最終発表課題40% 担当者別の評価をもとに総合的に判断する		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書 なし 参考書は適宜指定する。指定した参考書を資料として積極的に利用する。			
備考	コンピュータの基本的な操作を身につけておくこと			

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	村山 要司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	経営問題への情報技術の活用、AI(機械学習)などのコンピュータサイエンスを用いて、マーケティング分析、ビジネス業務の効率化を図る。前期は機械学習プロジェクトの体験を通して、試行錯誤しながら結果を評価・改善する力の向上を目指す。【実務経験】本科目は、IT企業で技術者、経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。				
授業方針	機械学習の概要、各フェーズでの作業内容、手順について、都度、解説を行う。 機械学習にはPythonを用いるが、開発環境、各ツールの使用方法、プログラムのサンプルは配布する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス:演習の進め方 第2回 環境整備、サンプル実行 第3回 テーマ説明、機械学習の練習 第4回 企画立案、データ収集 第5回 データ変換 第6回 機械学習の実施 第7回 結果の評価・改善 第8回 データのリサンプリング 第10回 総合的な考察 第11回 プレゼンテーション準備 第12回 成果発表、質疑応答、相互評価① 第13回 成果発表、質疑応答、相互評価② 第14回 成果発表、質疑応答、相互評価③ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 次回の講義内容について、キーワードの意味などを調べておく。(30時間) ② 実施した作業内容について、復習し、気付いたこと、身についたことをまとめる。(30時間)				
学習到達目標	機械学習の概要、機械学習プロジェクトのプロセスについて理解できる。 結果を評価し、試行錯誤しながら改善することが出来る。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	機械学習の概要、機械学習プロジェクトのプロセスについて説明できるか。 結果に対して、改善のための課題を明確にした上で、解決策を提案できるか。			
	成績評価 方法	取り組み方・課題50%、最終成果物40%、成果発表10%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程14条に定める。			
教材	必要に応じて資料(プリント、プログラムサンプル)を配布する。				
備考					

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いてさまざまなサービスを連携させることにより、人間が1つずつ行うよりも効率の良い処理や、1件ずつ目で確認したのでは、処理しきれない量の情報を扱うことができる。この演習では、デジタルアシスタントとWebサービスとの連携や、情報を収集・分類する仕組みの構築を各自で行うこと通して、コンピュータを用いたシステムの可能性を学ぶことを目的とする。				
授業方針	各自がPCを用いてプログラムを作成し実行することにより、デジタルアシスタントとWebサービスを連携させた仕組みの構築や、情報を自動的に収集・分類・提示する仕組みの構築を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 演習の進め方 第 2回 デジタルアシスタントとWebサービスの簡易な連携 第 3回 デジタルアシスタントとWebサービスの複雑な連携(1) 第 4回 デジタルアシスタントとWebサービスの複雑な連携(2) 第 5回 デジタルアシスタントを用いたサービスの作成 第 6回 サービス作成成果の発表 第 7回 マイクロブログからのデータの収集 第 8回 データの収集システムの設定 第 9回 収集したデータの分析 第10回 データの自動的な分類 第11回 分類結果の可視化 第12回 データクレンジング 第13回 データ収集と分類・可視化の実行 第14回 情報収集成果の発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業中にとり上げたPC上のプログラムの内容を理解すること(20時間) PC上でプログラムを実行し、実行結果を確認すること(20時間) 授業中の課題と類似する課題を各自で考え、応用方法を検討すること(20時間)				
学習到達目標	コンピュータを用いた情報処理の可能性を理解すること。また、データの収集、分類、可視化を各自で実施すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コンピュータを用いた情報処理の可能性を理解できたか。また、データの収集、分類、可視化を各自で実施することができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題90%、期末課題10%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料を適宜配布する。				
備考	演習では各自のPCおよびスマートフォンを用いる。				

科目名	情報社会一般演習I			
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 火3
担当教員	李 艶紅			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	目的: 企業間取引や会社のシステムなどといったビジネス関連分野の法律の知識を身につけ、法的な思考法を練習します。 内容: 指定の教材を輪読しながら、教材の中で各自関心のあるテーマを選び、レポートの作成と発表を行っていきます。			
授業方針	学生たちによる発表やディスカッションが中心となります。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 【会社総則】会社の政治献金問題 第3回 【会社総則】法人格否認の法理 第4回 単元のまとめ・補足  第5回 【株式会社の機関:株主総会】議決権行使の代理人資格の制限 第6回 【株式会社の機関:株主総会】取締役等の説明義務 第7回 単元のまとめ・補足  第8回 【株式会社の機関:取締役等】代表取締役の代表権 第9回 【株式会社の機関:取締役等】取締役の競業禁止義務 第10回 【株式会社の機関:取締役等】内部統制システムの構築義務 第11回 【株式会社の機関:取締役等】法令違反と取締役の責任 第12回 単元のまとめ・補足 第13回 期末課題の作成指導(1) 第14回 期末課題の作成指導(2)			
準備学習	①指定された教材の該当ページを毎回精読する(20時間)。 ②発表者に指名された回は、レジュメを作成し、発表をする(20時間)。 ③期末評価のためのレポートを作成する(20時間)。			
学習到達目標	ビジネス関連分野の法規制について理解し、実際の適用問題についても自分なりに思考し結論を得ることができることを目指します。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	演習内における学習と発表を通じてどの程度理解しているかにつき評価します。		
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(30%)、学習状況(30%)、発表など(40%)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。		
教材	授業内において適宜指示します。			
備考	情報社会特講IV(会社法)も履修することが望ましいです。			

科目名	情報社会一般演習I			
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 水2
担当教員	宮井 里佳			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	現代において求められる読解力・自己表現能力およびコミュニケーション能力を養うための演習を行う。 「古典」を皆で意見を出し合って読み進めることによって、正確に、深く読む力、自己の考えをことばにする力を養成する。			
授業方針	テキストを読んで、わかったこと、気がついたこと、考えたことなどを議論する。時に(各単元に一度を予定)、発表者を決めて、発表者は分担箇所のテキスト内容を要約し、関連事項を検討し、批評をおこなう(レジュメを作成)。その発表内容について、他の演習参加者は批評し、討論する。またこれらの作業の仕上げとして、レポートを作成する。 夏休み課題として、独自の問題意識にしたがったテーマの文献に取り組む。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 『聖書』創世記講読(1) 第2回 『聖書』創世記講読(2)－(1)のつづき 第3回 『聖書』創世記講読(3)－(2)のつづき 第4回 『聖書』創世記講読(4)－(3)のつづき 第5回 『聖書』創世記講読(5)－(4)のつづき 第6回 『聖書』創世記についてレポートと発表 第7回 『聖書』創世記について講評 第8回 『古事記』講読(1) 第9回 『古事記』講読(2)－(1)のつづき 第10回 『古事記』講読(3)－(2)のつづき 第11回 『古事記』講読(4)－(3)のつづき 第12回 『古事記』と『日本書紀』との比較 第13回 日本神話について発表 第14回 日本神話について講評 ※受講生の関心等によっては、『古事記』を新約聖書や北欧神話、仏典などに変更することもある。 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	①指定した文献をあらかじめ精読して、わからない用語などを調べておくこと。(10時間) ②講読や議論を踏まえて、文献の内容の要約文を作成すること。(20時間) ③添削・コメントを付された課題レポートの訂正版を作成すること。(10時間) ④独自の問題意識にしたがって卒業研究につながる発展学習を行うこと(夏休み課題へ結実させる)。(20時間)			
学習到達目標	(1)文章を正確に読解すること、(2)自分の考えを的確にことばにして話し、また文章化すること、(3)他者の考えを理解し、適切に議論を行うこと を目標とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)文章を正確に読解できたか、(2)自分の考えを的確にことばにして話し、また文章化できたか、(3)他者の考えを理解し、適切に議論を行えたか。		
	成績評価 方法	授業時の発表・コメント30% 小レポート30% 期末レポート40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書:開講後に指示する。 (2)参考書:随時指示する。 (3)その他:必要に応じて資料を配付する。			
備考	「現代社会と宗教」を履修すること。「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」を履修しておくことが望ましい。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。			

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	主にシーケンサーソフト(Cubase、Logic)を用いた音楽制作実習を行う。				
授業方針	適宜、課題を与えて作品を制作してゆくことになるが、作品の内容、音楽的な完成度にもこだわっていきたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 テーマの決定とディスカッション 第 2回 テーマにもとづく音源試聴・文献資料調査 第 3回 タイムテーブル作成 第 4回 テーマにもとづく文献資料の輪読 第 5回 テーマにもとづく音源資料の視聴 第 6回 文献資料・音源資料のまとめ 第 7回 課題実習(I)音源制作(MIDI) 第 8回 課題実習(II)音源制作(オーディオ) 第 9回 課題実習(II)音源制作(複合) 第10回 課題実習(III)レジュメ作成 第11回 課題実習(IV)論文作成(前半) 第12回 課題実習(IV)論文作成(後半) 第13回 研究課題の問題点の修正、確認 第14回 研究課題の発表とディスカッション,研究課題の問題点の修正、確認 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	音楽や音響について知り、アプリケーションで制作ができるようになる事を目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	期末提出作品70%、レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考					

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータはプログラムにしたがってさまざまな処理を実行する装置である。したがって、情報技術の本質を理解するためには、プログラミング(プログラム作り)を学習することが大変重要である。この演習では、プログラミングの基礎を学び、自分で思い通りのプログラムを作ることができるようになることを目標とする。				
授業方針	この演習は3・4年次を通じて行う卒業研究の第一歩である。前期はまずプログラミングの基本的な考え方や技能を習得することを目標とする。最後は、それまで学習したことを生かして、独自性のあるプログラムを作成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の概要 第2回 プログラミング環境の構築 第3回 プログラミング演習(1) Pythonの基本 第4回 プログラミング演習(2) 変数と演算子 第5回 プログラミング演習(3) 演算子の優先順位 第6回 プログラミング演習(4) if文と論理演算子 第7回 プログラミング演習(5) for文とwhile文 第8回 プログラミング演習(6) リストの基本 第9回 プログラミング演習(7) リストの操作 第10回 プログラミング演習(8) タプルとディクショナリ 第11回 プログラミング演習(9) ディクショナリの操作 第12回 プログラミング演習(10) 関数の基本 第13回 プログラミング演習(11) 関数の活用 第14回 プログラミング演習(12) 変数とスコープ 第15回 レポート作成				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(30時間) (2)復習として練習問題に取り組む。(30時間)				
学習到達目標	(1)簡単なプログラムを自分で作ることができるようになる。 (2)自主的に学習を進めることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)プログラミングの基礎を習得できたか。 (2)自主的に学習を進めることができたか。			
	成績評価 方法	平常点60%+期末レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 「やさしいPython」(高橋 麻奈、SBクリエイティブ、2018年) (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	2DCG、3DCGを用いたクリエイティブコンテンツ制作				
授業方針	2DCG用ソフトウェア(Illustrator, Photoshop)や3DCG用ソフトウェア(Mayaなど)を用いて静止画制作、映像制作の基本を学ぶ。前期はCG制作の基本的知識と制作技術を身につける。また制作活動を通じ社会人としての素養を身に付ける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方、CG業界の現状、映像制作とCG制作のワークフロー、アイデアやイメージの作り方 第2回 演習(1)モデリング(ポリゴンモデル) 第3回 演習(2)モデリング(Nurbsモデル) 第4回 演習(3)マテリアル、テクスチャマッピング 第5回 演習(4)ライティング 第6回 演習(5)キーフレーム法、カメラワーク 第7回 演習(6)スケルトン、インバースキネマティクス 第8回 演習(7)スキニング 第9回 演習(8)レンダリング 第10回 修得状況に関する中間報告、制作課題の決定 第11回 作品制作、制作課題のチェック 第12回 作品制作、進捗確認とアドバイス 第13回 作品制作、進捗確認とアドバイス(修正分の確認を重視する) 第14回 最終審査 兼 講評会(プレゼンテーション形式) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(40時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(20時間)				
学習到達目標	見る人に印象を残すことができる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、プレゼンテーションの内容			
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 開講時に指定 参考書 開講時に指定				
備考	学習内容は3DCGを学習したい人向けの内容である。但し、3DCG以外の分野を学習したい人は第1回演習時に教員と共に学習内容を決定することが出来る。				

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[08クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	本吉 裕之			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会を生きていく中で、様々な企業の商品やサービスを消費していくことに対し、その仕組みや流れを学ぶことで、自らの武器になると考える。広く業界を分析し、その経営手法について学ぶ。【実務経験】日本交通公社(現・JTB) 東京銀座支店、ドコモAOLビジネス開発部を経てプライムリンク(現・株式会社一休(Zホールディングス))。一休.com宿泊施設等への営業及び新サービスの企画・開発に取り組み、宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	各自、グループでの作業(演習)による学生自身の主体的な取組を重視する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究の進め方 第2回 基礎的学習 第3回 モデル企業分析①各自発表 第4回 モデル企業分析②企業理念、概要、沿革 第5回 モデル企業分析③商品・サービス、強み・弱み、業界環境 第6回 モデル企業分析④経営戦略・ビジネスモデル 第7回 新サービス開発グループワーク① 第8回 新サービス開発グループワーク② 第9回 新サービス開発グループワーク③ 第10回 プレゼンテーション① 第11回 プレゼンテーション② 第12回 改善案ディスカッション① 第13回 改善案ディスカッション② 第14回 改善案ディスカッション③ 第15回 まとめ・レポート提出				
準備学習	新商品、新サービスを毎回ゼミ内で発表できるように情報収集を行うこと。				
学習到達目標	自分が知り得なかった業界の知見を含め、視野を広げ、自らの可能性も広げられるようにする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	分析手法を身につけ、プレゼンテーションを行う。改善案を提示できるようにする。			
	成績評価 方法	出席及び授業への積極参加・授業貢献50%、プレゼンテーション及びそのレポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	情報社会一般演習I			
クラス	[09クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 火4
担当教員	林 信義			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	もうかっている企業は、優れた「ビジネスモデル(もうけの仕組み)」を持っている。身近な企業の実例を用いてビジネスモデルの特長について比較検討する。そして、企業分析技法の基礎的な知識を学び、各自、興味のある企業のビジネスモデルを考察する。			
授業方針	ビジネスモデルと経営数値に関する基礎的な知識を習得した上で特徴的なビジネスモデルのケースを調査、分析し、グループ討議、プレゼンテーションを行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ビジネスモデルと数値との関係(1) 第2回 ビジネスモデルと数値との関係(2) 第3回 会計と決算 第4回 売上と売上構造 第5回 利益と利益率 第6回 経費と経費率 第7回 在庫と在庫率 第8回 ビジネスモデル (1) 第9回 ビジネスモデル (2) 第10回 ビジネスモデル (3) 第11回 ビジネスモデル (4) 第12回 ケース分析発表・討議 第13回 ケース分析発表・討議 第14回 ケース分析発表・討議 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行うので復習により理解度を高めておくこと。(30時間) 自らの考え、疑問点をまとめておくこと。(30時間)			
学習到達目標	ビジネスモデルと経営数値との関係が理解できるようになる。 企業分析技術が身につく。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ビジネスモデルと経営数値の関係を理解し、説明できるか。 企業分析技法を用いて、ビジネスモデルを考察できるか。		
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、発表・レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、講義に関する資料を紹介する。			
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。			

科目名	情報社会一般演習I				
クラス	[10クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	森沢 幸博			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	デジタル・デザインの基礎知識について学び、2DCG(Photoshop、Illustrator)などの専用ソフトを利用したコンテンツ制作技術の修得を目指す。また、最新技術を用いた映像やコンテンツ制作実習を通じて、デザイナーに求められる応用力の修得を目指す。				
授業方針	2DCGグラフィックソフトウェア(Illustrator、Photoshop)を用いたデジタルイメージ制作技術の基礎について学ぶ。CG制作の基本的知識と制作技術を身につけ、制作活動を通じクリエイターとしての素養を身につける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 CGとグラフィックデザイン 第 2回 2DCG制作(1) パス編集による形状編集 第 3回 2DCG制作(2) ポスターイメージ制作 第 4回 色彩設定と配色パターン 第 5回 フォントデザイン応用 第 6回 写真編集と撮影基礎知識 第 7回 平面レイアウト構成と印刷 第 8回 中間研究テーマ報告会 第 9回 情報デザインの応用事例研究 第10回 作品資料調査(1) 研究論文輪講 第11回 作品資料調査(2) 研究テーマ討論 第12回 課題作品制作(1) 研究テーマに応じたコンテンツ制作 第13回 課題作品制作(2) 研究テーマに応じたディスカッション 第14回 最終プレゼンテーション 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題、最終レポート課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ、ゼミ研究に関する予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	2DCGソフトウェアの基本操作と機能を理解して、デザイン制作の目的に応じた専門知識について説明ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	CG制作に関する専門知識とコンテンツ事例について理解し、自身の考えをもとに説明できる。 最新CG技術について理解し、専門知識について説明することができる。			
	成績評価 方法	出席・平常点30% 中間課題30% 最終課題作品 最終プレゼンテーション40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:授業内で適宜指定する。 参考書:授業内で適宜指定する。				
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。				

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	村山 要司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	経営問題への情報技術の活用、AI(機械学習)などのコンピュータサイエンスを用いて、マーケティング分析、ビジネス業務の効率化を図る。後期は、マーケティング分析と生産管理に分かれ、それぞれのテーマにあった分析、最適化計算を行う。【実務経験】本科目は、IT企業で技術者、経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。				
授業方針	マーケティング分析、生産管理の概要、作業内容、手順について、都度、解説を行う。 データ分析、最適化計算にはExcelを用いる。(Excelの基本操作は習得しているものとする)				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方 第2回 マーケティング分析手法 第3回 生産管理における最適化計算 第4回 対象とする問題・課題の決定 第5回 分析、最適化の準備 第6回 分析、最適化の実施 第7回 結果の評価・改善 第8回 総合的な考察 第10回 プレゼンテーション準備 第11回 成果発表、質疑応答、相互評価① 第12回 成果発表、質疑応答、相互評価② 第13回 成果発表、質疑応答、相互評価③ 第14回 成果発表、質疑応答、相互評価④ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 次回の講義内容について、キーワードの意味などを調べておく。(30時間) ② 実施した作業内容について、復習し、気付いたこと、身についたことをまとめる。(30時間)				
学習到達目標	マーケティング分析、生産管理における最適化計算の概要、プロセスについて理解できる。 結果を読み取り、問題の要因や改善効果を示すことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	マーケティング分析、生産管理における最適化計算の概要、プロセスについて説明できるか。 結果を読み取り、問題の要因や改善効果を定量的に表現できるか。			
	成績評価 方法	取り組み方・課題50%、最終成果物40%、成果発表10%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じて資料(プリント、サンプルデータ)を配布する。				
備考					

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いたシステムを構築することにより、人では扱いきれない情報の処理を、システムにある程度任せることができる。この演習では、文献の講読と各自のシステム構想を作成することを通じて、コンピュータを用いたシステムの可能性について学ぶこと、および学び続けることを学ぶことを目的とする。				
授業方針	さまざまな情報システムについて、各自が文献を読み、演習においてその内容を相互に発表、意見の交換を行う。また、各自で興味のある情報システムの構築を検討し、その実現について議論を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 演習の進め方 第 2回 文献の講読と発表(1) 第 3回 文献の講読と発表(2) 第 4回 文献の講読と発表(3) 第 5回 文献の講読と発表(4) 第 6回 構築したいシステムの検討(1) 方針 第 7回 構築したいシステムの検討(2) 調査 第 8回 構築したいシステムの検討(3) 概要設計 第 9回 構築したいシステムの発表・議論(1) 第10回 構築したいシステムの発表・議論(2) 第11回 構築したいシステムの再検討(1) 第12回 構築したいシステムの再検討(2) 第13回 構築したいシステムの再発表・議論(1) 第14回 構築したいシステムの再発表・議論(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各自で講読したい論文をよく読むこと(20時間) 論文を理解するために必要な参考文献を各自で探し、よく読んで理解すること(10時間) 担当する論文の内容を紹介する資料を作成しておくこと(10時間) 購読した論文などを応用したシステムの構想を各自で検討すること(20時間)				
学習到達目標	コンピュータを用いた情報システムの可能性を理解すること。構築したいシステムの構想を作ること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	コンピュータを用いた情報システムの可能性を理解できたか。構築したいシステムの構想を持つことができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題70%、期末課題30%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料を適宜配布する。				
備考	演習では適宜、各自のPCを用いる。				

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的: 会社のシステムなどといったビジネス分野の法律の知識を身につけ、法的な思考法を練習します。 内容: 指定教材を輪読しながら、教材の中で各自関心のあるテーマを選び、レポートの作成と発表を行います。				
授業方針	学生たちによる発表やディスカッションが中心となります。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 【株式会社の設立】現物出資 第3回 【株式会社の設立】払込みの仮装 第4回 単元のまとめ・補足(1)  第5回 【株式・新株予約権】種類株式 第6回 【株式・新株予約権】株主平等の原則 第7回 【株式・新株予約権】利益供与 第8回 単元のまとめ・補足(2)  第9回 【株式・新株予約権】違法な自己株式取得の効力 第10回 【株式・新株予約権】新株の有利発行 第11回 【株式・新株予約権】新株予約権の無償割当て 第12回 単元のまとめ・補足(3)  第13回 【商法総則・商行為】商号使用許諾者の責任 第14回 【商法総則・商行為】高価品の紛失に関するホテルの責任				
準備学習	①指定された資料の該当ページを精読する(20時間)。 ②発表を担当する回は、レポートを作成発表をする(20時間)。 ③期末評価のためのレポートを作成する(20時間)。				
学習到達目標	ビジネス分野の法制度の枠組みを把握し、具体的な関連問題について自分なりに思考して結論を導き出すことができることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習・発表を通じて演習内容をどの程度理解できたかをもって評価します。			
	成績評価 方法	演習への積極的な参加(20%)、演習内発表(30%)、期末提出レポート(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づきます。			
教材	授業内において適宜指示します。				
備考	情報社会特講IV(会社法)を履修済であることが望ましいです。				

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	宮井 里佳			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、現代に求められる読解力・自己表現能力およびコミュニケーション能力を養成することを目的とする演習を行う。				
授業方針	学生は各自の関心の赴くところにしたがって対象を選定し、夏休みにプレ卒論レポートを作成し、発表を行う。その発表に対して他の学生は批評を行い、議論する。それらを踏まえ、発表者はレポートの改訂版を作成する。 後半には、発表の中からいくつかのテーマを取り上げてテキストを講読し、理解を深める。また研究者あるいは先輩の論文を論評することによって、研究の方法や論文の書き方を学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 夏休み課題発表(1)ー学生A,B 第 2回 夏休み課題発表(2)ー学生C,D 第 3回 夏休み課題発表(3)ー学生E,F 第 4回 夏休み課題発表(4)ー学生G,H 第 5回 文献講読と特講①現代社会論(1)ー学生Aの研究対象 第 6回 文献講読と特講①現代社会論(2) 第 7回 文献講読と特講②古代中国論(1)ー学生Dの研究対象 第 8回 文献講読と特講②古代中国論(2) 第 9回 文献講読と特講③映像と思想論(1)ー学生Hの研究対象 第10回 文献講読と特講③映像と思想論(2) ※どの学生の研究内容に即した文献を選ぶかは発表後に決定する。 第11回 論文講読①マンガ評論 第12回 論文講読①(2)上記についての論評と討論 第13回 論文講読②先輩の卒論 第14回 論文講読②(2)上記についての論評と討論 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①発表するに際して、文献を読んで内容をまとめ、レジュメ、レポートを作成すること。(20時間) ②発表後には、コメントや討論を踏まえてレポートの改訂版を作成すること。(20時間) ③他の発表者のレポートをあらかじめ読んで、関連事項を調べるなど、批評、討論の準備すること。(20時間)				
学習到達目標	(1)文献を正確に読解すること、(2)自己の見解を的確にことばにして話し、また文章化すること、(3)他者の考えを理解し、適切にコメントすること、(4)自らの卒業研究テーマを絞っていくことを目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)文献を正確に読解できたか、(2)自己の見解を的確に言語化できたか、(3)他者の発表を理解し、的確にコメントできたか、(4)自らの研究テーマを設定できたか。			
	成績評価 方法	授業中の発表20%、授業中のコメント20%、小レポート20%、期末レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書:プリント(文献コピー)を配布する。 (2)参考書:授業中に適宜紹介する。 (3)その他:必要に応じて資料を配付する。				
備考	「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」「現代社会と宗教」を履修しておくこと。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。				

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	中川 善裕			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	前期までに行った基礎学習をふまえ、後期は具体的なテーマを与えて制作を行う。			
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テーマの決定とディスカッション 第2回 テーマにもとづく音源試聴・文献資料調査 第3回 タイムテーブル作成 第4回 テーマにもとづく文献資料の輪読 第5回 テーマにもとづく音源資料の視聴 第6回 文献資料・音源資料のまとめ 第7回 課題実習(I)音源制作(MIDI) 第8回 課題実習(II)音源制作(オーディオ) 第9回 課題実習(II)音源制作(複合) 第10回 課題実習(III)レジューメ作成 第11回 課題実習(IV)論文作成(前半) 第12回 課題実習(IV)論文作成(後半) 第13回 研究課題の問題点の修正、確認 第14回 研究課題の発表とディスカッション,研究課題の問題点の修正、確認 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)			
学習到達目標	音楽や音響について知り、アプリケーションで制作ができるようになる事を目的とする。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。		
	成績評価 方法	提出作品70%、レポート30%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する			
備考	大学より供与されたパーソナルコンピュータの有効活用を図ること			

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期の一般演習 I に引き続いて、プログラミングの学習を進める。後期は、まずプログラミングの基礎的事項のうち前期で扱わなかったことについて学ぶ。その後は、プログラミングに関する研究テーマについて、計画の策定、実行、発表などを行う。				
授業方針	学期の後半は、それまでに学習したことを応用して、卒業研究の前段階となる研究を行う。大きなテーマはプログラミングであるが、より具体的なテーマは各自が自らの興味に従って自発的に選択することが望ましい。テーマを選択した後は、そのテーマに関する準備的な調査・研究を行う。必要ならばテーマや計画の再検討を行う。最後に、各自の研究経過の発表を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 前期の復習と後期の計画 第2回 プログラミング演習(1) クラスの基本 第3回 プログラミング演習(2) クラス変数・クラスメソッド 第4回 プログラミング演習(3) クラスの継承 第5回 プログラミング演習(4) モジュール 第6回 プログラミング演習(5) 文字列の操作 第7回 プログラミング演習(6) 正規表現 第8回 プログラミング演習(7) ファイル 第9回 プログラミング演習(8) 例外処理 第10回 研究テーマと計画の策定 第11回 準備調査 第12回 研究計画の実行 第13回 研究計画の実行と再検討 第14回 研究経過の発表 第15回 レポート作成				
準備学習	(1)教科書を読んで予習する。(30時間) (2)復習として練習問題に取り組む。(30時間)				
学習到達目標	(1)実用的なプログラムを自分で作るようになる。 (2)自主的に学習を進めることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)プログラミングの技能を高めることができたか。 (2)自主的に学習を進めることができたか。			
	成績評価 方法	平常点60%+期末レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 「やさしいPython」(高橋 麻奈、SBクリエイティブ、2018年) (2)参考書 適宜紹介する				
備考					

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	2DCG、3DCGを用いたクリエイティブコンテンツ制作				
授業方針	2DCG用ソフトウェア(Illustrator, Photoshop)や3DCG用ソフトウェア(Mayaなど)を用いて静止画制作や映像制作における、より高度なスキルと知識を学ぶ。また後期はCG制作の高度な知識と制作スキルを身につけると共に社会人としての実力を身に付けていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方 第2回 演習(1)モデリング応用編 ポリゴンモデル 第3回 演習(2)モデリング応用編 Nurbsモデル 第4回 演習(3)モデリング応用編 デフォメーション 第5回 演習(4)アニメーション応用編 モーションパスとドリブンキー 第6回 演習(5)アニメーション応用編 モーフィング 第7回 演習(6)マテリアル応用編(反射、屈折)、高度なレンダリング設定 第8回 演習(7)レンダリング応用編(MentalRay) 第9回 演習(8)レンダリング応用編(グローバルイルミネーション) 第10回 演習に関する中間報告、制作課題の決定 第11回 作品制作、進捗確認とアドバイス(グループ1) 第12回 作品制作、進捗確認とアドバイス(グループ2) 第13回 作品制作、進捗確認とアドバイス(修正分の確認を重視する) 第14回 作品発表(プレゼンテーション形式)及び講評会 第15回 次年度卒業制作に向けた説明、まとめ及び試験				
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(40時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(20時間)				
学習到達目標	見る人に印象を残すことができる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、プレゼンテーションの内容			
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 開講時に指定 参考書 開講時に指定				
備考	学習内容は3DCGを学習したい人向けの内容である。但し、3DCG以外の分野を学習したい人は第1回演習時に教員と共に学習内容を決定することが出来る。				

科目名	情報社会一般演習II				
クラス	[08クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	本吉 裕之			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「経営」に関する様々な分析方法と、今後の新サービス構築に向けて、建設的な議論を行う。【実務経験】日本交通公社(現・JTB) 東京銀座支店、ドコモAOLビジネス開発部を経てプライムリンク(現・株式会社一休(Zホールディングス))。一休.com宿泊施設等への営業及び新サービスの企画・開発に取り組み、宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	各自、グループでの作業(演習)による学生自身の主体的な取組を重視する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 後期授業の全体像、経営手法とは何か 第2回 就活支援、ES作成 第3回 市場規模、将来性について 第4回 業界の歴史、商品・サービス特性 第5回 業界構造、競合状況、メジャープレイヤー 第6回 ビジネスモデル分析 第7回 時間軸発想について 第8回 目的展開法① 第9回 目的展開法② 第10回 プレゼンテーション① 第11回 プレゼンテーション② 第12回 業界研究 第13回 卒論テーマ検討 第14回 卒論テーマディスカッション 第15回 まとめとレポート提出				
準備学習	企業の最新ニュースを各自まとめ、毎回発表できるようにする。				
学習到達目標	業界分析についての概要理解 経営企画に関わる数値を理解できるようにする				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各自の進路における業界分析を行い、プレゼンテーションできるようにする。			
	成績評価 方法	出席及び授業への積極参加・貢献50%、プレゼンテーション及びレポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[09クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火4
担当教員	林 信義			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	ビジネスモデルのフレームワークを理解し、企業ごとの活動の「違い」について開発・生産・物流・販売などのプロセスに着目し比較検討する。そして、各自、関心のある企業を抽出し、成長戦略について討議する。これにより就業意欲の向上を目指す。			
授業方針	ビジネスモデルのフレームワークに関する知識を習得した上で各自、関心のある企業を選択し、フレームワークに従って分析、発表の上、全体で討議していく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ビジネスのプロセスを知る 第2回 ビジネスモデルをつくるフレームワーク 第3回 顧客価値を提案する(1) 第4回 顧客価値を提案する(2) 第5回 利益を設定する(1) 第6回 利益を設定する(2) 第7回 プロセスを構築する(1) 第8回 プロセスを構築する(2) 第9回 問題解決技法(1) 第10回 問題解決技法(2) 第11回 ケース分析発表・討議 第12回 ケース分析発表・討議 第13回 ケース分析発表・討議 第14回 ケース分析発表・討議 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。(30時間) 自らの考え、疑問点をまとめておくこと。(30時間)			
学習到達目標	ビジネスモデルのフレームワークを理解し、活用できるようになる。 企業活動に興味、関心が沸き、就業意欲が向上する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ビジネスモデルのフレームワークを理解し、活用できるか。 興味、関心のある企業を抽出し、分析できるか。		
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、発表・レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、講義に関する資料を紹介する。			
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。			

科目名	情報社会一般演習II			
クラス	[10クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	2DCGソフトウェア(Illustrator, Photoshop)を利用したデザインに必要なスキルと高度な応用知識について学び、各自の研究テーマに即した課題制作を通じてコンテンツ提案能力を身につけることを目標とする。			
授業方針	授業では、指定した研究課題について各自が調べてきた内容を報告する。オリジナルのアイデアによるコンテンツ制作能力の修得を目標とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究概要説明 グループディスカッション 第2回 研究テーマ検討 研究事例紹介 論文輪講 第3回 研究テーマ検討 メディア関連 論文輪講 第4回 エモーショナル・デザイン 第5回 情報技術とパフォーマンス表現 第6回 デジタル映像と空間演出 第7回 研究活動の中間報告 第8回 生態学的知覚システムとデザイン表現 第9回 マルチモーダルメディア 第10回 コミュニケーション・デザイン 第11回 研究課題制作(1) 個別制作指導 第12回 研究課題制作(2) 研究活動報告 第13回 研究課題制作(3) グループディスカッション 第14回 最終発表 講評会 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題、最終レポート課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ、ゼミ研究に関する予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	CG制作に関する専門知識とコンテンツ事例について理解し、自身の考えをもとに説明できる。 最新CG技術について理解し、専門知識について説明することができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究分野に関する専門知識と事例について理解し、自身の考えをもとに説明できる。 最新デジタル技術を利用したコミュニケーションサービスについて理解し、専門知識について説明することができる。		
	成績評価 方法	中間レポート30% 中間課題30% 最終課題作品 最終プレゼンテーション40%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書:授業内で適宜指定する。 参考書:授業内で適宜指定する。			
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。			

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3,金4
担当教員	本吉 裕之			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	最終年度の総決算として卒業研究をまとめる。3年間の学習の成果を総括し、それを受けて各自がテーマを設定、1年かけて研究レポートをまとめ、研究計画の立案、実行、見直しやゼミ内での共有ディスカッションなどによって研究内容を深めて行くプロセス自体も重視する。ボリュームのあるレポート完成後に、プレゼンテーションを行い4年間の大学生活の集大成とする。【実務経験】JTB東京銀座支店、一休.com宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	卒論作成に資する情報を適宜提供しつつ、各自が調査研究を進めていく。面談による個別指導、メンバーでの共有により、レベルアップを行っていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究テーマ(仮)発表 第2回 計画作成、調査、資料収集 第3回 研究計画の発表 第4回 調査 第5回 調査 第6回 調査 第7回 研究テーマの絞り込み、発表 第8回 調査 第9回 調査 第10回 結論(仮説)の作成 第11回 結論(仮説)の発表 第12回 骨子の作成 第13回 骨子の発表 第14回 中間報告/面談 第15回 まとめ及びプレゼンテーション試験				
準備学習	前回の内容について確認した上で授業に臨むこと				
学習到達目標	卒業研究骨子(詳細)の完成				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究骨子(詳細)について、論点が見えているか、課題が設定されており解決の糸口が見えているか			
	成績評価 方法	授業参加状況25%、ディスカッションにおける貢献度25%、レポート25%、プレゼンテーション試験25%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3,水4
担当教員	村山 要司			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	3年次に学習したコンピュータサイエンスを活用し、経営問題の解決を図る。前期は、各自が興味のある分野について調査を行い、卒業研究のテーマをまとめる。【実務経験】本科目は、IT企業で技術者、経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。				
授業方針	論文作成方法について解説を行う。各自がテーマに沿った文献の調査、まとめを行い、その結果を報告し合うことにより、テーマ、研究内容の議論を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 卒業研究の進め方 第2回 論文の書き方 第3回 研究テーマの設定 第4回 先行研究の調査① 第5回 先行研究の調査② 第6回 先行研究の調査③ 第7回 研究テーマの明確化 第8回 先行研究の調査① 第9回 先行研究の調査② 第10回 先行研究の調査③ 第11回 論文の骨子の作成 第12回 研究報告① 第13回 研究報告② 第14回 研究報告③ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	研究に関する文献の調査を常時行うこと。(30時間) 研究テーマを実現するための手法について自主的に学習すること。(30時間)				
学習到達目標	卒業研究のテーマ設定に向けて、自主的に調査・研究を進めることができる。 調査・研究した内容を適切に分かりやすく伝えることができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自主的に調査・研究を進め、卒業研究のテーマを設定できたか。 調査・研究した内容について適切に報告できたか。			
	成績評価 方法	取り組み方40%、最終成果物50%、成果発表10%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3,金4
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	情報社会総合演習I, IIを通して、各自が有用と考える情報システムの提案や設計、プロトタイプの実装を行い、卒業研究としてまとめる。情報社会総合演習Iでは、各自が興味のある分野において、情報システムを用いて解決できそうな問題とその解決手段の検討を行う。				
授業方針	各自で文献の調査とまとめ、および発表を通して卒業研究の研究テーマの決定を行う。並行して随時、研究内容に関する議論を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 情報社会総合演習Iの進め方 第 2回 研究テーマの設定 第 3回 先行事例の調査とまとめ(1) 第 4回 先行事例の調査とまとめ(2) 第 5回 先行事例の調査とまとめ(3) 第 6回 研究テーマの再設定(1) 第 7回 先行事例の調査とまとめ(4) 第 8回 先行事例の調査とまとめ(5) 第 9回 先行事例の調査とまとめ(6) 第10回 研究テーマの再設定(2) 第11回 先行事例の調査とまとめ(7) 第12回 先行事例の調査とまとめ(8) 第13回 卒業研究テーマの設定(1) 第14回 卒業研究テーマの設定(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	研究に関連する文献の調査を常時行うこと(20時間) 研究テーマを実現するシステムを構築すること(20時間) 研究テーマについて議論を行えるよう、常に整理しておくこと(20時間)				
学習到達目標	卒業研究のテーマ設定に向けて、自主的に調査・研究をすすめることができる。同時に、研究状況のまとめと発表、議論を適切に行える。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自主的に研究を進め、卒業研究のテーマを探索し、設定することができたか。研究内容に関する議論を適切にすすめることができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題90%、期末課題10%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4,金4
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究論文の問題意識、構成および資料収集の方法などにつき、各受講生の題材に沿った指導を中心に進めていきます。				
授業方針	受講生一人一人の論文作成の進行状況に合わせた発表とそれに対する他の受講者によるディスカッションを中心に指導していきます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション&論文作成の諸注意 第2回 論文のテーマと構成の発表(1) 第3回 論文のテーマと構成の発表(2) 第4回 論文のテーマと構成の発表(3) 第5回 資料収集の方法(図書館でのデータベース利用を含む)  第6回 資料の読み方指導(1) 第7回 資料の読み方指導(2) 第8回 論文の書き方指導(1) 第9回 論文の書き方指導(2) 第10回 論文の書き方指導(3)  第11回 論文の執筆と経過発表(1) 第12回 論文の執筆と経過発表(2) 第13回 論文の執筆と経過発表(3) 第14回 まとめ&夏休みの計画など				
準備学習	①各自の卒論テーマに沿った資料を精読する。 ②卒業論文を作成する。				
学習到達目標	各自の卒業研究テーマに関して、文献調査、資料の精読を行い、卒業研究論文の執筆を開始できることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各自の卒業研究論文の進捗状況が計画通りに進んでいるかについて評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(30%)、授業内発表(30%)、卒業論文の執筆状況(40%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	指定なし				
備考	法学概論、知的財産権法、民法または法学応用演習など法学関連の科目について履修済か履修中であることが望ましいです。				

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3,金4
担当教員	檀上 誠			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	4年生の演習は、主として「研究および作品制作」をスケジュールに従って順次行う。各自、決定した研究テーマについて、適宜、研究の進捗状況を担当教員に報告する。				
授業方針	各自、自己の関心に照らして、卒業研究のテーマを設定する。単に作品制作を行うのではなく、テーマの意義を深く考える必要がある。テーマの意義を考えるにあたり、必要な文献の読破や作品集などを分析するなど、各自の研究テーマに沿って効率的に卒業研究が行えるよう指導する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 卒業研究のテーマおよび卒業研究計画書の立案 第 2回 卒業研究のテーマおよび卒業研究計画書の修正 第 3回 卒業研究のテーマおよび卒業研究計画書の提出 第 4回 卒業研究計画書の発表会(プレゼンテーション形式) 第 5回 Photoshopを用いた高度な2DCG制作 第 6回 Illusutradorを用いた高度な2DCG制作 第 7回 PhotoshopとIllusutradorを用いた高度な2DCG制作 第 8回 中間発表(プレゼンテーション形式) 第 9回 ポートフォリオ制作(静止画) 第10回 AfterEffectを用いた映像制作技術(基礎)の修得、絵コンテの書き方 第11回 AfterEffectを用いた特殊効果技術の修得 第12回 AfterEffectを用いたノンリニア編集技術の修得 第13回 AfterEffectを用いた高度なノンリニア編集技術の修得 第14回 作品発表(プレゼンテーション形式)及び講評会、卒業制作及び卒業レポートに関する説明 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(60時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(60時間)				
学習到達目標	自己の卒業研究の準備状況や改善点を明確にしながら研究および制作を行う				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究への取り組み、テーマについての研究の達成度を評価			
	成績評価 方法	作品制作(技能面)40%、制作に関する研究内容(知識面)40%、プレゼンテーション内容(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	演習時、適宜紹介してゆく				
備考	学習内容は個人の目標によって内容が変化するため、担当教員に必ず早期に相談すること				

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3,月4
担当教員	林 信義			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	3年次で学習したビジネスモデルのフレームワークを活用し、興味・関心のある企業や業界に関する問題意識から仮説を構築し、調査研究を行い、論文を作成する。				
授業方針	前半は論文作成の方法論や技法について学習する。後半は論文作成状況の報告と、それぞれの内容に関連するディスカッションを繰り返しながら進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 論文作成の全体像 第2回 論文作成の流れ 第3回 論文作成の実践 第4回 問題意識の明確化(1) 第5回 問題意識の明確化(2) 第6回 問題意識の明確化(3) 第7回 先行調査の研究(1) 第8回 先行調査の研究(2) 第9回 先行調査の研究(3) 第10回 先行調査の研究(4) 第11回 仮説の構築(1) 第12回 仮説の構築(2) 第13回 仮説の構築(3) 第14回 中間報告 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。(60時間)				
学習到達目標	論文作成に必要な一連のステップを理解できるようになる。 仮説の構築、検証を行うことで論理的な考え方ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文作成ステップを理解し、実践できるか。 論文作成の方法論、技法を学び、実践できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲50%、発表・中間報告50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要な資料などは随時指示する。				
備考					

科目名	情報社会総合演習I						
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期		
				曜日・時限	月4,水4		
担当教員	宮井 里佳			単位区分	◎(必修)		
				単位数	4		
概要 (目的・内容)	情報社会一般演習 I・IIに引き続いて、情報社会において求められる高いコミュニケーション能力と問題発見・解決能力のさらなる養成につとめる。卒業研究(論文)のテーマを決定する作業を通して、各人の問題意識を明確にする。情報・資料の収集の仕方、自らの問題を発見し、立論する方法を身につけ、発表・討論を通じてプレゼンテーション力、ディスカッション能力を磨くことを目標とする。						
授業方針	卒業研究(論文)を作成するための文献講読と発表を中心に進める。自ら文献を読み進め、調査・考察したことを発表し、また他人の発表に対して質疑・批評を加え、あるいは助言を行う中で、卒業研究に必要な知識・方法を身につける。						
学習内容 (授業 スケジュール)	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第1回 卒業研究(論文)作成のスケジュール  第2回 春休み課題の発表と批評(1)-学生A・B  第3回 春休み課題の発表と批評(2)-学生C・D  第4回 春休み課題の発表と批評(3)-学生E・F  第5回 春休み課題の発表と批評(4)-学生G・H  第6回 発表の仕方(1)-レジユメの作り方  第7回 卒業研究テーマの選定(1)-学生A・B・C・D  第8回 卒業研究テーマの選定(2)-学生E・F・G・H  第9回 文献講読:学生Aと類似テーマの論文  第10回 文献講読:学生Bと類似テーマの論文  第11回 文献講読:学生Aと類似テーマの過去年度の卒論  第12回 文献講読:学生Bと類似テーマの過去年度の卒論  第13回 論文の書き方(1):情報収集の方法  第14回 文献講読:学生Cの関連文献(1)  第15回 文献講読:学生Cの関連文献(2) </td> <td style="vertical-align: top;"> 第16回 文献講読:学生Cの関連文献(3)  第17回 文献講読:学生Cの関連文献(4)  第18回 テーマ選定の仕方:討論(学生Cの立場になって)  第19回 テーマ選定の仕方:アウトライン(学生Cの立場になって)  第20回 論文の書き方(2)-アウトラインの作成  第21回 文献講読:学生Dの関連文献(1)  第22回 文献講読:学生Dの関連文献(2)  第23回 文献講読:学生Dの関連文献(3)  第24回 文献講読:学生Dの関連文献(4)  第25回 テーマ選定の仕方:討論(学生Dの立場になって)  第26回 論文の書き方(3):アウトラインと研究計画  第27回 卒業研究中間発表(1)  第28回 卒業研究中間発表(2)  第29回・第30回 まとめ及び試験 </td> </tr> </table>					第1回 卒業研究(論文)作成のスケジュール 第2回 春休み課題の発表と批評(1)-学生A・B 第3回 春休み課題の発表と批評(2)-学生C・D 第4回 春休み課題の発表と批評(3)-学生E・F 第5回 春休み課題の発表と批評(4)-学生G・H 第6回 発表の仕方(1)-レジユメの作り方 第7回 卒業研究テーマの選定(1)-学生A・B・C・D 第8回 卒業研究テーマの選定(2)-学生E・F・G・H 第9回 文献講読:学生Aと類似テーマの論文 第10回 文献講読:学生Bと類似テーマの論文 第11回 文献講読:学生Aと類似テーマの過去年度の卒論 第12回 文献講読:学生Bと類似テーマの過去年度の卒論 第13回 論文の書き方(1):情報収集の方法 第14回 文献講読:学生Cの関連文献(1) 第15回 文献講読:学生Cの関連文献(2)	第16回 文献講読:学生Cの関連文献(3) 第17回 文献講読:学生Cの関連文献(4) 第18回 テーマ選定の仕方:討論(学生Cの立場になって) 第19回 テーマ選定の仕方:アウトライン(学生Cの立場になって) 第20回 論文の書き方(2)-アウトラインの作成 第21回 文献講読:学生Dの関連文献(1) 第22回 文献講読:学生Dの関連文献(2) 第23回 文献講読:学生Dの関連文献(3) 第24回 文献講読:学生Dの関連文献(4) 第25回 テーマ選定の仕方:討論(学生Dの立場になって) 第26回 論文の書き方(3):アウトラインと研究計画 第27回 卒業研究中間発表(1) 第28回 卒業研究中間発表(2) 第29回・第30回 まとめ及び試験
第1回 卒業研究(論文)作成のスケジュール 第2回 春休み課題の発表と批評(1)-学生A・B 第3回 春休み課題の発表と批評(2)-学生C・D 第4回 春休み課題の発表と批評(3)-学生E・F 第5回 春休み課題の発表と批評(4)-学生G・H 第6回 発表の仕方(1)-レジユメの作り方 第7回 卒業研究テーマの選定(1)-学生A・B・C・D 第8回 卒業研究テーマの選定(2)-学生E・F・G・H 第9回 文献講読:学生Aと類似テーマの論文 第10回 文献講読:学生Bと類似テーマの論文 第11回 文献講読:学生Aと類似テーマの過去年度の卒論 第12回 文献講読:学生Bと類似テーマの過去年度の卒論 第13回 論文の書き方(1):情報収集の方法 第14回 文献講読:学生Cの関連文献(1) 第15回 文献講読:学生Cの関連文献(2)	第16回 文献講読:学生Cの関連文献(3) 第17回 文献講読:学生Cの関連文献(4) 第18回 テーマ選定の仕方:討論(学生Cの立場になって) 第19回 テーマ選定の仕方:アウトライン(学生Cの立場になって) 第20回 論文の書き方(2)-アウトラインの作成 第21回 文献講読:学生Dの関連文献(1) 第22回 文献講読:学生Dの関連文献(2) 第23回 文献講読:学生Dの関連文献(3) 第24回 文献講読:学生Dの関連文献(4) 第25回 テーマ選定の仕方:討論(学生Dの立場になって) 第26回 論文の書き方(3):アウトラインと研究計画 第27回 卒業研究中間発表(1) 第28回 卒業研究中間発表(2) 第29回・第30回 まとめ及び試験						
準備学習	①発表レポートを作成するために、情報収集、文献の精読、考察を進めること。(40時間) ②発表に当たって、発表内容をよく整理し、レジユメを作成しておくこと。(20時間) ③研究計画を立て、それに沿って調査・研究を進める際には、随時指導を求めること。(15時間) ④発表後には、コメントや討論を踏まえて、論文を改訂すること。(25時間) ④他の発表者の論文をあらかじめ読んで 批評 討論の準備をすること(20時間)						
学習到達目標	①課題文献に対して、正確に、かつ深く読解し、それに対する自己の見解を適切に文章で表現すること、ならびに、それぞれの研究テーマに対して、②調べたこと、考えたことを口頭で適切に発表し、③他人の発表に対して適切にコメントできることを目標とする。同時に、④卒業研究テーマを選定し、研究計画を立て、それに沿って研究を進める。						
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①課題文献を正確、かつ深く読解し、それに対する自己の見解を的確に文章化できたか。②口頭発表できたか。③他人の発表に対し、適切にコメントし、議論を深められたか。④個別の研究テーマを選定し、研究計画を立てられたか。					
	成績評価 方法	課題提出 25% 発表 25% 授業中のコメント、議論 25% 期末レポート(卒論アウトライン)25%					
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。					
教材	(1)教科書 プリント(文献・論文コピー等)を配布する。 (2)参考書 授業中随時指導する。 (3)その他						
備考	「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」「現代社会と宗教」を履修しておくこと。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。						

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	初回に具体的なテーマを検討し、それに基づき制作を行ってゆく。				
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テーマの決定とディスカッション 第2回 テーマにもとづく音源試聴・文献資料調査 第3回 タイムテーブル作成 第4回 テーマにもとづく文献資料の輪読 第5回 テーマにもとづく音源資料の視聴 第6回 文献資料・音源資料のまとめ 第7回 課題実習(I)音源制作(MIDI) 第8回 課題実習(II)音源制作(オーディオ) 第9回 課題実習(II)音源制作(複合) 第10回 課題実習(III)レジュメ作成 第11回 課題実習(IV)論文作成(前半) 第12回 課題実習(IV)論文作成(後半) 第13回 研究課題の問題点の修正、確認 第14回 研究課題の発表とディスカッション,研究課題の問題点の修正、確認 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	音楽や音響について知り、アプリケーションで制作ができるようになる事を目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	学期末の提出作品 70%,レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考					

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[09クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4,金3
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	コンピュータはプログラムにしたがってさまざまな処理を実行する装置である。したがって、情報技術の本質を理解するためには、プログラミング(プログラム作り)を学習することが大変重要である。この演習では、プログラミングに関連するテーマについて卒業研究を行う。				
授業方針	この演習は1年間を通して行う卒業研究の第1段階である。まず、3年次の一般演習で学習したことをふまえて、各自が具体的な研究テーマを決める。テーマが決まったら、予備調査を行った後、実際の研究を開始する。前期の最後には、それまでに研究した内容について中間発表を行う。なお、コンピュータ実習には各自のノートPCを用いる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1週 卒業研究の進め方 第2週 研究テーマ策定 第3週 予備調査 第4週 研究計画の決定 第5週 研究報告と議論(1) 第6週 研究報告と議論(2) 第7週 研究報告と議論(3) 第8週 研究報告と議論(4) 第9週 研究報告と議論(5) 第10週 研究報告と議論(6) 第11週 研究報告と議論(7) 第12週 研究報告と議論(8) 第13週 中間発表準備 第14週 中間発表 第15週 レポート作成 注:研究テーマは教員と相談の上、各自が決める				
準備学習	研究にかかわる作業を進める。(120時間)				
学習到達目標	(1)自主的に研究を進める。 (2)研究内容の発表を適切に行う。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができたか。 (2)研究内容の発表が適切にできたか。			
	成績評価 方法	平常点50%+研究レポートおよび口頭発表50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜指示する				
備考					

科目名	情報社会総合演習I				
クラス	[10クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3,月4
担当教員	森沢 幸博			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	情報メディア、コンテンツについて学び、デジタル技術表現に関する知識の習得を目指す。 デザイン専用ソフトウェアの操作知識を身につける。卒業研究の準備を進め、各自で卒業研究のテーマをまとめる。				
授業方針	デジタル技術を駆使したデザイン制作に必要な制作技術について指導する。作品制作を通じて自身の興味対象や技術への理解を深めるため、参考となる文献や資料を紹介する。指定した研究課題について各自が調べてきた内容を報告する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 卒業研究制作のテーマ設定 第 2回 卒業研究計画(1) ディスカッション 第 3回 卒業研究計画(2) フィールド調査 第 4回 卒業研究準備(1) コミュニケーション・デザイン(デザイン史) 第 5回 卒業研究準備(2) コミュニケーション・デザイン(コンテンツ制作1) 第 6回 卒業研究準備(3) コミュニケーション・デザイン(コンテンツ制作2) 第 7回 卒業研究準備(4) コミュニケーション・デザイン(コンテンツ制作3) 第 8回 卒業研究課題 中間報告 第 9回 卒業研究の制作指導(1) 論文輪講(デザイン) 第10回 卒業研究の制作指導(2) 論文輪講(モビリティ) 第11回 卒業研究指導(1) 論文輪講(メディアアート) 第12回 卒業研究指導(2) 論文輪講(インターネット) 第13回 卒業研究指導(3) プレゼンテーション指導 第14回 卒業研究発表 全体講評 質疑応答 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題,最終レポート課題作成(20時間) 指定した教科書の要点をまとめ,卒業研究に関する予習と復習をしておく(30時間)				
学習到達目標	高度な専用ソフトウェアの操作について学び,各種コンテンツ制作やUI/UX提案ができるようになる。 最新のデジタル技術について学び,情報メディアの課題や特徴について説明できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	高度な専用ソフトウェア操作について学び,デジタル・コンテンツ制作に必要な応用技術を身につけて利用することができる。 最新のデジタル・コンテンツについて学び,情報メディアの課題や特徴について説明できる。			
	成績評価 方法	中間レポート30% 中間課題20% 最終課題(プレゼンテーション・作品提出)50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:授業内で適宜指定する。 参考書:授業内で適宜指定する。				
備考	欠席する場合は必ず連絡すること。学習に関する相談は適時対応します。				

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3,金4
担当教員	本吉 裕之			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	最終年度の総決算として卒業研究をまとめる。3年間の学習の成果を総括し、それを受けて各自がテーマを設定、1年かけて研究レポートをまとめ、研究計画の立案、実行、見直しやゼミ内での共有ディスカッションなどによって研究内容を深めて行くプロセスも重要視する。ボリュームのあるレポート完成後に、プレゼンテーションを行い、4年間の大学生活の集大成とする。【実務経験】JTB東京銀座支店、一休.com宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	卒論作成に資する情報を適宜提供しつつ、各自が調査研究を進めていく。面談による個別指導、メンバー全体での共有により、レベルアップを行っていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 骨子、論文概略、課題 第2回 ディスカッション、執筆、面談 第3回 ディスカッション、執筆、面談 第4回 ディスカッション、執筆、面談 第5回 ディスカッション、執筆、面談 第6回 ディスカッション、執筆、面談 第7回 中間発表 第8回 ディスカッション、執筆、面談 第9回 レポート確認 第10回 レポート提出 第11回 推敲 第12回 推敲 第13回 論文最終提出 第14回 プレゼンテーション 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	前回の内容について確認した上で授業に臨むこと				
学習到達目標	卒業研究論文の完成				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究論文について、論旨が明確か、妥当な内容か、卒論に相応しい水準か プレゼンテーションについて、わかり易い発表であったか、アピールすることが出来たか			
	成績評価 方法	授業への積極的参加25%、卒業研究論文50%、プレゼンテーション試験25%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3,水4
担当教員	村山 要司			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	3年次に学習したコンピュータサイエンスを活用し、経営問題の解決を図る。後期は、各自が設定した研究テーマについて、調査・研究を行い、論文としてまとめる。【実務経験】本科目は、IT企業で技術者、経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。				
授業方針	各自が自主的に調査・研究、論文の執筆を行い、その進捗を報告し合うことにより、完成に向けて内容を深める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 卒業研究の進め方 第2回 研究の進捗状況報告① 第3回 研究の進捗状況報告② 第4回 研究の進捗状況報告③ 第5回 研究の進捗状況報告④ 第6回 論文作成状況報告① 第7回 論文作成状況報告② 第8回 論文作成状況報告③ 第9回 論文作成状況報告④ 第10回 論文の推敲① 第11回 論文の推敲② 第12回 論文の推敲③ 第13回 研究発表① 第14回 研究発表② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業で進捗報告が行えるよう調査・研究、論文の執筆活動を進めること。(50時間) 研究テーマを実現するための手法について自主的に学習すること。(10時間)				
学習到達目標	卒業研究論文作成に向けて、自主的に調査・研究を進めることができる。 調査・研究した内容を論文としてまとめ、発表ができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自主的に調査・研究を進め、論文としてまとめることができたか。 論文の内容について適切に発表できたか。			
	成績評価 方法	取り組み方40%、最終成果物50%、成果発表10%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3,月4
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	情報社会総合演習I, IIを通して、各自が有用と考える情報システムの提案や設計、プロトタイプの実装を行い、卒業研究としてまとめる。情報社会総合演習IIでは、各自が興味のある分野において、問題の解決を行うシステムを構築し、その内容と評価を論文としてまとめ、発表する。				
授業方針	各自で文献の調査とまとめ、および発表を通して卒業研究の研究テーマの決定を行う。並行して随時、研究内容に関する議論を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 研究テーマの発表 第 2回 卒業論文執筆の概要 第 3回 対象とする問題の検討 第 4回 対象とするシステムの検討 第 5回 プロトタイプシステムの作成と評価(1) 第 6回 プロトタイプシステムの作成と評価(2) 第 7回 プロトタイプシステムの作成と評価(3) 第 8回 プロトタイプシステムの作成と評価(4) 第 9回 論文の執筆と議論(1) 第10回 論文の執筆と議論(2) 第11回 論文の執筆と議論(3) 第12回 論文の執筆と議論(4) 第13回 卒業研究論文の発表演習(1) 第14回 卒業研究論文の発表演習(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	卒業研究論文の執筆を各自で進めること。そのために、最低限、以下を行うこと。 ・研究に関連する文献の調査を常時行うこと(20時間) ・研究テーマを実現するシステムを構築すること(20時間) ・研究テーマについて議論を行えるよう、常に整理しておくこと(20時間)				
学習到達目標	自主的に調査・研究をすすめ、論文としてまとめることができる。研究内容の発表と議論を適切に行える。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自主的に調査・研究をすすめ、論文をまとめることができたか。研究内容の発表と議論を適切に行えたか。			
	成績評価 方法	卒業論文作成に向けた調査・研究、および卒業論文の完成と発表100%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2,木2
担当教員	李 艶紅			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究論文の作成指導を中心に演習形式で行います。				
授業方針	受講生一人一人の論文作成の進行状況に合わせた発表とそれに対する他の受講者によるディスカッションを中心に指導して行きます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 卒業研究論文の進捗状況報告(1) 第2回 卒業研究論文の進捗状況報告(2) 第3回 卒業研究論文の進捗状況報告(3)  第4回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(1) 第5回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(2) 第6回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(3) 第7回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(4) 第8回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(5) 第9回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(6) 第10回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(7) 第11回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(8) 第12回 卒業研究論文の進捗状況報告及び論文執筆指導(9)  第13回 卒業研究論文の発表練習指導(1) 第14回 卒業研究論文の発表練習指導(2)				
準備学習	週一回のペースで卒業研究論文の進捗状況を演習内で報告するため、コンスタントに論文の執筆を進める必要があります。				
学習到達目標	卒業研究論文を完成させ(20ページ以上)、自己の問題意識とその解決方法について口頭発表をします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究論文の完成状況と口頭発表を中心に評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加・論文執筆進捗状況報告(30%)、卒業論文(35%)、卒業研究口頭発表(35%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	指定なし				
備考					

科目名	情報社会総合演習II			
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2,金3
担当教員	檀上 誠			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、「研究および作品制作」をスケジュールに従って順次行う。各自、自ら決定した研究テーマについて、適宜、研究の進捗状況を担当教員に報告する。			
授業方針	各自、自己の関心に照らして、卒業研究のテーマを設定する。単に作品制作を行うのではなく、テーマの意義を深く考える必要がある。テーマの意義を考えるにあたり、必要な文献の読破や作品集などを分析するなど、各自の研究テーマに沿って効率的に卒業研究が行えるよう指導する。また最終発表会に向け、プレゼンテーション能力に磨きをかけていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 後期演習時における注意点などの説明、作品制作および論文作成の進捗状況の報告 第 2回 3DCGと実写合成について 第 3回 AfterEffectを用いた映像制作技術について(前期の復習込み) 第 4回 AfterEffectを用いた実写合成(基礎)技術の修得 第 5回 AfterEffectを用いた実写合成(応用)技術の修得 第 6回 3DCG素材を用いた実写合成について 第 7回 3DCG素材を用いた高度な実写合成技術の修得 第 8回 中間発表(プレゼンテーション形式) 第 9回 Premireを用いた映像制作技術(基礎)の修得 第10回 Premireを用いたリニア編集技術の修得 第11回 Premireを用いた高度なリニア編集技術の修得 第12回 卒業研究作品、レポート提出について最終確認 第13回 最終プレゼンテーションのデモおよび反省会(第1グループ) 第14回 最終プレゼンテーションのデモおよび反省会(第2グループ)、公聴会に向けた準備説明 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	・制作活動に必要とされるCGツールの専門的知識を事前に理解しておくこと。(20時間) ・制作活動に関連する書籍や参考作品について情報収集を行うこと。(40時間) ・制作レポートまたは論文の書き方について理解しておくこと。(60時間)			
学習到達目標	卒業制作と制作レポート、もしくは論文の完成			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究の内容の達成度を評価		
	成績評価 方法	作品制作(技能面)40%、制作に関する研究内容(知識面)40%、プレゼンテーション内容(20%)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	演習時、適宜紹介してゆく			
備考	学習内容は個人の目標によって内容が異なるため、担当教員に必ず早期に相談すること			

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3,月4
担当教員	林 信義			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	前期に導出したテーマに沿って、調査の実施、調査結果の分析・検討を行い、論文の作成を行う。調査研究能力、プレゼンテーション能力の養成に取り組んでいく。				
授業方針	前半は調査研究に基づいて仮説の検証と仮説の再構築を行う。後半は論文作成とプレゼンテーションを繰り返し、論文のブラッシュアップを図る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 調査研究方法の検討(1) 第 2回 調査研究方法の検討(2) 第 3回 調査の実施(1) 第 4回 調査の実施(2) 第 5回 調査の実施(3) 第 6回 調査結果の分析・検討(1) 第 7回 調査結果の分析・検討(2) 第 8回 調査結果の分析・検討(3) 第 9回 論文発表・討議(1) 第10回 論文発表・討議(2) 第11回 論文発表・討議(3) 第12回 論文発表・討議(4) 第13回 論文最終確認(1) 第14回 論文最終確認(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。(120時間)				
学習到達目標	論文を完成させ、プレゼンテーションができるようになる。 論文作成を通して社会人に向けた意欲が高まる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文を完成させ、プレゼンテーションを行えたか。 論文作成を通して社会人に向けた意欲が高まったか。			
	成績評価 方法	論文の完成度で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要な資料などは随時指示する。				
備考					

科目名	情報社会総合演習II																																	
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期																														
				曜日・時限 火3,水4																														
担当教員	宮井 里佳			単位区分 ◎(必修)																														
				単位数 4																														
概要 (目的・内容)	前期に引き続いて、高度情報化社会に必要なコミュニケーション能力と問題発見・解決能力とのさらなる向上をめざすことを目標とする。卒業研究(論文)を作成し、研究発表を行うことによって、専門的な知識を獲得し、高度な読解力と自己表現力を獲得する。自己の考えを形にする苦しみを喜び、達成感を味わってほしい。																																	
授業方針	卒業研究(論文)の完成に向けて、文献の読解を深め、論文を作成し、それに対する批評を中心に行う。個人指導、グループ指導の時間が中心となる。卒業研究題目の提出、卒業論文の提出、メディア文化専攻合同での卒業研究(論文)発表会を課す。																																	
学習内容 (授業 スケジュール)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 夏休み課題の報告/卒業研究題目の決定の仕方</td> <td>第16回 卒論(草稿)批評-学生A・C</td> </tr> <tr> <td>第2回 卒業研究題目の決定についての相談</td> <td>第17回 卒論(草稿)批評-学生E・G</td> </tr> <tr> <td>第3回 夏休み課題の発表と批評(1)-学生A・B</td> <td>第18回 卒論(草稿)批評-学生F・H</td> </tr> <tr> <td>第4回 夏休み課題の発表と批評(2)-学生C・D</td> <td>第19回 卒論(草稿)批評-学生C・E</td> </tr> <tr> <td>第5回 夏休み課題の発表と批評(3)-学生E・F</td> <td>第20回 卒論(草稿)批評-学生D・F</td> </tr> <tr> <td>第6回 夏休み課題の発表と批評(4)-学生G・H</td> <td>第21回 卒論(草稿)批評-学生A・G</td> </tr> <tr> <td>第7回 卒業論文作成の進め方</td> <td>第22回 卒論(草稿)批評-学生B・H</td> </tr> <tr> <td>第8回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読</td> <td>第23回 卒論中間発表-学生A・B・C・D</td> </tr> <tr> <td>第9回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読(2)</td> <td>第24回 卒論中間発表(2)-学生E・F・G・H</td> </tr> <tr> <td>第10回 卒業論文の書き方:第8,9回文献の批評</td> <td>第25回 発表の仕方-卒論発表会の準備について</td> </tr> <tr> <td>第11回 卒論(草稿)批評-学生A・B</td> <td>第26回 発表の仕方(2)-レジュメと内容</td> </tr> <tr> <td>第12回 卒論(草稿)批評-学生C・D</td> <td>第27回 卒業研究(論文)発表会予行演習と批評</td> </tr> <tr> <td>第13回 卒論(草稿)批評-学生E・F</td> <td>第28回 卒業研究(論文)発表会予行演習第2回目</td> </tr> <tr> <td>第14回 卒論(草稿)批評-学生G・H</td> <td>第29,30回 まとめ及び試験:卒業研究(論文)発表会</td> </tr> <tr> <td>第15回 卒論(草稿)批評-学生B・D</td> <td></td> </tr> </table>				第1回 夏休み課題の報告/卒業研究題目の決定の仕方	第16回 卒論(草稿)批評-学生A・C	第2回 卒業研究題目の決定についての相談	第17回 卒論(草稿)批評-学生E・G	第3回 夏休み課題の発表と批評(1)-学生A・B	第18回 卒論(草稿)批評-学生F・H	第4回 夏休み課題の発表と批評(2)-学生C・D	第19回 卒論(草稿)批評-学生C・E	第5回 夏休み課題の発表と批評(3)-学生E・F	第20回 卒論(草稿)批評-学生D・F	第6回 夏休み課題の発表と批評(4)-学生G・H	第21回 卒論(草稿)批評-学生A・G	第7回 卒業論文作成の進め方	第22回 卒論(草稿)批評-学生B・H	第8回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読	第23回 卒論中間発表-学生A・B・C・D	第9回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読(2)	第24回 卒論中間発表(2)-学生E・F・G・H	第10回 卒業論文の書き方:第8,9回文献の批評	第25回 発表の仕方-卒論発表会の準備について	第11回 卒論(草稿)批評-学生A・B	第26回 発表の仕方(2)-レジュメと内容	第12回 卒論(草稿)批評-学生C・D	第27回 卒業研究(論文)発表会予行演習と批評	第13回 卒論(草稿)批評-学生E・F	第28回 卒業研究(論文)発表会予行演習第2回目	第14回 卒論(草稿)批評-学生G・H	第29,30回 まとめ及び試験:卒業研究(論文)発表会	第15回 卒論(草稿)批評-学生B・D	
第1回 夏休み課題の報告/卒業研究題目の決定の仕方	第16回 卒論(草稿)批評-学生A・C																																	
第2回 卒業研究題目の決定についての相談	第17回 卒論(草稿)批評-学生E・G																																	
第3回 夏休み課題の発表と批評(1)-学生A・B	第18回 卒論(草稿)批評-学生F・H																																	
第4回 夏休み課題の発表と批評(2)-学生C・D	第19回 卒論(草稿)批評-学生C・E																																	
第5回 夏休み課題の発表と批評(3)-学生E・F	第20回 卒論(草稿)批評-学生D・F																																	
第6回 夏休み課題の発表と批評(4)-学生G・H	第21回 卒論(草稿)批評-学生A・G																																	
第7回 卒業論文作成の進め方	第22回 卒論(草稿)批評-学生B・H																																	
第8回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読	第23回 卒論中間発表-学生A・B・C・D																																	
第9回 学生Eの類似テーマの過去年度卒論講読(2)	第24回 卒論中間発表(2)-学生E・F・G・H																																	
第10回 卒業論文の書き方:第8,9回文献の批評	第25回 発表の仕方-卒論発表会の準備について																																	
第11回 卒論(草稿)批評-学生A・B	第26回 発表の仕方(2)-レジュメと内容																																	
第12回 卒論(草稿)批評-学生C・D	第27回 卒業研究(論文)発表会予行演習と批評																																	
第13回 卒論(草稿)批評-学生E・F	第28回 卒業研究(論文)発表会予行演習第2回目																																	
第14回 卒論(草稿)批評-学生G・H	第29,30回 まとめ及び試験:卒業研究(論文)発表会																																	
第15回 卒論(草稿)批評-学生B・D																																		
準備学習	①卒業研究計画の進行、卒業論文の作成に当たって個別指導を受けること。(15時間) ②研究計画と指導にしたがって卒業論文の作成に従事すること。(45時間) ③コメントや添削、批判を踏まえて、卒業論文を修正すること。(50時間) ④研究発表に当たって、発表資料と発表原稿を作成し、予行演習を行い、準備すること。(10時間)																																	
学習到達目標	①個別の研究テーマを深く掘り下げ、自己の見解を的確に文章化し、卒業論文を完成させ、②卒業研究(論文)発表会において研究成果をしっかりと発表することを目標とする。同時に、③他人の発表に対し、適切にコメントし、有意義な議論が形成できるようになることを目標とする。																																	
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①より良い卒業論文の完成に向けて努力し、達成できたか。②卒業研究(論文)発表会において研究成果を立派に発表できたか。																																
	成績評価 方法	毎回の課題達成度 30% 卒業研究(論文)40% 卒業研究(論文)発表 30%																																
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。																																
教材	(1)教科書 定めず、必要に応じて資料を配布する。 (2)参考書 授業中随時指導する。 (3)その他																																	
備考	「世界の宗教と歴史」「仏教の歴史と思想」「現代社会と宗教」を履修しておくこと。中国関係を研究対象とする場合は、「東洋史特講」も履修すること。																																	

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	初回に具体的なテーマを検討し、それに基づき制作を行ってゆく。				
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テーマの決定とディスカッション 第2回 テーマにもとづく音源試聴・文献資料調査 第3回 タイムテーブル作成 第4回 テーマにもとづく文献資料の輪読 第5回 テーマにもとづく音源資料の視聴 第6回 文献資料・音源資料のまとめ 第7回 課題実習(I)音源制作(MIDI) 第8回 課題実習(II)音源制作(オーディオ) 第9回 課題実習(II)音源制作(複合) 第10回 課題実習(III)レジューメ作成 第11回 課題実習(IV)論文作成(前半) 第12回 課題実習(IV)論文作成(後半) 第13回 研究課題の問題点の修正、確認 第14回 研究課題の発表とディスカッション,研究課題の問題点の修正、確認 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	音楽や音響について知り、アプリケーションで制作ができるようになる事を目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	提出作品70%、レポート30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考					

科目名	情報社会総合演習II				
クラス	[09クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4,金4
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	コンピュータはプログラムにしたがってさまざまな処理を実行する装置である。したがって、情報技術の本質を理解するためには、プログラミング(プログラム作り)を学習することが大変重要である。この演習では、プログラミングに関連するテーマについて卒業研究を行う。				
授業方針	この演習は1年間を通して行う卒業研究の最終段階である。まず、前期に行った研究を総括し、必要ならば研究テーマや方針を変更する。その後、研究レポートの執筆にむけて研究の仕上げを行う。最後に、研究内容をレポートにまとめるとともに、口頭発表を行う。 なお、コンピュータ実習には各自のノートPCを用いる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1週 前期の総括と後期の計画 第2週 研究報告と議論(1) 第3週 研究報告と議論(2) 第4週 研究報告と議論(3) 第5週 研究報告と議論(4) 第6週 研究報告と議論(5) 第7週 研究報告と議論(6) 第8週 研究報告と議論(7) 第9週 レポート作成の要領 第10週 レポート作成(1) 第11週 レポート作成(2) 第12週 レポート作成(3) 第13週 レポート作成(4) 第14週 研究発表準備 第15週 レポート作成 注:研究テーマは教員と相談の上、各自が決める				
準備学習	研究にかかわる作業を進める。(120時間)				
学習到達目標	(1)自主的に研究を進める。 (2)研究成果を適切にレポートにまとめる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができたか。 (2)研究成果を適切にレポートにまとめることができたか。			
	成績評価 方法	平常点30%+研究レポートおよび口頭発表70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜指示する				
備考	本演習のレポートは卒業論文に相当するものである。				

科目名	情報社会総合演習II			
クラス	[10クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3,月4
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、デジタル技術を利用した作品制作とプレゼン指導を行う。デザイン専用ソフトウェアの操作知識、応用について作品制作の実践を通じて学び、コンテンツ制作手法について理解を深める。			
授業方針	デジタル技術を駆使したコンテンツ制作に必要な制作手法について指導する。作品制作を通じて自身の興味対象や文化への理解を深めるため、参考となる文献や資料を紹介する。研究発表に求められるプレゼン能力、対話力についても指導を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究課題検討 ディスカッション 第2回 卒業論文準備(1) 論文輪講 第3回 卒業論文準備(2) 事例研究(メディア・デザイン) 第4回 卒業研究作品制作(1) デザインコンセプト 第5回 卒業研究作品制作(2) アプリケーションサービス 第6回 卒業研究作品制作(3) オープンデザイン戦略 第7回 卒業研究作品制作(4) 機能の階層化 環境認知 第8回 卒業研究課題の中間報告 第9回 卒業論文指導(1) 研究課題報告 質疑応答 第10回 卒業論文指導(2) 研究状況報告 質疑応答 第11回 卒業論文指導(3) 論文まとめ 第12回 研究発表指導(1) プレゼンテーション指導 第13回 研究発表指導(2) 発表準備 質疑応答 第14回 研究発表最終報告 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題、最終レポート課題作成(20時間) 指定した教科書の要点をまとめ、卒業研究に関する予習と復習をしておく(30時間)			
学習到達目標	高度な専用ソフトウェアの操作について学び、各種コンテンツ制作やUI/UX提案ができるようになる。 最新のデジタル技術について学び、情報メディアの課題や特徴について説明できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	高度な専用ソフトウェア操作について学び、デジタル・コンテンツ制作に必要な応用技術を身につけて利用することができる。 最新のデジタル・コンテンツについて学び、情報メディアの課題や特徴について説明できる。		
	成績評価 方法	中間レポート30% 中間課題20% 最終課題(プレゼンテーション・作品提出)50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書: 授業内で適宜指定する。 参考書: 授業内で適宜指定する。			
備考	欠席する場合は必ず連絡すること。学習に関する相談は適時対応します。			

科目名	3DCG演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本科目の内容は3DCG制作の実務経験に基づき構成されており、3DCG制作に必要とされている専門的知識・技能を扱う実践的科目である。3DCGの活用を中心としたクリエイティブなコンテンツの制作を行う【実務】				
授業方針	本科目では、3DCG用ソフトウェア【Maya】を用いて3DCGの基礎工程を学びながら、専門知識と技能を修得する。基礎工程を学んだ後に、課題に基づいたアイデアを創出して、静止画作品の制作を行う。作品の完成後には、作品発表を通じてプレゼンテーション能力の素養を身に付ける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 演習の進め方、CG制作のワークフローと授業内容の説明 第2回 演習(1) インターフェースの説明、ポリゴンモデルの説明 第3回 演習(2) モデリング(ポリゴンの追加・削除) 第4回 演習(3) モデリング(ポリゴンの形状変化) 第5回 演習(4) モデリング(スカルプトツールを用いた高度な造形手法) 第6回 演習(5) シェーダーとライティングに関する技能の修得 第7回 演習(6) レンダリング手法(ソフトウェアレンダリング) 第8回 演習(7) 高度なシェーダーやレンダリング手法に関する技能の修得 第9回 演習(8) アイデアやイメージの作り方、静止画作成に関する注意事項 第10回 修得状況に関する中間報告、制作課題の決定 第11回 作品制作、制作課題のチェック 第12回 作品制作、進捗確認とアドバイス 第13回 作品制作、進捗確認とアドバイス(修正分の確認を重視する) 第14回 最終審査 兼 講評会(プレゼンテーション形式) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・授業開始までに該当する箇所を予め読み、専門用語を調べておくこと。(20時間) ・授業で得た専門用語や技能は必ず復習しておくこと。(20時間) ・個人作品のテーマを決め、関連する作品や事柄に関する情報収集を行っておくこと。(20時間)				
学習到達目標	1) CGに関する基礎工程、専門知識、技能の修得 2) 見る人に印象を残すことができる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技能の習得、プレゼンテーションの内容			
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 開講時に指定 参考書 開講時に指定				
備考	課題制作にはAdobe Photoshopに関する技能・知識が求められる場合がある。よって、1,2年次のメディア文化専攻の演習科目において予めAdobe Photoshopを修得しておくことを推奨する。				

科目名	e-ビジネス論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	小寺 昇二			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ここ30年といった短い期間の中で、インターネットやインターネットに関連したの進化に伴い、社会、産業社会は大きな影響を受けてきた。この傾向は今後さらに加速するであろう。本授業では代表的なe-ビジネスのビジネスモデルを検証し、その意味、業界構造・競合状況などを分析しながら、e-ビジネス全体の今後について考えていく。ITベンチャーでの実務経験を参考にした実践的科目。【実務】				
授業方針	e-ビジネスは「今」を反映し、常に変貌しているビジネスである。過去や現在についての内容を座学として「覚える」のではなく、将来にも繋がる「本質」を各自が自分の頭で考え、掴むプロセスが重要である。今後の産業のあり方、自分自身のキャリア形成のあり方を並行して考えられるような授業運営を行う予定である。ディスカッション、ペア・ワーク/グループ・ワークなども適宜採り入れていきたい。毎回授業の最後に腹落ちした内容等を「学習シート」に各自まとめることによって理解を深める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 eビジネスの概略 第2回 e-ビジネスの歴史 第3回 e-ビジネスの本質(仮説作成) 第4回 企業研究(OS、アプリ) 第5回 企業研究(検索) 第6回 企業研究(EC) 第7回 企業研究(スマホ) 第8回 企業研究(フィンテック) 第9回 企業研究(SNS) 第10回 企業研究(シェア) 第11回 企業研究(IOT) 第12回 企業研究(AI,VR,AR、サブスクリプション) 第13回 起業シミュレーション 第14回 eビジネスの本質(仮説検証) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	予習は特に必要ないが、授業で採り上げる企業の商品、サービスなどについて、日頃から注意を払い、「このビジネスの勘所、本質は何なんだろう」(つまり、強み・弱み、他企業と比較した優位性など)を考えておくと、授業に役に立ち、各自の学ぶ意欲、理解度には大きなプラスになる。				
学習到達目標	代表的なe-ビジネスについて、そのビジネスモデル、本質などについて「腹落ち」していること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・代表的なe-ビジネスについて、それぞれのビジネスモデル、本質などについて自分の言葉で他人に説明できるか			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜配布、紹介する。特に詳しく学びたい場合は、「GAFとは何か？」(小寺昇二著 紙、電子書籍共にアマゾン)を参照のこと				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	Webデザイン応用演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ウェブデザインに必要な知識(HTML,CSS)をより確実なものとし、現在のウェブデザイン分野で求められている技術を制作しながら学びます。 (注)「Webデザイン基礎演習」を終了した学生が対象の講義です。詳細は担当教員から説明します。				
授業方針	講義は指定教科書に沿って進めます。 但し、学生中心の授業に基本を置くので、意欲ある学生は自分のペースでスケジュールを消化することも可能です。 使用ソフトウェアはDreamweaverを中心とし、イメージ制作ツールとしてPhotoshop、Illustratorを使用します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1、講義概要説明とウェブデザインの今 2、レイアウトの基礎と設定:レスポンシブデザインの基本と設定 3、レイアウトの基礎と設定:レスポンシブデザインの基本と設定 4、ページのベース準備・ブログ、ニュース・スタイルの基本レイアウトとコンテンツ挿入 5、ブログ、ニュース・スタイルのレスポンシブ対応とパーツ追加 6、ブログ、ニュース・スタイルのレスポンシブ対応とパーツ追加 7、ブログ、ニュース・スタイルのトップページを作る 8、ブログ、ニュース・スタイルのトップページを作る:パーツの追加 9、ブログ、ニュース・スタイルのトップページを作る:調整と完成 10、ビジネス・スタイルのトップページを作る:レイアウトとコンテンツ 11、ビジネス・スタイルのトップページを作る:レスポンシブと調整 12、ビジネス・スタイルのトップページを作る:パーツの追加 13、ビジネス・スタイルのコンテンツを作る:ページの作成と調整 14、ビジネス・スタイルのコンテンツを作る:パーツの制作、調整と完成 15、まとめ及び試験				
準備学習	1、教科書使用時には授業毎に指示する箇所を予習、復習すること。(30時間) 2、Photoshop、Illustratorの実践的な使用方法については各自で検索すること。(20時間) 3、ウェブデザイン分野(技術を含める)の見聞を広げるために、日頃より企業などのウェブサイトを観察すること。(10時間)				
学習到達目標	この授業で学ぶ知識や技術はウェブデザイン分野で常に求められるものです。よって、今後の専門的な作業にそのまま活かすことができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 知識として学んだ事を作業で再現できるか。 b) 学んだことを応用して独自の形へ発展できるか。 c) PCでの作業を円滑に進める事ができるか。			
	成績評価 方法	期末試験50% 授業内提出作品30% 授業への参加態度(出欠を含む)20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:HTML5&CSS3デザインブック ソシム社 (2)その他:配布物				
備考	授業スケジュールは開講後に変更の可能性があります。				

科目名	Webデザイン基礎演習				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ウェブサイト構築に必要な基礎知識(HTML,CSS)を学び、実際に制作します。				
授業方針	講義は指定教科書に沿って進めます。 但し、学生中心の授業に基本を置くので、意欲ある学生は自分のペースでスケジュールを消化することも可能です。 使用ソフトウェアはDreamweaverを中心とし、イメージ制作ツールとしてPhotoshop、Illustratorを使用します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 講義内容説明、基礎知識説明 第 2回 WEBページの土台を作る 第 3回 HTMLによる文字のデザインとマークアップ 第 4回 ボックスという概念 第 5回 デザインを考える 第 6回 画像の加工・制作と構成 第 7回 ページを増やす 第 8回 ナビゲーションの設置 第 9回 ページ体裁を整える 第10回 ページ体裁を整える 第11回 トップページの制作 第12回 トップページの制作 第13回 テーブルの制作 第14回 投稿フォームの制作、整理と調整 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1、教科書使用時には授業毎に指示する箇所を予習、復習すること。(30時間) 2、Photoshop、Illustratorの実践的な使用方法については各自で検索すること。(20時間) 3、ウェブデザイン分野(技術を含める)の見聞を広げるために、日頃より企業などのウェブサイトを観察すること。(10時間)				
学習到達目標	ウェブサイトの構造を学ぶことで、自作ウェブサイトを構築しインターネット上に公開できるようになること。 制作を通してインターネットの可能性や危険性を知ること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a)ウェブサイトの基本構造理解。 b)応用への自発的姿勢の表れ。			
	成績評価 方法	期末試験50%、授業への参加態度30%、完成作品20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:HTML5&CSS3レッスンブック ソシム社 (2)その他:配布物				
備考	授業スケジュールは開講後に変更の可能性があります。				

科目名	アート・コミュニケーション論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	最近「コミュニケーション」という言葉が様々な場面で使われるようになったが、ここでは一つの学問として「コミュニケーション」を扱う際の見方を提示する。様々なジャンルのアートを適宜例にとりながら、言語的な面及び非言語的な面から、私達が普段何気なく行っている様々な「コミュニケーション」を見直すきっかけにもなるような内容としたい。				
授業方針	「コミュニケーション学」の立場に基づいた基本的な考え方を講義する。その後で、関連する内容のグループワークを行うことを通して、講義で扱った内容をなるべく現実のものとして捉えてもらいたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 コミュニケーションとは何か 第2回 コミュニケーションの特性 第3回 非言語コミュニケーション1: 身体とコミュニケーション 第4回 非言語コミュニケーション2: 空間、時間、視線とコミュニケーション 第5回 言語コミュニケーション1: 言語の特性 第6回 言語コミュニケーション2: ダイグロシヤ、ピジン、方言 第7回 言語とコミュニケーション3: ポライトネス・ストラテジー、コンテキストについて 第8回 音楽とコミュニケーション: ライヴ体験におけるコミュニケーション 第9回 演劇とコミュニケーション: 演技とは何か 第11回 ダンスとコミュニケーション: 自分の身体と他者の身体 第12回 異文化コミュニケーション: 文化とは何か 第13回 日本のコミュニケーションの特徴 第14回 対人コミュニケーション、集団コミュニケーション 第15回 マス・コミュニケーション				
準備学習	前の授業でその都度指示する。				
学習到達目標	「コミュニケーション」の意義と課題について、自覚的に知見を深め、自らの生活や人生との関わりを体感する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コミュニケーションについての様々なあり方を理解できたかどうか。それを単なる知識としてではなく、社会の中で生きる自分自身の日々の生活に照らし合わせ、フィードバックできているかどうか。			
	成績評価 方法	平常点30%、最終レポート70%の合算によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	映像資料、プリントを適宜用意する。				
備考	正当な理由や事前連絡なしに全体の3分の2以上の授業を欠席した場合には自動的に履修資格を失う。				

科目名	アート批評論 I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	坂口 周輔			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「アート」を「批評」とはどのようなことでしょうか。アート(芸術)作品を見て、ただ眺めたり、ああ面白いなと思ったりするだけでは「批評」になりません。この授業では、アート批評を実践している一冊の本を読みながら、アート(芸術)を論じていくとはどういうことかを見ていきたいと思えます。一冊本を読み終えることを目指します。				
授業方針	教科書として指定する批評テキストを読んでいくことで、文章読解の力を身につけ、自ら文章を書いていく訓練もしていきます。このような読み書きの実践とともに、アート(芸術)をめぐる状況について理解力を高めていきます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 イン트로ダクション: 批評とはいったいどのようなものか。 第2回 『芸術回帰論』第一章への導入 第3回 第一章を皆で読んでいく 第4回 前回の続き、第一章を要約してみる 第5回 発表あるいは要約へのフィードバック 第6回 『芸術回帰論』第二章を読む 第7回 前回の続き、第二章を要約してみる 第8回 発表あるいは要約へのフィードバック 第9回 『芸術回帰論』第三章を読む 第10回 前回の続き、第四章へ進む 第11回 第三章、第四章の理解度の確認 第12回 『芸術回帰論』第五章を読む 第13回 『芸術回帰論』第六章を読む 第14回 『芸術回帰論』、第七章と最終章を読む 第15回 これまでのおさらい				
準備学習	一冊本を読み終えることが目的となります。毎週指定された範囲を読み終えて授業に出席することが必須となります(30時間) また批評とは日常的な出来事について考えることでもあります。自分の身の回りに生じているいろいろなことに興味を持つようにしましょう(15時間)				
学習到達目標	読む能力、書く能力という、大学でもその後の人生でも必要なこの基本的な能力を向上させ、確かなものとしていきましょう。そして、今世界で起こっている出来事についてじっくり考えていくことのできる思考力を身につけていきましょう。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内での発表、要約など読み書きの能力がどれほど身についているのかを見ます。			
	成績評価 方法	授業への参加度(発表、課題、議論への参加)で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書: 港千尋『芸術回帰論』平凡社新書				
備考					

科目名	アート批評論Ⅱ				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	二本木 かおり			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	批評もまた一つの作品です。今この時代に、多様な要素が組み合わさって生まれたアート作品にある感性や方法論を自分なりに味わい、その楽しみを共有すること。そして、豊かな眼差しによってアートの世界をより拡大させていくこと。そんなアート批評の役割を担う視線と表現力を養います。アート作品の理解を深め、書き手の個性を生かす批評を繰り広げることが目的です。				
授業方針	あくまでも実践を通して各々の批評力を高めていきます。毎回、音楽・映画を中心としたアート作品に触れ、その作品性について様々な観点からの発見を自己の中に見出し、文章としての表現構成にも結びつけて、最終的に、自分ならではのアプローチで批評します。状況によって、ディスカッションやグループワークも行います。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 感想ではなく批評であるとはどういうことか 第2回 音楽批評1 音楽としての世界観を、歌詞だけに頼らず味わう 第3回 音楽批評2 ステレオタイプなラベル貼りから距離を保つ 第4回 音楽批評3 作品テーマを自分なりに受け止める 第5回 音楽批評4 一般的に親しみにくい作品を味わう案内人となる 第6回 音楽批評5 音要素の構造に迫って批評する 第7回 映画批評1 物語だけに依存せずに映画の世界観を味わう 第8回 映画批評2 視聴覚の総合として、作品を捉える 第9回 映画批評3 ゼロから視聴覚を構成するアニメーションの味わいを伝える 第10回 映画批評4 ドキュメンタリーの手法にアプローチする 第11回 映画批評5 大衆的な作品を独自目線で切り込んでみる 第12回 MV批評 広告の機能もあるミュージックビデオの実験性を発見する 第13回 現代アート批評1 いかなる解釈で受け止めるか、自分の眼差しを打ち出す 第14回 まとめ及び試験1(映像作品批評) 第15回 まとめ及び試験2(音楽作品批評)				
準備学習	少しでも面白そうだったアート作品には、面倒がらずに足を運び実際に体験してください。それが、皆さんだけの眼差しの基盤となります。その際、ただ見たり聴いたりするだけでなく、自分の感じたことを言葉に置き換えてみる習慣をつけましょう。体験したのものに関する自分の批評メモを残し、あくまでも言葉を使って作品を共有する姿勢を育ててください。				
学習到達目標	アート作品を体験して、単純な感想だけで終わらず、その作品価値とは何なのかを自分なりに探索し、様々な人と共有することを目的としています。広告展開やメディアの言説、ネット上の感覚的な意見に惑わされずに、自分の見方で作品価値を理解する力を身につけてもらいます。そうすることで、難解とみなされるアート作品についても、大衆的とみなされるポップカルチャーについても、柔軟にその面白さを発見し、アートの世界を拡げていける視線を養います。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	アート作品に対し、安直な感想で終わらせずに深く味わうことができるか。受け売りのイメージではなく、自分なりの理解をし、そのプロセスを文章化できるか。不特定多数の多様な価値観をもつ人々に向けた、伝わる文章を構成できるか。インプットにおける独自の視線の構築と、アウトプットにおける文章表現構成力を評価します。			
	成績評価 方法	各講義終了時に提出する批評 40% 試験で記述する批評 60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『映画批評のリテラシー』フィルムアート社 ほか、毎回具体的な作品・批評を提示します。				
備考	批評は、考えるのはもちろん書かなければ始まりません。書くことを億劫がらず、また他者の言説に頼らず、毎回の講義で主体的に考え書く実践を求めます。				

科目名	コンピュータ画像処理				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	森沢 幸博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いた図形と画像処理に関する専門知識について学び、エンタテインメント分野をはじめとする様々な業界で活躍できる制作スキルを身につける。3次元物体の認識や動画像の処理などの最新技術とその応用事例についても取り上げる。				
授業方針	本講義は、CG-ARTS協会「CGクリエイター検定(ベーシック)」対応科目となっている。授業終了までに、CGクリエイター検定(7月・11月 年2回実施)を受験することが単位認定条件となる。コンピュータを使った画像処理の基本と応用事例について検定教科書の内容を中心に学び、画像処理技術の知識を幅広く習得することを目指す。授業内で全10回の小テストを実施。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 CG/映像表現の歴史 第2回 デジタル画像処理システムとメディアテクノロジー 第3回 グラフィック表現とデッサン 第4回 2次元画像生成、写実的效果と絵画的効果 第5回 デジタルデザインプロセス 第6回 色彩科学、カラーモデル、視知覚の特性 第7回 画像変換、コントラスト変換、平滑化 第8回 画像の合成、クロマキー処理、マスク処理 第9回 3DCG基礎知識(1) モデリング 第10回 3DCG基礎知識(2) マテリアル 第11回 3DCG基礎知識(3) アニメーション 第12回 3DCG基礎知識(4) レンダリング合成 第13回 ハードウェアとソフトウェア 第14回 知的財産権 著作権 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	毎授業の時間内に実施する小テストについて事前に調べ、専門用語の意味などについて理解する(20時間) 中間課題、最終作品課題作成(10時間) 指定した教科書の要点をまとめ、CG検定に必要な知識について予習と復習をしておく(30時間)				
学習到達目標	画像処理技術の理論と実践を両立した講義を通じて、双方のスキルをバランス良く修得し、独自で画像加工が行えるようになる。3DCG専門ソフトウェアの基礎操作を身につけ、グラフィックイメージを制作することができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	デジタル画像/映像の基本技術を理解し、専用ソフトウェアの機能を用いてイメージ制作ができる。			
	成績評価 方法	中間課題30% 中間レポート課題30% 最終課題40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:「入門CGデザイン」CG-ARTS協会編 ベーシック対応 参考書:「デジタル映像表現」CG-ARTS協会編 エキスパート対応				
備考	コンピュータなど情報機器の基本操作について習得しておくこと。				

科目名	サウンド・プログラミング演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽を発想する上で最も重要な要素である、音色、リズム、音列などをコンピュータ上の情報として扱う方法を学ぶ。実習をマルチメディア開発環境であるMaxを用いて行う。この科目は、企業でのアプリケーション開発、音源制作経験を有する専門の経験に基づいた講義を行う実践的科目である。【実務】				
授業方針	通常の授業中に課す制作課題はその都度提出してもらうことになる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 コンピュータ・ミュージックとは 第 2回 Max基礎 第 3回 MaxとMIDI 第 4回 MIDIを用いたパッチの作成 第 5回 アルゴリズムコンポジション(ランダム) 第 6回 アルゴリズムコンポジション(確率) 第 7回 アルゴリズムコンポジション(マルコフ連鎖) 第 8回 Maxを用いた2Dグラフィックス 第 9回 音響合成(基礎) 第10回 音響合成(加算合成) 第11回 音響合成(FM合成) 第12回 音響合成(フォルマント) 第13回 音響合成(細粒合成) 第14回 総合制作 第15回 制作発表:まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	プラグラミン具ソフトで音楽の生成や音響の合成方法を知り、自分でプログラミングができるようになる事を目的とする。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	アプリケーションの使用法を理解し、それを効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	学期末課題 60%,中間課題40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 初回の授業時に指示する				
備考	受講資格:コンピュータを用いた基本的な音楽制作ができる者。				

科目名	システム管理			
クラス		対象学年		開講学期 前期
				曜日・時限
担当教員	未定			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	今日の企業では、様々な情報システムを活用して業務が行われている。本講義では、企業などに就職した際に、サーバの基本ソフトやアプリケーションなど社内システム管理者に必要な基本事項を実習を中心に学習する。また、サーバの分解や組み立てについても学習する。			
授業方針	本講義では、Linuxのインストール、基本操作やオープンソースを中心に様々なアプリケーションの使用法を紹介するが、それらの暗記が目的ではなく、実際にそれらのアプリケーションを使用してどのようなサービスが構築、運用、そして保守していくか実践学習していく。また、毎回課題があるので、そのレポートを毎回作成してもらう。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 Linuxの概念と学習の準備 第 2回 サーバにOSをインストール 第 3回 基本操作演習 第 4回 ファイル管理1 第 5回 ファイル管理2 第 6回 ユーザとグループ管理 第 7回 Linux操作実習 第 8回 viの操作演習 第 9回 シェル1演習 第10回 シェル2演習 第11回 ファイルの操作演習 第12回 ソフトウェアパッケージ演習 第13回 サーバツール演習 第14回 サーバとプロセスの管理 第15回 まとめおよび試験			
準備学習	パソコンの基本操作を習得しておくこと、またコンピュータ概論Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワーク論の単位を取得しておくこと			
学習到達目標	基本ソフトや様々なサーバアプリケーションの機能を理解し、企業等に就業した際、社内システムの管理や業者との調整ができるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	社内システムに必要な機能を考慮し、システム構築・運用について、各自考察できるようになること		
	成績評価 方法	出席・レポート50% 試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 適宜紹介する			
備考	ひとり1台を使ったlinuxサーバ構築実習演習授業であり、積み上げ学習方式で進めるため、欠席すると分からなくなります			

科目名	デジタルサウンド演習I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金5
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いて音楽制作をする上で必要とされる基礎知識(シンセサイザー、音響機器、MIDI信号、オーディオ信号等)の習得を主な目的とする。シーケンスソフト、シンセサイザー、オーディオ機器等を使用して音楽制作の実習を行う。				
授業方針	コンピュータで音楽を扱う為の基礎知識習得のための講義と、実際に音楽を制作する実習とを併せて行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 デジタルサウンド基礎 第2回 音楽制作の基礎(コンピュータ) 第3回 音楽制作の基礎(ミキサー) 第4回 MIDIデータの入力(リアルタイムレコーディング) 第5回 MIDIデータの編集1(デュレーション・ベロシティ) 第6回 MIDIデータの編集2(各種コントローラ) 第7回 MIDIデータの入力(ステップ入力) 第8回 簡単なMIDIデータと簡単アレンジ1 第9回 簡単なMIDIデータと簡単アレンジ2 第10回 作品発表 第11回 オーディオを利用した音楽制作(オーディオファイル) 第12回 オーディオを利用した音楽制作(オーディオファイルの編集) 第13回 オーディオを利用した音楽制作(エフェクタの活用) 第14回 作品制作と意見交換 第15回 作品提出				
準備学習	専門用語の意味などを復習しておくこと。				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	個々の機材の使用法を理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	授業参加度20%、作品提出30%、学期末制作課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 プリント、他は講義開始時に指示する				
備考	受講希望者多数の場合は抽選で受講生を決定する場合がある。コロナウイルスの感染予防対策として、履修者が10名を超えた場合は2クラス開講とする場合がある(木曜日2限)。中学校程度の音楽能力(ト音譜表、ヘ音譜表が読める)が必要。				

科目名	デジタルサウンド演習II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金5
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	デジタルサウンド演習1で学んだ基礎知識を発展、応用させ、DAWソフトへの理解を深める。				
授業方針	コンピュータで音楽を扱う為の基礎知識を随時復習しながら応用させる為の講義と、実際に音楽を制作する実習とを併せて行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 デジタルサウンド応用 第 2回 音楽制作の応用(コンピュータ) 第 3回 音楽制作の応用(ミキサー) 第 4回 様々なシンセサイズについて 第 5回 加算合成と減算合成の復習 第 6回 FM音源 第 7回 物理モデリングシンセについて 第 8回 MIDIデータによるエクスプレッション 第 9回 MIDIデータによるモジュレーション音色の変化コントロール1 第10回 MIDIデータによるモジュレーション音色の変化コントロール2 第11回 オーディオファイルを利用したDAW 第12回 様々なプラグインの活用方法 1 第13回 様々なプラグインの活用方法 2 第14回 作品制作と意見交換 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	専門用語の意味などを復習しておくこと。				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	個々の機材の使用法を理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	授業参加20%、作品提出30%、学期末制作課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 プリント、他は講義開始時に指示する				
備考	デジタルサウンド演習I履修者に限る。 受講希望者多数の場合は抽選で受講生を決定する場合がある。				

科目名	デジタルデザイン応用演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	デザインをする時の感覚と知識をグラフィック・デザイン演習によって吸収します。 このクラスは「平面構成演習」で基礎知識を身につけた学生を対象としますが、教員の判断により受講することも可能です。				
授業方針	実技中心の授業です。 教科書に沿った授業構成ですが、常に「自己表現」を意識した演習を行います。 使用ソフト: Adobe Illustrator、Adobe Photoshop				
学習内容 (授業 スケジュール)	1、講義内容説明、基礎知識: デザインとは 2、基礎知識: 必要な意識と準備 3、構成の演習: 線を使用した演習 4、構成の演習: 面を使用した演習 5、構成の演習: ホワイトスペースの演習 6、文字を使った演習: 欧文を使用した演習 7、文字を使った演習: 和文を使用した演習 8、文字を使った演習: ジャンプ率とグループ化の演習 9、図形と配色の演習: バランスとリズムの演習 10、図形と配色の演習: グリッドシステムの演習 11、図形と配色の演習: 色を使用したデザイン演習 12、デザインの実践/ 広告をつくる 13、デザインの実践/ 広告をつくる 14、デザインの実践/ 期末試験課題 15、デザインの実践/ 期末試験課題				
準備学習	1、授業毎に指示する箇所を予習、復習すること。(30時間) 2、Photoshop、Illustratorのより実践的な使用方法については各自で検索すること。(20時間) 3、グラフィックデザイン分野の見聞を広げるために、日頃から作品集や関連書籍を意識して見ること。(10時間)				
学習到達目標	演習で学ぶ知識や技術はクリエイティブ分野で常に求められるものです。よって、今後の専門的な作業にそのまま活かすことができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 学んだ事、体感した事を意識した表現ができるか。 b) 独自性を含めた表現ができるか。 c) 自主性が見れるか。			
	成績評価 方法	期末試験40% 授業内提出作品40% 授業への参加態度(出欠を含む)20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書(グラフィックデザイン基礎講座 / 玄光社)、スケッチブック、描画道具				
備考					

科目名	デジタルデザイン基礎演習				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	森沢 幸博			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	3DCG映像,Webなどのデジタルコンテンツ制作に求められる基礎技能・知識について学習する。 また,コンピュータを利用したデザイン表現について学び,CG制作に必要な基礎能力や応用力の習得を目指す。				
授業方針	本演習では,専用ソフトウェアを用いた2次元CGの制作実習を通じて,CG関連の基礎知識・技能の習得と表現力の向上を目指していく。 2DCGソフトウェア(Photoshop, Illustrator)を用いて,CGグラフィックスの制作演習を行う。 また,社会人として求められる基礎力(発信力, コミュニケーション能力等)の習得を目的としたプレゼンテーションを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 授業方針、演習内容などの説明 Photoshop及びIllustratorの操作説明 第 2回 レイヤー合成基礎: 選択操作と写真合成 第 3回 カラーマネジメント: RGB/CMYK カラーモード 第 4回 レイヤースタイル編集: パターンデザイン 第 5回 ベジェ曲線とオブジェクト: パス描画の基本操作 第 6回 デジタルイラスト作画: フィルター処理 第 7回 デジタルイラスト作画: 図形編集 配色設定 第 8回 インフォグラフィックス: 記号、フラットデザイン 第 9回 グラフィックデザイン(1): ロゴ編集、コラージュ手法 第10回 グラフィックデザイン(2): 写真素材加工、レイアウト 第11回 個人作品制作(1): 課題テーマ設定、コンテンツ制作 第12回 個人作品制作(2): デジタルコンテンツ制作(静止画) 第13回 個人作品制作(3): デジタルコンテンツ制作(静止画) 第14回 最終プレゼンテーション及び講評会、質疑応答 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示す制作課題の事前準備, 専門用語の意味について理解する(10時間) 中間課題, 最終作品課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ, Photoshop, Illustratorの基礎操作について予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	デジタルデザイン制作に関する基礎知識・技能を理解して, 専門的な節目ができるようになる。 2DCG専門ソフトウェアの基礎操作を身につけ, グラフィックイメージを制作することができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	2DCG制作に関する基礎知識について説明できる。 Photoshop, Illustratorのレイヤー機能, パス編集機能等を用いてグラフィックイメージを作成することができる。			
	成績評価 方法	課題作品に対する中間レポート20% 最終課題作品30% 作品報告(中間+最終発表)50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:「世界一わかりやすいIllustrator&Photoshop操作とデザインの教科書」技術評論社 参考書:授業内で適宜指定する。				
備考	指定の教科書を必ず持参すること。				

科目名	デジタル映像表現				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	森沢 幸博			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	CG映像制作に関する基礎知識をもとに、より専門的なCG映像制作を行う。特殊効果やシミュレーション機能等について学び、多様化するCGアニメーションの制作技法や専門技術を実習制作を通じて身につける。				
授業方針	本講義では、3DCG制作のソフトウェア(Maya)を活用したオリジナルアニメーション作品制作を中心とした実習を行う。また、物理シミュレーションや特殊効果に関する映像技術や専門知識の習得を目標とする。最終課題として、3DCGソフトを使用したオリジナル映像作品を指定する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 CGアニメーションの制作基礎 第2回 3次元コンピュータ映像の特徴と制作基礎 第3回 3次元モデリングによるキャラクター制作 第4回 質感設定、隠面処理、シェーディング設定 第5回 キーフレーム法によるアニメーション制作 第6回 シーン設定、カメラアニメーション基礎 第7回 パーティクル機能、特殊効果設定 第8回 キャラクターモデルを利用したアニメーション表現 第9回 ダイナミクス機能を利用した動きの編集 第10回 キャラクターアニメーション編集手法 第11回 課題制作実習(1) 画像合成 第12回 課題制作実習(2) 特殊効果設定 第13回 課題制作実習(3) ノンリニア編集 第14回 作品発表、質疑応答 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示す専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題、最終作品課題作成(30時間) 指定したソフトウェアの操作法をまとめ、3DCG技術に関する予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	3DCG映像を制作するために必要な専門ソフトウェアの基礎知識を身につけ、映像制作に必要な技術や応用知識について説明ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	3DCGの制作技術や応用機能について説明ができる。専用ソフトウェアを使用して映像作品の制作ができるようになる。			
	成績評価 方法	授業参加度30% 中間レポート課題30% 最終課題作品40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:開講時に指示 参考書:「デジタル映像表現」CG-ARTS協会編 エキスパート対応				
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。				

科目名	データベース論			
クラス		対象学年		開講学期 後期
				曜日・時限
担当教員	未定			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	<p>計算機によるデータ処理の範囲と種類の増大により、むだ(同じデータ項目の重複)、不一致(同じデータ更新のタイミングのズレなどによる不一致)、矛盾(不一致データの演算結果は矛盾)などが生ずる。これらを解決した新しいデータファイルがデータベースである。簡単な構造を理解し、基礎的応用に対する理解を深める。</p>			
授業方針	<p>本講義では、関係データベース(RDB)を基本に置き、データモデルとデータベースシステムの基本概念を学習させ、演習を通してデータ設計(特にデータの正規化)やデータ操作、データ管理の原理と方法(データベース管理システム)を理解させる。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 ガイダンスおよびデータベースシステムの基礎概念  第 2回 データファイルとデータベースモデル  第 3回 いろいろなデータベースモデル  第 4回 データベースの基本概念と構成  第 5回 関係データモデルのデータベース定義  第 6回 関係データモデルの整合性制約と正規化  第 7回 言語SQL(Structured Query Language: 構造化問い合わせ言語)(インストール)  第 8回 SQLの基本操作(含む実習)  第 9回 SQLによるデータ定義(含む実習)  第10回 SQLによるデータ操作(含む実習)  第11回 SQLによる問合せ処理(含む実習)  第12回 SQLのデータ操作(計算・グループ化・結合)(含む実習)  第13回 SQLのトランザクション処理(並行処理・デッドロック)  第14回 データベースの新たな展開(Web化データベース)  第15回 まとめ及び期末試験</p>			
準備学習	<p>図書館、Web情報などでデータベースに関する話題や専門用語に興味を持ち簡単な意味を理解しておくこと。</p>			
学習到達目標	<p>データベースの基本を理解し、データベースの設計と利用について、実践できるようになる。</p>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>適宜、演習課題の提出を通して、結果を達成度評価に加味する</p>		
	成績評価 方法	<p>小レポート20%、実習30%、期末試験50%で総合的に評価する。</p>		
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める</p>		
教材	<p>必要に応じてプリント資料を配付する。  参考書: 小泉修著: ファイル編成からSQLまで 図解でわかるデータベースのすべて, 日本実業出版社  参考図書・文献等は適宜紹介する。</p>			
備考	<p>大学より供与されたパーソナルコンピュータを有効に活用し、余暇や自宅学習を通じて理解を深めること。  パソコン実習を含むことから「ネットワーク管理」を履修していることが望ましい。</p>			

科目名	データ解析法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	高橋 広治			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	収集したデータから有益な情報を引き出すためには、データを科学的に分析し、そこに含まれている不確定要素やばらつきを定量的に評価する必要がある。本授業では、多くの具体例をとりあげながら、一般的なデータ解析の手法および結果の解釈の仕方について学ぶ。				
授業方針	定量的なデータ解析をするためにはある程度の数理的な能力は必須である。この授業でも、主に中学数学レベルまでの初等的な計算は頻繁に出てくる。ただし、抽象的な数学的議論は必要最小限にとどめる。そして、なるべく多くの具体的な事例を引きながらデータ解析の手法を学ぶ。それによって、データを科学的に分析・解釈する能力を養う。必要に応じて、ノートPCを使った実習課題を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 度数分布 第2回 代表値(1) 第3回 代表値(2) 第4回 四分位数と箱ひげ図 第5回 分散と標準偏差／第1回小テスト 第6回 データの変換 第7回 相関(1) 第8回 相関(2) 第9回 回帰分析(1) 第10回 回帰分析(2)／第2回小テスト 第11回 標本調査 第12回 確率と確率分布 第13回 仮説検定 第14回 区間推定 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	事前に教科書を読んで、学習内容の概略を理解しておく。(30時間) 授業ノートを整理し、課題を実行する。(30時間)				
学習到達目標	(1) データ解析に関する基礎的知識を習得する。 (2) 習得した知識を実際のデータ解析に応用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) データ解析に関する基礎的知識を習得できたか。 (2) 習得した知識を実際のデータ解析に応用できるようになったか。			
	成績評価 方法	平常点10%＋小テスト・課題40%＋期末テスト50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書「書き込み式 統計学入門」(須藤 昭義, 東京図書, 2019年) (2)参考書 適宜紹介する。				
備考	PCを使う課題がある。				

科目名	テキスト情報処理				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータを用いることにより、「日本語」のように人間が用いる「自然言語」により記された文書を、どのように取り扱うことが可能かを学ぶ。また、1つの文章を対象とした場合、大量の文書を対象とした場合それぞれについて、利用されている単語の抽出や文書の分類を各自で行えるようになることを目指す。この授業では、情報検索システムなどの設計・構築に従事した実務経験を踏まえ、自然言語処理技術の情報システムでの利用例などを採り入れる。【実務】				
授業方針	自然言語を処理するために発展してきた技術について解説する。また、授業中課題を通してその内容を各自で確認する。必要に応じて、各自のPCを用いた実習も行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 自然言語処理の概要 第2回 辞書とコーパス 第3回 形態素解析 第4回 形態素解析辞書の構築 第5回 構文解析 第6回 意味解析 第7回 文脈解析 第8回 情報検索 第9回 情報抽出 第10回 機械翻訳 第11回 共起度による分析 第12回 ベクトル空間モデルによる分析 第13回 分析における前処理 第14回 文書分析の実習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回の授業内容について、実際の処理を手で追ってみること(30時間) 課題として授業中に実施した内容と同様の事項を、各自で実施していただくこと(20時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(10時間)				
学習到達目標	文を処理するための解析技術について内容を理解し、その動きを再現することができる。また、文書の集合を処理するための技術についてその内容を理解し、実習を通して結果を得ることができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文を処理するための解析技術について内容を理解し、その動きを再現することができるか。および、文書の集合を処理するための技術についてその内容を理解し、実習を通して結果を得ることができるか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題70%、期末課題30%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 奥村学、「自然言語処理の基礎」、コロナ社、2010				
備考	必要に応じて各自のPCを用いる。				

科目名	テクノロジーと音楽				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	テクノロジーの進歩は音楽に様々な影響を与えてきた。では音楽家達はテクノロジーの進歩にどのような可能性を見出したのだろうか、また実際にテクノロジーは音楽にどのような変化をもたらしたのか。ここでは20世紀以降の電子音楽、具体音楽、テープ音楽、コンピュータ音楽などの歴史を学ぶと共に、実際の作品を聴きながらそれらの疑問について考察してゆく。				
授業方針	ただ単に講義内容を理解するだけでなく、音楽家が何を考えているのか、音楽の未来はどうなってゆくのかという事柄にもイメージを膨らませ考えて欲しい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テクノロジーと音楽の関係 第2回 20世紀初期の様々な電気楽器(テルハーモニウム) 第3回 20世紀初期の様々な電気楽器(テルミン) 第4回 20世紀初期の様々な電気楽器(オンドマルトノとトラウトニウム) 第5回 テープ音楽の歴史 ピエール・シェフェール 第6回 テープ音楽の歴史 GRM 第7回 テープ音楽の歴史 リュック・フェラーリの音楽 第8回 ドイツ電子音楽の成立の背景 第9回 シュトック・ハウゼンの音楽 第10回 電子音楽スタジオ 第11回 RCAシンセサイザーとモーグ・シンセサイザー 第12回 デジタル音合成 第13回 コンピュータと音楽(黎明期) 第14回 コンピュータと音楽(現在),テクノロジーによる新たな芸術の可能性 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	テクノロジーと音楽の関係を理解し、様々なテクノロジーを活用してつくられる新しい音楽をその関係性を基にを説明できるか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業の内容をどの位理解したか。またそれをもとに自分なりの見方を表現できるか。			
	成績評価 方法	期末試験60%、レポート40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 講義開始時に指示する				
備考					

科目名	デザイン演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	私達の身近に存在する様々なデザインに焦点をあて、幅広い視野からデザインの意味、必要性や社会性を研究します。また、個々の学生独自のデザイン論確立をめざし、最終的には自己の持つアイデンティティとの共通性を発見します。				
授業方針	資料はプロジェクター投影を活用して紹介します。 コミュニケーションの機会を設け、他者との意見交換の場を作ります。 講義中心の授業ですが、スケジュールの後半ではPCによるデザイン制作を行います。使用ソフト:Illustrator				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 授業内容の説明、「デザイン」の説明、作文 第 2回 様々な分野におけるデザインの紹介 第 3回 平面に展開するデザイン1(広告デザインの紹介) 第 4回 平面に展開するデザイン2(表現の読み方) 第 5回 平面に展開するデザイン3(表現の読み方) 第 6回 企業とデザイン1(CIとVI) 第 7回 企業とデザイン2(VIの紹介) 第 8回 企業とデザイン3(VIの紹介) 第 9回 企業とデザイン4(ブランディングを考える) 第 10回 企業とデザイン5(ブランディングを考える) 第 11回 演習(イラストレータに慣れる) 第 12回 試験課題を基にしたワークショップ 第 13回 試験課題を基にしたワークショップ 第 14回 試験課題を基にしたワークショップ 第 15回 講評会およびまとめ				
準備学習	1、定期的に特定のデザインについてのレポートを作成するので、身の回りのデザインを意識的に観察すること。特に、企業のデザインとの取り組み方は意識して観察すること。(30時間) 2、デザイン界の見聞を広げるため、日頃より作品集や関連書籍を意識して見ること。(20時間) 3、デザインは自己表現でもあるので、日頃より自分の「個性」を意識して考えること。(10時間)				
学習到達目標	形や色のもつ意味を知ること、デザインの社会的意義を理解できるようになります。 デザインを知ること「それぞれの視点で考えることの大切さ」が理解できるようになります。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 各自がデザインの意味や意義を理解し、その必要性や重要性を理解できるか。 b) 独自の観点からデザインを論評することができるか。			
	成績評価 方法	期末試験40%、レポート提出30%、授業への参加態度30% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	講義ごとに配布				
備考	授業スケジュール内容は開講後、変更の可能性あり。				

科目名	ネットワーク管理				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木5
担当教員	高橋 清隆			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>私たちは日常的に情報ネットワークを介して、ウェブなど様々なサービスを利用しており、そのようなサービスへの依存度は年々増している。そのため、私たちがいつでもサービスを利用するためには、その基盤となる情報ネットワークを、故障などで止まらないように安定的に運用することが求められる。本講座では、情報ネットワークの運用や保守について理解を深めることにより、情報化社会を支える情報ネットワークの運用管理に関する基礎知識を習得できる。</p>				
授業方針	<p>私たちの利用している情報ネットワークを正常に動作させ続けるために必要な、ネットワークの運用・保守の業務を概観する。そして、運用・保守の作業で用いられる管理機能を用いて、私たちが実際に利用している学内のネットワークの様子を観測する。これによって、情報ネットワークの運用・保守に関する基礎知識を、講義だけでなく私たちの利用するパソコンを用いた実習を通じて習得することができる。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 ネットワークの運用・保守の業務  第2回 いろいろなネットワーク  第3回 インターネットを構成するIPネットワーク  第4回 障害対応と構成管理  第5回 運用にかかわる管理業務の基本  第6回 運用にかかわる監視業務の基本  第7回 遠隔地から機器を制御するリモートログイン(ssh)  第8回 障害の切り分け作業  第9回 IPアドレスとMACアドレスの関係(ipconfig)  第10回 統計情報を用いた確認方法(netstat)  第11回 疎通確認の方法(ping)  第12回 保守としてのバックアップと復元作業(FTP)  第13回 ルーティングをつかさどる経路情報  第14回 パケットキャプチャを用いた通信データの可視化  第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業のテーマについて教科書やインターネットなどで事前に調べ、関連する専門用語の意味などについて理解する(20時間)</li> <li>講義中に課す課題に取り組む(10時間)</li> <li>授業の要点をまとめて、分からなかった点を明らかにして復習する(30時間)</li> </ul>				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報ネットワークの運用業務の概要を説明できる。</li> <li>情報ネットワークの保守業務の概要を説明できる。</li> <li>障害の切り分け作業の概要および主な手段の特徴を説明できる。</li> </ul>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報ネットワークの運用業務の概要を説明できたか。</li> <li>情報ネットワークの保守業務の概要を説明できたか。</li> <li>障害の切り分け作業の概要および主な手段の特徴を説明できたか。</li> </ul>			
	成績評価 方法	講義中に課された課題40%と期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	<p>教科書 「1冊ですべてわかる ネットワーク運用・保守の基本」 SB Creative [著] 岡野新  参考書 随時、指定する</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報ネットワーク論」を受講していることが望ましい。</li> <li>コンピュータの基本操作を習得しておくこと。</li> </ul> <p>【実務経験】民間企業における情報通信システムの研究開発および国際標準化の業務</p>				

科目名	ネットワーク社会論				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近年、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)などの登場で人々を取り巻く環境は大きく変化しています。本講義では、人と人や、人と社会を互いに繋いでいる情報ネットワークについて、その本質、近年の変化、社会生活やビジネス活動における恩恵とリスクなどについて考え、学んでいきます。				
授業方針	これから人と人との繋がり、情報、社会といったことについて多面的に考えることができるように「徹底的に」自分で考えることを求めます。授業終了時に毎回脳が披露困憊となっているような授業としたいと考えています。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ネット上のニュースは無料で良いのか？(イントロダクション) 第2回 ホモサピエンスはなぜ地球上の覇者となったのか？ 第3回 インターネットは何のために作られ、その本質は何なのか？ 第4回 twitter はなぜ、2021年1月トランプ氏のアカウントを永久凍結したのか？ 第5回 facebookについて考えながら、社会とは何か？を考える 第6回 clubhouse はなぜバズったか？ 第7回 商品売らない店舗って何だ？ 第8回 デジタルの本質とは？ 第9回 AIは人間の職を奪うのか？ 第10回 陰謀論をなぜ人は信じるのか？ 第11回 中国の市民は自由についてどう考えているのか？ 第12回 デジタルデバイドはなぜなくさなければいけないのか、その本当の理由は？ 第13回 イーロン・マスクの時代とその功罪 第14回 記憶のダウンロードは可能になるのか？ 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	予習は特に必要がない(授業の中で主体的に学んでいきましょう)。				
学習到達目標	情報、インターネット、PCなどに関して、問題意識を持って、活用できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	世の中で起こっている情報、インターネットなどに関して日々変化している事象について興味を持ってフォローできるようになっているか、自分なりに考えることができるようになる。			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要があれば適宜配布				
備考	毎回PCまたはスマートフォンを持参すること				

科目名	ビジネス関連法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>ビジネスに関連する法律の中で税法を中心に講義を行う。税法はビジネス、政治、経済、国際関係などと密接に関係する法律であり、現代社会を知る格好の「入り口」である。税法を通じて日本の「今」を知ること、社会への興味、関心を高めてもらいたい。</p> <p>税理士として税務実務、経営コンサルタントとしてビジネス実務の経験に基づき、社会人として必要な知識、考え方を身につける実践的な科目である。 【実務】</p>				
授業方針	<p>実際のビジネス活動、社会生活に根ざした具体例を用いる。これによって税法はビジネスに関連するだけのものではなく、日常生活に深く関わっているものであると皆さんが身近に感じられるよう講義を進めていく。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第 1回 ビジネスに関連する法律 第 2回 ビジネスの中での税法の位置付け 第 3回 所得税法(1)－所得税法の基礎 第 4回 所得税法(2)－計算構造 第 5回 所得税法(3)－所得分類 第 6回 消費税法(1)－消費税法の基礎 第 7回 消費税法(2)－課税・非課税 第 8回 消費税法(3)－計算構造 第 9回 法人税(1)－法人税法の基礎 第10回 法人税(2)－計算構造 第11回 法人税(3)－利益と所得 第12回 法人税(4)－今後の展開 第13回 企業活動とガバナンス(1) 第14回 企業活動とガバナンス(2) 第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>講義開始時に前回の内容について確認を行うので復習により理解度を高めておくこと。(40時間) 自分なりの考えや疑問点をまとめておくこと。(20時間)</p>				
学習到達目標	<p>ビジネス関連法を通じて、広く「社会」に対して関心が向くようになる。 税法の仕組みを理解できる。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>税法がビジネス、政治、経済、国際関係などと密接に関係していることを理解し、説明できるか。 税法の理論、仕組みを理解し、税額を算出できるか。</p>			
	成績評価 方法	<p>出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、期末試験50%</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。</p>			
教材	<p>(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、講義に関する資料を紹介する。</p>				
備考	<p>皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。</p>				

科目名	プログラミングI				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	網代 孝			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義はソフトウェア開発で多く用いられているC言語について、基本的なプログラミング・スキルを身に付けるための講義・実習を行う。特に、各自ノートPCを用いて提示された仕様のプログラムを作成し、コンパイル・実行・デバッグまでの一連の作業手順を習得することを目標とする。C言語には多くの機能が用意されており、同じ処理でも多様な記述法があるが、本講義では最も基本的な命令文のみを使用する。				
授業方針	毎回、命令文の使い方やプログラムの作成法などを説明した後に1～2個の課題を出すので、提示された仕様に合うプログラムをノートPCで打ち込んで実行結果を解答する。コンパイルエラーが出た場合や、実行結果が間違っている場合は自力で修正する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 プログラミングの概念 第2回 C言語の基本事項、プログラムの実行 第3回 条件分岐命令を使ったプログラム作成(if) 第4回 繰り返し命令を使ったプログラム作成1(while、do-while) 第5回 繰り返し命令を使ったプログラム作成2(for) 第6回 最大値・最小値を求めるプログラム作成 第7回 1次元配列を使ったデータ入出力プログラム作成 第8回 1次元配列を使った最大値・最小値を求めるプログラム作成 第9回 Visual Studioによるプログラムの作成・実行 第10回 1次元配列を使ったデータ並べ替えプログラム作成 第11回 2次元配列を使ったデータ入出力プログラム作成 第12回 実数型を使ったプログラムの作成 第13回 関数を使ったプログラム作成 第14回 配列を引数に取る関数を使ったプログラム作成 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)				
学習到達目標	(1) 最大値・最小値を求める流れ図(フローチャート)とプログラムが書ける。 (2) 1次元配列を使ったプログラムが書ける。 (3) 2次元配列を使ったプログラムが書ける。 (4) 関数を使ったプログラムが書ける。 (5) Visual Studioでプログラムの作成・実行・デバッグができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) プログラムの動作原理、C言語の基本的な命令文を理解しているか。 (2) プログラムの作成・コンパイル・実行・デバッグの作業が自力で行えるか。 (3) C言語の基本的な機能を用いて、仕様を満たすようなプログラムが作成できるか。 (4) 仕様変更に合わせて、既存のプログラムを改良できるか。			
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 参考書: やさしいC 第5版(高橋麻奈 著、ISBN978-4-7973-9258-6) (2) その他: 必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	プログラミング入門を受講していることが望ましいが、未受講者でも課題をこなせるよう配慮する。また、情報処理関連資格の取得を目指す学生は本講義を履修することが望ましい。				

科目名	プログラミングII				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	網代 孝			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ソフトウェア開発で多く用いられているC言語について、応用的なプログラミング技法についての講義・実習を行う。特に、文法をよく理解したうえで高度な機能・記述法を習得し、実用的なプログラムを作成する能力を身につけることを目標とする。授業の流れとしては、C言語の機能についての文法的な説明を聞いた後に、課題として提示された仕様のプログラムを各自で作成・実行する。プログラミングIIに比べて、実習よりも講義の比率が高い構成となっている。				
授業方針	毎回、命令文の使い方やプログラムの作成法などを説明した後に1個の課題を出すので、提示された仕様に合うプログラムをノートPCで打ち込んで実行結果を解答する。コンパイルエラーが出た場合や、実行結果が間違っている場合は自力で修正する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 C言語の基礎1:C言語について 第2回 C言語の基礎2:演算と型 第3回 条件分岐1:if文による分岐、比較演算子、条件演算子 第4回 条件分岐2:論理演算子、switch文による分岐 第5回 繰り返し文1:while、do-while文による繰り返し 第6回 繰り返し文2:for文による繰り返し 第7回 配列:配列とその使い方、多次元配列 第8回 関数1:関数とその使い方 第9回 関数2:関数の応用、静的変数と自動変数 第10回 基本型:基本型の詳細、ビット演算子 第11回 いろいろな機能:関数形式マクロ、列挙、再帰 第12回 文字列:文字列とその使い方 第13回 ポインタ:ポインタとその使い方 第14回 構造体:構造体とその使い方 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1) 次回の授業に備えて教科書・参考書の該当ページに目を通し、また関連分野についてGoogleなどで事前調査し、スムーズに授業内容が理解できるように予習しておくこと。(20時間) (2) 受講後には使用した教科書・参考書の該当ページを読みながら、授業内容を思い出して復習すること。また、新しく登場した概念や専門用語についてGoogleや専門書で調べて詳細に理解すること。(40時間)				
学習到達目標	(1) 算術演算子・繰り返し文・関数を用いた高度なプログラムが書ける。 (2) switch文・条件演算子を用いたプログラムが書ける。 (3) マクロ・列挙を用いたプログラムが書ける。 (4) 文字列の概念・機能について理解する。 (5) ポインタの概念・機能について理解する。 (6) 構造体の概念・機能について理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) プログラムの動作原理、C言語の厳密な文法・高度な命令文を理解しているか。 (2) プログラムの作成・コンパイル・実行・デバッグの作業が自力で行えるか。 (3) C言語の高度な機能を用いて、仕様を満たすようなプログラムが作成できるか。 (4) メモリの論理構造とアドレス、変数のメモリ上の配置、ポインタを理解しているか。			
	成績評価 方法	(1) 出席、課題レポート、期末試験による。 (2) (課題点の平均+期末試験)÷2で成績を算出する。 (3) 別紙(成績評価と単位認定について)を参照。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 教科書:新・解きながら学ぶC言語(柴田望洋 著、ISBN978-4-7973-8409-3) (2) 教科書:解きながら学ぶC言語(柴田望洋 著、ISBN978-4-7973-2790-1)※絶版 (3) 参考書:やさしいC 第5版(高橋麻奈 著、ISBN978-4-7973-9258-6) (4) その他:必要に応じて補助教材を配布する。				
備考	プログラミング入門・プログラミングIを受講していることが望ましいが、未受講者でも課題をこなせるよう配慮する。また、情報処理関連資格の取得を目指す学生は本講義を履修することが望ましい。				

科目名	プログラミング入門			
クラス	対象学年	1年	開講学期	前期
			曜日・時限	火4
担当教員	田中 克明		単位区分	◎(必修)_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータに実行させたい内容を、あらかじめ記述しておく「プログラム」の作成について学習する。プログラムを作成することで、コンピュータを1つずつ操作をすることなく、自動的に動作させることができる。この授業では、JavaScriptに準じた言語を利用して学習を進める。この授業では、企業においてソフトウェア開発に従事した実務経験に基づく講義を行う。【実務】			
授業方針	プログラムを書くための言語(プログラミング言語)の説明と、ノートPCを用いた演習を交えて行う。各回とも課題を出題する。なお、以下の授業スケジュールは課題の状況により変更することがある。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 プログラムとは 第 2回 動作を事前に記述するシステムの利用 第 3回 制御構造と関数 第 4回 プログラム作成・実行環境の利用 第 5回 キーボード入力と画面出力を行うプログラムの作成 第 6回 和・差・積を求めるプログラムの作成 第 7回 構文エラーへの対応 第 8回 条件判断を行うプログラムの作成 第 9回 関数を用いたプログラムの作成 第10回 プログラムの動作確認方法 第11回 繰り返しを行うプログラムの作成 第12回 論理的エラーへの対応 第13回 データを読み取り表示するプログラムの作成 第14回 プログラムと流れ図 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	毎回の授業資料を確認し、資料を見ずとも課題に回答できるように復習すること(30時間) 毎回出題される課題について、各自で作業を行い回答すること(15時間) 毎回出題される課題について、類似する課題を各自で考え、課題と同様に回答できるか確認すること(15時間)			
学習到達目標	順番に命令を実行する方式を理解できたか。 条件に応じて動作を変更するプログラムを作成できるか。 繰り返し構造を用いたプログラムを作成できるか。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習内容」で記した事項を理解してプログラミングを行えるか。		
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題80%、テストまたは期末課題20%の割合で総合評価。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	資料を適宜配布する。			
備考	各自のノートPCを利用するので、Windows Updateを適用した後、忘れずに持参すること。			

科目名	マーケティング論			
クラス		対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月4
担当教員	村山 要司			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	データサイエンス、ビッグデータの活用などから、経営戦略のあり方を決定づける手法としてマーケティングの重要度は高まっている。本講義では、マーケティングの戦略手法を知り、ビジネス活動と結びつけて、その基本を理解するとともに、代表的なリサーチ、データ分析手法についても学ぶ。 【実務経験】本科目は、技術者として顧客・販売戦略システムの構築に携わり、また、IT企業で経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。			
授業方針	マーケティング活動の各プロセスで適用される考え方や手法を取り上げ、解説を行う。 適宜、課題(小テスト、ミニレポート)を出題する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 マーケティングとは 第2回 環境分析:消費者分析、競合分析、自社分析、企業環境 第3回 コンセプト:ニーズとシーズ、アイデア 第4回 基本戦略:セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング 第5回 戦術:ブランド、シンボル開発 第6回 戦術:マーケティングミックス①、プロダクト 第7回 戦術:マーケティングミックス②、プライス 第8回 戦術:マーケティングミックス③、プロモーション 第9回 戦術:マーケティングミックス④、プレイス 第10回 マーケティングリサーチ 第11回 調査分析手法:主成分分析、因子分析 第12回 調査分析手法:判別分析、クラスター分析 第13回 調査分析手法:コンジョイント分析 第14回 AI、機械学習とデジタルマーケティング 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	① 次回の講義内容について、キーワードの意味などを調べておく。(30時間) ② 課題は、授業中にフィードバックを行うので、復習すること。(30時間)			
学習到達目標	マーケティングの内容、基本的な手法について、ビジネス活動と結びつけて理解できる。 マーケティングリサーチおよび分析についての基礎を理解できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	マーケティング活動の各プロセスの内容、用いられる基本的な手法について説明できるか。 マーケティングリサーチおよび分析の代表的な手法を目的に応じて適用できるか。		
	成績評価 方法	課題(小テスト、ミニレポート)60%、試験40%の割合で総合的に評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	必要に応じてプリントを配布する。			
備考				

科目名	マルチメディア論			
クラス		対象学年		開講学期 後期
				曜日・時限
担当教員	未定			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	<p>本授業は、CG、画像処理、音声、通信、コンピューターのハードウェア及びソフトウェア、コンテンツ制作、人工知能、IoT、ロボット、ユーザインタフェース、知的所有権などの分野を俯瞰し、それらを組み合わせたモノづくりやコトづくりの実践活動の基礎知識を学習することを目的とします。 【実務】情報機器の開発者としての実務経験に基づき、分野横断的なマルチメディア知識が要求される事項を取り扱う実践的科目になります。</p>			
授業方針	<p>講義形式で行います。 教科書の内容を中心に、演習なども盛り込むことで理解促進を図ります。 また、教科書の内容に加え、実務経験に基づく考え方や最先端事例も盛り込むことで、具体的な実践的応用力も身に着けます。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 マルチメディアの特徴 第2回 ヒューマンインタフェースと人間の拡張 第3回 デジタル端末 第4回 コンピューターの構成 第5回 コンテンツ制作のためのメディア処理 第6回 インターネットのしくみと役割、通信 第7回 インターネットで提供されるサービス 第8回 インターネットビジネス 第9回 デジタルとネットワークで進化するライフスタイル(1) 第10回 デジタルとネットワークで進化するライフスタイル(2) 第11回 デジタルとネットワークで進化するライフスタイル(3) 第12回 社会に広がるマルチメディアの実例紹介(1) 第13回 社会に広がるマルチメディアの実例紹介(2) 第14回 社会に広がるマルチメディアの実例紹介(3) 第15回 まとめ及び試験</p>			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の周囲にあるマルチメディア環境やインターネット提供サービスに一段と注意を払い、関連雑誌や新しい記事情報を注意深く読むこと。(30時間)</li> <li>授業で扱った内容について復習しておくこと。(30時間)</li> </ul>			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の周囲におけるマルチメディア環境に対して、その背景となる基礎知識を述べることができるか。</li> <li>上記知識を、日常生活や社会に役立つアイデアや表現として応用できるアイデアを創出することができるか。</li> </ul>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「マルチメディア検定」にチャレンジし、少なくとも「ベーシック」を取得できる知識を有しているか。		
	成績評価 方法	レポート30%、期末試験70%で総点を求め評価します。 別紙(成績評価と単位認定について)参照		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	<p>(1)教科書 入門マルチメディア[改訂新版] (2)参考書 随時紹介します。</p>			
備考				

科目名	映像・音楽の総合表現と人間			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	木4,木5
担当教員	曾我 重司,中川 善裕,宮井 里佳,檀上 誠		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	「映画」は総合芸術であるとしばしば言われる。映画には視覚的情報以外に聴覚的情報も含まれ、その表現形態としては実写はもちろん、アニメーション(セル、クレイ、パペットなど)でも様々な表現がなされている。もちろん、その内容もまたヒトの営みの様々な有り様を表現している。そこで、本講義では「映画・映像」を軸とし様々な専門分野を持つ教員が、それぞれの視点から解説し、それにまつわるトピックを講義・解説を行う。			
授業方針	本講義では、「映画」を中心とし、原則として毎回一作品を鑑賞し、それにまつわる様々な視点からの専門的な観方を体験する。講義は二コマ続きとする。また映像の制作の現場に携わっている外部講師の方を読んで話を伺う回数も数回予定している。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>本講義は、4限5限のふたコマ続きであるため、前期講義期間の15週のうち8回行う。講師の事情により補講期間など時間割に記載された以外の時間に行う場合もある。</p> <p>講義日程は講師の都合によって異なるため、初回の講義時に開講日と内容を発表するので必ず出席すること。</p> <p>また下に示した講義内容は参考として先年度の講義内容が示してある。</p> <p>第1回 講義スケジュールの説明及び映像や音楽の多様な視点からの理解のあり方についての解説。  第2,3回 「アニメーションにおける動きの表現」  第4,5回 「映画におけるCG製作の現場から」  第6,7回 「音楽と映像」  第8,9回 「マンガにおける情感の表現」  第10,11回 「映画における編集, VFXについて」  第12,13回 「なぜ知覚心理学でアニメーションを研究するのか？」  第14,15回 総合的解説:まとめ及び試験</p>			
準備学習	①できるだけ映像作品に親しんでおくこと(30時間) ②授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(30時間)			
学習到達目標	映像に関して単に娯楽として鑑賞するだけではなく、その背景にある意味を読み取り、それぞれの作品に潜在する技術などを理解し、多角的な視点から観ることができるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	映像にまつわる各講師の話題について、理解ができたかどうか。映像を多角的な視点から観ることができるようになったか。		
	成績評価 方法	講義時に出される各課題への取り組み50%、最終レポート50%とする。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 特に指定しない。 (2)参考書類は、講義中に随時紹介する。			
備考	討論や発表など積極的な参加を要求する。			

科目名	映像と音楽				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	映画を中心に、音響や音楽が作品の中でどのような機能を果たし、どのような効果をもたらすかを考察する。				
授業方針	豊富な実例を挙げながら実際の授業を展開する。時代、国籍、商業映画、芸術映画などのジャンルに囚われずあらゆる映画を対象とする。第1回～第9回までは音響／音楽の特徴を一つずつ挙げ、様々な実例を用いて解説する。第10回以降は、1本の映画の中でどのような工夫が為されているかを総合的に見る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 映画音楽とは何か(音楽ジャンルとしての映画音楽) 第 2回 映像と音の恣意性について(唯一の正解はない) 第 3回 映画における音の役割—感情移入的音楽 第 4回 映画における音の役割—非感情移入的音楽 第 5回 映画における音の役割—分節と接合 第 6回 音による空間の演出 第 7回 記号としての音(意味としての音) 第 8回 映像と音との3つの関係性 第 9回 関係性の越境による演出 第10回 一つの作品の中で音の演出(1)(1本の映画の、全体を通しての分析) 第11回 一つの作品の中で音の演出(2) 第12回 一つの作品の中で音の演出(3) 第13回 一つの作品の中で音の演出—自作を例として(1) 第14回 一つの作品の中で音の演出—サイレント映画につける音楽 第15回 自分で音楽を手がけた映画を詳細に見ながら、音楽の作業の実際を解説				
準備学習	日頃から映画への関心を持続して持つこと。				
学習到達目標	漫然と映画を見るのではなく、分析的な視点もあり得るということを実感してもらうことで、これからの映画の見方がより広がることを目指す。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義内容をふまえた上で、どれだけ細かく正確に分析ができているか、その中にオリジナルな視点があるかどうかを重視する。			
	成績評価 方法	小レポート40%、最終レポート60%の合計によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	参考書:『映画にとって音とは何か』(ミシェル・シオン著.勁草書房) 『映画音楽』(ミシェル・シオン著.みすず書房)				
備考					

科目名	<b>映像環境論</b>				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本科目の内容は映像制作の実務経験に基づき構成され、映像を扱う際に必要とされる環境について専門的知識を扱う実践的科目である。デジタル映像は、様々なデジタル機器が使用され、映像を扱う関連機器や環境は変化している。デジタル映像の制作から上映までに関連するデジタル機器・技術・ソフトについて最新の状況を熟知しておく事が不可欠である。変化し続ける映像環境について、追従できるような素養を修得することを目指す。【実務】				
授業方針	デジタル映像制作を行うには、制作環境や映像を表示する環境を考慮して制作する必要がある。特に環境要素の特徴について詳述し、映像を環境に合わせ効果的に扱えるよう判断できることを目指す。基礎的知識や最新の環境設備や技術について、実例を挙げながら講義する。プレゼンと討論をとりおこなう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 画が動いて見えるしくみ 第2回 映像制作の世界 第3回 アナログとデジタル 第4回 映像関連機器と解像度 第5回 ビデオ信号と伝送のしくみ 第6回 色表現とカラーモデル 第7回 走査線、画面アスペクト比 第8回 ストリーミング、オンデマンド配信 第9回 映像関連機器とファイルフォーマット 第10回 デジタルコンテンツと国内外の事例 第11回 デジタルサイネージ、企画発表に関する説明 第12回 企画発表(第1グループ) 第13回 企画発表(第2グループ) 第14回 試験に関する説明 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・毎回の講義内容の復習を行うこと。(20時間) ・次回の講義内容との関連について理解できるように予習しておくこと。(20時間) ・講義内容に関連する専門用語は調べておくこと。(20時間)				
学習到達目標	映像制作・活用時に必要な機器について、メディアごとにその特徴を理解し、選択・利用できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適宜課題により、達成度評価を行う。			
	成績評価 方法	提出物への評価(80%)、講義に取り組む姿勢(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書・参考書は適宜指示する				
備考	関連資格を取得した場合は評価の対象とする				

科目名	映像制作演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本科目の内容はCG映像制作の実務経験に基づき構成されており、CG映像制作に必要とされている専門的知識・技能を扱う実践的科目である。デジタル映像制作に必要とされる基礎的知識・技能の習得及び創意工夫による映像作品の制作を行う演習系科目である。【実務】				
授業方針	本科目ではノンリニア編集を中心としたデジタル映像制作に関する基礎的知識及び技能の習得を目指す。ノンリニア編集専用のソフトウェアを実際に操作しながら映像制作に必要な基礎的知識及び技能を身につけると共に、課題に基づいた実践的な制作活動を行う。また、制作活動を通じ自ら考え創意工夫する力を養っていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回:演習内容の概要及び演習スケジュールの説明 第2回:基本操作 第3回:キーフレームアニメーション、フライング・ロゴ 第4回:エフェクトの活用(基礎編) 第5回:モーションパスの活用 第5回:エフェクトの活用(ブラー、レンズフレア) 第6回:エフェクトの活用(グロー、フラクタルノイズ) 第7回:マスクパス 第8回:レンダリング 第9回:中間および最終課題についての説明 第10回:映像制作活動(1)テーマの決定、制作方法の設計 第11回:映像制作活動(2)実制作(素材準備) 第12回:映像制作活動(3)実制作(素材加工) 第13回:映像制作活動(4)実制作(動画編集、提出用ファイルフォーマットの確認) 第14回:映像制作活動(5)プレゼンテーション形式による作品発表及び講評会 第15回:まとめ及び試験				
準備学習	・指定教科書に記載されている専門用語及び知識は、予習・復習しておくこと。(40時間) ・個人作品制作に必要なアイデア作りを行っておくこと。(20時間)				
学習到達目標	・必要とされる技能や知識の修得 ・見る人に感動を与えられる作品制作を行うこと				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	制作に対する理解度と提出作品のクオリティ			
	成績評価 方法	1)意欲的な制作活動への取り組み(20%)、2)課題制作の提出及びクオリティ(80%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	「はじめよう！作りながら楽しく覚えるAfterEffects」 木村菱治 著、株式会社ラトルズ				
備考					

科目名	映像文化論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	坂口 周輔			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	授業では、映像文化の歴史を「写真」や「映画」を中心に概観することによって、映像(イメージ)の力がどのようなものであり、文化の形成にいかに関わっているのかを見ていきます。テレビやインターネットといった分野も扱いたいと思います。基本的には毎回の授業でいくつかの具体的な映像作品を取り上げ、その作品に関する情報や背景を解説し、続いてその作品の特徴をいろいろな側面から探っていきます。				
授業方針	毎回いくつかの映像作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。みなさんの発言をできるだけ求めていきたいと思っています。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 インTRODクシヨN: イメーJの誘惑 第2回 写真の歴史 第3回 写真論を読む 第4回 写真論を読む(2) 第5回 映画の誕生: 写真から映画へ 第6回 映画と政治 第7回 ハリウッド映画(1) 第8回 ハリウッド映画(2) 第9回 映画論を読む 第10回 ヨーロッパの映画(1) 第11回 ヨーロッパの映画(2) 第12回 日本映画 第13回 その他の地域の映画 第14回 テレビ・インターネット 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業で紹介する映画は時間の制約もありどうしても抜粋になってしまうと思いますので、映画館に行ったり、DVDを借りたりして、作品全編を見てみてください(25時間) プリントが配られた場合は、予習・復習を欠かさないようにしましょう(20時間)				
学習到達目標	写真や映画の歴史に関する基本的知識を身につけます。また写真や映画を見るとはどういうことか論理的に考えられる思考能力を養っていきます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容をしっかりと把握し、身につけられたのかをチェックします。期末試験で映像作品を対象にして自分の意見を論述してもらいます。			
	成績評価 方法	授業への参加度30%、定期試験70%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	1)教科書の指定は特になし。 2)参考書については、授業中の内容に応じてその都度紹介する。				
備考					

科目名	音楽とメディアの歴史				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽はメディアを媒介として表現される芸術であると共に、音楽自体も一つのメディアとなりうる。ここでは音楽とメディアの関係を、実例としての作品にも触れながら紐解いて行きたい。				
授業方針	普段、我々を取り巻いていて何気なく聴いてしまっている音楽が、歴史的、社会的にどのような役割を担ってきたか、或いはどのような意味を持ちうるのか、新しいメディアは音楽にどのような変化をもたらしたのか・・・など、音楽の意味、役割などを考える契機になって欲しい。適宜、授業の内容、授業中に聴いた曲等のレポートの提出を求める事がある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 音楽とメディアの関係 第 2回 楽譜というメディア 第 3回 楽譜と印刷技術 第 4回 楽譜出版の背景 第 5回 録音技術の歴史(第2次世界大戦前) 第 6回 録音技術の歴史(第2次世界大戦後) 第 7回 録音レパートリー 第 8回 録音技術と音楽 第 9回 無線通信の歴史 第10回 ラジオの歴史 第11回 ラジオと音楽 第12回 テレビと音楽の関係 第13回 社会の音楽化 第14回 デジタル化と音楽,社会における音楽の役割 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回授業内容に設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	音楽とメディアの歴史を理解したうえで、新しいメディアと音楽との関係を解説できるか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業の内容をどの位理解したか。またそれを基に自分なりの見方を表現できるか。			
	成績評価 方法	期末試験80%、授業参加度20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 なし (2)参考書 講義開始時に指示する				
備考					

科目名	音楽情報演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	楽譜の読み、楽譜の書き方、イヤートレーニング、コード理論などを初歩から順に学んでゆく。また、コンピュータソフトウェアを用いた実習を行い、修得した知識を用いた作品制作実習も行う。				
授業方針	コンピュータを用いて音楽制作をする上で必要とされる基礎知識(ここでは主に楽譜の読み、簡単な音楽理論、情報と音楽の関連性等)の修得を主眼とする。コンピュータを用いた実習を併用して学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 楽譜の読み方 第2回 音楽と情報(コンピュータ、MIDI) 第3回 音部記号、音名、変化記号 第4回 音符、休符、拍子、拍 第5回 音程 第6回 長音階 第7回 短音階(和声短音階) 第8回 調と調号の関係1 第9回 調と調号の関係2 第10回 和音と機能 第11回 コードネーム1 第12回 コードネーム2 第13回 和音の連結法 第14回 反復記号、曲想 第15回 基礎的な楽典:まとめ及び試験				
準備学習	配布プリントをよみ、専門用語の意味などを理解しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した内容をきちんと理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか			
	成績評価 方法	期末試験80%、授業の参加度20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)特になし (2)参考書 オリエンテーション時に指示する				
備考	コロナウイルス感染予防対策として、履修者が10名を超えた場合は高学年優先の上抽選となります。				

科目名	音楽情報演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	楽譜の読み、楽譜の書き方、イヤートレーニング、コード理論などを初歩から順に学んでゆく。また、コンピュータソフトウェアを用いた実習を行い、修得した知識を用いた作品制作実習も行う。				
授業方針	コンピュータを用いて音楽制作をする上で必要とされる基礎知識(ここでは主に楽譜の読み、簡単な音楽理論、情報と音楽の関連性等)の修得を主眼とする。コンピュータを用いた実習を併用して学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 楽譜の読み方 第2回 音楽と情報(コンピュータ、MIDI) 第3回 音部記号、音名、変化記号 第4回 音符、休符、拍子、拍 第5回 音程 第6回 長音階 第7回 短音階(和声短音階) 第8回 調と調号の関係1 第9回 調と調号の関係2 第10回 和音と機能 第11回 コードネーム1 第12回 コードネーム2 第13回 和音の連結法 第14回 反復記号、曲想 第15回 基礎的な楽典:まとめ及び試験				
準備学習	配布プリントをよみ、専門用語の意味などを理解しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した内容をきちんと理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか			
	成績評価 方法	期末試験80%、授業の参加度20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)特になし (2)参考書 オリエンテーション時に指示する				
備考	コロナウイルス感染予防対策として、履修者が10名を超えた場合は高学年優先の上抽選となります。				

科目名	音楽情報演習II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	金4
担当教員	三上 直子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽情報演習1で修得した知識を応用発展させ、メロディー作りや編曲を行う。また、コンピュータソフトウェアを用いて作品制作実習も行う。				
授業方針	コンピュータを用いて音楽制作をする上で必要とされる基礎知識を応用し、理論を発展させ、コンピュータを用いながら作品制作を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 音楽情報演習1の復習 第2回 基本的なコード進行について1 第3回 基本的なコード進行について2 第4回 様々なコード進行について(セカンダリドミナント等) 第5回 様々なコード進行にメロディーを乗せてみる1 第6回 様々なコード進行にメロディーを乗せてみる2 第7回 リズムアレンジ(8ビート、16ビート) 第8回 リズムアレンジ(その他のリズムパターン) 第9回 スtringスアレンジ 第11回 楽曲校正の原理(反復と変奏) 第12回 楽曲校正の原理(変化と統一) 第13回 作品制作1 第14回 作品制作2 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	音楽情報演習Iで学んだ事を復習しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した内容をきちんと理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか			
	成績評価 方法	期末試験80%、授業の参加度20%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	プリントを配布。必要に応じて各自で準備(授業中に指示)。				
備考	履修に際して: 音楽情報演習1を履修しているか、基本的な楽典の知識があること。五線ノートを準備すること。				

科目名	音楽文化論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	世界に存在する様々な音楽に触れることで、現代の音楽文化の全体像を把握する。				
授業方針	豊富な実例を挙げながら世界の様々な音楽に触れてゆく。普段耳にしないと想像される様々な音楽にじかに触れてもらうことで、音楽についての視野を広げてもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業方針、アンケート、学生の要望を聞く 第2回 世界の民族音楽 その1(アジア、アフリカ地域) 第3回 世界の民族音楽 その2(ヨーロッパ、アメリカ地域) 第4回 クラシック その1(グレゴリオ聖歌からバロックまで) 第5回 クラシック その2(古典派から近代まで) 第6回 クラシック その3(20世紀の音楽と現在) 第7回 ジャズ その1(ジャズの発祥からクール・ジャズまで) 第8回 ジャズ その2(ハード・バップから現在まで) 第9回 ロック その1(ロックの発祥から70年代まで) 第10回 ロック その2(70年代から現在まで) 第11回 ワールド・ミュージック 第12回 実験的ポピュラー音楽(現代音楽、ジャズ、ロックの遺産を受けて) 第13回 ダンス・ミュージック全般(テクノ、ヒップホップ) 第14回 日本のポピュラー・ミュージック その1(戦後から60年代まで) 第15回 日本のポピュラー・ミュージック その2(70年代以降)				
準備学習	普段からさまざまな音楽に関心を持ち、アンテナを磨いていることが望ましい。				
学習到達目標	世界にはさまざまな音楽が存在し、それぞれが独自の価値観を持っていることを身をもって実感してもらう				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義内容をふまえた上で、どれだけ踏み込んだ分析ができているか、どれだけ柔軟な視点からの観察が実現されているかを見る。			
	成績評価 方法	小レポート40%、最終レポート60%の合計によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じてプリントを配布する。				
備考					

科目名	<b>音響環境論I</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	時間外
担当教員	鈴木 和秀			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義は、録音・再生における音楽情報伝達を中心に、音楽録音の基礎である芸術音楽(クラシック音楽)の録音制作を取り上げ、音の伝え方と音楽の伝わり方の関係を学ぶ。そして、外部ホールにおける録音制作の体験を通じて、生演奏と録音との違い、そして、録音技術による音楽表現の可能性及びそのあり方を検討する。なお、本科目は、録音制作の実務経験に基づき、実学的な視点より音響環境の構築から録音制作全般について学修できる実践的科目である。				
授業方針	前半では、録音・再生の歴史より、録音・再生機器及び録音技術の発達、そして、音楽との関わりを概観しつつ、様々な時代の優れた録音作品に触れ、その可能性を知る。後半では、生演奏の再現がテーマである芸術音楽の録音制作全工程をホールにおいて実際に行う。そして、情報手段としての録音の役割、意味、その功罪について考察する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 録音・再生の歴史 I (録音・再生方式の変遷) 第 2回 録音・再生の歴史 II (記録媒体の変遷) 第 3回 録音・再生の歴史 III (録音技術の発達) 第 4回 録音制作の企画及び制作工程を概観する。 第 5回 録音・再生機器の役割と録音技術との関係。 第 6回 情報伝達における録音技術の影響について、音質評価手法を用いて検討する。 第 7回 芸術音楽の録音制作工程について、映像による事例を示す。 第 8回 録音制作の実際 I (収録場所の音響条件及び演奏、録音環境の整備、調整) 第 9回 録音制作の実際 II (収録機器の選択、設定、調整) 第 10回 録音制作の実際 III (收音技法、ミキシングバランス、録音レベル管理) 第 11回 録音制作の実際 IV (演奏家とのコミュニケーション及び制作の進行) 第 12回 編集・マスタリングの実際 I (コンピュータを用いた編集システムの構築) 第 13回 編集・マスタリングの実際 II (曲間、曲中の波形編集とダイナミックレンジの調整) 第 14回 編集・マスタリングの実際 III (マスタリング、マスター制作) 第 15回 まとめ及びレポート作成				
準備学習	第1回目に配布する講義全体の資料をよく読み、専門用語に慣れ、分からないところは、遠慮なく質問すること。				
学習到達目標	録音・再生の歴史を踏まえ、録音技術の役割及び媒体における音楽表現の可能性について、実際にホールを用いた録音制作の体験を通じて考察し、今後の音楽制作に生かすことを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	録音・再生の歴史の学習を通じて、技術の発達と音楽情報の伝達との関連が理解できたか。ホールにおける録音制作を通じて、生演奏と録音との違い、録音技術の役割、あり方について、独自の見方、とらえ方ができたか。			
	成績評価 方法	第15回目に課すレポート100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 (2)参考書 「ピアノ・ノート 演奏家と聴き手のために」 チャールズ・ローゼン 著 朝倉和子 訳 みすず書房 (3)その他 第1回目に講義全体の資料を配布し、それに基づいて講義を行う。				
備考	集中講義のため、出席には特に留意すること。				

科目名	音響環境論II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	鈴木 治行			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	音楽を自分で作ったり、好きな音を加工したりできたら楽しいと思いませんか？この授業では、protoolsという世界的に広く使われているソフトを実際に操作しながら、粘土で好きな形を作ったり、彫刻を掘ったりするのと同じように、音を切り、くっつけ、編集、加工してゆくやり方を学びます。楽譜にはよらず、音そのものをいじるので、譜面は読めなくて構いませんし、楽器の腕前もいりません。あなたも一緒に音で遊んでみませんか？				
授業方針	毎回protoolsを実際に操作しながら、最終的には簡単な作品の制作に至ることを目標とする。ただし機材の台数には限りがあるため、応募者が多数の場合は何らかの方法で受講者を選抜し、少人数制にする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 この授業の目的、protoolsとは、アンケート 第 2回 protoolsの基本概念(MIDIについての基礎知識をふまえて) 第 3回 MIDIデータの入力作業(画面の見方) 第 4回 MIDIデータの編集作業(コピー、ペースト、ストレッチetc) 第 5回 MIDIデータの編集作業(4つのモード、強弱、パンetc) 第 6回 MIDIデータのリアルタイム入力 第 7回 オーディオデータの入力作業 第 8回 オーディオデータの編集作業(MIDIデータと対比しながら) 第 9回 オーディオデータの編集作業(audiosuiteによる加工) 第10回 オーディオデータの編集作業(オートメーションの操作) 第11回 オーディオ&MIDIデータの編集作業(仕上げとバウンス) 第12回 作品制作(これまでに学んだノウハウを活かしながら、提出作品を制作) 第13回 作品制作 第14回 作品制作 第15回 作品制作と提出				
準備学習	パソコンの基本的操作が身に付いていること。				
学習到達目標	protoolsを用いて基本的な音楽制作ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	パソコンによる音楽制作をどのくらい理解し、その技術がどのくらい身に付いたかを見る。			
	成績評価 方法	平常点30%、最終提出作品70%の合算によって評定。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	特になし				
備考					

科目名	企業と業界の分析 I (製造・技術・IT)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	本吉 裕之			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	様々な業界の課題や直近の社会構造の変化に着目し、特に科学技術の進展との関連の下で未来への流れを探る。本科目は民間企業において、ITサービスに携わった実務経験を有する実務科目である。【実務経験】JTB東京銀座支店、ドコモAOLビジネス開発部を経てプライムリンク(現・株式会社一休(Zホールディングス))。一休.com宿泊施設等への営業及び新サービスの企画・開発に取り組み、宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	講義を主体として進める。業界動向に関する課題を設定し、レポートを作成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 社会構造～産業革命から令和 第 2回 少子高齢化がもたらす今後の社会 第 3回 グローバル化 第 4回 サービス業 第 5回 日本の技術革新と現状 第 6回 新規事業開発① 第 7回 新規事業開発② 第 8回 製造業 第 9回 農業 第10回 交通網・自動車 第11回 住宅・都市 第12回 情報・通信・IT 第13回 新規事業開発プレゼン① 第14回 新規事業開発プレゼン② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	○資料通読と、昨今の社会情勢、企業研究(50時間) ○課題についてレポートを作成する。(10時間)				
学習到達目標	直近の社会情勢と企業の動向を把握し、個人や組織としての対応の方向性について考察し、対応について取りまとめる力を付け、プレゼンテーションを行う。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	社会情勢の把握について、その情報収集力を高め、情報を分析して対応方策をまとめたレポートの内容、情報の理解度を評価する。			
	成績評価 方法	授業への積極的参加(20%)、社会情勢の理解度・中間レポートの内容(20%)、期末試験(60%)などを総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	○資料は適宜紹介、配布する ○材料とする新聞記事、雑誌記事、ネット情報などを提供する				
備考	就職活動につなげ、視野を広げられるように指導する。				

科目名	企業と業界の分析Ⅱ（流通・物流）				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	林 信義			単位区分	__（選択）
				単位数	2
概要 （目的・内容）	<p>メーカーがつくった商品が消費者である我々の手元に届くまでに様々な企業が介在している。本講義では商品の販売を行う小売業、その小売業とメーカーの橋渡しをする卸売業、実際の商品を届ける物流業に着目する。          経営コンサルタントとして様々な企業と業界の発展に貢献した経験に基づき、その機能と役割、現在抱えている問題と展望について考察する実践的科目である。【実務】</p>				
授業方針	講義で取り扱った企業の実例を参考に自ら興味のある企業や業界を見つけて関心を持つことにより、皆さんの職業意識・就業意欲の向上を図りたい。				
学習内容 （授業 スケジュール）	第 1回 流通、物流の機能・役割 第 2回 日本の流通構造 第 3回 流通業が扱う商品 第 4回 流通業の戦略 第 5回 物流業の戦略 第 6回 小売業とメーカーの戦略の違い 第 7回 イノベーター理論 第 8回 流通経路・流通システム（食品） 第 9回 流通経路・流通システム（衣料品） 第10回 流通経路・流通システム（医薬品） 第11回 取引制度・店舗形態 第12回 マーチャンダイジング 第13回 物流センターの役割 第14回 コンビニ物流の特徴 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行うので復習により理解度を高めておくこと。（40時間） 自分なりの考えや疑問点をまとめておくこと。（20時間）				
学習到達目標	流通業のビジネスモデルのパターンを理解し他業界へも応用できるようになる。 様々な企業や業界、職種に興味を持てるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	流通・物流業のビジネスモデルのパターンを理解し説明できるか。 流通・物流業のビジネスの流れを理解し説明できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲（聴いて、考えて、伝える）50%、期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1) 講義内容に合わせて資料を配布する。 (2) 適宜、講義に関する資料を紹介する。				
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。				

科目名	企業組織における人間行動				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「企業」の中での人間の行動について学ぶ本授業では、前半は「行動経済学」を使って意思決定、判断の基準について考え、後半は「会社という組織」の実際について40年以上の実務経験のある講師の経験を参考に学んでいきます。そして最後に、リアリティを持って各自が就活、就職後の自分のありようについて考えていきます。【実務】				
授業方針	この授業は「教えない授業」です。各自が「その日のテーマ」について、ネット検索をしながら、関連知識について自分自身で纏めていきます。社会と人間、そして企業社会の状況に興味を持ち、その本質、歴史、今後について考えられるようになることを目指します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 行動経済学とは何か？企業とは何か？企業で働くということの意味は？(イントロダクション) 第 2回 行動経済学(1) 第 3回 行動経済学(2) 第 4回 行動経済学(3) 第 5回 企業の目的、経営理念(ケーススタディ) 第 6回 企業の組織、仕事(1)(ケーススタディ) 第 7回 企業の組織、仕事(2)(ケーススタディ) 第 8回 企業の組織、仕事(3)(ケーススタディ) 第 9回 企業におけるリーダーシップ(ケーススタディ) 第10回 イノベーション、商品開発(ケーススタディ) 第11回 経営改革(ケーススタディ) 第12回 企業で働くということはどういうことか？ 第13回 就活とは何か？ 第14回 キャリア形成について、企業における人間行動のまとめ 第15回 まとめ及び期末試験				
準備学習	予習は特に必要がない(授業の中で主体的に学んでいきましょう)。				
学習到達目標	行動経済学、意思決定ということについて自分なりに理解し、企業で働くことについてイメージができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業を通して学んだことをベースに、さらに自分自身で考えを深めることができるようになる。			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要があれば適宜配布				
備考	毎回PCまたはスマートフォンを持参すること				

科目名	空間構成演習I				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	クリエイティブ分野での「表現」に必要な形の見方や捉え方を、デッサンを通して学び、より高度な観察力や表現力を身につけます。 尚、この授業は2コマ続きの授業です。				
授業方針	実技中心の授業です。 「表現」とは画一的なものではありません。よって、学生一人一人が、それぞれのアドバイスを受けられるように努めます。 使用道具(各自用意):鉛筆、消しゴム、スケッチブック				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 授業内容説明のための実技 第 2回 実技(模写・ドローイング) 第 3回 実技(構図の決め方と形を正確に描く) 第 4回 実技(光と影を意識して描く:完成) 第 5回 実技(質感を意識して描く) 第 6回 実技(質感を意識して描く:続き) 第 7回 実技(質感を意識して描く:完成・講評) 第 8回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く) 第 9回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く:完成・講評) 第10回 実技(人物を描く) 第11回 実技(物の関係:空間を意識して描く) 第12回 実技(物と周囲の関係:空間を意識して描く:完成・講評) 第13回 実技(期末試験用作品制作:より複雑な質感を描く) 第14回 実技(期末試験用作品制作:継続作業),実技(期末試験用作品制作:完成・提出) 第15回 講評会及びまとめ				
準備学習	1、授業の補強として、ドローイング課題を定期的に行います。(30時間) 2、デッサンには様々な描画方法があるので、参考書や作品集などを見て表現の広がり意識すること。(20時間) 3、デッサンは「モノを見る力」が大切なので、日常的に身の回りのものを観察すること。(10時間)				
学習到達目標	「表現」に必要な基礎観察力・基礎デッサン力を高めるので、他の専門分野(CG、映像など)での表現の幅を広げることができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 描くこと、表現することへの熱意が見られるか。 b) 観察したものを画面上で表現できるか。 c) 表現したものを見る側へ明確に伝えられるか。			
	成績評価 方法	期末試験50%、提出作品30%、授業への参加態度20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	鉛筆などの描画用道具(各自用意)、画用紙、パネル、ドローイング帳(各自用意)				
備考					

科目名	空間構成演習II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	クリエイティブ分野での「表現」に必要な形の見方や捉え方を、デッサンを通して学び、より高度な観察力や表現力を身につけます。 尚、この授業は2コマ続きの授業です。				
授業方針	実技中心の授業です。 「表現」とは画一的なものではありません。よって、学生一人一人が、それぞれのアドバイスを受けられるように努めます。 使用道具(各自用意):鉛筆、消しゴム、スケッチブック				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 授業内容説明のための実技 第 2回 実技(模写・ドローイング) 第 3回 実技(構図の決め方と形を正確に描く) 第 4回 実技(光と影を意識して描く:完成) 第 5回 実技(質感を意識して描く) 第 6回 実技(質感を意識して描く:続き) 第 7回 実技(質感を意識して描く:完成・講評) 第 8回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く) 第 9回 実技(モチーフの特徴を描く。数種類のモチーフを描く:完成・講評) 第10回 実技(人物を描く) 第11回 実技(物の関係:空間を意識して描く) 第12回 実技(物と周囲の関係:空間を意識して描く:完成・講評) 第13回 実技(期末試験用作品制作:より複雑な質感を描く) 第14回 実技(期末試験用作品制作:継続作業),実技(期末試験用作品制作:完成・提出) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1、授業の補強として、ドローイング課題を定期的に行います。(30時間) 2、デッサンには様々な描画方法があるので、参考書や作品集などを見て表現の広がり意識すること。(20時間) 3、デッサンは「モノを見る力」が大切なので、日常的に身の回りのものを観察すること。(10時間)				
学習到達目標	「表現」に必要な基礎観察力・基礎デッサン力を高めるので、他の専門分野(CG、映像など)での表現の幅を広げることができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 描くこと、表現することへの熱意が見られるか。 b) 観察したものを画面上で表現できるか。 c) 表現したものを見る側へ明確に伝えられるか。			
	成績評価 方法	期末試験50%、提出作品30%、授業への参加態度20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	鉛筆などの描画用道具(各自用意)、画用紙、ドローイング帳(各自用意)				
備考					

科目名	会計学			
クラス	対象学年	1年	開講学期	前期
			曜日・時限	月1
担当教員	松田 正典		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>「会計」とは、価値創造活動(事業)の良し悪し等の状況を把握するための基本的な情報の枠組みである。したがって、人が一定の大きさの仕事を任される際、会計に関する確かな知識が不可欠とされることになる。</p> <p>この講座は、皆さんが将来そうした立場に立つ時に備え、「どのようなシーンで会計学が必要になるのか? その際、会計学をどのように役立てればよいのか?」という視点と、会計についての生きた知識を得てもらうことを目的とする。</p>			
授業方針	<p>「会計」が上記のようなものである以上、会計学を学ぶには、それが対象とする主に民間企業の「現場」についてのリアリティあるイメージを持てていることが不可欠である。この講座においては、そのイメージをしっかり持ってもらうところから丁寧に進めてゆく。</p> <p>加えて、テキストの指定の章(16頁前後)を一読して来ていることを前提に、そこで説明されている知識を定着させるべく、思考や議論のために授業の時間を使う。そうした中から皆さんが共に学ぶ友人を得ることも期待する。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 イン트로ダクション 及び 会計の役割  第2回 会計制度と社会  第3回 基本的な財務諸表  第4回 損益計算書の基本構造  第5回 貸借対照表の基本構造  第6回 在庫の会計  第7回 生産設備の会計 特に減価償却  第8回 負債と資本の会計  第9回 簿記  第10回 財務分析  第11回 経営会計  第12回 損益分岐点分析  第13回 会計に関連する仕事 特に会計監査  第14回 会計の歴史  第15回 まとめ及び試験</p> <p>(ただし、以上の内容は、進行状況その他の理由により、期の途中で若干変更される可能性があります。)</p>			
準備学習	<p>【予習】  教科書の指定範囲を事前に読み、そこでの解説を一通り理解し、かつ、理解不能な点を明確にして来ること。毎回、解説の冒頭に、皆さんの疑問点を質問します。  (初回の授業の予習範囲は、教科書の第1章。)</p> <p>【復習】</p>			
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計が社会において果たす役割とその重要性を理解できる。</li> <li>・基本的な財務諸表とその相互関係が理解できる。</li> <li>・実現主義・発生主義・収益費用対応の原則・保守主義等の、会計処理の原理原則が理解できる。</li> <li>・企業活動と財務諸表との関連が具体的にイメージできる。</li> <li>・「企業活動を成功させるためには会計という枠組みを使いこなせる必要がある」ということを理解できる。</li> </ul> <p>(以上、全て、基本的なレベルにおいて。)</p>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計が社会において果たす役割とその重要性を説明できる。</li> <li>・基本的な財務諸表とその相互関係を説明できる。</li> <li>・具体的な会計処理において考慮すべき会計の原理原則を説明できる。</li> <li>・具体的な企業活動と財務諸表の具体的項目とを正しく結びつけられる。</li> <li>・財務諸表に基づいて、企業活動の特徴を説明できる。</li> <li>・財務諸表を見て、その企業の問題・課題を指摘し、改善案を挙げることができる。</li> </ul> <p>(以上、全て、基本的なレベルにおいて。)</p>		
	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加姿勢(議論のリード、発言の量と質 等)50%</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	<p>【教科書】  『1からの会計』(谷 武幸・桜井久勝 編著、発行:碩学舎・発売:中央経済社)</p>			
備考	<p>今年のNHK大河ドラマの主人公渋沢栄一は当学近くの旧岡部藩血洗島出身で、「日本の資本主義」の父。主著『論語と算盤』の表題は、「企業経営と経済発展には、哲学と経済・会計のセンスが必要」との意味。授業でも、彼の言葉を紹介して行きたい。</p>			

科目名	<b>経営情報論</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	村山 要司			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ビジネスの現場では、様々な問題や課題を抱えている。必要な情報を集め、最適な分析手法でデータを処理し、得られた結果を考察して問題解決の糸口を見つけたり、意思決定を行ったりすることは、経営において不可欠な要素といえる。本講義では、経営に必要な情報とその分析手法を理解し、意思決定を行える問題解決能力を養うことを目的とする。【実務経験】本科目は、IT企業で、技術者、経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。				
授業方針	実践的、かつ、具体的な事例を取り上げ、実際にデータ分析を行う。 分析の具体的手段として、Excelを用いる。(Excelの基本操作は習得しているものとする) 統計、数理計画といった数学的手法を用いるが、必要最低限の解説にとどめ、目的や分析により何が読み取れるかに重点を置く。 適宜、課題(演習問題、ミニレポート)を出題する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 経営情報とは:経営情報の範囲と目的 第2回 情報の収集:情報の種類、入手、整理 第3回 販売情報①:業績基調、商品管理、販売効率 第4回 販売情報②:バーゲン効果、変動を考慮した販売計画 第5回 販売情報③:相関による売上予測 第6回 販売情報④:売上に影響を与えている要因 第7回 顧客情報①:顧客分析 第8回 顧客情報②:顧客満足度 第9回 顧客情報③:顧客のニーズ 第10回 財務情報①:採算ラインの把握 第11回 財務情報②:設備投資計画 第12回 生産情報①:生産計画、輸送問題 第13回 生産情報②:生産スケジューリング問題 第14回 生産情報③:発注点と安全在庫量 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 次回の講義内容について、キーワードの意味などを調べておく。(30時間) ② 課題は、授業中にフィードバックを行うので、復習すること。(30時間)				
学習到達目標	経営に必要な情報とその分析手法を理解し、データを基に意思決定を行える問題解決能力を身に付ける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	問題や課題に応じて、必要な情報と適切な分析手法について、説明できるか。 データの分析結果から、何が読み取れるのかを示すことができるか。			
	成績評価 方法	課題(演習問題、ミニレポート)50%、試験50%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じてプリント、データを配布する。				
備考					

科目名	<b>経営管理論</b>				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	村山 要司			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	一般に「経営管理」の定義は定まっていない。本講義では、経営資源である「人」「モノ」「カネ」「情報」の視点から、「組織の目標を効率的に達成するための管理業務、及び、そのための諸技術」と定義し、各部門の管理活動、経営戦略、さらに、各部門の統括を行うための組織横断的な管理活動である全体管理について学ぶ。【実務経験】本科目は、技術者として基幹システムの構築に携わり、また、IT企業で経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。				
授業方針	経営管理における基本テーマについて適用される仕組みや諸技術を取り上げ、解説を行う。 適宜、課題(小テスト、ミニレポート)を出題する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 経営管理とは何か：求められる人材像 第2回 人事管理：雇用形態 第3回 人材育成：評価、等級、賃金制度、福利厚生 第4回 組織構造：企業形態、組織形態、リーダーシップ理論 第5回 生産管理の基礎：生産管理の基本、管理技法 第6回 生産の種類と全体像：生産方式の違い 第7回 生産計画：需要予測、MRP 第8回 生産システムと流通管理：かんばん方式、SCM 第9回 在庫管理：在庫の種類と管理手法 第10回 発注方式と在庫管理：安全在庫、経済的発注量 第11回 財務管理：会計の種類と財務諸表の見方 第12回 経営戦略：事業環境分析、競争優位の戦略 第13回 マーケティング：マーケティングミックス 第14回 全体管理：バリューチェーン、全体最適、ERP 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 次回の講義内容について、キーワードの意味などを調べておく。(30時間) ② 課題は、授業中にフィードバックを行うので、復習すること。(30時間)				
学習到達目標	企業経営において基本的な管理活動がどのように実施されているか理解できる。 マネジメントメカニズムの理論、用いられている諸技術について理解できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	企業経営において基本的な管理活動について説明できるか。 組織目標の達成するための仕組み、技術について、理論的に説明できるか。			
	成績評価 方法	課題(小テスト、ミニレポート)40%、試験60%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要に応じてプリントを配布する				
備考					

科目名	経営情報システム				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	村山 要司			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	経営情報システムとは、企業の経営・管理などの意思決定に必要な情報を収集・分析するためのシステムであり、広義には経営に関わる情報システムの総称として用いられる。本講義では、ビジネスの視点から実際の活用事例や最新動向に触れ、企業経営と関係付けながら経営情報システムを理解することを目指す。【実務経験】本科目は、技術者として様々な業務システムの構築に携わり、また、IT企業で経営者としての実務経験を持つ教員による実務科目である。				
授業方針	経営情報システムの理論・手法・技術について事業活動別に解説を行う。 適宜、課題(小テスト、ミニレポート)を出題する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 経営情報システムとは？ 第2回 企業経営と経営情報システム 第3回 販売管理:POSシステム 第4回 顧客管理:CRM、SFA、コールセンターシステム 第5回 発注管理:EOSとEDI 第6回 生産管理:MRP 第7回 製品開発:CAD/CAM/CAE 第8回 サプライチェーンマネジメント:SCMシステム 第9回 会計管理:財務会計システム 第10回 人事管理:HRM/HCM 第11回 組織運営:Groupware 第12回 全体最適:ERP 第13回 情報システムの計画、設計、開発 第14回 情報システムの運営と管理 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 次回の講義内容について、キーワードの意味などを調べておく。(30時間) ② 課題は、授業中にフィードバックを行うので、復習すること。(30時間)				
学習到達目標	経営情報システムが、経営戦略や事業活動とどのように関わっているかを理解できる。 経営情報システムの導入、運用についてのポイントを理解できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経営情報システムについて、経営戦略や事業活動との関係性を説明できるか。 経営情報システムの導入、運用について、一般的なプロセスや手法を説明できるか。			
	成績評価 方法	課題(小テスト、ミニレポート)50%、試験50%の割合で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	必要に応じてプリントを配布する。				
備考					

科目名	現代経済論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	経済的な考え方、物の見方について、実社会の身近な例を題材にして学びながら身につけていく。金融機関で20年以上、エコノミストなどの仕事をしてきた経験に基づく実践的科目である。【実務】				
授業方針	そもそもなぜ「経済」というものが出来てきたのか？から解きほぐし、身の回りにある経済現象全般について、本質的な仕組みを学んでいくことにより、経済(学)的な物の見方を学んでいく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回:「原始時代に経済はあったか？」(貨幣、市場) 第2回:「ピラミッドは何のために造られたのか？」(経済とは何か、公共事業、経済成長) 第3回:「銀行はなぜ潰せないのか？」(信用、レバレッジ、金融危機) 第4回:「景気はなぜ良くなったり、悪くなったりするのか？」(マルクス、ケインズ、規制) 第5回:「経済格差はなぜ発生するのか？」(ピケティ、資本主義経済と計画経済) 第6回:「株式会社は資本主義経済の大発明」(資本、投資、有価証券) 第7回:「国際競争力はどう決まるのか？」(貿易、国際分業) 第8回:「為替レートはなぜ変動するのか？」(国際収支、経済覇権) 第9回:「『脱デフレ』と言うがデフレはなぜ悪いのか？」(インフレ・デフレ、金利) 第10回:「君たちは将来年金をもらえるか？」(国家財政、社会福祉、年金) 第11回:「消費税は善か、悪か？企業減税は善か、悪か？」(経済政策、税金) 第12回:「原発の発電コストは安いのか、高いのか？」(コスト/パフォーマンス、リスク/リターン、サンクコスト) 第13回:「コーヒーを2杯飲むか、ケーキを追加するか？」(選択、トレードオフ、機会費用) 第14回:「なぜ談合はなくなるのか？」(独占、ゲーム理論、行動経済学)+まとめ 第15回:まとめ&定期試験				
準備学習	受講期間中に、ネットや新聞、テレビで報じられる経済に関するニュースについて興味を持って接すると授業内容が自分のもの、意味のあるものとして感じられ、理解の助けとなるであろう。				
学習到達目標	経済的な物の考え方が身についている。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経済的な物の考え方が身についている。			
	成績評価 方法	授業参加状況30%、「学習シート」20%、期末テスト50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料は適宜配布、紹介する。				
備考	毎回、PCまたはスマホを持参すること。				

科目名	現代社会と宗教				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	宮井 里佳			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	宗教は、政治や文化などあらゆる人間・社会の営みの基盤となるものであった。しかし現代は、伝統宗教が弱体化し、グローバル化が進み、大きな変革期にある。「戦争が起こるから宗教なんて必要ない」、「宗教は心のよりどころとなる」といった言説を検討しなおし、現代における「宗教」の意味や機能について考えたい。				
授業方針	日本の習俗・儀礼などにおける宗教の影響、新宗教やカルトおよび宗教的なものを求める現象(スピリチュアリティ)、宗教とナショナリズムおよび宗教と戦争の問題、宗教と公共など、現代社会における「宗教」に関するトピックについて事例を挙げながら解説、考察する。宗教の概念という基本的なことをおさえる他、とりあげるトピックは、受講生の関心やコメント、質問および時事問題などによって随時変更を加えたい。ほぼ毎回コメント・シートの提出、2回程度の小レポートの提出を求め、出席率ではなくそれらの内容を重視する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 私たちの生活における宗教の影響(1)(アンケート調査) 第2回 私たちの生活における宗教の影響(2)(前回結果と日本の大学生の意識調査結果とから) 第3回 習俗と宗教(1)-「墓参り」は「宗教」か？ 第4回 習俗と宗教(2)- 葬送・追善儀礼の意味と歴史 第5回 「宗教」の概念(1)- 歴史的経緯 第6回 「宗教」の概念(2)- 新しい「宗教」概念 第7回 「カルト」について(1)- 「カルト」とは 第8回 「カルト」について(2)- 「カルト」にはまらないために 第9回 宗教と原理主義運動 第10回 宗教とナショナリズム(1) 第11回 宗教とナショナリズム(2) 第12回 「スピリチュアリティ」について 第13回 新宗教と「スピリチュアリティ」 第14回 マンガ・アニメと「宗教」 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①毎回の講義で課題となったテーマについて情報収集し、参考文献を読んで考察を深めること。(40時間) ②調査、考察した内容を元に小レポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	①「宗教」の概念・②現代日本における「宗教」事情・③世界における「宗教」の情勢 に対する知識・理解を深め、④「宗教」を語る立場について理解した上で、自分の見解を持つこと を目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①「宗教」の概念について理解できたか。 ②現代日本の「宗教」事情・③世界の「宗教」情勢 について正しい知識を得たか。 ④「宗教」に対して自己見解を適切に述べることができたか。			
	成績評価 方法	コメント・シート20% 小レポート20% 期末レポート(または試験)60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定しない。レジュメを配布する。 (2)参考書 授業中随時紹介する。 (3)その他 必要に応じて資料を配付する。				
備考	特定の宗教・宗派を推奨あるいは非難することはしないので、どんな信仰を持っている人でも安心して受講してほしい。				

科目名	現代社会と倫理				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	大澤 真生			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>テーマ: 倫理的な思考の営みと現代社会の諸問題  目的: 倫理学における主要な概念及びトピックをいくつか取り上げ、現代社会における諸問題に引きつけながら、それらの概念・トピックについて理解を深める。  内容: 倫理学の領野において授業で取り上げる諸概念・諸問題が歴史的にどのように扱われてきたのか、原典資料を精読しつつ検討する。また、フェミニズム・生命倫理等の現代的な思考についても精査し、応用可能な知識を身につける。</p>				
授業方針	講義ごとに配布する原典資料・講義内容をまとめたレジュメをもとに授業を進める(履修人数によっては変更する可能性がある)。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>※聴講者の興味によって講義の内容は適宜変更する。以下は目安。</p> <p>第一回 ガイダンス 講義の概要・進め方を確認する。  第二回 倫理学とは何か 倫理学がどのような思考の営みであるかを確認する。  第三回 幸福とは何か① 幸福とは何か、その概念を倫理的視角から確認する。  第四回 幸福とは何か② 前回の授業において得られた理解に基づいて、原典資料を検討する。  第五回 正義とは何か① 善い行い・正しい行為とは何か、義務論的な道徳観を検討する。  第六回 正義とは何か② 善い行い・正しい行為とは何か、功利主義的な道徳観を検討する。  第七回 人間とは何か① 人間とは何か、その概念を倫理的視角から確認する。  第八回 人間とは何か② 前回の授業において得られた理解に基づいて、原典資料を検討する。  第九回 フェミニズム① フェミニズムの思想について基礎的な知識を獲得する。  第十回 フェミニズム② 前回の授業において得られた理解に基づいて、フェミニズムの諸問題を検討する。  第十一回 生命倫理① 生命倫理について基礎的な知識を獲得する。  第十二回 生命倫理② 前回の授業において得られた理解に基づいて、生命倫理の諸問題を検討する。  第十三回 ケアの倫理① ケアの倫理について基礎的な知識を獲得する。  第十四回 ケアの倫理② 前回の授業において得られた理解に基づいて、ケアの倫理の諸問題を検討する。  第十五回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	毎回の授業に用いるレジュメ・資料等は前日までに公開するので、それを使って適宜予習すること。さらに余暇を利用して、授業中に紹介した文献などを図書館等で入手して読み、学習内容を深めることが望ましい(本講座の予習時間の目安は30分、復習時間の目安は60分)。				
学習到達目標	授業において紹介した倫理学の諸問題・諸概念について正しく理解し説明することができる。また、授業で得られた知識をもとに、自身あるいは現代の問題に引きつけて、倫理的な問題をより深く考察することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	定期試験期間に筆記試験を行う。試験範囲は講義の全内容を含む(多肢選択問題および記述問題)。			
	成績評価 方法	期末試験100%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	授業毎に、内容に沿ったレジュメと資料を適宜配布する。				
備考					

科目名	行政学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	一ノ瀬 佳也			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業では、日本の行政における歴史と特徴を理解し、その基礎的な概念や用語の説明を行い、行政に対する理解・関心を深めることを目的とします。特に、日本における官僚制や行政改革などの特色について焦点をあてて論じていくことになる。				
授業方針	講義形式で授業は進めますが、基本的にはレジュメを配布する。毎回授業にかかわる課題についてのコメントペーパーを作成してもらい、それを提出してもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス—行政学について考える！ 第2回 行政とは何か：政府の活動としての行政 第3回 大きくなる政府の役割：近代官僚制と行政国家化 第4回 行政学はどのような学問か：行政学の成立と展開 第5回 新しい行政の見方：NPMとガバナンス 第6回 中間のまとめ 第7回 国と自治体を動かすしくみ：執政制度 第8回 政府の姿：行政組織制度 第9回 行政を担う人々：公務員制度 第10回 変化する日本の行政：国と自治体の制度改革 第11回 行政活動をデザインする：政策の調査と立案 第12回 法律・条例をつくる：多面的合意形成の技術 第13回 予算をつくる：限られた時間と効率的な決定 第14回 行政と社会のインターフェイス 第15回 最後のまとめ				
準備学習	授業の予習として、指定されたテキストの範囲を事前に読んできてください。				
学習到達目標	まず、行政学における基礎的な用語や概念を理解し、その内容について説明できるようになることを目指します。さらに、日本の行政にある課題や問題について理解し、それらについての自分の意見を述べられるようになることを目指します。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 授業中に説明した行政学における用語や概念について説明できるか。 2. 授業中に身に付けた知識を基に、行政における問題について考察し、自分の考えを述べることができるか。			
	成績評価 方法	授業時間内に実施する小テスト等の平常点(70%)と、レポート(30%)を総合して成績を評価します。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔『はじめての行政学』有斐閣ストゥディア、2016年。 (2)参考書 原田久『行政学』法律文化社、2016年。 西尾勝『行政学(新版)』有斐閣、2001年。 金井利之『行政学講義—日本官僚制を解剖する』ちくま新書、2018年。				
備考	授業中に他の受業生の迷惑となる行為はやめてください。				

科目名	行政法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	森田 智博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現代社会において、行政活動は私達の日常生活に深く関連している。行政法は、行政活動に関わる法のことである。本講義においては、行政法の基礎的な知識・理解を得ることを目的と日常生活のに役立てることを目的とする。また、公務員試験などを志望する者に役立つような内容にもする。				
授業方針	基本的に講義形式をとるが、受講者が行政法や行政活動についてできる限り具体的なイメージを持ちながら学ぶことができるよう、対話的な要素も取り入れながら進行する予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 行政法とは(1) 法とは、行政とは 第2回 行政法とは(2) 行政組織(法) 第2回 行政法の一般原則(1) 法律による行政の原理、法律の留保 第3回 行政法の一般原則(2) 行政法の一般法原理 第4回 行政作用法(1) 行政立法(1) 第5回 行政作用法(2) 行政立法(2) 第6回 行政作用法(3) 行政行為(1) 第7回 行政作用法(4) 行政行為(2) 第8回 行政作用法(5) 行政契約、行政計画 第9回 行政作用法(6) 行政指導 第10回 行政手続法(1) 第11回 行政手続法(2) 第12回 行政訴訟法(1) 第13回 行政訴訟法(2) 第14回 国家賠償法(1) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	配布する資料、各自の取ったノートの復習をする。				
学習到達目標	行政法の基本的な知識を習得し、説明できるようになることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義で習得した行政法の知識に基づいて、行政活動について、自分で説明することができる。			
	成績評価 方法	授業への参加態度(20%)、小テスト(コメントシート、場合によっては自習課題)(20%)、期末テスト(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜示す。				
備考					

科目名	国際関係論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	山田 朋美			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近年、差別や格差、紛争、難民、テロ、グローバル化に関する報道を耳にしない日はない。しかし、こうした地球規模の問題と私たちの関係について考えたことがある人は多くはないのではなかろうか。この授業の目的は、現代世界が直面する諸問題が形成された歴史的経緯を学び、それを分析する視点を養うことで、学生が国際関係と自らの関わり合いについて理解を深め、どのようにこの世界と主体的に関わっていくのか自分なりの「解答」を模索することにある。				
授業方針	授業は原則的に講義方式で行うが、可能な限りディスカッションの時間を設け、学生が自分の頭で考え、自分の言葉で議論する力を養えるよう務める。また、毎回リアクションペーパーを配布し、受講生とのコミュニケーションを図る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>* 以下の予定は、受講者の関心や理解度に応じて変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 国際関係論とは何か、日本および私たちは、国際関係にどのように位置づけられるのかを考察する。</li> <li>2. 国際関係の成立と展開 国際関係の成立を主権国家、西欧国際体制の成立を通じて学ぶ。</li> <li>3. ナショナリズム① 西洋のナショナリズムの発生と展開について、地域ごとに比較・検討する。</li> <li>4. ナショナリズム② 非西洋のナショナリズムの発生と展開について地域ごとに比較・検討する。</li> <li>5. ナショナリズム③ ナショナリズムに関する映画を鑑賞する。</li> <li>6. 帝国主義の時代 帝国主義の時代とはどのような時代であり、世界をいかに結びつけ、分断したのか。そしてこの時代が現代に及ぼしている影響を考察する。</li> <li>7. 第一次世界大戦の勃発とその影響① 第一次世界大戦を経て国際関係はどのように変化したのかを概観する。</li> <li>8. 第一次世界大戦の勃発とその影響② 第一次世界大戦の進展と科学技術の関係について考察する。</li> <li>9. 第二次世界大戦の勃発とその影響 第二次世界大戦を経て国際関係はどのように変化したのかを概観する。</li> <li>10. 「冷戦」① 第二次世界大戦後の世界の特徴を「冷戦」を通じて概観する。</li> <li>11. 「冷戦」② 「冷戦」が第三世界に与えた影響および第三世界からの異議申し立てを概観する。</li> <li>12. 「冷戦」の終焉とグローバル化 冷戦後、世界の「グローバル化」は激的に進行したと言われている。この「グローバル化」の名の下で、世界ではどのような現象が生じているのかを考察する。</li> <li>13. 「テロとの戦争」と国際関係 9.11後、頻発するテロの背景を考察する。</li> <li>14. まとめ これまでの授業のまとめを行うと同時に、現代世界の諸問題と日本、そして私たちがどのような関係にあるのかを考察する。</li> <li>15. まとめ及び試験</li> </ol>				
準備学習	国内外のニュースを、新聞やインターネット、テレビで日々確認すること。 また、授業内で紹介する参考文献を積極的に読み、授業の復習を各自行うこと。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 様々な事例を通じて、国際関係の基礎知識や分析の視点を身につけ、現代世界の諸問題を分析し、自分の言葉で説明することができるようになる。</li> <li>② 一見、自分とは遠い世界の事のように思われる出来事が、どのように私達と関わっているのかを論理的に述べるようになる。</li> <li>③ ディスカッションやリアクションペーパーへの取り組みを通じて、コミュニケーション能力(読む・書く・話す・聞く)を向上させる。</li> </ol>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容を理解し、現代世界における諸問題を国際関係の視点から分析・説明できるか。また、自らと国際関係の関わりについて自分の言葉で論理的に述べることができるか。			
	成績評価 方法	毎回のコメントシート(40%)、期末試験(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教場で指示する。				
備考					

科目名	国際法			
クラス		対象学年		開講学期 後期
				曜日・時限
担当教員	秋山 公平			単位区分
				単位数
概要 (目的・内容)	国際法の重要性が高まっています。国際法は原則として国家間の関係を規律する法として発展してきましたが、今日の国際社会では、人権や環境の分野を中心に、国際社会全体の利益を保護する法としての機能も担うようになってきています。この授業では、国家間関係を規律する伝統的な国際法の役割や規則について確認したのちに、人権、環境、経済等の他の国際法領域も扱い、国際法の主体・規律対象・執行方法等に生じた国際法の新たな発展についても考えていきます。			
授業方針	基本的に講義形式をとりますが、授業中の積極的な参加を歓迎します。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 序：国際社会における国際法の機能 第2回 国際法の主体 第3回 国際法の法源 第4回 条約法 第5回 国家と国際法 第6回 国家機関(外交関係法) 第7回 陸の国際法 第8回 海・空・宇宙の国際法 第9回 国際法上の責任 第10回 紛争の平和的解決 第11回 国際社会の平和と安全の維持 第12回 人と国際法 第13回 国際環境法 第14回 国際経済社会と法 第15回 試験			
準備学習	レジュメおよび教科書の該当箇所を確認する(30時間)。 配布資料や授業中に指示した関連資料について理解を深める(30時間)。			
学習到達目標	国際法の基本原則についての知識を習得し、国際問題を考える際の一つの視点とできるようになることを目標とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	国際法の基本的な考え方や規則について説明することができるか否かを評価します。		
	成績評価 方法	授業への参加(10%)、期末試験(90%)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	中谷和弘他著『国際法(第3版)』(有斐閣、2016年) 岩沢雄司他編集代表『国際条約集』(有斐閣、2021年) その他の文献については授業中に指示する。			
備考				

科目名	自然地理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	三島 啓雄			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	自然地理学を構成する基礎的概念の理解とともに、身近な環境で起こるさまざまな事象を、自然および人工のシステムの相互作用により成立している地球システムと関連させ、その見方や考え方の習得を目指す。				
授業方針	授業ではプレゼンテーションソフトウェアを用いて進め、図版、写真、映像資料などを提示する。質問やアンケートを実施するツールとしてsli.doというウェブサービスを用いることがある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第01回 授業オリエンテーション 講義計画と受講上の諸注意 第02回 地理情報科学における「場所」の定義 第03回 地図から情報を読み取る 第04回 自然地理学とGIS(地理情報システム) 第05回 自然地理学とリモートセンシング技術 第06回 地図を使った災害対策-逃げ地図の作成- 第07回 地形/土壌/水文/気候をつなぐ地理情報科学 第08回 自然地理学におけるGNSSの位置づけ 第09回 極地観測事例から考える人類と地球の環境 第10回 熱帯泥炭湿地林から考える気候変動 第11回 河川・地下水の水循環の解析事例 第12回 自然災害と自然地理学 第13回 河川・山地地形と生物の生息環境の関係 第14回 野生生物の保護管理と地理情報科学 第15回 講義内容のまとめ,理解度確認テスト				
準備学習	授業内容の予習・復習(提示された参考文献を読み進めることや関係資料の精査を含む)と適宜授業時に提示される課題(小レポートなど)への主体的な取り組み(総計60時間以上)。				
学習到達目標	自然地理学を構成する基礎的な概念の理解とともに、地理情報科学技術を介した地図の読解力や、地球システムを説明する力を得る。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自然地理学を構成する基礎的な概念を理解できているか、地理学に必要な地理情報科学技術を介した地図の読解力、地球システムを説明する力が得られているか。			
	成績評価 方法	小レポート等の提出物,30% 理解度確認テスト(最終15回に実施),60% 講義への取り組み姿勢,10%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特に教科書や参考書を指定しないが、授業にはスマートフォンを含むインターネットに接続可能な電子デバイスを持参し、講義で出てくる情報等を各自で確認することが望ましい。				
備考	実習授業などやむを得ない事由により欠席する場合は、必ず申し出ること。学習内容(授業スケジュール)は、進行状況により変更もあるので注意すること。				

科目名	情報システム論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	個人を超えて、複数の人の能力やさまざまな機能を持つ機器を組み合わせることで目的を満たす仕組み、すなわちシステムを作り出すことにより、現代社会は発展してきた。本授業では、システム工学の視点から、「ある目的を満たす」という問題を解決するシステムの機能概要を設計するまでの手法を学ぶ。この授業では、企業において情報システムの設計・構築・運用に従事した実務経験を反映し、システムの機能概要設計における実際的な視点を採り入れる。【実務】				
授業方針	なぜシステムを構築するのか、また、「目的を満たす」ことをどのように定義するのかを中心に、講義を行う。また、講義にて取り扱った手法を、各自で実行してみる演習を、適宜行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 システム工学の概要(1) 第 2回 システム工学の概要(2) 第 3回 システムの目的設定 第 4回 グラフによる構造の表現 第 5回 問題構造のモデル化 第 6回 問題解決の過程の分析 第 7回 要求の定義(1) 第 8回 要求の定義(2) 第 9回 要求に対する目標の設定 第10回 問題解決過程における検証 第11回 機能の設計(1) 第12回 機能の設計(2) 第13回 システムの評価 第14回 システムの評価方法 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回の授業内容について、実際の処理を手で追ってみること(30時間) 課題として授業中に実施した内容と同様の事項を、各自で実施してみること(20時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(10時間)				
学習到達目標	要求と問題を定義することができるようになること。また、問題を解決するために、システムの機能を設計する手法を理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	要求と問題を定義することができたか。また、問題を解決するために、システムの機能を設計する手法を理解できたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題80%、期末課題20%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書：井上雅裕、陳新開、長谷川浩志、「システム工学 問題発見・解決の方法」、オーム社、2011 その他、必要に応じて資料を配布する				
備考					

科目名	情報セキュリティ				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	高橋 清隆			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近年、企業だけでなく私たち個人も、サイバー攻撃による情報の漏洩など様々な脅威にさらされている。これらの脅威に対して、私たちの利用する機器の脆弱性対策、ウイルス対策、不正アクセス対策などの情報セキュリティ対策の措置をとる必要がある。本講座では、セキュリティの基本を学び、いろいろな攻撃の方法、および、その攻撃を検知して防御するしくみについての理解を深めることにより、情報セキュリティを理解するための基盤となる知識を身につける。				
授業方針	私たちがパソコンやスマートフォンを介して行うネットショッピングや、企業が情報システムを介して行う電子商取引などにおいて、どんな脅威があるのかを概観する。そして、具体的な攻撃の手法、および、その攻撃から守るための技術について解説する。これによって、利用者・運用者・攻撃者の視点で情報セキュリティに関する理解を深めることにより、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティの基礎知識を習得することができる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 何をどう守るのか 第2回 セキュリティを守るための原則 第3回 セキュリティを守るための認証技術 第4回 セキュリティを守るための運用手法 第5回 サイバー攻撃の事例 第6回 攻撃を検知・解析するための仕組み 第7回 攻撃の手口(脆弱性をつく) 第8回 攻撃の手口(不正なアクセス) 第9回 攻撃の手口(サービスの妨害) 第10回 安全なオペレーティングシステム 第11回 暗号化技術(共通鍵方式、公開鍵方式) 第12回 ネットワークセキュリティ(ファイアウォール) 第13回 ネットワークセキュリティ(通信プロトコル) 第14回 セキュリティ関連の法律・規則・取り組み 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・各授業のテーマについて教科書やインターネットなどで事前に調べ、関連する専門用語の意味などについて理解する(20時間) ・講義中に課す課題に取り組む(10時間) ・授業の要点をまとめて、分からなかった点を明らかにして復習する(30時間)				
学習到達目標	・セキュリティを守る方法とそれぞれの特徴を説明できる。 ・サイバー攻撃を検知・解析するしくみの概要とそれぞれの特徴を説明できる。 ・サイバー攻撃の概要とそれぞれの特徴を説明できる。 ・セキュリティを守る技術の概要とそれぞれの特徴を説明できる。 ・ネットワークセキュリティの概要とそれぞれの特徴を説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・セキュリティを守る方法とそれぞれの特徴を説明できたか。 ・サイバー攻撃を検知・解析するしくみの概要とそれぞれの特徴を説明できたか。 ・サイバー攻撃の概要とそれぞれの特徴を説明できたか。 ・セキュリティを守る技術の概要とそれぞれの特徴を説明できたか。 ・ネットワークセキュリティの概要とそれぞれの特徴を説明できたか。			
	成績評価 方法	講義中に課された課題40%と期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 「セキュリティの基本」 SB Creative [著] みやもとくにお 大久保隆夫 参考書 随時、指定する				
備考	「コンピュータ概論Ⅰ」および「コンピュータ概論Ⅱ」を受講していることが望ましい。 【実務経験】民間企業における情報通信システムの研究開発および国際標準化の業務				

科目名	情報と職業				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	坂本 明子			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報技術の著しい進歩発展は、産業や個人の生活に大きな影響を与えていることから高校の教科として「情報」が新設された。「情報と職業」は、その教員免許取得のための6領域の科目の一つとして設定されたものである。従って、講義は教科「情報」を教える職業人として必要とするこれらの知識を身につけることを目指しており、同時に進展著しい社会において職業観や労働倫理についての指導力を身につけることを目指すものである。				
授業方針	基礎知識として、情報化社会を構成している技術とは何かを学び、その後、実際の活用例を学ぶ。情報の入手と情報活用の成功例を歴史に学ぶ。また将来の情報の提供者あるいは情報の受益者として必要なセキュリティとリスクマネジメント、知的財産権について学ぶ。職業と労働環境、企業の求める人材、企業に求められる価値と役割、情報の活用と生き甲斐の創出また高等学校の教科「情報」の内容把握と授業の目的についても学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 ガイダンス、「情報と職業」の意義 第2講 情報とは、働くとは 第3講 情報化社会(情報の価値) 日本における取り組みについて・スマートICT社会の構成について 第4講 情報化・IT化産業(産業の情報化) 産業の情報化について・情報化社会を支える技術について 第5講 企業のIT活用動向 電子商取引について・企業のIT活用事例について 第6講 情報通信の現状、企業におけるIT化の現状 クラウドコンピューティングについて 第7講 IT推進組織 CIOについて・アウトソーシングについて 第8講 ITによる勤務形態の変化 第9講 キャリアデザイン 第10講 情報化社会で求められる人材 第11講 情報にまつわる法制度、情報倫理と知的財産 第12講 情報セキュリティ 第13講 ネットワーク社会の特徴 第14講 これからの情報社会・情報社会の生き方 第15講 まとめおよびレポート				
準備学習	授業時に示す課題について、レポートを作成し指定された期限までに提出すること。(予習・復習合わせて計60時間)				
学習到達目標	1) 情報化社会を担う情報技術の概要とIT革命の内容を理解する。 2) 情報化ツールの活用を理解する。 3) 企業・自治体等の情報の活用例を理解する。 4) 情報化社会におけるセキュリティ、リスクマネジメント、知的財産保護を理解する。 5) 情報化社会での職業および労働環境を理解する。 6) 高等学校における「情報」教育を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 情報化が産業や人々の生活にどのような影響を与えているか理解することができる 2. 情報技術を活用したビジネス手法や情報通信産業の現状を理解することができる 3. 情報モラル(情報倫理)の必要性について理解することができる 4. 高度産業社会における職業観について理解することができる			
	成績評価 方法	課題提出状況(30%)、レポート提出(20%)、期末試験(50%)で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業テーマに合わせて教材をLive Campusにupする。				
備考					

科目名	情報ネットワーク論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	高橋 清隆			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	近年、私たちの生活をより快適にするためにICT技術の活用が進んでいる。このような取り組みでは、主に人やモノからデータを集めて、分析して、適切な情報を提供することから、データをやり取りするための情報ネットワークが基盤技術として活用されている。本講座では、コンピュータがデータをやり取りするときに用いる通信ネットワークについて理解を深めることにより、情報化社会の基盤技術である情報ネットワークに関する基礎知識を習得することができる。				
授業方針	私たちがウェブやメールなどのサービスを利用するとき、また、企業の情報システムが他のシステムと連携するとき、データのやり取りを実現している情報ネットワークを概観する。そして、このデータのやり取りを実現している通信技術、機器、さらに、サービスについて解説する。これによって、私たちの身の周りにおける情報ネットワークを活用した事例について理解を深め、情報化社会において知っておくべき基礎知識を習得することができる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ネットワークのあれこれ 第2回 コンピュータとネットワーク 第3回 相互接続を実現する考え方(OSI参照モデル) 第4回 いろいろなネットワーク 第8回 世界中をつなげるインターネット 第5回 通信手順を規定するプロトコル(IP, TCP, HTTP) 第6回 宛先の表現(IPアドレス、ポート番号) 第7回 TCP/IPで通信するための仕掛け(MACアドレス、ARP) 第9回 通信のためのサービス1(ルーティング、DHCP、NAT) 第10回 通信のためのサービス2(DNS、NTP、プロキシ) 第11回 ネットワークを構成する機器(スイッチ、ルータ) 第12回 ネットワークの仮想化(VLAN、VPN) 第13回 ネットワークで提供するサービス(Web、メール) 第14回 ネットワークのセキュリティ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	・各授業のテーマについて教科書やインターネットなどで事前に調べ、関連する専門用語の意味などについて理解する(20時間) ・講義中に課す課題に取り組む(10時間) ・授業の要点をまとめて、分からなかった点を明らかにして復習する(30時間)				
学習到達目標	・相互接続を実現する考え方の概要を説明できる。 ・規模や用途の異なるネットワークの種類とそれぞれの特徴を説明できる。 ・TCP/IPによる通信の概要と特徴を説明できる。 ・ネットワークを構成する機器の概要とそれぞれの特徴を説明できる。 ・ネットワークで提供される代表的なサービスの概要とそれぞれの特徴を説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・相互接続を実現する考え方の概要を説明できたか。 ・規模や用途の異なるネットワークの種類とそれぞれの特徴を説明できたか。 ・TCP/IPによる通信の概要と特徴を説明できたか。 ・ネットワークを構成する機器の概要とそれぞれの特徴を説明できたか。 ・ネットワークで提供される代表的なサービスの概要とそれぞれの特徴を説明できたか。			
	成績評価 方法	講義中に課された課題40%と期末試験60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 「ネットワークの基本」 SB Creative [著] 福永勇二 参考書 随時、指定する				
備考	・「コンピュータ概論Ⅰ」および「コンピュータ概論Ⅱ」を受講していることが望ましい。 ・コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 【実務経験】民間企業における情報通信システムの研究開発および国際標準化の業務				

科目名	情報の分析と活用				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「情報」を収集・保持・活用するために、多様な情報技術が用いられているだけでなく、「情報」はさまざまな側面を持つ。その概要を実習を交えつつ学ぶ。この授業では、さまざまな情報処理システムの設計・構築・運用経験を有する専門の経験に基づいた講義を行う。【実務】				
授業方針	インターネット上などで触れる、さまざまなサービスの構成要素と、そこに存在する情報の位置づけと取り扱いを中心に、講義を行う。また、各自のPCを用いた実習を原則として毎回行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 Webの仕組み 第 2回 検索エンジン 第 3回 Webサーバ内の処理で実現されるサービス 第 4回 Webフォームの作成とコンピュータ上の画像 第 5回 情報の多義性 第 6回 情報推薦 第 7回 コンピュータ上のデータとシンボル 第 8回 情報と暗号化 第 9回 コンピュータ間の情報伝達 第10回 Internet of Things 第11回 Webからのデータ取得と可視化 第12回 マイクロブログからのデータ取得と可視化 第13回 WebAPIの利用 第14回 データ分析 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	毎回の授業資料を確認し、資料を見ずとも課題に回答できるように復習すること(30時間) 毎回出題される課題について、各自で作業を行い回答すること(20時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(10時間)				
学習到達目標	「情報」は現実の表現の一つであり、解釈により意味付けが変わることを理解する。また、「情報」の収集・分析・活用を行う基礎的な手法について、実習を通して理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「情報」は現実の表現の一つであり、解釈により意味付けが変わることを理解できたか。また、「情報」の収集・分析・活用を行う基礎的な手法について、実習を通して理解できたか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中課題80%、期末課題20%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料を適宜配布する。				
備考	各自のノートPCを利用するので、Windows Updateを適用した後、忘れずに持参すること。				

科目名	情報メディア演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水1
担当教員	森沢 幸博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義では、主にProcessingによるプログラミング、アニメーション制作に必要な基礎知識の修得を目指す。Processingや2次元グラフィックソフトを利用したコンテンツ制作実践を通じて、デジタル・クリエイターに求められる発想力を身につけることを目標とする。				
授業方針	Processingの機能や応用操作、プログラミングによるデジタル・コンテンツ制作に必要な知識について具体的な手法を紹介する。課題作品は2名～3名の少人数グループを中心に行い、実際に作品を制作し発表する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 Processing 概要説明 第2回 Processingによるプログラム基礎 第3回 レイアウト設定、図形描画 第4回 かたちと面の作画 変数 第5回 Processingによるテキスト 画像データ編集 第6回 Processingによるカラーマネジメント 第7回 関数 条件文 画像の分析・再構成 第8回 関数 条件文によるゲームプログラミング 第9回 アルゴリズムによるアニメーション編集 第10回 Processingによるサウンドファイル編集 第11回 Processingによるイメージ 映像ファイル編集 第12回 デジタル作品制作(1) インタラクション設計 第13回 デジタル作品制作(2) 3DCGプログラミング 第14回 最終プレゼンテーション 質疑応答 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業時に示すプログラミング課題について事前に調べ、専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間課題、最終コンテンツ課題作成(30時間) 授業内で指示するプログラミング課題に関する予習と復習をしておく(20時間)				
学習到達目標	メディア芸術に関する基礎知識について学び、デジタル技術とアート表現の有用性について説明できるようになることを目的とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	メディア芸術に関する基礎知識や最新技術について理解し、プログラミングによるメディア芸術作品について専門知識を用いて説明することができる。			
	成績評価 方法	中間課題30% 授業内レポート30% 最終課題評価40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書:「情報表現入門」美馬義亮 公立はこだて未来大学出版 2017年 参考書:「Processing クリエイティブ・コーディング入門」田所淳 技術評論社 2017年				
備考	コンピュータの基本操作を習得しておくこと。 デジタル作品制作への目的意識と熱意を持って授業に参加すること。				

科目名	情報関連法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	一戸 信哉			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	急速な情報技術の発展に伴い、人間の生活の基本といえる「情報」とそれを取り巻く環境において変化が起こっている。その「情報」に係る法律も、単なる法の個別条項の技術的な修正のレベルにとどまらず、伝統的な理論や枠組みそのものにまで及んでおり、それらの自明性を根底から問い直している場面が多々生じている。本講義では、このような「情報」とそれを取り巻く環境における変化を理解し、それらにかかわる法律の現状と問題点などを議論する。				
授業方針	基本的に講義形式となるが、常に学生との対話を行い、また学生の授業に積極的に参加をする姿勢を特に評価する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報と法律 第2回 電気通信と法 第3回 放送と法 第4回 通信と放送の融合 第5回 個人の情報発信 第6回 情報公開 第7回 電子商取引(1) 第8回 電子商取引(2) 第9回 インターネットと犯罪 第10回 個人情報とプライバシー、ビックデータ(1) 第11回 個人情報とプライバシー、ビックデータ(2) 第12回 知的財産(1) 第13回 知的財産(2) 第14回 情報社会と法 第15回 まとめ				
準備学習	毎回の配布する資料、自己の取ったノートの復習をする。				
学習到達目標	情報社会における法的課題の現状を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	情報社会における法的課題を理解し、それについて自分なりの意見を持ち、説明することができる。			
	成績評価 方法	授業への出席と毎回のコメントシート(40%)、試験(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					

科目名	情報社会特講I				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1,火2
担当教員	池田 純			単位区分	(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	プロバスケットボールBリーグ・チーム「さいたまブロンコス」を基盤に、実際のスポーツチーム経営・運営を体験しながら経営・マネジメントを学習します。横浜DeNAベイスターズをV字回復させたプロセス、地域とスポーツビジネスの基本など、スポーツの領域だけでなくこれからの時代の経営・マネジメントに必要な知識と考え方の体得を目的としています。				
授業方針	スポーツマネジメントに関する基本的な座学を実施したのち、「企画立案」「営業戦略」「広報活動」などの計画を生徒たち自ら策定し、それを地元のプロチームの現場を使って実施。実地研修を充実させることで、あらゆる領域のマネジメントの基本を体感することができます。生徒たちには各領域でグループ化しチームでタスク形成から実行を行います。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回・第2回 「スポーツビジネスとは」 経営的にも不調に陥っていた横浜ベイスターズを、新たに横浜DeNAベイスターズとしてV字回復させた経営・マネジメント論を解説。その後大学スポーツや地域スポーツとの関わりを通し、さいたまブロンコスの経営に至ったプロセスや目的を講義。(プロスポーツチーム経営のケーススタディなど)</p> <p>第3回・第4回 「地域と企業とプロスポーツクラブ」座談会式講義 深谷市及び埼玉県に拠点を置く優良企業の経営者を招き、「地域における企業活動」「地域から全国・世界へ」「スポーツマーケティングの役割」などについて広く議論</p> <p>第5回・第6回: 5月15日(土)と16(日)に開催されるBリーグ・さいたまブロンコスの試合に向けて、「企画」「営業」「広報」などのグループに分け、企画立案を実施。企画であれば地元のチームを使って深谷の魅力伝えるアイデアであったり、広報であればどのようなニュースをつくってメディアに取り上げてもらうか等、実際の現場を想定した授業。</p> <p>第7回・第8回: 試合前を控えた全体会議を行います。前回の授業で策定したものを各グループが検討し準備してきたことを確認します。</p> <p>第9回・第10回・第11回 ※5月15日[実地研修]: 10:00~18:00 試合運営・メディア対応等(試合は14:00-) 実践内容は企画内容によりますが、試合運営を体験することで[企画立案・実行/顧客リサーチ/MD開発(深谷名産品など)/マスコミ対応などメディアリレーション/スポンサーとの連携]などを行います。</p> <p>第12回・第13回・第14回 5月16日[実地研修]: 試合運営～撤収・簡単な振り返り</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<p>1: 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間)</p> <p>2: 実地研修に向けた計画書作成・準備・検証など(30時間)</p> <p>3: 実地研修終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(10時間)</p> <p>本講義の実地学習は実際の顧客(お客様やスポンサー)、メディアと向き合うこととなります。得難い体験をできると同時に責任が伴うので準備にしっかり時間をかける必要があります</p>				
学習到達目標	<p>経営に必要な企画立案、戦略策定などを作成できるようになる。</p> <p>企画から実践を体験することでPDCA(計画・実行・評価・改善)の意味を理解する。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じた企画を立案できるか</li> <li>・計画したことを実行するためのプロセスを明確化できるか</li> <li>・計画を実行しながら改善点を発見できるか</li> <li>・反省を活かして新たな計画を立案できるか</li> </ul>			
	成績評価 方法	<p>課題(実地研修に向けた計画/準備)30%</p> <p>実地研修40%</p> <p>レポート30%</p>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。(人間社会研究科の場合は 埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。)</p>			
教材	<p>①『空気の作り方』(幻冬舎)</p> <p>②『常識の超え方』(文藝春秋)</p> <p>③『最強のスポーツビジネス Number Sports Business College』(文春新書)</p>				
備考					

科目名	情報社会特講II				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	時間外
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義では、主にコンピュータや外部機器を用いて音楽制作、音響表現をする上で必要とされる知識の理解と応用技術の修得を目的とする。この科目は、企業でのアプリケーション開発、音源制作経験を有する専門の経験に基づいた講義を行う実践的科目である。【実務】				
授業方針	コンピュータとその関連機器を用いた音楽制作手順、制作方法、音響表現技術を、アナログシンセサイザー、デジタルシンセサイザー、音響機器(録音機、PA、ミキサー、エフェクタ)等を用いて学習する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 アナログシンセサイザーとデジタルシンセサイザー 第 2回 アナログシンセサイザーの機能と使用法 第 3回 オシレータ(VCO)と低周波発信機(LFO)、フィルタ(VCF)の機能と役割 第 4回 アンプ(VCA)の機能とエンヴェロープ(ADSR)の役割 第 5回 加算合成、リング変調、FM合成 第 6回 パッチングによる音色作成(1)単音、複合音 第 7回 パッチングによる音色作成(2)各種変調音 第 8回 現実音を用いた音響作品制作(1)録音 第 9回 現実音を用いた音響作品制作(2)編集 第10回 マルチスピーカーを用いた多チャンネル音響表現(1)音響表現 第11回 マルチスピーカーを用いた多チャンネル音響表現(2)空間表現 第12回 作品制作(1)音響表現 第13回 作品制作(2)空間表現 第14回 作品制作(3)総合課題 第15回 作品発表及び講評:まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(30時間) ② 授業時に示す課題についてまとめを作成すること。(20時間) ③ 毎回授業の最初に前回の授業内容に関する設問を課するので復習をしておくこと。(10時間)				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目を理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	個々の機材の使用法を理解しているか。それを自分なりに効果的に利用する事が出来たか。			
	成績評価 方法	授業内課題(40%)、期末課題評価(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は特に使用しない。参考書は授業時に紹介する。				
備考	コンピュータなど情報機器の基本操作について習得しておくこと。機材の関係上、受講希望者が20人以上になる場合は抽選により受講者を定める場合がある。本講座は集中講義となるため、後期の補講日(土曜)と期末の補講期間を活用して授業を行う。				

科目名	情報社会特講III				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	商品企画開発は、企業活動において新たな価値を顧客へ提供する重要な機能であり、成長力、競争力の中核をなす。本講義では商品企画開発のプロセスを中心に、売れる商品とはどのようなものか学んでいく。経営コンサルティングを通じて数々の商品企画開発に携わった経験に基づき、具体的な事例を考察する実践的な科目である。【実務】				
授業方針	身近な商品・サービスを用いて、アイデア出しから上市まで一連のプロセスを疑似体験できるように講義を進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 商品・サービス企画開発の基礎 第 2回 商品企画開発のプロセス 第 3回 顧客・市場ニーズの把握 第 4回 自社シーズの展開 第 5回 アイディアの抽出 第 6回 商品コンセプト 第 7回 ペルソナの明確化 第 8回 商品ベネフィット 第 9回 商品のポジショニング 第10回 商品デザイン 第11回 商品設計 第12回 販売計画・販売促進 第13回 商品ブランディング 第14回 商品・サービス企画開発マネジメント 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行うので復習により理解度を高めておくこと。(40時間) 自分なりの考えや疑問点をまとめておくこと。(20時間)				
学習到達目標	商品企画開発のプロセスが理解できるようになる。 商品企画開発に興味、関心が湧くようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	商品企画開発のプロセスを説明できるか。 売れる商品とはどのようなものか、その要因を抽出できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、講義に関する資料を紹介する。				
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。				

科目名	情報社会特講Ⅳ				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	李 艶紅			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>情報社会特講Ⅳでは会社法を中心に学びます。          会社法は会社の設立、組織と運営に関する重要な法律です。          この講座を通じて、会社法の基本的な仕組みを理解し、法律知識を習得することを目指します。</p>				
授業方針	講義形式で行いますが、たくさんの事例・判例を用いますので、受講生による積極的な思考と発言が求められます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 会社法への誘い          第2回 株式会社の事業活動と会社法の役割          第3回 株式会社の機関(1)株主総会          第4回 株式会社の機関(2)取締役・監査役          第5回 株式会社の機関(3)その他          第6回 株式会社の機関(4)役員の実務など          第7回 まとめ・補足</p> <p>第8回 株式とは何か(1)株式の意義          第9回 株式とは何か(2)株式と株主          第10回 株式会社の資金調達(1)募集株式の発行等          第11回 株式会社の資金調達(2)その他          第12回 株式会社の計算          第13回 M&amp;Aなど          第14回 株式会社の設立・解散          第15回 期末テスト&amp;解説</p>				
準備学習	指定教材の事前予習(20時間) 配布資料の復習(20時間) 単元のまとめテスト・期末テストの準備学習など(20時間)				
学習到達目標	会社法の基礎知識を的確に理解することを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点の評価方法として、出席状況と授業への積極的な参加をもって評価します。</li> <li>・単元まとめテストや期末テストの成績をもって評価します。</li> </ul>			
	成績評価 方法	平常点(出席・授業態度など)60% テストなど40%			
	成績評価	学内の関連規定に則って評価します。			
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材については授業内において適宜指示します。</li> <li>・レジュメ配布します。</li> </ul>				
備考					

科目名	情報社会特講V				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	本吉 裕之			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「営業」とは何か。様々な意味を含むこの言葉の誤解を解きつつ、商品を販売するための様々な施策と、その手法について学ぶ。本科目は民間企業において、営業企画に携わった実務経験を有する実務科目である。【実務経験】JTB、一休.com宿泊施設等への営業及び新サービスの企画・開発に取り組み、宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	講義を主体として進め、商品の販売手法に関する課題を設定し、レポートを作成する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 「営業」とは何か 第2回 モノの値段、利益率について 第3回 業種による営業手法の違い 第4回 時代による営業手法の変化 第5回 ECサイトにおける販売手法 第6回 シックスポケットにおけるアプローチ法 第7回 ニーズの発見と開拓 第8回 ファシリテーションとは 第9回 「販促企画」の作り方① 第10回 「販促企画」の作り方② 第11回 ストーリーを作る① 第12回 ストーリーを作る② 第13回 売れる商品と売れない商品 第14回 プレゼンテーション① 第15回 プレゼンテーション②				
準備学習	○配布資料通読(10時間) ○プレゼンテーション準備(10時間) ○課題についてレポートを作成する。(10時間)				
学習到達目標	様々な営業手法を学び、商品にあったアプローチ法を自ら考えられるようにする。プレゼンテーションにおいて、独自の考えを発表する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	情報収集力、情報を分析して対応方策をまとめたレポートの内容から理解度を評価する。			
	成績評価 方法	授業への積極的参加(30%)、定期レポートの内容(30%)、プレゼンテーション(40%)などを総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	○資料は適宜紹介、配布する ○材料とする新聞記事、雑誌記事、ネット情報などを提供する				
備考	就職活動につなげ、視野を広げられるように指導する。				

科目名	情報社会特講VI				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	本吉 裕之			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本授業は、「ベンチャービジネス」を軸に、起業及び会社設立の基礎を学ぶ。新商品、新サービスを生み出す力と、組織経営について考察する。成功事例だけではなく、失敗事例から学ぶべき点が多く、時間軸発想からのベンチャービジネス論を講義する。【実務経験】JTB東京銀座支店、一休.com宿泊施設等への営業及び新サービスの企画・開発に取り組み、宿泊営業部長、市場開発部長などを経て現職。				
授業方針	日本にある企業数は400万社を超え、様々なビジネスが生まれ、消えている。視野を広げ、ベンチャー企業と大企業の違いから、進路、生き方について自らの考えを持てるように指導する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 日本のベンチャービジネス 第3回 新サービス・新商品開発 第4回 会社設立・株式上場のプロセス 第5回 成功事例企業① 第6回 成功事例企業② 第7回 会社組織とは 第8回 資金調達、株式の仕組み 第9回 新規ビジネス開発① 第10回 新規ビジネス開発② 第11回 プレゼンテーション① 第12回 プレゼンテーション② 第13回 地方創生とその可能性 第14回 ベンチャービジネスについてディスカッション 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指示は適時行うが、インターネットニュースにおける「ベンチャー企業」についての記事の確認を行う。				
学習到達目標	ベンチャービジネスの可能性とそのリスク、大企業との違いなどを理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	会社組織の全容と、ベンチャービジネスの開始するまでの一連の流れを理解する。			
	成績評価 方法	授業参加状況40%、レポート30%、期末テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	資料は適宜配布、紹介する。				
備考	各自PCを持参				

科目名	人文地理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	原 啓介			単位区分	◎(必修)、_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	人文地理学の目的は、単に地域の知識を得ることではなく、地域を時空間的にみる(見る、観る、診る)ことにより自らの知見を深め、より豊かな見方・考え方を会得することである。本科目を進めていく上での中心となる項目は、(1)日本の地域格差、(2)日本の諸課題、(3)世界の諸課題である。これらを通して「地域をみる(見る、観る、診る)」ことの有意性、有用性が理解できる。				
授業方針	授業はハイフレックス型で進める。授業の流れは以下のようなものである。第一に対象地域の諸事象や諸課題に関する受講者の事前学習内容について確認する。第二に人文地理学的に有意・有用な映像資料をみる。第三に担当教員が提示するキーワード(対象地域や項目や内容)を基に、受講者が対象地域をどのように「みる」のかを議論する。最後に他者の「みる」内容を比較・対照させながら、新たな人文地理学的視点、視角、視座を会得したことを確認する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 人文地理学序説―地域を「みる」ことの意義 第2回 日本の地域格差①都市圏の姿 第3回 日本の地域格差②地方圏の姿 第4回 日本の諸課題①社会支出と社会福祉 第5回 日本の諸課題②国際化 第6回 世界の諸課題①人口 第7回 世界の諸課題②言語・宗教・民族 第8回 世界の諸課題③食糧・食料1―主食 第9回 世界の諸課題④食糧・食料2―肉食化 第10回 世界の諸課題⑤資源・エネルギー1―原油・石油 第11回 世界の諸課題⑥資源・エネルギー2―石炭・天然ガス 第12回 世界の諸課題⑦資源・エネルギー3―鉱産物・鉱産資源 第13回 世界の諸課題⑧地球環境1―温暖化 第14回 世界の空間特性⑨地球環境2―日本と世界の取り組み 第15回 まとめ(人文地理学の有意性と有用性)及び試験				
準備学習	事前学習(1時間以上)では、各回の内容を鑑みてテキストと参考資料の確認の他に、対象地域・事例に関する統計資料や参考文献の収集と整理等を行う。事後学習(3時間以上)では、授業内容を十分に整理、理解した上でレポート作成に取り組む。整理、理解不足のままレポート作成に取り組んでも合格に至る評価は得られない。なお、上記に示した授業以外の学習は60時間以上を目安に行うこと。				
学習到達目標	日本の地域格差と諸課題、世界の諸課題を通して、地域を幅広くみる(見る、観る、診る)ことにより、多様で複雑な現代社会を理解するための骨格となる。「日本の常識、世界の非常識」「日本の非常識、世界の常識」とは何を意味するのか?受講者自身で考える機会として、本授業を最大限に活用して欲しい。また毎回のレポート作成を通して、人文社会科学的な論文を作成する基本的技量を身につけて欲しい。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 受講者自身による世界の見方、考え方が会得できているか。 2. 受講者自身の問題意識に基づく指標を活用して、地域に対する科学的・客観的な分析、考察が実践できているか。 3. その上で受講者なりの地誌的な見方・考え方(地誌感)の有意性・有用性について会得できているか。			
	成績評価 方法	1. レポート課題(配点0―7点)を13回分課す(評価全体の約90%)。 2. 期末試験において講義総括論文(配点0―9点)を課す(評価全体の約10%)。 3. 授業に積極的に参加している受講生に対しては、別途努力点を加味する用意がある。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	・教科書:二宮書店編『データブック オブ・ザ・ワールド2021―世界各国要覧と最新統計』700円(税別)。なお、2020年版でも代用可とする。 ・参考サイト:1. 帝国書院 <a href="https://www.teikokushoin.co.jp/">https://www.teikokushoin.co.jp/</a> 2. 二宮書店 <a href="http://www.ninomiya-shoten.co.jp/">http://www.ninomiya-shoten.co.jp/</a> 3. 古今書院 <a href="http://www.kokon.co.jp/">http://www.kokon.co.jp/</a>				
備考	1. 授業時間以外についてはLiveCampusを利活用する。 2. 大学認定公休届対象外の欠席に対しては各自でカバーすることを求める。 3. さまざまな地域を比較・対照する中で、受講者には国際社会に生きる現代人としての自覚と素養を養って欲しい。				

科目名	西洋史特講				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	高橋 裕子			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	古代ギリシアの文化はさまざまな領域において、ヨーロッパのみならず、人類共通の財産とも言うべきものを後世に残した。この講義においては、古代ギリシア文化の多様な側面を概説すると同時に、それをもとに異文化への理解を深めることを目的とする。				
授業方針	古代ギリシアの歴史・文化について概観する。映像資料も用いて古代ギリシアの文化全般について幅広く知識を得ることを目標とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 インTRODクシヨ 2 ミノア文化 3 ミケーネ文化 4 初期鉄器時代 5 前古典期 6 古典期 7 アテネの社会 8 スパルタの社会 9 ヘレニズム時代 10 神話と宗教 11 神殿と聖域(1)オリンピア 12 神話と聖域(2)デルフォイ 13 神殿と聖域(3)エピダウロス 14 神殿と聖域(4)エレウシス 15 レポート作成				
準備学習	1)授業中に指示する参考文献などを事前に読み、大まかな内容を理解しておくこと(30時間)。 2)授業後は復習を行い、学期末のレポート作成に備えること(30時間)。				
学習到達目標	古代ギリシアの歴史や社会、文化について基本的な知識を身につけること。豊かな教養を身につけ異文化理解を深めること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	古代ギリシアの歴史や文化について基礎的な知識を身につけ、それをもとに広い世界観や深い教養を身につけることを目標とする。			
	成績評価 方法	学期末レポート100%(毎週きちんと聞いていないと作成できない内容なので、心して登録して下さい)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定はしない。 (2)参考書 関連する書物を教室でその都度紹介する。				
備考					

科目名	知識管理論			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	火3
担当教員	林 信義		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	企業が成長するためには、既存の知を組み合わせることによって新しい価値を創造する必要がある。イノベーションを起こす仕組みやプロセスについて講義を行う。経営コンサルティングを通じて様々な企業のイノベーションに貢献した知見に基づき、知の創造、活用を考察する実践的な科目である。【実務】			
授業方針	身近なイノベーション事例を用いて、それがなぜ起きたのか、その結果何がもたらされたのか、多角的考察ができるよう講義を進めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 企業を取り巻く環境変化 第2回 イノベーションとは 第3回 イノベーションの型(1) 第4回 イノベーションの型(2) 第5回 イノベーションの型(3) 第6回 組織と個人の知識創造(1) 第7回 組織と個人の知識創造(2) 第8回 知の探索・知の深化 第9回 ソーシャルネットワーク 第10回 デザイン思考 第11回 SDGsとESG(1) 第12回 SDGsとESG(2) 第13回 イノベーション人材に向けて(1) 第14回 イノベーション人材に向けて(2) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行うので復習により理解度を高めておくこと。(40時間) 自分なりの考えや疑問点をまとめておくこと。(20時間)			
学習到達目標	イノベーションの必要性が理解できるようになる イノベーション実現に向けたポイントを説明できるようになる			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	イノベーションが企業経営に与える影響を説明できるか イノベーションの具体例からその要因を抽出できるか		
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、期末試験50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)講義内容に合わせて資料を配布する。 (2)適宜、講義に関する資料を紹介する。			
備考	皆さんの「やる気」を引き出し、「自分が変わる物語が始まる」と感じてもらえる講義にするよう努める。			

科目名	知的財産権法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	本田 正美			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的: 知的財産にまつわる様々な法制度の趣旨、概要及びその運用の現況について理解すること。 内容: 知的財産法全般について多くの判例・具体的な事例を交えて分かりやすく解説する。				
授業方針	講義形式で授業を行います。 法律を扱うため、条文や判例といった文章を読む作業が多くなりますが、図表などを用いて理解のしやすい講義を行うように努めます。 積極的な質問やコメントを歓迎します。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 財産権とは 第3回 知的財産法の概要と制度 第4回 著作権法(1) 著作権とは何か 第5回 著作権法(2) 著作物の要件 第6回 著作権法(3) 著作権の効力と侵害 第7回 著作権法(4) ゲームやマンガと著作権 第8回 特許法(1) 特許権とは何か 第9回 特許法(2) 特許権の保護と侵害 第10回 特許法(3) 特許権とイノベーション 第11回 標識法と商標法 第12回 不正競争防止法(1) 不正競争防止法とは何か 第13回 不正競争防止法(2) 営業秘密とパブリシティ 第14回 まとめ&試験の解説 第15回 期末試験				
準備学習	①教科書の該当箇所を事前に読み、自分なりに予習すること(20時間)。 ②毎回講義時に使用した講義資料を確認し、その内容を復習すること(20時間)。 ③最終回の講義内に実施する試験のための準備学習をすること(20時間)。				
学習到達目標	知的財産を保護するための主要な法制度について理解し、具体的な事例に即して知的財産権に対する侵害や救済法などの制度の在り方について考え、その考えたことを的確に説明することが可能になること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①知的財産法の制度趣旨と制度の概要についての理解しているか。 ②制度理解に基づき、知的財産法を構成する著作権法や商標法などを具体的な事例にあてはめて考えることができるか。 ③理解した事項を文章表現によって説明出来るか。 以上の三つの観点を評価基準とする。			
	成績評価 方法	講義内での小レポート(30%)、期末試験(70%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	教科書: 前田健ほか(編)『図録 知的財産法』弘文堂 参考書: 角田政芳、辰巳直彦『知的財産法 第9版』有斐閣				
備考					

科目名	地誌学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	原 啓介			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	地誌学の目的は、単に地域の知識を得ることではなく、地域を時空間的にみる(見る、観る、診る)ことにより自らの知見を深め、より豊かな見方・考え方を会得することである。本科目を進めていく上での中心となる項目は、(1)日本の姿、(2)日本の地域的特色、(3)日本の諸地域である。これらを通して「地域をみる(見る、観る、診る)」ことの有意性、有用性が理解できる。				
授業方針	授業はハイフレックス型で進める。授業の流れは以下のようである。第一に対象地域の諸事象や諸課題に関する受講者の事前学習内容について確認する。第二に地誌学的に有意・有用な映像資料をみる。第三に担当教員が提示するキーワード(対象地域や項目や内容)を基に、受講者が対象地域をどのように「みる」のかを議論する。最後に他者の「みる」内容を比較・対照させながら、新たな地誌学的視点、視角、視座を会得したことを確認する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 地誌学序説―地域を「みる」ことの意義 第2回 日本の姿①位置、時差、領域 第3回 日本の姿②地域区分 第4回 世界と比べた日本の地域的特色①自然環境 第5回 世界と比べた日本の地域的特色②人文環境 第6回 世界と比べた日本の地域的特色③今日的産業基盤 第7回 日本の諸地域①南西(沖縄)地方 第8回 日本の諸地域②九州地方 第9回 日本の諸地域③中国・四国地方 第10回 日本の諸地域④近畿地方 第11回 日本の諸地域⑤中部地方 第12回 日本の諸地域⑥関東地方 第13回 日本の諸地域⑦東北地方 第14回 日本の諸地域⑧北海道地方 第15回 まとめ(人文地理学の有意性と有用性)及び試験				
準備学習	事前学習(1時間以上)では、各回の内容を鑑みてテキストと参考資料の確認の他に、対象地域・事例に関する統計資料や参考文献の収集と整理等を行う。事後学習(3時間以上)では、授業内容を十分に整理、理解した上でレポート作成に取り組む。整理、理解不足のままレポート作成に取り組んでも合格に至る評価は得られない。なお、上記に示した授業以外の学習は60時間以上を目安に行うこと。				
学習到達目標	日本の姿、日本の地域的特色、日本の諸地域を通して、地域を幅広くみる(見る、観る、診る)ことにより、多様で複雑な現代社会を理解するための骨格となる。「日本の常識、世界の非常識」「日本の非常識、世界の常識」とは何を意味するのか?受講者自身で考える機会として、本授業を最大限に活用して欲しい。また毎回のレポート作成を通して、人文社会科学的な論文を作成する基本的技量を身につけて欲しい。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 地誌学の基本的な見方、考え方が会得できているか。 2. 受講者自身の問題意識に基づく指標を活用して、地域に対する科学的・客観的な分析、考察が実践できているか。 3. その上で受講者なりの地誌学的な見方・考え方の有意性・有用性について会得できているか。			
	成績評価 方法	1. レポート課題(配点0-7点)を13回分課す(評価全体の約90%)。 2. 期末試験において講義総括論文(配点0-9点)を課す(評価全体の約10%)。 3. 授業に積極的に参加している受講生に対しては、別途努力点を加味する用意がある。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	・教科書:二宮書店編『データブック オブ・ザ・ワールド2021-世界各国要覧と最新統計』700円(税別)。なお、2020年版でも代用可とする。 ・参考サイト:1. 帝国書院 <a href="https://www.teikokushoin.co.jp/">https://www.teikokushoin.co.jp/</a> 2. 二宮書店 <a href="http://www.ninomiya-shoten.co.jp/">http://www.ninomiya-shoten.co.jp/</a> 3. 古今書院 <a href="http://www.kokon.co.jp/">http://www.kokon.co.jp/</a>				
備考	1. 授業時間以外についてはLiveCampusを利活用する。 2. 大学認定公休届対象外の欠席に対しては各自でカバーすることを求める。 3. さまざまな地域を比較・対照する中で、受講者には国際社会に生きる現代人としての自覚と素養を養って欲しい。				

科目名	哲学の源流				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	真田 乃輔			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	古代から中世にかけての「キリスト教哲学」の伝統では先立つギリシャの哲学とキリスト教神学が深く結びつけられている。本講義では、この伝統を代表する二人の人物、アウグスティヌスとトマス・アキナスの学説をややくわしく見ていく。そのなかでわれわれはまた、古代ギリシャの最重要の二人の哲学者、プラトンとアリストテレスの学説へと幾度か立ちかえることになる。神や超越をめぐる先人の思索の哲学的意義についての理解の深化、これが本講義の目標である。				
授業方針	(1) そのつど配布される関連する資料にもとづき講義形式で授業はおこなわれる。(2) 資料の内容の大半は、関連する著述家からの引用により占められる。文章を精確に読解する能力を身につけること、これもまた本講義の目的の一つである。そもそも、哲学することと文章を読むこととは切り離されえない。(3) 授業終了前に、毎度、小テストを課す。そこでは、授業内容についての正確な理解にもとづいて、その内容についてみずから疑問や意見を提起することが求められる。				
学習内容 (授業スケジュール)	<p>第一回 インTRODクシヨン(哲学とはどのような学か? また、哲学の「源流」とは?): 西洋思想の源流としての「ギリシャ」と「ヘブライ」、中世哲学の根本問題としての「信仰と理性」の問題</p> <p>第二回 古代ギリシャの神と「キリスト教哲学」の神</p> <p>第三回 アウグスティヌス(1): デカルト的自我の発見とその感覚にかんする理説</p> <p>第四回 アウグスティヌス(2): その思考(知)にかんする理説、真理と神</p> <p>第五回 アウグスティヌス(3): 「創造」の概念とプラトンの「イデア」</p> <p>第六回 アウグスティヌス(4): その時間論</p> <p>第七回 アリストテレスの経験主義について(1): アリストテレスによるプラトンのイデア論批判</p> <p>第八回 アリストテレスの経験主義について(2): とくに数学をめぐるプラトンとアリストテレスの思索について</p> <p>第九回 トマス・アキナス(1): 哲学と神学との区別と総合——アリストテレス哲学をキリスト教神学に組み入れる?</p> <p>第十回 トマス・アキナス(2): 神の存在証明とアリストテレス哲学に属するいくつかの基本概念</p> <p>第十一回 トマス・アキナス(3): その認識論、そして倫理学へ</p> <p>第十二回 トマス・アキナス(4): アリストテレスの徳論と愛の情念をめぐるトマスの思索</p> <p>第十三回 トマス・アキナス(5): 自由意志、トマスの神とアリストテレスの神</p> <p>第十四回 トマス・アキナス(6): 「徳」としての愛</p> <p>第十五回 まとめと試験</p>				
準備学習	<p>① 講義内容の整理(20時間)</p> <p>② 講義内容の補完: 各回で紹介される古典や関連する参考文献にみずから目を通す(40時間)</p>				
学習到達目標	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できるようになる。② 哲学的古典に属する文章を精読することにある程度慣れる。③ 豊富な内容を含み、広い射程を有した古典を読む意義を理解する。④ 紹介される(一つないし複数の)学説について、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができるようになる。				
成績評価基準	達成度評価基準	① 紹介される各々の哲学的学説について、その基本的な考えかたや内容の概要を正確に、また体系的に説明できたか。② 自分なりの問題関心をもって、一つないし複数の哲学的古典を選ぶことができたか。③ ②と関連して、当該古典について、その内容の正確な理解にもとづいて、自分の意見を打ち出しつつ、自分のことばで論ずることができたか。			
	成績評価方法	期末試験70%、小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1) 特定の著作を教科書として指定し、使用することはしない。そのつど資料を配布する。 (2) 参考図書については、必要に応じてそのつど明示・指示する。				
備考	上記「学習内容(授業スケジュール)」は、状況によっては変更されうる。				

科目名	東洋史特講				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	宮井 里佳			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	漢字文化圏における伝統的な歴史観や思想・宗教に対する理解を深めることを目的とする。まず漢字や書籍の歴史や特徴を概観し、次に日本を含む東アジアにおいて広く読まれ続けてきた中国の古典籍を、有名な一節を挙げながら紹介する。講読においては基本的に日本伝統の訓読を用い、訓読文に習熟することを目標とする。				
授業方針	準拠するテキスト(「参考書」参照のこと)に沿って講義を行う。講読の対象とする文献は、受講生の関心に応じて変更を加える可能性がある。授業時には音読(一斉、および指名)を行う。また2回程度の小レポートを予定している。 ※完全対面授業となった場合は、講読の際に漢文(訓読)読解練習の比重を高めたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	(遠隔授業) 第1回 漢字文化圏について 第2回 漢字の歴史 第3回 漢字の成り立ち 第4回 書籍の歴史と「経史子集」 第5回 諸子百家(概要) 第6回 『論語』(1) 第7回 『論語』(2) 第8回 『老子』 第9回 『莊子』 第10回 『孫子』 第11回 陰陽五行説 第12回 中国の歴史観:「正史」と『史記』 第13回 『三国志』 第14回 『三国志演義』 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①配布したテキストを予め読んでおくこと。(20時間) ②講読した漢文や訓読文がなめらかに読めるように復習すること。(10時間) ③関心にしたがってテキストまたは参考文献を読んで発展学習につとめること。(10時間) ④レポート課題に取り組むこと。(20時間)				
学習到達目標	①訓読の習得、②古代中国の歴史や文化について理解すること を目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①訓読を習得できたか、②古代中国の歴史や文化について理解を深めたか。			
	成績評価 方法	授業時の発表や音読 20% 小レポート20% 期末試験(またはレポート)40%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書:資料(パワーポイントおよび文献コピー)を配布する。 (2)参考書:湯浅邦弘 編著『テーマで読み解く中国の文化』・『教養としての中国古典』(ミネルヴァ書房)および二松學舎大学文学部中国文学科 編『中国学入門』(勉誠出版) (3)その他:辞典・事典類、中国古典の翻訳書各種など、授業中随時紹介する。				
備考	「東洋史概論」を履修しておくことがのぞましい。				

科目名	日本史特講				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	中村 陵			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>「戦後日本史のなかの社会」  本講義では敗戦から現在までの日本の戦後史の流れを把握するほか、多角的な視点から高度成長期の社会について学びます。加えて、自民党政  治の特質や若者文化の変容などの戦後日本社会の諸側面についても触れ、その実態を把握してゆきます。敗戦から現在に至る歴史的な歩みや、  戦後日本社会の実態を理解することは、今日の国内外を取り巻く諸問題を解決する糸口を捉えるうえで参考になるでしょう。</p>				
授業方針	本講義はライブキャンパスで配布する資料をもとに授業を進めてゆきます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション:戦後史の前提としての「近代」 第2回 占領下の日本 第3回 占領下の社会:「誉れの子」から戦災孤児へ 第4回 冷戦と講和 第5回 高度成長の時代 第6回 高度成長期の社会①:都市と地域 第7回 高度成長期の社会②:女性労働者と家族 第8回 高度成長期の社会③:学校教育の変遷 第9回 経済大国への道 第10回 現代の日本・世界 第11回 戦後の日本社会①:自民党政変容 第12回 戦後の日本社会②:消費空間と若者文化の変容 第13回 戦後の日本社会③:社会運動の構造と特質 第14回 戦後の日本社会④:日本社会の分断と境界 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	高校日本史の教科書・資料集等で基礎知識を学んでおくとともに、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネットなど各種メディアで取り上げられるニュースに関心を持ってあたるようにするとよいと思います。				
学習到達目標	敗戦から現在までの戦後日本史の流れを把握し、当時の日本社会の実態を理解すると同時に、歴史的視点から現在の日本社会の諸問題を分析する洞察力・見識を持つことができ、諸問題の歴史的背景を理解し、関心を持つことができるようになることを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後日本史の流れを把握することができたか</li> <li>・戦後の日本社会の特質や構造について理解することができたか</li> <li>・興味・関心をもって授業に臨めたか</li> </ul>			
	成績評価 方法	平常点50%(小テスト2回)、期末試験50%。小テストの分量・課題等の詳細はライブキャンパスに通知します。通知日時は初回講義で説明します。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特に指定せず、資料をライブキャンパスに配布します。講義当日までに各自でダウンロードし、講義に臨んでください。				
備考	講義の進捗状況によっては講義内容を変更する場合があります。また、講義の妨げとなる行為(私語、携帯電話・スマートフォンの使用など)は禁止します。				

科目名	平面構成演習				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水5
担当教員	渡邊 英弘			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	クリエイティブ表現に必要な基礎構成要素(文字を含む形体や色彩)をデザイン実習を通して学びます。				
授業方針	実技中心の授業です。 教科書に沿った授業構成ですが、自由制作課題を設けることで発展的な作業も行います。 使用ソフト: Adobe Illustrator (基本的な使用方法のみ学びます)				
学習内容 (授業 スケジュール)	1、デザインすることの根拠:なぜデザインが必要か？ 2、デザインをするとは？ 3、要素を整えるという意識 4、フォーマットと要素の関係 5、余白を考える 6、線を使ったデザイン 7、四角を使ったデザイン 8、斜めの配置を使ったデザイン 9、円を使ったデザイン 10、文字を使ったデザイン/サン・セリフ体 11、文字を使ったデザイン/セリフ体 12、色を使ったデザイン:モノクロ+1色によるデザイン 13、色を使ったデザイン:モノクロ+自分の好きな色 14、自由課題(期末試験用課題)テーマに合ったデザイン制作 15、まとめ及び試験				
準備学習	1、使用ソフトは基本的な使用方法のみ学ぶので、より実践的な使用については各自で検索すること。(20時間) 2、定期的に復習を兼ねた宿題を出すので指定日に提出すること(30時間) 3、デザイン作品に対する見聞を広げるため、日頃より事例などを検索すること。(10時間)				
学習到達目標	この授業で学ぶ知識や技術はクリエイティブ分野で常に求められるものです。よって、今後の専門的な作業にそのまま活かすことができます。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	a) 知識として学んだ事作業で再現できるか。 b) 基礎を応用して独自の形へ発展できるか。 c) PCでの作業を円滑に進める事ができるか。			
	成績評価 方法	期末試験50% 授業内提出作品30% 授業への参加態度(出欠を含む)20% 出席数は授業総日数の3分の2以上とします。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書(デザインの教室:佐藤好彦 著)、描画道具(鉛筆など)、スケッチブック				
備考	授業スケジュール内容は開講後、変更の可能性あり。				

科目名	法学応用演習				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	李 艶紅			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>目的: 主として憲法、民法および商事法分野に関連する応用問題を解く練習を通じて、それら法分野に対する理解を深めると同時に法的な思考能力を培うことを目的とします。</p> <p>内容: 社会規範としての様々な法制度の概要について理解し、たくさんの事例の中で法規制の有り方をみなさんと一緒に考えて行きます。</p>				
授業方針	裁判事例などを取り上げて、前提知識の解説を行った上で、受講者によるレポート作成・発表を中心に行います。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 憲法(1)憲法の全体像</p> <p>第3回 憲法(2)憲法各論&amp;判例を読む</p> <p>第4回 憲法(3)憲法各論&amp;判例を読む</p> <p>第5回 この単元のまとめ(補足)&amp;課題</p> <p>第6回 民法(1)民法の全体像</p> <p>第7回 民法(2)民法各論&amp;判例を読む</p> <p>第8回 民法(3)民法各論&amp;判例を読む</p> <p>第9回 この単元のまとめ(補足)&amp;課題</p> <p>第10回 商事法(1)民法との違い</p> <p>第11回 商事法(2)会社法の判例を読む</p> <p>第12回 商事法(3)会社法の判例を読む</p> <p>第13回 商事法(4)その他</p> <p>第14回 この単元のまとめ(補足)&amp;課題</p>				
準備学習	<p>① 指定の参考資料を事前に読み、ある程度内容を把握すること(20時間)。</p> <p>② 毎回授業時に配ったレジュメなどを読み返し、学習ポイントを振り返ること(20時間)。</p> <p>③ 各回の課題提出のための準備学習をすること(20時間)。</p>				
学習到達目標	法学分野における基礎知識を身につけた上で、法制度の趣旨を理解し、法適用など法学応用能力を習得することを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	法制度の概要について理解する上で、具体的な事例問題について法規制がいかに適用されるべきかについてどの程度理解し説明できるのかをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加(40%)、課題評価(60%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	特に指定はしないが、レジュメや参考文献などを適宜配布します。				
備考					

科目名	民法A(総則・物権)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月1
担当教員	森田 智博			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	民法全体の総合的共通規則である、民法の総則と物権法に関する基礎知識に関する講義を行う。また、公務員試験などを受験する者に役立つことも目的とする。				
授業方針	基本的に講義形式となるが、常に学生との対話を行い、また学生の授業に積極的に参加をする姿勢を特に評価する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 私権の主体 -権利能力、意思能力、行為能力 第2回 法律行為 -意思表示 第3回 契約の有効要件(1)-当事者に関わるもの 第4回 契約の有効要件(2)-「真意」に関わるもの 第5回 契約の有効要件(3)-契約内容に関わるもの、無効と取消し 第6回 代理(1)代理とは 第7回 代理(2)無権代理、表見代理 第8回 法人 第9回 時効(1)時効とはなにか、即時取得、取得時効 第10回 私権の客体、物権 第11回 所有権 第12回 占有権 第13回 物権変動(1)所有権の移動時期 第14回 物権変動(2)所有権の第三者への対抗,担保物権 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	配布する資料、自己の取ったノートの復習をする。				
学習到達目標	民法総則、物権について基礎知識を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	法律用語は理解し、民法総則、物権に関する具体的な事例について法的な説明をすることができるようになる。			
	成績評価 方法	授業への参加態度(20%)、小テスト(コメントシート、場合によっては自習課題)(20%)、期末テスト(60%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					

科目名	民法B(債権)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2
担当教員	李 艶紅			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	目的: 民法の中の債権法部分の法規制を理解し、具体的な事例の中で法律がいかに適用されるのかについて理解することを目的とします。 内容: 債権関係の法制度について、その制度趣旨、概要および具体的な法解釈などを中心に分かりやすく解説します。				
授業方針	講義形式で行いますが、たくさんの判例・事例を取り上げて、みなさんによる積極的な思考・発言を求めます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション&債権法の概要 第2回 契約自由の原則とその例外 第3回 契約の成立から効力発生まで 第4回 契約のいろいろ(1) 第5回 契約のいろいろ(2) 第6回 契約のいろいろ(3) 第7回 契約の履行 第8回 契約の不履行と履行の強制 第9回 責任財産の保全 第10回 変則的な債権の回収 第11回 不法行為とは何か 第12回 事務管理とは何か 第13回 不当利得とは何か 第14回 まとめ&補足 第15回 期末考査&解説				
準備学習	①予告した授業内容に関連する資料を事前に読み、ある程度内容を把握すること(20時間)。 ②毎回授業時に配ったレジュメなどを読み返し、学習ポイントを振り返ること(20時間)。 ③最終回の授業内に実施する期末考査のための準備学習をすること(20時間)。				
学習到達目標	民法の基本原則を把握した上で、債権関係の法制度の趣旨や概要について理解・説明できることを目標とします。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	債権法の法規制について理解した上で、具体的な事例問題についていかに法律が適用されるかについて理解・説明できることをもって評価します。			
	成績評価 方法	授業への積極的な参加など(60%)、期末考査での評価(40%)。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に基づいて評価します。			
教材	レジュメなど参考資料は授業内において適宜配布				
備考					

科目名	<b>心理学概論I</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学概論Iでは、心理学を学習・研究する上で不可欠な基礎知識を身につけてもらう。心理学とは何か、知覚、学習、記憶、動機づけ、感情、認知、言語、思考、社会的行動など主に実験に基づいた基礎的な心理学の分野について説明をする。心理学の研究方法の多様性と人間の心理について理解を深めることを目的としている。				
授業方針	スライド(パワーポイントやインターネット)などの視聴覚教材を使用して、授業内容が具体的、視覚的に出来るだけ容易に理解できるように努める。また、講義時に使用した資料などをLiveCampusで配付するので、受講生は関心を持ったテーマについては、自主的に図書館などを利用して、さらに詳しい内容を学んでほしい。2年次以降の各領域の授業が理解できるよう、心理学の基本的術語や科学的な研究に必要な方法論の基本などを習得してもらいたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学とはどういう学問か 第2回 心理学の研究方法 第3回 動物から人間へ 第4回 感覚 第5回 知覚:視覚のメカニズム 第6回 知覚:色の知覚,形の知覚 第7回 認知:記憶のメカニズム 第8回 学習:レスポナント条件づけ 第9回 学習:オペラント条件づけ 第10回 発達:発達段階の特徴 第11回 動機づけと情動:欲求と充足 第12回 パーソナリティ:特徴とテスト 第13回 社会の中の人間:対人認知 第14回 社会の中の人間:集団心理 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1 それぞれの項目について必ず復習しておくこと。(30時間) 2 それぞれの項目の知識を単体ではなく有機的に結びつけられるよう考察しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	基礎心理学の基本的な分野の理解とキーワードの習得。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学的な発想法について基本的な理解が得られたか。 心理学の各分野についておおまかな展望を得ることができたか。 心理学の基本的な術語についての知識が得られたか。			
	成績評価 方法	授業への参加度50%、期末課題の成績50%の比率で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)プリント資料配布、視聴覚教材 (2)教科書 特に指定しない (3)参考書 心理学 第4版 鹿取・杉本・鳥居(編)東京大学出版会 ヒルガードの心理学 第14版 内田一成(監訳)ブレーン出版など。				
備考	心理学について、自分が関心をもった専門分野や理論、仮説などは図書館などを利用して、自分でさらに詳しい知識を得るようにしてほしい。				

科目名	心理学概論II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学概論IIでは、前期で言及されなかった、臨床心理学とそれに関連する領域を取り上げて概説する。取り上げる領域は、歴史、感覚、感情、発達、記憶、臨床心理及び家族臨床心理学である。前期でとりあげている領域でも心理臨床との関連から再考する。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピーおよび箱庭療法経験に基づいた講義を行う科目である。【実務】				
授業方針	心理離床的視点から心理学を再考したい。尚、ライブキャンパスのアンケートを使い、できるだけ受講生の疑問や要望に答える形で授業を進行したい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 歴史 第2回 感覚—触覚を中心に— 第3回 感情—コンプレックスを中心に— 第4回 発達1—乳幼児から青年期— 第5回 発達2—青年期以後 ライフサイクル論— 第6回 臨床—臨床心理学とは(歴史・事例研究法)— 第7回 記憶と臨床—PTSDと記憶— 第8回 臨床—心理テスト(質問紙法)— 第9回 臨床—心理テスト(投影法)— 第10回 臨床—心理療法—箱庭療法— 第11回 家族臨床心理学1—家族とは— 第12回 家族臨床心理学2—母親とは— 第13回 家族臨床心理学3—きょうだいとは— 第14回 家族臨床心理学4—家族ライフサイクル— 第15回 まとめ				
準備学習	事前に配布された資料の精読				
学習到達目標	臨床心理学とその周辺領域を学ぶ準備ができたか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	臨床心理学とその関連領域の専門用語を正しく理解し、説明できるか			
	成績評価 方法	成績評価方法: 期末レポート70%, 授業への参加度30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適時紹介する。				
備考					

科目名	基礎演習I(学習法基礎)				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	曾我 重司,大塚 聡子,三浦 和夫,友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業は、大学での学習に必要な学習法を身につけること、及び、心理学という学問に親しむことを目的としている。前者についてはおもに、図書館での文献の探し方と、大学のレポートの書き方を重点的に学ぶ。後者については、初歩的な心理学のトピックスに触れることで、心理学という学問についてのイメージを広げることを目指す。				
授業方針	全体、班別での授業と、個別指導の形態をおこなう。全体授業では、学内を訪問する、図書館に行って文献を探す、レポートの作成・提出手順を実体験するなど、大学とそこでの学習を知るための実習を行う。班別授業では、受講生を4班に分け、担当教員がそれぞれの専門分野から基礎的なトピックスを選び、講義・実習形式で紹介するとともに、学生同士の意見交換(ディスカッション)を行う。これらの内容や課題に関する個別指導を通して、今後の学生生活に必要な基本的な学習姿勢や具体的な心理学の知識を身につけることを目的とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	原則として対面授業にて行う。少人数の班に別れて実施するため、以下の実施順は変動する可能性がある。初回の授業時に確定スケジュールを配布する。 第1回 図書館の利用法 研究の出発点となる文献を検索する方法の実習 第2回 レポートの書き方-1 レポートの形式と体裁を学び実際に作成する 第3回 レポートの書き方-2 文章の書き方、文献の引用法 第4回 学内オリエンテーリング 大学構内をよく知るため少人数に分かれて学内各所を訪問する 第5回 グループ授業1 心理尺度構成 (グループ授業1~8の順番は班によって異なる) 第6回 グループ授業2 実験レポートの作成体験 第7回 個別指導1(課題達成度の確認) 第8回 グループ授業3 ディスカッション体験 1 第9回 グループ授業4 ディスカッション体験 2 第10回 グループ授業5 風景構成法体験 第11回 グループ授業6 スクイグル・コラージュ体験 第12回 グループ授業7 「自己紹介」を作る 第13回 グループ授業8 「自己紹介」をする 第14回 個別指導2(課題達成度の確認) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)授業中随時レポートなどの課題を課すのでそれに関する文献などを読んでおくこと。(30時間) (2)講義時に指示された課題についてレポートを作成すると。(30時間)				
学習到達目標	1 図書館を利用して資料を探しだしレポートが作成できるようになる。 2 グループ内のメンバー同士や担当教員とコミュニケーションがとれるようになる。 3 幅広い心理学の話題に親しむ。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	図書館での文献の探し方、大学のレポートの書き方等について理解できたか。			
	成績評価 方法	平常点(各課題への取り組みおよびそれぞれの実習の達成度)50%、最終レポート50%とする			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業時に適宜紹介する (3)その他 必要な資料等は授業時に指示する				
備考	グループ授業は、4班にわかれ班ごとに異なった教室で行われる。班分けは初回に知らせるので必ず出席すること。				

科目名	基礎演習II(課題演習)			
クラス	対象学年	1年	開講学期	後期
			曜日・時限	月2
担当教員	巖岩 秀章,藤巻 るり,村中 昌紀,大塚 聡子		単位区分	◎(必修)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	大学の学習では、単に教員の説明を聞いて内容を理解するだけでなく、自分自身で考え、それを他者に伝えるという作業が重要になる。この演習は、文献講読ゼミと自由討論を通して、自分の考えをまとめて発言するというコミュニケーション能力を高めることと、大学のゼミ形式の授業に慣れることを目的としている。			
授業方針	学生をいくつかのグループに分けて実施する。文献講読の授業では、心理学に関する基礎的な文献を講読する。学生は1つの文献についてレポーターとなり、文献の内容をまとめたレジュメを作成し、授業時にはそれをもとに発表する。レポーター以外の学生にも、事前に文献に目を通し、授業時には発表を聞いて考えたこと、疑問を抱いたところなどについて発言することを求める。自由討論では、事前に指定されるテーマについて各自が自分の考えを準備し、他の学生の意見も聞きつつ積極的に発言し話し合いを進める。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 テーマ学習 書く力 第2回 テーマ学習 読む力 第3回 テーマ学習 聞く力 第4回 テーマ学習 話す力 第5回 文献購読ゼミ 第1回 第6回 文献購読ゼミ 第2回 第7回 文献購読ゼミ 第3回 第8回 文献購読ゼミ 第4回 第9回 自分の意見を言うことの意義 第10回 文献購読ゼミ 第5回 第11回 文献購読ゼミ 第6回 第12回 文献購読ゼミ 第7回 第13回 文献購読ゼミ 第8回 第14回 文献を読むことの意義:まとめ  * 討論やテーマ学習の順はグループによって異なる。また変更されることがある。 * 初回に文献資料を配布し詳しい進め方を説明する。			
準備学習	事前に指定された文献を読んだり、話し合いのテーマについて考えてくること			
学習到達目標	1. 担当した文献を要約できるようになる。(レジュメ作成を含む) 2. 指定された文献について質問できるようになる。 3. 討論に参加できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文献を読み、内容をまとめたものを適切に発表する、自分の考えや疑問を積極的に発言する、という大学での基本的な演習スタイルを身につけることができたか。		
	成績評価 方法	平常点(出席+毎回の発言)50点、レポート50点(レポーターとなって発表することが必須、その上でレポートを提出する)平常点とレポートの得点を足したものを、別紙(成績評価と単位認定について)の基準に当てはめて評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 発表のための文献は授業時に配布する。 (2)参考書 授業時に適宜紹介する。 (3)その他 必要な資料等は授業時に指示する。			
備考	備考 受講者は事前に基礎演習 I を履修しておくこと			

科目名	<b>心理学統計法I</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学的な研究を行うためには、実験や観察を通してデータを集め、それを分析して適切な情報を読み取る必要がある。この授業では、質的・量的なデータの分析に必要な統計学の考え方と方法の基礎を学ぶ。授業の目的は、統計学に親しみ、データを適切に処理する方法を身につけるとともに、統計的に処理されたデータを客観的に評価する目を養うことである。				
授業方針	講義と実習の形式をとることで、理論と実践の両面から統計学の理解を進める。統計学に関する予備知識は必要ない。講義では、平均値のように日常的によく用いられる統計量から始め、具体的なデータの例を多く用いて、それらを処理する方法をわかりやすく説明する。実習では、講義で学習した内容を復習しながら、PCの表計算ソフトMS Excel(エクセル)等によるデータ処理操作を学習する。学習の到達度を確認するために、授業の中で数回の小テストを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理統計入門・データと尺度水準 第2回 データの図表化 第3回 代表値 第4回 散布度 第5回 標準化 第6回 散布図と相関係数 第7回 クロス集計表 第8回 母集団と標本・確率分布 第9回 標本分布と推定量 第10回 不偏性 第11回 実習:相関係数・推定量 第12回 PC実習1:1つの変数の特徴 第13回 PC実習2:2つの変数の関係 第14回 総復習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指定した教科書や資料を事前に読み、専門用語の意味などを理解しておくこと。(10時間) 授業の内容は前回授業内容に基づくので、復習しておくこと。(25時間) 最終試験に向けて授業内容を復習しておくこと。(25時間)				
学習到達目標	統計学の基本的な概念を理解する。 記述統計の基礎を理解し基本的なデータ集計ができるようになる。 エクセルの関数機能等を用いて基本的な統計値を求めることができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	統計学の基本的な概念を理解したか。 記述統計の基礎を理解し、基本的なデータ集計ができるようになったか。 エクセルの関数機能等を用いて、基本的な統計値を求めることができるようになったか。			
	成績評価 方法	授業への参加度および小テストの提出状況30%、学期末試験の成績70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 山田剛史・村井潤一郎(著)「やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 参考書 講義中に紹介する。 その他 必要な資料等は講義時に配布する。				
備考	PC実習ではノートパソコンを用いる。				

科目名	心理学統計法II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期の心理統計学IIにひきつづき、心理学の研究に必須の統計の基礎的知識を身につけることを目的とする。本講義では、心理学研究において頻りに用いられる種々の検定(無相関検定、カイ二乗検定、t検定、分散分析など)の考え方、および具体的なデータへの適用について、実際に練習問題を解きながら学ぶ。				
授業方針	心理学研究において頻りに用いられる種々の検定法について順次解説する。各種の統計的手法を理解し、自ら適切なデータ処理を行い得るようにするためには、実際のデータについて実習してみることが不可欠である。このため本講義では、統計手法の解説と実習を交互に行う。実習にはExcelの分析ツールとHADを使用する予定である。受講者は、原則としてノートパソコンと教科書を持参すること。授業内および授業後に、理解確認のための小テストを行う。授業はゆっくり進めるが、分からないことがあれば、授業中でも積極的に質問して欲しい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 統計的検定の考え方 第 2回 無相関検定 第 3回 カイ二乗検定 第 4回 無相関検定とカイ二乗検定の実習 第 5回 t検定(1) 独立な二群のt検定 第 6回 t検定(2) 独立な二群のt検定の実習 第 7回 t検定(3) 対応のあるt検定 第 8回 t検定(4) 対応のあるt検定の実習 第 9回 分散分析(1) 分散分析と実験計画 第10回 分散分析(2) 一要因分散分析 第11回 分散分析(3) 二要因被験者間計画分散分析 第12回 分散分析(4) 二要因被験者内計画分散分析 第13回 分散分析(5) 二要因混合計画分散分析 第14回 分散分析(6) 分散分析の実習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(10時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(30時間) (3)期末試験に向けて学習内容の総復習を行うこと。(20時間)				
学習到達目標	①無相関検定を行うことができる。 ②カイ二乗検定を行うことができる。 ③2つの平均値の差について、適切なt検定を用いて検定できる。 ④3つ以上の平均値の差について、適切な分散分析を用いて検定できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①各検定法の基本的な考え方を理解しているか。 ②実際のデータに対し適切な検定法を選択できるか。 ③統計ソフトなどを用いて適切な検定を行い、結果を正しく解釈することができるか。			
	成績評価 方法	期末試験の得点50%、小テスト等の提出物の得点50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房(心理学統計法Iと同じ教科書) 参考書 Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社				
備考	教室には原則としてノートパソコンと教科書を持参すること。				

科目名	<b>心理学実験</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4,月5
担当教員	大塚 聡子,曾我 重司,河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学実験の基礎を身につけることを目的とした授業である。授業は3つの班に分かれて行う。この授業では、実際に簡単な心理学の実験や調査を実施し、自分が得たデータを分析し、必要な統計処理や検定を施して結果をまとめ、論理的な考察を加えレポートにまとめる練習を繰り返す。				
授業方針	全員をいくつかの班に分け、それぞれ別の部屋で、違う種目を2週間かけて経験する。実習では、種目が変わる毎に学生が違う部屋に動くシステムとする。種目をこなす順番も班毎に異なるが、授業全体を通して全員同じ種目を経験することになる。また実験レポートの書き方についての指導も行う。この指導では、客観的に分析する技術や論理的な考察について、および心理学実験の倫理についても解説する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 実験に臨む態度について 第2回 一対比較法・実施(種目の順番は班により異なる) 第3回 一対比較法・解説 第4回 レポート作成指導(科学的表記法・心理学実験の倫理) 第5回 質問紙調査・実施 第6回 質問紙調査・解説 第7回 記憶の再生・実施 第8回 記憶の再生・解説 第9回 大きさの恒常性・実施 第10回 大きさの恒常性・解説 第11回 プライミング・実施 第12回 プライミング・解説 第13回 ストループ効果・実施 第14回 ストループ効果・解説 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	資料を事前に熟読して理解しておくこと(5時間)。 解説授業はその直前の授業の内容に基づいて行われるので、実習内容の復習をしておくこと(10時間)。 各種目についての実験レポートを作成すること(45時間)。				
学習到達目標	経験した実験や調査に関して意味を理解し技法に習熟すること。 科学論文のスタイルでの的確なレポートが書けるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経験した実験やテストに関して意味を理解し技法に習熟したかどうか。 科学論文のスタイルでの的確なレポートが書けたかどうか。			
	成績評価 方法	全種目の実施とレポート提出を必須とする。 レポートの評価点を平均化して最終評価点とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書は使用しない。 諸注意やレポートの書き方、各種目の方法に関する資料を第1回授業にて配布する。				
備考	配布した資料を注意深く読むこと。実習手続きを間違えると正しいデータが得られなくなってしまう。また、この授業では実験に参加することが大切なので、絶対に遅刻や欠席しないこと。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、その回の担当教員にかならず連絡・相談すること。				

科目名	心理学研究法基礎(心理学研究法I)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学は科学であり、科学には厳密な方法論が必要とされる。この講義においては、科学としての心理学の方法論についての知識を学び、実習もあわせて体験することによって、みずから問題意識を持ち、それを科学的な心理学の方法をもって明らかにすることのできる知識を習得することを目的とする。				
授業方針	本授業では、まず科学としての心理学における研究方法の基礎を学び、研究に対する問題意識をどのように持つか、その問題を解決する方法、注意すべき点、心理学固有の研究手法などについて紹介する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学研究法の概観 第2回 心理学研究法の歴史 第3回 心理学の研究対象 第4回 科学としての心理学 第5回 心理学の科学的な研究方法とは 第6回 心理学における実験法とは 閾値の測定 第7回 心理学における実験法とは 心理尺度の構成 第8回 心理学における調査法とは 第9回 心理学における質問紙法とは 第10回 心理学における面接法とは 第11回 研究テーマと研究方法を設定するには 第12回 研究計画の立て方 第13回 データの分析とは 第14回 研究発表の方法 第15回 履修者による研究テーマおよびその研究方法の発表:まとめ及び試験				
準備学習	1 「研究法」とは単独で存在するものではなく心理学の多様な領域の研究の中で用いられるものである。したがって、さまざまな心理学の授業の中で学んだ内容を復習しておくこと。(30時間) 2 講義中に適宜発表を求める。そのための文献を検索し要約しておくこと。(30時間)				
学習到達目標	心理学研究の基礎的な知識を習得し、それらを実際の研究に応用できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究法の基礎的な知識が習得できたか。それらを実際の研究に応用することができるか。			
	成績評価 方法	講義中に課す課題の内容を50%、期末のレポートを50%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 使用しない。 (2)参考書 必要に応じてそのつど指示・紹介する。 (3)その他 必要な資料等は適宜配布する。				
備考	特になし				

科目名	臨床心理学(臨床心理学概論)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	巖岩 秀章			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	臨床心理学は、「心理的障害を持った人々の健康の改善」と「一般の人々の心理的健康の増進」を目指して、心理学の研究成果の応用と臨床実践から生まれた心理学的援助の方法を統合して、人間性を理解し、その問題を解決するための理論と方法を開発しようとする学問分野である。心理学的な問題の理解を「臨床心理学的査定」と呼び、問題の解決に関することを「臨床心理学的介入」と呼ぶ。この授業では臨床心理学の基礎として歴史と主要理論を主に学ぶ。				
授業方針	この授業は、将来心理臨床の実践家を目指す学生に、臨床心理学についての基礎的な枠組みをとらえ、その主要な考え方を理解して知識を身につけ、さらに専門的な学習を進める手だてを提供することを主な目的とする。そのために、臨床心理学の歴史を紹介し、心理臨床の基礎となる主要理論および発達について述べる。病理や障害については詳しく取り扱わない。この授業は基本的には講義を中心とするが、不定期に知識定着のための小レポートを授業中に実施する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 臨床心理学とカウンセリング 第2回 臨床心理学の歴史 1臨床心理学の兆し 第3回 2実験と臨床のはざま 第4回 3人間のために 第5回 4日常に貢献する臨床心理学 第6回 臨床心理学の主要理論 1認知行動心理学 第7回 2精神分析 第8回 3人間性心理学 第9回 4そのほかの主要理論1 第10回 5 2 第11回 臨床心理学的発達論 1乳幼児期・児童期 第12回 2思春期・青年期 第13回 3成人期・老年期 第14回 人格と発達の障害とのかかわり 第15回 まとめ及び試験  学生の理解により進み具合やテーマが変わることがある。				
準備学習	講義の前後に、テキストの当該箇所や関連する章を読んで、予習・復習に努めること。				
学習到達目標	心を理解することの困難さがどこにあるか、心理学はそれにどう取り組み、臨床心理学はその知見をどう生かしてきたかを順に理解していくことが目標である。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	臨床心理学の基礎的知識が身についたか			
	成績評価 方法	授業への参加度50%、授業中実施する小レポート50%。 別紙(成績の評価と単位認定について)参照。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	プリントを配布する。 参考文献:カウンセリングの基礎 北樹出版				
備考	臨床心理士を志望する学生は受講しておいてください。				

科目名	心理演習				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	藤巻 るり,三浦 和夫,巖 秀章,友田 貴子,村中 昌紀			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	専攻別の小グループに分かれ、コミュニケーションワークや心理検査・心理面接等の体験をする実践的な授業である。臨床心理専攻の学生にとっては、教育・福祉・医療・司法などの領域で心理臨床に従事してきた教員による実践的な演習授業となる。ビジネス心理専攻の学生にとっては、実社会で役立つ心理学的な体験をする授業となる。【実務】				
授業方針	専攻別の小グループに分かれ、毎週違う部屋(教員)の種目を体験する。専攻別でまとめて受講する種目や全員でまとめて受講する種目もある。初回に授業全体の流れを説明するため、必ず出席すること。【この授業は対面で行う】				
学習内容 (授業 スケジュール)	(種目の順番はグループにより異なる) 第1回 (臨・ビ)箱庭療法 第2回 (臨・ビ)コミュニケーションワーク① 第3回 (臨・ビ)コミュニケーションワーク② 第4回 (臨・ビ)TAT実施 第5回 (臨・ビ)TAT解説 第6回 (臨)ロールプレイ(カウンセリング①)／(ビ)ロールプレイ(ビジネスシーン①) 第7回 (臨)ロールプレイ(カウンセリング②)／(ビ)ロールプレイ(ビジネスシーン②) 第8回 (臨)ロールプレイ(チームアプローチ)／(ビ)コミュニケーションワーク③ 第9回 (臨)ロールプレイ(多職種連携)／(ビ)コミュニケーションワーク④ 第10回 (臨)模擬事例の見立てと支援計画作成／(ビ)コミュニケーションワーク⑤ 第11回 (臨)倫理的ジレンマ事例の検討／(ビ)プレゼンテーション① 第12回 (臨)人格検査／(ビ)プレゼンテーション② 第13回 (臨・ビ)心理学実験(パーソナルスペース) 第14回 (臨・ビ)メンタルヘルス防止プログラム 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	参考資料の該当種目の部分を事前に読み理解しておくこと。(10時間) 各種目内容について振り返りを行うこと。(20時間) 授業にて示す課題についてレポートを作成すること。(30時間)				
学習到達目標	心理査定やコミュニケーションの技法に習熟し、自己理解・他者理解を深める。 臨床心理専攻の学生は、心理職としての専門的な他者理解・支援方法についても習熟する。 ビジネス心理専攻の学生は、現実的な場面における他者理解やコミュニケーション方法について習熟する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経験した心理査定やコミュニケーション技法等に関して意味を理解し技法に習熟したかどうか。 臨床心理専攻の学生は、心理専門職に必要な査定・援助技法を理解できたか。 ビジネス心理専攻の学生は、実社会で役立つ人間理解の方法を理解できたか。			
	成績評価 方法	割り当てられた全種目の実施とレポート提出が必要である。 各種目の評価点を平均化して最終評価点とする。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	演習の方法や諸注意について第1回授業で資料を配布する。				
備考					

科目名	ビジネス心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	高田 圭二			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ビジネス心理学では、社会に出てから所属する何らかの組織における課題や問題点の原因となりうる事柄を、心理学の立場から説明を行う。具体的には、会社組織やその中での対人関係上の問題、リーダーシップやチームワークといった概念について取り扱う。社会心理学や産業組織心理学での用語や理論を取り上げ、実社会の中でいかにして活用できるかを考えてもらいたい。				
授業方針	講義はパワーポイントを使用して進める。授業ごとに重要な理論や用語についての解説を行う。授業ごとに簡単なレポートの提出を求める。各学生の授業への能動的な参加を期待する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス 第2回 チームとチームワーク 第3回 ホーソン工場と動機づけ 第4回 凝集性 第5回 集団規範 第6回 集団間葛藤 第7回 社会的手抜き 第8回 評価システム 第9回 精神的不調 第10回 コミュニケーションネットワーク 第11回 リーダーシップ1 第12回 リーダーシップ2 第13回 リーダーシップ3 第14回 消費者行動とマーケティング 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義内で配布した資料や作成したノートを読み返し、内容の理解を深めること(30時間)。疑問点を明らかにして、参考書等で調べておくこと(30時間)。				
学習到達目標	ビジネス心理学の基本的な知識や理論を理解し説明できる。 自分の所属する集団での課題について、その課題の原因と解決方法を論理的に説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容の理解ができているかどうか。 得られた知識をもって、身の回りの集団についての問題点と解決方法を考察できるか。			
	成績評価 方法	期末試験 70% 授業への参加度 30%(授業毎のミニレポート)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキストは、特に指定しない。 授業内で資料を配布する。				
備考					

科目名	一般実験演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	卒業研究を行うための基礎として、各自の興味や問題意識に従って文献を選び、履修者全員で輪読し、発表と討論を行う。これにより、自身の興味や問題意識の対象が、心理学においてどのような領域に位置付けられているのかを知ることが目的とする。また、履修者の興味関心に合わせた心理臨床的体験学習(各種心理検査や箱庭療法等の体験)も随時行う。				
授業方針	文献の発表と討論、および体験学習を中心に進めていく。なお、文献については共通するテーマのものを教員が指定する場合もある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 履修者による研究テーマ発表① 第2回 履修者による研究テーマ発表② 第3回 研究テーマに関わる発表文献の決定 第4回 文献の輪読&討論① 第5回 文献の輪読&討論② 第6回 文献の輪読&討論③ 第7回 文献の輪読&討論④ 第8回 文献の輪読&討論⑤ 第9回 研究法についての文献輪読① 第10回 研究法についての文献輪読② 第11回 研究法についての文献輪読③ 第12回 心理臨床的体験学習① 第13回 心理臨床的体験学習② 第14回 研究計画発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	実際に研究テーマと関連した文献を検索することで文献検索の方法を知り、またその文献を精読しておくこと。				
学習到達目標	自身の興味や問題意識の対象が、心理学においてどのように位置付けられていることを説明できる。 またその領域における研究の流れについて説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自身の問題意識に従って適切な文献を選定し、内容を十分に理解できたか。 自身の問題意識の対象が心理学においてどのような領域に位置付けられるのかを理解し、またその領域においてどのような研究の流れがあるのかを把握できたか。			
	成績評価 方法	発表(50%) 討論や体験学習等への積極的な参加(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	一般実験演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学生は、担当教員によって示された研究テーマにもとづき、自ら実験、観察、調査などの方法を用いて研究が行えるような基礎的知識を習得する。一般実験演習Iでは、その為の文献などの講読・発表を行う。				
授業方針	2年次の基礎実験演習では、教員が簡単な実験や心理テストを用意し、2週を単位として実施したが、一般実験演習では研究計画の立案、従ってそのために必要となる文献の検索、輪読からはじめ、研究方法、被験者の選択からデータ処理や検定方法の決定及び実施に至るまで、学生がそれぞれ主体的に行っていくことになる。自ら心理学の研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。簡単な研究計画を立案し、実際に調査・実験を行ってデータを取り、分析して報告書を書くことを必要とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 履修者による研究テーマ発表 第2回 教員による参考文献候補の紹介 第3回 発表文献の決定 第4回 文献の輪読 第5回 発表された文献内容に関する討論 第6回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第7回 具体的研究計画の立案 第8回 具体的分析方法の立案 第9回 実験、観察、調査等の実施 第10回 データの分析 第11回 分析されたデータの解釈 第12回 レポートの序文となる文献のまとめ 第13回 レポートの作成 第14回 レポートの中間報告 第15回 レポートのプレゼンテーションの実施および内容についての履修者全員での質疑:まとめ及び試験				
準備学習	1 選択した文献の内容の理解およびレジュメの作成。(20時間) 2 調査・実験に必要な機材・資料の作成。(20時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書作成。(20時間)				
学習到達目標	1 心理学の専門知識を習得すること。 2 心理学の研究に必要な手法の知識を習得すること。 3 実際に心理学的データを収集し、分析ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか 2 適切なデータを収集し、的確な分析を行うことができたか			
	成績評価 方法	授業時の文献発表内容を25%、討論への参加内容を25%、最終的なレポートの内容を50%として、評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要な文献・資料については講義時に適宜指示する。				
備考	実際の実験・調査実施は実験協力者の都合などにあわせ各自空き時間を使って行うことになる。またデータ処理もここで指定されている時間だけでは終了しないと思われる。したがって本演習では決められた授業時間以外に多くの時間が必要となる。				

科目名	一般実験演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教員が提示した研究テーマにもとづき、学生自ら実験の研究計画を立て、実際に実験研究を行う。さらにデータの分析、統計的処理等を施した上で論理的な考察を加えてレポートを作成する。自ら心理学の実験研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。				
授業方針	研究計画の立案、文献の検索、輪読から始め、研究方法、被験者の選択からデータ処理や解析にいたるまで、学生のグループが主体的に行う実習形式の授業である。実験の内容によっては、正規の授業時間以外の時間における実習が必要になる場合もある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究テーマ解説 第2回 研究テーマ議論 第3回 文献資料の検索 第4回 文献の輪読(内容報告) 第5回 文献の輪読(批判的検討) 第6回 研究計画の立案(検証仮説) 第7回 研究計画の立案(実験計画) 第8回 実験の実施(実施準備) 第9回 実験の実施(データ採取) 第10回 実験の実施(データ整理) 第11回 データ処理(基礎統計) 第12回 データ処理(分散分析) 第13回 データ処理(多変量解析) 第14回 研究報告 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(10時間) (3)研究結果を報告するレポートを作成すること。(30時間)				
学習到達目標	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できるようになる (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができるようになる				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができたか			
	成績評価 方法	実習および議論への寄与60%、期末レポート40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する				
備考					

科目名	一般実験演習I				
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	三浦 和夫			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>来年度の卒業研究および卒業レポート作成に向けて、各ゼミ生がテーマを絞り込んでいく。自分の興味あるテーマについてどのような研究がなされてきたか(先行研究)を調べ、またどのような方法論が可能かなどをできるだけ個別に考えていく。尚、箱庭体験等の自己体験を希望する学生は当初より体験をはじめることとなる。</p> <p>この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピーおよび箱庭療法経験に基づいた指導を行う科目である。[実務]</p>				
授業方針	発表者は先行研究を調べ、必ずレジュメを提出すること				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 箱庭体験などの自己体験を希望する学生は月1回、臨床センターにて行う。 それ以外の学生は、レジュメに基づき発表してもらう。まず班分けをし、センターの場所など日程等を確認する。 その他の学生は研究室にて行う。そのための発表日程を決める。</p> <p>第2回 発表及び自己体験 第3回 発表 第4回 発表 第5回 発表及び自己体験 第6回 発表 第7回 発表 第8回 発表及び自己体験 第9回 発表 第10回 発表 第11回 発表及び自己体験 第12回 発表 第13回 発表 第14回 発表 第15回 後期までに学習課題の整理:まとめ及び試験</p>				
準備学習	発表者は自らのテーマに関する先行研究をできるだけ調べレジュメを作ること				
学習到達目標	<p>1自らのテーマについての先行研究を調べること 2卒研にむけての方法論をみいだすこと 3自己体験を続ける学生はその記録を続けること</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自らの選択したテーマに関し、これまでどのような研究がなされてきたかについて理解できたかどうか。			
	成績評価 方法	発表50%、授業への参加状況50%。箱庭制作は箱庭そのものを評価するのではなく、授業への参加状況を重視する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	一般実験演習I			
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期 前期
				曜日・時限 月3
担当教員	大塚 聡子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	受講生自身が実験研究を行う授業である。受講生は与えられたテーマの中で具体的な実験計画をたて、実験準備をして実際に実施をする。また、収集したデータを集計して統計的に処理し、論理的な考察を加えてレポートを作成し発表する。以上の内容を通して、一連の心理学実験作業を体験する。			
授業方針	受講生は小グループに分かれ、発展的な心理学実験を実施する。研究計画の立案や準備のほか、教示の設定、被験者の依頼と招集、データ処理法や検定方法の選択・決定に至るまで、受講生が主体的に行っていくことが求められる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 実験テーマの説明 第2回 資料検索 第3回 文献の講読 第4回 文献と実験テーマに関する議論 第5回 実験内容の立案 第6回 実験計画の設計 第7回 実験環境の設営 第8回 実験プログラムの作成 第9回 手続きの確認と予備実験 第10回 実験実施 第11回 データ処理 第12回 統計的検定 第13回 結果に関する議論 第14回 研究発表 第15回 レポート作成			
準備学習	各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(10時間) 各回に定められた内容を実施するために、事前の作業を終了させておくこと。(25時間) 実施した実験に関するレポートを作成すること。(25時間)			
学習到達目標	心理学実験の計画立案からレポート作成・発表まで、一連の作業を体験し、その内容を知る。 実験心理学で用いられる主要な手法を知り、それを使えるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究として妥当な実験計画を立案できたか。 適切に実験を実施し、データを的確に分析することができたか。 論理的な実験レポートを作成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(実習作業への参加・寄与の状況、発表の内容)50%、レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書は使用しない。 参考資料等は必要に応じて適宜配布・紹介する。			
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。			

科目名	一般実験演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この科目は、担当者の国立精神・神経センター精神保健研究所(現国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)での研究活動経験を生かし、ストレス、不応、精神的健康などをテーマを主とした研究指導を行う。各自の研究計画を確立させるために、自分の研究と類似のテーマの先行研究を講読する。また並行して、研究計画を発表し、検討を重ねていく。【実務】				
授業方針	先行研究の検索および講読、研究の立案、データ処理の方法などの決定および実施に至るまで、各自で進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 授業の進め方・分担決定 第2回 文献検索の方法 第3回 文献検索の実施 第4回 文献検索の実施と文献配布 第5回 論文講読・研究計画発表(担当者A・担当者F) 第6回 論文講読・研究計画発表(担当者B・担当者G) 第7回 論文講読・研究計画発表(担当者C・担当者H) 第8回 論文講読・研究計画発表(担当者D・担当者I) 第9回 論文講読・研究計画発表(担当者E・担当者J) 第10回 論文講読・研究計画発表(担当者F・担当者A) 第11回 論文講読・研究計画発表(担当者G・担当者B) 第12回 論文講読・研究計画発表(担当者H・担当者C) 第13回 論文講読・研究計画発表(担当者I・担当者D) 第14回 論文講読・研究計画発表(担当者J・担当者E) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①論文については全員分目を通す(20時間) ②自分の担当分の論文のレジュメを作る(20時間) ③研究計画を作成する(20時間)				
学習到達目標	先行研究をきちんと読み、実施可能な研究計画の立案ができること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	先行研究をきちんと読み、実施可能な研究計画の立案ができたかどうか。			
	成績評価 方法	レジュメの内容と発表(50%) 授業への参加態度(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	一般実験演習I				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1
担当教員	村中 昌紀			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	卒業研究を目指して各自の関心のあるテーマの概念化をはかり、同時に実際の研究方法を模索する。 【実務経験】この科目は心理職としての実務経験に基づいて行う科目である。				
授業方針	自分の研究テーマについて先行研究を調べ発表する。そのため発表以外にも個別指導の時間を取る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 履修者による研究テーマ発表 第2回 教員による参考文献候補の紹介 第3回 研究計画概要発表と討論 第4回 研究計画概要発表と討論 第5回 研究計画概要発表と討論 第6回 研究計画概要発表と討論 第7回 具体的研究計画の立案 第8回 具体的研究計画の立案 第9回 具体的研究計画の発表と討論 第10回 具体的研究計画の発表と討論 第11回 具体的研究計画の発表と討論 第12回 具体的研究計画の発表と討論 第13回 データ収集の立案 第14回 データ収集に関する討論 第15回 まとめ				
準備学習	先行研究の収集読み込み(20時間) 発表準備(20時間) 調査・実験の準備(20時間)				
学習到達目標	自分の研究テーマをわかりやすく説明できるようになる				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	目的と方法を研究に即して書けるようになる			
	成績評価 方法	発表(50%), 授業への参加度50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考	受講者自身が自分の研究を進めていく姿勢が求められます。				

科目名	一般実験演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	藤巻 るり			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	各自が自分の興味関心に沿った文献を読み込み、議論を通じて自分の問題意識を明らかにしていく。研究テーマに合った研究方法を見つけるために研究方法についての文献輪読や質的研究の体験学習なども行う。			
授業方針	発表と討論を中心に進めていく。適宜、体験学習なども取り入れる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習Iをふまえての発展的研究テーマ発表 第2回 発表文献の決定 第3回 研究テーマに関する発表① 第4回 研究テーマに関する発表② 第5回 研究テーマに関する発表③ 第6回 研究テーマに関する発表④ 第7回 研究テーマに関する発表⑤ 第8回 研究方法に関する文献の輪読もしくは体験学習① 第9回 研究方法に関する文献の輪読もしくは体験学習② 第10回 研究方法に関する文献の輪読もしくは体験学習③ 第11回 具体的研究計画の立案&発表① 第12回 具体的研究計画の立案&発表② 第13回 具体的研究計画の立案&発表③ 第14回 具体的研究計画の立案&発表④ 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	自分の興味のあるテーマが、心理学研究においてどのように位置づけられているのかを理解しておくこと。			
学習到達目標	自分の興味のあるテーマに関して、これまでどのような研究がされてきたか調べる。また、自分がそのテーマにどのような方法論で関わられるか具体的に考える。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自分の興味のあるテーマが、心理学研究においてどのように扱われているか理解できたか。 自分の問題意識を具体的な研究方法と結び付けて考えることができるか。		
	成績評価 方法	発表の内容50%、討論での発言50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	一般実験演習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学生は、一般実験演習IIにおいて選んだ研究テーマおよび結果にもとづき、テーマに関連する知識を深め、実際に実験・調査を行い、最終的には一つの報告書にまとめ報告する。				
授業方針	一般実験演習Iで行った研究をさらに深め、研究計画の立案、従ってそのために必要となる文献の検索、輪読からはじめ、研究方法、被験者の選択からデータ処理や検定方法の決定及び実施に至るまで、学生がそれぞれ主体的に行っていくことになる。自ら心理学の研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。簡単な研究計画を立案し、実際に調査・実験を行ってデータを取り、分析して報告書を書くことを必要とする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習Iのレポートに基づく発展的研究テーマ発表 第2回 教員による参考文献候補の紹介 第3回 発表文献の決定 第4回 文献の輪読 第5回 発表された文献内容に関する討論 第6回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第7回 具体的研究計画の立案 第8回 具体的分析方法の立案 第9回 実験、観察、調査等の実施 第10回 データの分析 第11回 分析されたデータの解釈 第12回 レポートの序文となる文献のまとめ 第13回 レポートの作成 第14回 レポートの中間報告 第15回 レポートのプレゼンテーションおよび結果についての履修者全員による質疑:まとめ及び試験				
準備学習	1 選択した文献の内容の理解およびレジュメの作成。(20時間) 2 調査・実験に必要な機材・資料の作成。(20時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書作成。(20時間)				
学習到達目標	1 心理学の専門知識を習得すること。 2 心理学の研究に必要な手法の知識を習得すること。 3 実際に心理学的データを収集し、分析ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか 2 適切なデータを収集し、的確な分析を行うことができたか			
	成績評価 方法	授業時の文献発表内容を25%、討論への参加内容を25%、最終的なレポートの内容を50%として、評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要な文献・資料については講義時に適宜指示する。				
備考	実際の実験・調査実施は実験協力者の都合などにあわせ各自空き時間を使って行うことになる。またデータ処理もここで指定されている時間だけでは終了しないと思われる。したがって本演習では決められた授業時間以外に多くの時間が必要となる。				

科目名	一般実験演習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教員が提示した研究テーマにもとづき、学生自ら実験の研究計画を立て、実際に実験研究を行う。さらにデータの分析、統計的処理等を施した上で論理的な考察を加えてレポートを作成する。自ら心理学の実験研究を計画し、データを処理する力を養うことを目的とする。				
授業方針	研究計画の立案、文献の検索、輪読から始め、研究方法、被験者の選択からデータ処理や解析にいたるまで、学生のグループが主体的に行う実習形式の授業である。実験の内容によっては、正規の授業時間以外の時間における実習が必要になる場合もある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究テーマ解説 第2回 研究テーマ議論 第3回 文献資料の検索 第4回 文献の輪読(内容報告) 第5回 文献の輪読(批判的検討) 第6回 研究計画の立案(検証仮説) 第7回 研究計画の立案(実験計画) 第8回 実験の実施(実施準備) 第9回 実験の実施(データ採取) 第10回 実験の実施(データ整理) 第11回 データ処理(基礎統計) 第12回 データ処理(分散分析) 第13回 データ処理(多変量解析) 第14回 研究報告 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(10時間) (3)研究結果を報告するレポートを作成すること。(30時間)				
学習到達目標	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できるようになる (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができるようになる				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)心理学研究として妥当な研究計画を立案できたか (2)適切なデータを収集し、的確な分析と考察を行うことができたか			
	成績評価 方法	実習および議論への寄与60%、期末レポート40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する				
備考					

科目名	一般実験演習II			
クラス	[04クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 金1
担当教員	三浦 和夫			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	<p>前期に引き続き、来年度の卒業研究作成に向けて、各ゼミ生がテーマを絞り込み、決定する。前期からの先行研究の吟味を続けながら方法論を決めたい。</p> <p>尚、箱庭体験等の自己体験学生は引き続き記録をしながら体験を積み重ねていく。</p> <p>この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピーおよび箱庭療法経験に基づいた指導を行う科目である。[実務]</p>			
授業方針	発表者は先行研究を調べ、必ずレジユメを提出すること			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 箱庭体験などの自己体験を希望する学生は月1回、臨床センターにて行う。 それ以外の学生は一人ずつ発表してもらい、まず班分けをし、センターの場所など日程等を確認する。 そのほかの学生は研究室にて行う。そのための発表日程を決める。</p> <p>後期よりできるだけ個別に対応する。</p> <p>第2回 自己体験 第3回 発表 第4回 発表 第5回 自己体験 第6回 発表 第7回 発表 第8回 自己体験 第9回 発表 第10回 発表 第11回 自己体験 第12回 発表 第13回 発表 第14回 自己体験 第15回 総合研究演習までの課題の確認:まとめ</p>			
準備学習	発表者は自らのテーマに関する先行研究をできるだけ調べレジユメを作ること			
学習到達目標	<p>1 自らのテーマについての先行研究を調べながらどのような方法で卒研をすすめるかについて決定する。</p> <p>2 自己体験を続ける学生はその記録を続けること</p>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自らの選択したテーマに関する先行研究の吟味と卒業研究の方法論を確定すること		
	成績評価 方法	発表50%, 授業への参加度50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材				
備考				

科目名	一般実験演習II			
クラス	[05クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	大塚 聡子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	受講生が自身の興味に応じて文献を選択・講読し、その内容に関連した研究を実施する授業である。一般実験演習Iと同様に、受講生は自ら研究計画をたてて実施することになるが、本演習ではさらに、研究テーマとそれに関連する研究環境を自身で選択・構築する必要がある。実際の研究を通してデータを収集したら、それを分析し、最終的には研究レポートを作成して発表する。			
授業方針	各受講生が自らの興味や関心に基づいて研究論文を1つ選択し、その内容をゼミ発表する。またその研究内容に関連した実験・調査研究を実際に実施する。実施の際には、研究計画の立案からデータの収集、分析、検定、さらに考察を含むレポート作成と発表までを行うことになる。以上の作業は、次年度の卒業研究のテーマの選択・決定に関連する重要な課題でもある。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 文献の講読:目的と方法 第2回 文献の講読:結果と考察 第3回 文献と研究テーマに関する議論 第4回 研究計画の立案と設計 第5回 研究計画に関する議論 第6回 調査・実験の準備:研究環境設営 第7回 調査・実験の準備:道具・刺激の作成 第8回 調査・実験の準備:道具・刺激の整備と手続きの確認 第9回 調査・実験の準備:予備研究の実施と手続きに関する最終討論 第10回 調査・実験の実施 第11回 データ処理 第12回 統計的検定 第13回 結果に関する議論 第14回 研究発表 第15回 レポート作成			
準備学習	選択した資料を事前に読み、発表と議論に備えること。(10時間) 各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(10時間) 各回に定められた内容を実施するために、事前の作業を終了させておくこと。(20時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)			
学習到達目標	学術的な研究論文を読んで理解し、その内容に関する討論を主体的に行う。 テーマ選択からレポート作成までの一連の研究作業を実施できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学術的な研究論文を選択し、適切に読解・発表できたか。 調査・実験作業を実施し、論理的な研究レポートを作成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(実習作業への参加・寄与の状況, 発表の内容)50%, レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書は使用しない。 参考資料等は必要に応じて適宜配布・紹介する。			
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。			

科目名	一般実験演習II			
クラス	[06クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	友田 貴子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	この科目は、担当者の国立精神・神経センター精神保健研究所(現国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)での研究活動経験を生かし、ストレス、不適應、精神的健康などのテーマを主とし、研究指導を行う。一般実験演習 I で立案した研究計画に沿って研究を進める。原則グループ研究として行うが、テーマによってはその限りではない。【実務】			
授業方針	4年次の卒業研究につながるよう計画的に研究を進めていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究計画発表(担当者A~E) 第2回 研究計画発表(担当者F~J) 第3回 グループの作成, 共同研究の打ち合わせ 第4回 調査, 実験, 観察等の実施(調査項目収集など) 第5回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票作成など) 第6回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査など) 第7回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査など) 第8回 データ処理(調査票整理など) 第9回 データ処理(データ入力など) 第10回 データ処理(データ入力など) 第11回 データ処理(データ入力・データクリーニング) 第12回 データ解析(記述統計量の算出など) 第13回 データ解析(t検定・分散分析・相関など) 第14回 レポート執筆 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	①研究の対象者やフィールドの確保(5時間) ②調査票作成や印刷など(15時間) ③データの入力と分析(20時間) ④レポートの作成(20時間)			
学習到達目標	研究立案、研究の実施、データ分析、レポート作成という流れに沿い、きちんと研究を進めること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究立案、研究の実施、データ分析、レポート作成という流れに沿い、きちんと研究を進めることができたかどうか。		
	成績評価 方法	研究準備50%, 研究実施後のデータ分析の取り組み50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	適宜紹介する。			
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。			

科目名	一般実験演習II				
クラス	[07クラス]	対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	村中 昌紀			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	前期に続いて各自の研究テーマを実際の研究の形になるよう絞り込む。 【実務経験】この科目は心理職としての実務経験に基づいて行う科目である。				
授業方針	全体発表だけでなく、個別面接も行って指導する。それゆえ発表以外にも個別指導の時間を取る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 研究スケジュール 第2回 発表 第3回 発表 第4回 発表 第5回 発表 第6回 発表 第7回 発表 第8回 発表 第9回 発表 第10回 発表 第11回 発表 第12回 発表 第13回 発表 第14回 発表 第15回 まとめ				
準備学習	先行研究を調べ読み込む(20時間) 発表準備(20時間) 予備実験、予備調査など4年次におけるデータ収集の準備(20時間)				
学習到達目標	4年次に本調査、本実験が行えるよう予備調査などの研究準備を整える。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	方法までが確定すること			
	成績評価 方法	発表(50%)と出席(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考	各自の発表を聞いたり、相互にコメントし討論する。詳細はおって連絡する。				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1,火3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を実施する。自分自身の問題意識を論文という形にまとめる。				
授業方針	各自が研究テーマにしたがって、そのテーマの関連文献や先行研究を吟味しながら研究計画を立案する。また、立案した計画を、発表および討議の中で洗練させて具体的な形にしていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回目 卒業研究テーマの発表1 第2回目 卒業研究テーマの発表2 第3回目 卒業研究テーマの発表3 第4回目 具体的研究計画および研究方法についての討論1 第5回目 具体的研究計画および研究方法についての討論2 第6回目 具体的研究計画および研究方法についての討論3 第7回目 発表&討論1 第8回目 発表&討論2 第9回目 発表&討論3 第10回目 発表&討論4 第11回目 発表&討論5 第12回目 発表&討論6 第13回目 発表&討論7 第14回目 卒業研究の中間報告 第15回目 まとめ及び試験				
準備学習	文献を自発的に調べ、批判的に読む。 自分自身の問題意識を明確にする。				
学習到達目標	具体的な方法を含んだ研究計画の策定ができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	関連する文献を十分に吟味できたか。 自身の問題意識を独自の視点から研究計画にできたか。			
	成績評価 方法	発表内容60%, 授業への参加度40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	読むべき文献は教員が指定する場合がある。				
備考					

科目名	総合研究演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4,水5
担当教員	曾我 重司			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究の進め方について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでのすべての学校教育で身につけたことの集大成であり、これから社会人として生きていくための出発点となる重要なものである。また、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。				
授業方針	指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。研究の主題と目的を明確にし、最適な研究方法を探索し、得られた結果を十分吟味して考察を加えることが求められる。実際の授業の進め方については、それぞれの学生の研究実施上のニーズに合わせて、担当の教員が指示するので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。総合研究演習 I では、主に各自の研究計画の検討が中心の課題となるがその研究計画に基づいて実験・調査を行いデータを取り分析し報告書を作成することが必要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習の研究結果に基づく卒業研究テーマの発表 第2回 一般実験演習での結果を発展させるための条件の検討 第3回 研究テーマの妥当性に関する討論 第4回 研究に関連する文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈 第14回 卒業研究の序文となる文献のまとめ 第15回 卒業研究の作成・中間報告:まとめ及び試験				
準備学習	1 研究関連論文発表に際しては事前に文献を熟読理解し、レジメを作成しておくこと。(10時間) 2 卒業研究の実験・調査の準備を行うこと。(30時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書の作成をすること。(20時間)				
学習到達目標	研究計画の立て方について十分な検討をし、実験・分析を行って中間報告ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究方法、分析によって中間報告書をまとめることができるか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを50%、中間報告の内容を50%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	研究テーマに関連する文献・資料を適宜指示する。				
備考	履修登録の際には、指定された指導教員の授業に登録すること。 (教員によって授業番号が異なるので注意すること)				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火1,火2
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では、卒業研究の進め方について指導する。指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。				
授業方針	受講学生の研究計画の進行状況に応じて、卒業研究の実習と指導を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査, 実験, 観察等の実施(刺激作成の準備) 第2回 調査, 実験, 観察等の実施(刺激作成) 第3回 調査, 実験, 観察等の実施(実験計画の準備) 第4回 調査, 実験, 観察等の実施(実験計画) 第5回 調査, 実験, 観察等の実施(実験計画の確認) 第6回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラム作成準備) 第7回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラム前半の作成) 第8回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラム後半の作成) 第9回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラムの完成) 第10回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験の準備) 第11回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験) 第12回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験のデータ処理) 第13回 調査, 実験, 観察等の実施(予備実験のまとめ) 第14回 調査, 実験, 観察等の実施(本実験に向けて) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、先行研究や研究方法を理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(20時間) (3)研究結果を報告するレポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	卒業研究にふさわしい学習・研究活動を進められるようになること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究にふさわしい学習・研究活動が進められたかどうか			
	成績評価 方法	各自の研究・発表内容60%, セミにおける議論への貢献40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					

科目名	総合研究演習I				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4,木1
担当教員	三浦 和夫			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究にむけて具体的にテーマも決定し、実際に動き出すことになる。自己体験や事例研究的なテーマは、主に記録を欠かさず継続していくこと。インタビューを行う学生は、それぞれのテーマを事前に学習し、インタビュー項目を決め、最初のインタビューについて取り上げ検討する。				
授業方針	教員との個別的な対応が主になる。体験的なテーマについては前期まで、体験を継続し、地道に記録を続ける。その他のインタビューなどを方法とする学生は、1回のインタビューで何が聞けなかったか。どんなことを聞くべきか、または聞かないべきか。インタビューは面接に近い態度を必要であり、1回ごとに丹念に吟味する必要がある。また、先行研究にあたることも必要となる。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピーおよび箱庭療法経験に基づいた指導を行う科目である。[実務]				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 体験を扱う班は引き続き、臨床センターにて体験を継続する。そのための日程の確認を行う。その他の班は研究室にて個別指導となる。 順調に進んでいる者で3～4回の個別指導をおこなう。随時必要な学生については時間外の指導もおこなう。 第2回 個別指導 第3回 個別指導と箱庭体験 第4回 個別指導 第5回 個別指導 第6回 個別指導 第7回 個別指導と箱庭体験 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導と箱庭体験 第12回 箱庭体験グループがこれまでの写真や説明、感想をまとめる(1) 第13回 箱庭体験グループがこれまでの写真や説明、感想をまとめる(2) 第14回 全員が集合しそれぞれの進捗状況を確認し、夏季休暇の間にすべきことを確認する。:まとめ及び試験				
準備学習	先行研究をできる限り検索し読むこと。必ず個別面接時に検討すべき資料を前日までに整理し送ることが必須。 また体験を主とするものは、体験自体の記録を丹念に書くことだけでなく、日常的な体験に影響するようなことがらについても記録すること				
学習到達目標	自らが選択したテーマについて、これまで言われていること(先行研究)、選択した方法によって集められたデータや記録を整理できるかが目標である。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自らが選択したテーマについて、先行研究について理解し、説明できるか。 自らが選択した方法によって集めたデータや記録を整理できるか。			
	成績評価 方法	テーマを決定し先行研究を読み、理解し、方法を決め、実践し、その結果をまとめるまで行われているか ただし体験的なテーマは、前期まで地道に記録をとり、前期終了時にその体験を終了する。その後体験の整理とともに先行研究にあたる準備ができるかどうか。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材					
備考					

科目名	総合研究演習I				
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月1,火4
担当教員	大塚 聡子			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでの学校教育で身につけたことの集大成であり、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。総合研究演習 I では担当教員の指導の下に研究計画を立て、準備をし、予備または第一研究を実施する。最終的にはその報告書を作成する。				
授業方針	受講生自身が先行研究の調査を行い、卒業研究のテーマを立て、研究計画を立てて研究を実施する。実際の授業内容は、各受講生の研究実施上のニーズに合わせて指示されるので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンスと卒業研究テーマの検討 第2回 研究に関連する文献の調査 第3回 文献の講読・発表 第4回 文献に関する討論 第5回 具体的研究テーマの設定 第6回 具体的な研究計画の立案 第7回 具体的な研究方法の立案 第8回 予備または第1研究(実験、調査等)の準備① 第9回 予備または第1研究(実験、調査等)の準備② 第10回 予備または第1研究(実験、調査等)の実施① 第11回 予備または第1研究(実験、調査等)の実施② 第12回 データ分析 第13回 結果の解釈 第14回 今後の課題の検討 第15回 まとめ及び試験(報告書の提出)				
準備学習	各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと。(60時間) 各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(20時間) 授業中に示す課題について報告書を作成すること。(40時間)				
学習到達目標	卒業研究にふさわしいテーマを設定し、適切な実験・調査作業を行うことができるようになる。 卒業研究のテーマに関する報告書を作成する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	主体的に研究の準備作業を進めたか。 論理的な報告書を作成できたか。			
	成績評価 方法	報告書の内容50%, 授業への参加度50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は使用しない。 参考資料は講義中に適宜指示・紹介する。				
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	月1,水3
担当教員	友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	この科目は、担当者の国立精神・神経センター精神保健研究所(現国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)での研究活動経験を生かし、卒業研究を指導する。【実務】				
授業方針	各自のペースで研究を行い、総合研究演習Ⅱにつなげていく。授業時間内では研究計画の発表、調査票などの作成とその内容吟味などを受講生相互で行い、各自の研究がより優れた研究となるように進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査, 実験, 観察等の実施(項目収集の準備など) 第2回 調査, 実験, 観察等の実施(項目収集など) 第3回 調査, 実験, 観察等の実施(尺度作成の準備など) 第4回 調査, 実験, 観察等の実施(尺度作成など) 第5回 調査, 実験, 観察等の実施(尺度構成の確認など) 第6回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票作成準備など) 第7回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票前半の作成など) 第8回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票後半の作成など) 第9回 調査, 実験, 観察等の実施(調査票の完成など) 第10回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査の準備など) 第11回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査など) 第12回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査のデータ処理など) 第13回 調査, 実験, 観察等の実施(予備調査のまとめなど) 第14回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査の準備) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①研究の対象者やフィールドの確保(10時間) ②調査票作成や印刷など(20時間) ②データの入力と分析(50時間) ③レポートの作成(40時間)				
学習到達目標	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進めること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進めることができたかどうか。			
	成績評価 方法	発表内容50%, 授業への参加度50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3,火4
担当教員	巖 秀章			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習は卒業研究について指導する。卒業研究はこれまでの学習の集大成である。同時にそれは社会人、また専門家としてやっていく上での基礎となるであろう。				
授業方針	学生自身が研究計画を立て、必要な用具を揃え、研究を実施する。それを実現すべく、教員が指導を重ねていく。総合研究演習 I では、主として目的と方法の検討を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 一般実験演習の研究結果に基づく卒業研究テーマの発表 第2回 一般実験演習での結果を発展させるための条件の検討 第3回 研究テーマの妥当性に関する討論 第4回 研究に関連する文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈 第14回 卒業研究の作成・中間報告:まとめ				
準備学習	発表の準備をよくすること。				
学習到達目標	調査方法を具体化すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	先行研究をよく調べ、発表をきちんとできていること。			
	成績評価 方法	発表内容60%, 授業への参加度40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	講義中必要に応じ指示する。				
備考	3年生と合同の時間を持ち、相互に発表・討論を行う。指定された指導教員の授業に登録すること				

科目名	総合研究演習I				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1,水2
担当教員	村中 昌紀			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を計画的に進める。 【実務経験】この科目は心理職としての実務経験に基づいて行う科目である。				
授業方針	各自研究進捗状況を発表し、教員の指導及び他受講者からの助言を踏まえて着実に研究を進める。また、卒業研究の発表とは別に各自関心のあるトピックを持ち寄り話題提供を行い、集団でのディスカッションを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 前期演習の進め方についての確認 第2回 卒研の作成要領に関する講義 第3回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第4回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第5回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第6回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第7回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第8回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第9回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第10回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第11回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第12回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第13回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第14回 研究中間報告と質疑／話題提供と集団討議 第15回 前期の進捗状況と後期の取組みに関するレポート提出				
準備学習	現時点での成果、今後の課題を明確に発表できるように準備すること(60時間)。				
学習到達目標	主体的に研究を進めること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究としての課題、計画、実施手順等の的確性、実現可能性			
	成績評価 方法	研究の進捗70%、演習への参加姿勢30%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	総合研究演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1,火3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を完成させる。				
授業方針	研究計画に従って卒業論文という形にしていく。必要に応じて個別指導という形をとることもある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告① 第2回 総合研究演習Iの成果報告② 第3回 総合研究演習Iの成果報告③ 第4回 発展的研究に必要な文献の候補の検討 第5回 発表① 第6回 発表② 第7回 発表③ 第8回 発表④ 第9回 発表⑤ 第10回 発表⑥ 第11回 発表⑦ 第12回 発表⑧ 第13回 研究成果のプレゼンテーションと討論① 第14回 研究成果のプレゼンテーションと討論② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	進展状況に応じて研究を進めていく。				
学習到達目標	卒業研究を完成させることができる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	自身の問題意識を独自の視点から卒業研究という形にできたか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	総合研究演習II			
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 水4,水5
担当教員	曾我 重司			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究の進め方について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでのすべての学校教育で身につけたことの集大成であり、これから社会人として生きていくための出発点となる重要なものである。また、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。			
授業方針	指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。研究の主題と目的を明確にし、最適な研究方法を探索し、得られた結果を十分吟味して考察を加えることが求められる。実際の授業の進め方については、それぞれの学生の研究実施上のニーズに合わせて、担当の教員が指示するので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。総合研究演習IIでは、調査や実験を行って研究を実際に遂行して、データを整理し、得られた結果についての考察を行い最終的に卒業研究報告書をまとめることが必要となる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告 第2回 成果報告に基づく研究テーマの妥当性に関する討論 第3回 総合研究演習Iの結果を発展させるための条件の検討 第4回 発展的研究に必要な文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈・研究全体の考察 第14回 卒業研究報告書の作成 第15回 研究成果のプレゼンテーションと討論:まとめ及び試験			
準備学習	1 研究関連論文発表に際しては事前に文献を熟読理解し、レジメを作成しておくこと。(10時間) 2 卒業研究の実験・調査の準備を行うこと。(30時間) 3 実験実施およびデータ分析、報告書の作成をすること。(20時間)			
学習到達目標	研究計画の立て方について十分な検討をし、実験・分析を行って卒業研究報告ができるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究方法、分析によって卒業研究報告書をまとめることができるか。		
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する。卒研発表会での発表をもって最終試験とする。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	研究テーマに関連する文献・資料を適宜指示する。			
備考	履修登録の際には、指定された指導教員の授業に登録すること。 (教員によって授業番号が異なるので注意すること)			

科目名	総合研究演習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3,月4
担当教員	河原 哲雄			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では、卒業研究の進め方について指導する。指導教員の指導の下に、学生自身が研究計画を立て、研究を実施する。				
授業方針	受講学生の研究計画の進行状況に応じて、卒業研究の実習と指導を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査, 実験, 観察等の実施(本実験の準備) 第2回 調査, 実験, 観察等の実施(プログラムのチェック) 第3回 調査, 実験, 観察等の実施(本実験の実施) 第4回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ入力準備) 第5回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ入力) 第6回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ解析) 第7回 論文の書き方解説(方法) 第8回 論文の書き方解説(結果と考察) 第9回 論文の書き方解説(問題と目的) 第10回 論文の書き方解説(その他) 第11回 論文作成指導(方法) 第12回 論文作成指導(結果と考察) 第13回 論文作成指導(問題と目的) 第14回 論文作成指導(総括) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、先行研究や研究方法を理解すること。(20時間) (2)研究に必要な実験・調査の実施やデータの整理等を行うこと。(20時間) (3)研究結果を報告する卒業研究報告を作成すること。(20時間)				
学習到達目標	研究計画について十分に検討し、実験または調査と分析・論文執筆を実行し、卒業研究報告ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究計画, 実験または調査, 分析と考察にもとづいた卒業研究報告書をまとめることができるか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢, ゼミでの発表や討論の内容を25%, 卒業研究の内容を50%, 卒研発表の内容を25%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	授業中に適宜指示する。				
備考					

科目名	総合研究演習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	月2,水2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	前期までにテーマ、方法、先行研究の吟味が終わり、実践とその結果、考察へのすすむ。体験班は前期までにその体験を終了させ、記録の整理とそこからテーマを導き出す。そしてそのテーマについての先行研究を探し、読み、理解する。前者と後者では進み方が逆になる面がある。この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピーおよび箱庭療法経験に基づいた指導を行う科目である。[実務]				
授業方針	教員との個別的な対応が主になる。体験的なテーマで研究をする学生は前期まで体験を継続し、地道に記録を続ける。その他のインタビューなどの方法ととる学生は、心理面接に準ずる態度で一回のインタビューでどんなことを聞くべきか、何が聞けなかったか、または聞かないべきであるかを検討する。先行研究にあたることも必要となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告 第2回 成果報告に基づき文献研究1 第3回 文献研究2 第4回 文献研究3 第5回 文献研究4 第6回 序論執筆指導1 第7回 序論執筆指導2 第8回 結果のまとめ方1 第9回 結果のまとめ方2 第10回 結果のまとめ方3 第11回 考察のまとめ方1 第12回 考察のまとめ方2 第13回 卒業研究報告書の作成1 第14回 卒業研究報告書の作成2 第15回 研究成果のプレゼンテーションと討論:まとめ及び試験				
準備学習	結果を整理し、発表までにメールに添付して送ること。				
学習到達目標	結果を整理し、研究論文という形式に整えることができるかどうか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究要旨、および本文を締め切り日時までに提出し卒業研究発表会で発表できたか			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材					
備考					

科目名	総合研究演習II			
クラス	[05クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 火3,火4
担当教員	大塚 聡子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	総合研究演習では卒業研究の進め方について指導する。卒業研究は学生諸君がこれまでの学校教育で身につけたことの集大成であり、大学院に進学する学生にとっては、より高度な研究を進めるための礎となるものである。総合研究演習IIでは担当教員の指導の下に研究を実施し、卒業研究報告書を作成する。			
授業方針	受講生自身が研究計画を立て、研究を実施し、結果の議論を行う。実際の授業内容は、各受講生の研究実施上のニーズに合わせて指示されるので、担当教員と詳細にわたって話し合うこと。実施した研究の結果を適切に処理し、最終的に卒業研究報告書を作成する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果に基づく研究テーマの検討 第2回 具体的研究テーマに関する討論 第3回 具体的研究テーマの設定 第4回 具体的な研究計画の立案 第5回 具体的な研究方法の立案 第6回 本研究または第2研究(実験、調査等)の準備① 第7回 本研究または第2研究(実験、調査等)の準備② 第8回 本研究または第2研究(実験、調査等)の実施① 第9回 本研究または第2研究(実験、調査等)の実施② 第10回 データ解析 第11回 結果の解釈 第12回 結果の総合的な検討 第13回 卒業研究報告書の作成① 第14回 卒業研究報告書の作成② 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと。(60時間) 各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること。(20時間) 卒業研究報告書を作成すること。(40時間)			
学習到達目標	卒業研究にふさわしい研究を実施する。 妥当な研究手法による実験・調査を行い、収集したデータを適切に分析する。 論理的な考察を加えて、卒業研究報告書を作成・提出する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究報告書の形式に則って卒業研究報告書を作成できたか。 適切な研究を実施し、その内容について整合性のある議論ができたか。		
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	教科書は使用しない。 参考資料は講義中に適宜指示・紹介する。			
備考	指定された担当教員の授業に履修登録すること。			

科目名	総合研究演習II				
クラス	[06クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2,金3
担当教員	友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	この科目は、担当者の国立精神・神経センター精神保健研究所(現国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)での研究活動経験を生かし、卒業研究を指導する。【実務】				
授業方針	各自のペースで研究を行い、卒業研究を仕上げていく。授業時間内では研究計画の発表、調査票などの作成とその内容吟味などを受講生相互で行い、各自の研究がより優れた研究となるように進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査の準備など) 第2回 調査, 実験, 観察等の実施(本調査の実施など) 第3回 調査, 実験, 観察等のまとめ(調査票チェックなど) 第4回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ入力準備など) 第5回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ入力など) 第6回 調査, 実験, 観察等のまとめ(データ解析など) 第7回 論文の書き方解説(方法) 第8回 論文の書き方解説(結果と考察) 第9回 論文の書き方解説(問題と目的) 第10回 論文の書き方解説(その他) 第11回 論文作成指導(方法) 第12回 論文作成指導(結果と考察) 第13回 論文作成指導(問題と目的) 第14回 論文作成指導(資料・仕上げ) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと(20時間) ②各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること(20時間) ③卒業研究報告書を作成すること(80時間)				
学習到達目標	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進め、卒業研究を完成させること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究立案、研究の実施、データ分析、論文(レポート)作成という流れに沿い、きちんと研究を進め、卒業研究を完成・提出させることができたかどうか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	総合研究演習II				
クラス	[07クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3,火5
担当教員	巖岩 秀章			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	総合研究演習は卒業研究について指導する。卒業研究はこれまでの学習の集大成である。同時にそれは社会人、また専門家としてやっていく上での基礎となるであろう				
授業方針	学生自身が研究計画を立て、必要な用具を揃え、研究を実施する。それを実現すべく、教員が指導を重ねていく。総合研究演習IIでは、主として結果と考察の検討を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 総合研究演習Iの成果報告 第2回 成果報告に基づく研究テーマの妥当性に関する討論 第3回 総合研究演習Iの結果を発展させるための条件の検討 第4回 発展的研究に必要な文献の候補の紹介 第5回 発表文献の決定 第6回 文献の講読・発表 第7回 発表された文献内容に関する討論 第8回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第9回 具体的研究計画の立案 第10回 具体的分析方法の立案 第11回 実験、観察、調査等の実施 第12回 データの分析 第13回 分析されたデータの解釈・研究全体の考察 第14回 卒業研究報告書の作成:まとめ				
準備学習	発表の準備をよくすること				
学習到達目標	卒業研究を心理学的な研究報告として完成させること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究報告書で、目的、方法、結果、考察が一貫して書かれているか。			
	成績評価 方法	卒業研究に取り組む姿勢、授業時の発表や討論の内容などを25%、卒業研究の内容を50%、卒研発表の内容を25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	必要に応じ講義中指示する。				
備考	指定された指導教員の授業に登録すること				

科目名	総合研究演習II				
クラス	[08クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水1,水2
担当教員	村中 昌紀			単位区分	◎(必修)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	卒業研究を論文として完成させる。 【実務経験】この科目は心理職としての実務経験に基づいて行う科目である。				
授業方針	各自が卒業研究の進捗状況を発表し、卒研題目、先行研究の文献整理、調査方法、データの整理・分析・解釈、考察の書き方、結論の書き方などの指導を行い、卒研を完成させる。また、卒業研究の発表とは別に各自関心のあるトピックを持ち寄り話題提供を行い、集団でのディスカッションを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 後期の演習の進め方の確認 第2回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第3回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第4回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第5回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第6回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第7回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第8回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第9回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第10回 研究進捗状況の報告／話題提供と集団討議 第11回 論文最終稿作成指導 第12回 論文最終稿作成指導 第13回 論文最終稿作成指導 第14回 論文完成 第15回 論文のプレゼンテーションと討論:まとめ及び試験				
準備学習	①各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと(60時間) ②各回授業のまとめに基づき、その回の作業内容を復習すること(20時間) ③卒業研究報告書を作成すること(40時間)				
学習到達目標	前期の演習における教員からの指導及び他学生からの時助言を踏まえて研究成果を論文にまとめる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	卒業研究への取り組み姿勢、心理学としての完成度(目的、方法、結果、考察等の妥当性)の高いものであるか。			
	成績評価 方法	卒業研究への取組姿勢25%、卒業研究の内容50%、卒研発表の内容25%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	適宜紹介する。				
備考	履修に関しては担当教員の許可が必要である。				

科目名	コミュニケーション技法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	田中 道弘			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ますます複雑化していく現代社会において、人間関係を円滑に運ぶことが求められる一方で、それがうまくいかず人間関係に悩む人も少なくない。本講義では、このような誰もが避けて通ることのできない人間関係について、これまで得られた心理学的知見を、身近な例を用いて様々な面から考察する。				
授業方針	「はじめてふれる人間関係の心理学」をテキストに使用する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 印象形成と対人認知 第2回 対人魅力 第3回 言語的、非言語的コミュニケーション 第4回 向社会行動と攻撃行動 第5回 性格と人間関係(1) 第6回 性格と人間関係(2) 第7回 自己概念と人間関係 第8回 日本的自己と人間関係 第9回 友人関係・恋愛関係(1) 第10回 家族関係 第11回 態度変容と説得的コミュニケーション 第12回 リーダーシップ 第13回 集団心理と同調行動 第14回 インターネット上のコミュニケーション 第15回 まとめと試験				
準備学習	(1)シラバスを参考に、各回の章を読んでおくことが望ましい。(※14回目を除く) (2)講義の際の重要事項、キーワードをしっかりと復習する。 (3)教科書内のコラムで紹介された書籍などを読むことで講義の理解度が深まる。				
学習到達目標	コミュニケーションを円滑にするための人間関係に関する理論を理解し、説明できるようになっているか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コミュニケーションを円滑にするための人間関係に関する理論を理解し、説明できる			
	成績評価 方法	全授業日数の3分の2以上出席すること。 講義時に(ほぼ毎回)提示するリアクションペーパー(小テスト、小レポートを含む)の理解度、クイズへの正解率などを、授業への参加度へ反映する。比率は、期末試験の得点70%、授業への参加度 30%である。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書: 榎本博明(2018). はじめてふれる人間関係の心理学 サイエンス社 参考書: 適宜紹介する 参考資料: 必要に応じて配布する				
備考	・学習内容は進度により多少前後する場合がある。 ・毎回出席を取る(遠隔の場合は、授業中提示するキーワードがその代わりになる場合があるので注意すること)。 ・対面授業では、講義中、スマートフォン等の使用は認めない。授業の動画の撮影も禁止する。				

科目名	ビジネス心理原典講読				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	大塚 聡子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ビジネス心理学に関わる文献・資料を講読する。心理学の応用分野としての産業・組織・広告・消費分野に関する知識を深めることを目的とし、幅広い話題にわたり多様な研究手法を扱う文献をとりあげる。受講生は交代で発表者となって担当する文献の内容を紹介し、それをもとに全員で討論する。				
授業方針	ビジネスに関わる心理学の文献を講読する。はじめに文献・資料を示すので、受講生は自身の興味に応じて担当項目を選択する。受講生は交代で発表者となり、担当文献の内容を紹介する。その際、あらかじめ発表資料を準備するなど、十分な予習しておく必要がある。発表者以外の受講生もあらかじめ文献を精読しておき、授業中には、発表者の解説を聞いて考えた点や疑問点をコメント・質問して討論を進める。また、授業で扱った文献全般に関する総合討論を行い、心理学の学際的・応用的な視点の獲得をめざす。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ビジネス心理学概説 第2回 講読: 動機づけ 第3回 講読: リーダーシップ 第4回 講読: ストレスと精神的健康 第5回 講読: 性役割 第6回 講読: 広告 第7回 講読: コミュニケーション 第8回 講読: 好意 第9回 講読: 意思決定 第10回 講読: 認知バイアス 第11回 講読: 希少性 第12回 講読: 感性評価 第13回 講読: 知覚と学習 第14回 講読: 人間工学 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	自身が担当する文献を事前に精読し、発表資料を作成しておくこと。また関連事項について調べ、発表と議論に備えること。(15時間) 各回の文献を事前に読み、専門用語の意味などを理解しておくこと。(45時間)				
学習到達目標	心理学研究の基礎とそのビジネスへの応用に関する知識を得る。 専門的な文献を読んで発表資料を作成し、それをもとに発表する。 文献についての学術的な討論に参加し、意見交換をする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学研究の基礎とそのビジネスへの応用に関する知識を得ることができたか。 専門的な文献を読んで発表資料を作成し、それをもとに発表できたか。 文献についての学術的な討論に参加し、意見交換できたか。			
	成績評価 方法	授業回数の3分の2以上を出席した受講生について、発表内容50%、討論への参加など受講態度50%の割合で評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 使用しない。 参考書 必要に応じてそのつど紹介する。 その他 必要な資料等は授業時に配布する。				
備考	授業の性質上、受講者数を制限する場合がある。				

科目名	学校臨床心理学(教育・学校心理学)				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	巖 秀章			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「いじめ」、「不登校」、「学級崩壊」など、学校が直面する課題は多い。このような状況に対して、臨床心理学はどのような支援が可能であるかについて学ぶことを目的とする。				
授業方針	1.講義、課題、話し合いの三形式で行う。 話し合いでは大学院生がリーダーとして入る。 2.学校での現状を理解する。 3.児童・生徒の心理発達についての理解を深める。 4.教育共同体での支援の実際について知る。 5.具体的な事例に触れる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 講義 教育におけるカウンセリングの実際 第2回 話し合い 学校における居場所 第3回 課題 学校での居場所作り 第4回 講義 発達におけるカウンセリングの実際 第5回 話し合い 小学校におけるカウンセリング 第6回 課題 発達について 第7回 講義 学校における心理療法 第8回 話し合い 中高におけるカウンセリング 第9回 課題 心理療法について 第10回 講義 家族の心理療法 第11回 話し合い 大学におけるカウンセリング 第12回 課題 家族について 第13回 講義 コンサルテーション 第14回 話し合い 家族と学校での居場所  講義、話し合い、課題のテーマは変更されることがある。				
準備学習	話し合いや課題の前に必ず教科書の該当箇所に目を通しておくこと				
学習到達目標	教育共同体のカウンセリング支援に必要なものが何かを理解すること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	課題により授業方針の2～5についての理解を見る。			
	成績評価 方法	授業中に実施する課題(50%)と話し合いへの参加(50%) 別紙(成績評価と単位認定について)参照			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	追って通知する。				
備考	教育領域やスクールカウンセラーに関心がある学生の受講を勧める。				

科目名	学習心理学(学習・言語心理学I)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	藤田 勉			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	アメリカの学習心理学者スキナー(Skinner, B.F.)を創始者とする行動分析学の理論と技法を学ぶ。行動分析学を学ぶことで、他者および自分の行動を客観的に観察できる目を養い、行動をより望ましい方向に変容させる具体的な手続きを考える上での一助とする。				
授業方針	原則的には講義形式で進められるが、実際の実験場面や行動変容の過程等については視聴覚教材を活用して受講生に提示する。また、教授内容の学習をより確かなものにするため、授業の最後にレビュークイズ(授業内容を問う復習テスト)を実施し(数回の実施を予定)、受講生の理解度を確認しながら授業を進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 キック・オフ(授業のガイドライン) 第2回 I. 行動変容の基礎(行動とは、学習とは、学習心理学とは、行動分析学とは、行動の種類、2つの条件づけ) 第3回 レスポンデント条件づけ(無条件刺激、無条件反応、中性刺激、対提示、条件刺激、条件反応他) 第4回 レスポンデント条件づけの応用研究(動物恐怖症の実験、アルコール依存症の治療、系統的脱感作法他) 第5回・第6回 オペラント条件づけ(好子、嫌子、強化、逃避、罰、ペナルティー、消去、回避他) 第7回・第8回 オペラント条件づけの応用研究(様々な場面での応用) 第9回・第10回・第11回 II. 行動変容技法の日常への応用:じぶん実験のすすめ 第12回・第13回・第14回 III. 課題発表(行動の増加手続きを用いて、行動の減少手続きを用いて) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	① 指定した教科書、授業中に配布するプリント類、参考文献等を事前に読んでおくこと。(20時間) ② 授業の中で説明したオペラント条件づけを利用し、実際に行動を変容させる実験を行う。(20時間) ③ 授業の最後に授業内容に関する小テスト(レビュークイズ)を実施するので(学期中数回実施)、復習をしておくこと。(20時間)				
学習到達目標	○レスポンデント条件づけの手続きについて知り、説明できるようになる。 ○オペラント条件づけの手続きについて知り、説明できるようになる。 ○学習心理学(行動分析学)の視点でヒトや動物の行動を考えることができるようになる。 ○他者および自分の行動をより望ましい方向に変容させる手続きについて、合理的・具体的に思考できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	○授業内容を正確に理解できているか(レビュークイズで評価)。 ○オペラント条件づけの手続きを正確に理解し、他者あるいは自分の行動を望ましい方向に変容させることができるか(課題発表の内容で評価)。 ○学習心理学の考え方を正確に理解できているか(期末試験で評価)。			
	成績評価 方法	レビュークイズ40%、課題発表20%、期末試験40%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	テキスト:藤田勉・藤田直子(2019)「新版行動科学序説(新版5刷)」世音社 参考図書:藤田勉(2012)「ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》」ほおずき書籍				
備考					

科目名	関係行政論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1
担当教員	金子 まどか			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	公認心理師としてはもちろん、様々な職業に就いて社会において活動するうえで、必要となる施策や法律、制度、基盤となる考え方について理解を深めることを目的とする。ひいては社会の仕組みや社会が大切にしている価値について知ることにつながる。				
授業方針	法律の解説を行い、関連の映像資料等を見ながら、具体的に法律がどのように心理職に関わっているのかイメージができるようにする。不明点、疑問点は質問するなど、積極的に授業に参加していただきたい。グループワークなどを行う際には自身の意見を出し、受講生が互いに有意義な時間を過ごせるように配慮してほしい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 本授業の展開と関係する法律の全体像 第2回 保健・医療分野に関係する法律・制度(1) 第3回 保健・医療分野に関係する法律・制度(2) 第4回 保健・医療分野に関係する法律・制度(3) 第5回 保健・医療分野に関係する法律・制度(3) 第6回 福祉分野に関係する法律・制度(1) 第7回 福祉分野に関係する法律・制度(2) 第8回 福祉分野に関する法律・制度(3) 第9回 教育分野に関係する法律・制度(1) 第10回 産業・労働分野に関係する法律・制度(1) 第11回 産業・労働分野に関係する法律・制度(2) 第12回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度(1) 第13回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度(2) 第14回 事例検討及びまとめ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①毎回の授業の予習復習を行うこと ②期末試験に備え、授業全体の復習をすること ③疑問点、不明点は教員に確認を行うこと				
学習到達目標	特に5分野(司法・犯罪分野、保険医療分野、福祉分野、教育分野、産業・労働分野)における法律や制度を把握し、その中で求められる公認心理師の具体的な役割を認識できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義内容を理解し、法や制度に関する知識に関する設問に正答できる。法や制度を踏まえて、心理師としての在り方や事例問題を考えることができる。(授業時の意見発表や期末試験の正答率で評価する)			
	成績評価 方法	期末試験の結果70%、受講態度・リアクションペーパーの内容30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 特に指定しない。 (2)参考書 元永拓郎(編) 公認心理師の基礎と実践23 関係行政論 遠見書房 その他の参考書は適宜紹介する				
備考					

科目名	教育心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	河原 哲雄			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この授業は教育心理学諸分野のうち、主に学習に関する諸理論、動機づけに関する諸理論、学級社会に関する諸理論、学習指導に関する諸理論、教育評価に関する諸理論、学習・記憶・知識と問題解決に関する諸理論などについて学ぶ。その過程で、教育現場において生じる問題およびその背景、教育現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解・説明できるようになることを目的としている。				
授業方針	インターネットとPC,プロジェクタを用いたハイフレックス講義形式による授業である。教室スクリーンに表示されるPowerPointスライド(図・表を含む)のうち、主要なものをプリントに掲載し、LiveCampusからダウンロード可能にする。動画やビデオ教材、心理学実験のデモンストレーション(受講生が被験者として参加する場合もある)等を多用する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育心理学とは何か 第 2回 動機づけ 第 3回 感情 第 4回 学級社会 第 5回 友人関係 第 6回 学習指導 第 7回 教育評価 第 8回 教育統計 第 9回 学習理論 第 10回 記憶 第 11回 知識 第 12回 問題解決 第 13回 知能 第 14回 教育工学 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(10時間) (3)期末試験に向けて学習内容の総復習を行うこと。(30時間)				
学習到達目標	教育現場において生じる問題およびその背景、教育現場における心理社会的課題および必要な支援法について理解・説明できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	教育現場において生じる問題およびその背景、教育現場における心理社会的課題および必要な支援法について理解・説明できるか。			
	成績評価 方法	単元ごとの確認課題の得点50%、期末レポートの得点50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業時に紹介する (3)その他 必要に応じて資料を配布する				
備考					

科目名	健康・医療心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木5
担当教員	友田 貴子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	公認心理師が担当する5分野のなかでも「保健医療」分野はとくに重要である。実際、公認心理師カリキュラムの外部実習では「医療」分野での実習が必須となっている。授業の中では、ストレスの発生機序やマストレス・マネジメントについて、医療・保健現場での支援の実際、サイコロジカル・ファースト・エイドなど災害時に必要な心理支援などについて扱っていく。この科目は、担当者の精神保健研究所での研究活動経験を生かし講義を行う。【実務】				
授業方針	できるだけ事例等を取り入れてイメージしやすい授業を心がけたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 健康心理学(1) 健康心理学とは 第2回 健康心理学(2) 健康心理学におけるアセスメントと支援・各種の心理支援法 第3回 健康心理学(3) ストレスマネジメント 第4回 医療心理学(1) 医療心理学とは・医療心理学におけるアセスメントと支援 第5回 医療心理学(2) 精神科, 児童精神科 第6回 医療心理学(3) 院内独立型心理室 第7回 医療心理学(4) 心療内科 第8回 医療心理学(5) 小児科(母子保健含む) 第9回 医療心理学(6) 緩和医療 第10回 医療心理学(7) 産業保健 第11回 医療心理学(8) 地域保健活動 第12回 医療心理学(9) 災害心理学 第13回 医療心理学(10) 多職種協働と医療連携 第14回 医療心理学(11) 法制度, まとめ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	教科書の各回の該当部分を読んで予習してくること(各回2時間)。また、授業終了後、教科書の該当部分を読んで復習し知識の定着を図ること(各回2時間)。				
学習到達目標	ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援及び災害時等に必要な心理に関する支援について理解すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) ストレスと心身の疾病との関係について理解できたかどうか 2) 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できたかどうか 3) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できたかどうか 4) 災害時等に必要な心理に関する支援について理解できたかどうか			
	成績評価 方法	最終成績評価としてのレポート課題40%、授業への参加度(課題への取り組みなど)60%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	1) 教科書 公認心理師カリキュラム準拠「健康・医療心理学」 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫(編) 医歯薬出版株式会社(2018) 2) 参考書 適宜紹介する 3) その他 必要に応じて補助教材を配布する				
備考	教科書が手元にあるという前提で授業を行うので、必ず教科書持参で授業に臨むこと。				

科目名	言語心理学(学習・言語心理学II)			
クラス	対象学年	2年	開講学期	後期
			曜日・時限	水2
担当教員	河原 哲雄		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	認知科学の主要な領域の一つである、人間の言語とそのモデル化について、基本的な研究方法と研究成果を学ぶ。言語心理学・認知心理学と、その隣接科学における実験的研究を中心に概観するが、生成文法理論を初めとする言語学理論や、工学的な言語処理モデルにも触れる。			
授業方針	PCプロジェクタを用いたハイフレックス講義形式による授業である。教室スクリーンに表示されるPowerPointスライド(図・表を含む)のうち、主要なものをプリントに掲載してLiveCampusからダウンロード可能にする。動画やビデオ教材、心理学実験のデモンストレーション(受講生が被験者として参加する場合もある)等を多用する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 言語の心理学入門 第 2回 言語獲得の言語学 第 3回 言語獲得の認知発達心理学 第 4回 乳児期の言語発達 第 5回 幼児期の言語発達 第 6回 言語理解の認知心理学 第 7回 言語理解のコンピュータモデル 第 8回 単語と意味 第 9回 概念 第 10回 文理解 第 11回 文章理解 第 12回 推論と問題解決 第 13回 言語の生物学的基礎と障害 第 14回 会話・談話の理解 第 15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(10時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(20時間) (3)期末レポートに向けて学習内容の総復習を行うこと。(30時間)			
学習到達目標	言語心理学の基礎的な知識と考え方を理解し、言語の習得と使用における機序について概説できるようになること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	言語心理学の基礎的な知識と考え方を理解し、言語の習得と使用における機序について概説できるか。		
	成績評価 方法	単元ごとの確認課題の得点50%、期末レポートの得点50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する			
備考	前提となる知識は特に問わない			

科目名	交通心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	曾我 重司			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	交通場面においては、ヒト・乗り物・環境の三要因が複合している。この中で最も重要な要因がヒトの要因である。本講義においては、主に自動車という手段での交通場面において、ヒトがどのように乗り物を操作し、環境を知覚しているかについて、主要な特徴を知り、交通事故などのエラー(アクシデント/インシデント)の原因の究明と対策について心理学がどのような貢献をしているかを学ぶことを目的とする。				
授業方針	講義の前半では、交通心理学における基礎的な知識についての講義をおこなう。後半においては、具体的な研究方法や、身の回りの交通に関連する問題などについて発表を行うなど、学生の積極的な参加を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 交通行動の研究手法 調査手法 第2回 交通行動の研究手法 実験手法 第3回 運転者の問題 一般的特性 第4回 運転者の問題 エラー特性 第5回 交通場面におけるヒトの情報処理 知覚系 第6回 交通場面におけるヒトの情報処理 認知系 第7回 交通場面におけるヒトの情報処理 知覚運動共応 第8回 事故におけるヒューマンファクター 第9回 安全への心理学的貢献 一人間要因— 第10回 安全への心理学的貢献 一車両要因— 第11回 安全への心理学的貢献 一道路要因— 第12回 日常生活のエラー 一歩行者として— 第13回 日常生活のエラー 一目撃者として— 第14回 日常生活のエラー 一身近な生活の中で— 第15回 心理学的知見に基づいて身近な交通場面の問題点を研究するには 一具体例を用いて—まとめ及び試験				
準備学習	1 心理学の研究方法を復習すること。(20時間) 2 交通を心理学的に研究する方法について考えること。(20時間) 3 講義中に示された課題について発表できるようにすること。(20時間)				
学習到達目標	交通場面に限らず日常生活の行動を心理学的視点からとらえ、記述することができるようになる事。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	日常生活の中に潜むエラーなどについて心理学的見方ができるようになったか。			
	成績評価 方法	講義時に適宜課す課題の内容50%、および期末レポートの内容50%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書 特に指定しない。 (2)参考書類は、講義中に随時紹介する。				
備考	発表など積極的な参加を要求する。				

科目名	公認心理師の職責				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	公認心理師を目指す学生が公認心理師の基本的コンセプトを理解する。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリング経験に基づいた指導を行う科目である。【実務】				
授業方針	指定教科書を丹念に読む。毎回小テストを行い、知識の習得状態を各自でチェックする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1公認心理師の役割の理解 2公認心理師の法的義務 3公認心理師の倫理 4心理に関する支援を要する者等の安全の確保 5情報の適切な取扱い 6保健医療分野の業務1 7保健医療分野の業務2 8福祉分野の業務1 9福祉分野の業務2 10教育分野の業務 11司法分野の業務 12産業分野の業務 13自己課題発見・解決能力 14生涯学習と自己研鑽 15多職種連携、地域連携、チームとしての活動				
準備学習	指定教科書を読んでおくこと				
学習到達目標	公認心理師の職責について、基本コンセプトを理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	公認心理師を目指すために、その基本コンセプトの基本及び概要を理解できる。			
	成績評価 方法	レポート70% 小テスト30%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定第14条に定める。			
教材	「公認心理師の職責」遠見書房 受講学生全員に貸し出す。全授業スケジュール終了後に回収するので、手元にとっておきたい学生は事前に購入すること。				
備考					

科目名	産業心理学(産業・組織心理学)			
クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
			曜日・時限	木1
担当教員	村中 昌紀		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	産業心理学(産業・組織心理学)は、働く人の心や行動のメカニズムについて研究する、応用心理学の一分野である。授業では、産業・組織心理学全般について講義する。その内容には、職場における問題(メンタルヘルスやキャリア形成に関する事など)に対して必要な心理に関する支援と、組織における人の行動が含まれる。【実務経験】この科目は、心理職として民間企業や公的機関に従事した経験に基づいて講義を行う実践的科目である。			
授業方針	パワーポイントによる講義を中心に行うが、適宜演習等も取り入れる。また、適宜配布資料も使用する。理論や知見をただ暗記するのではなく、産業心理学が社会からどのような役割を期待されているのかを考えながら授業に参加することが重要である。なお、毎回の講義の終わりにはミニ・レポートを作成し、提出してもらう。ミニ・レポートの作成は、講義で学んだ知識を整理するうえで重要なため、積極的に取り組むことが求められる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 産業心理学とは何か 第2回 職場の安全衛生1:作業能率、労働災害 第3回 職場の安全衛生2:ヒューマンエラーと不安全行動 第4回 職場の安全衛生3:職場のストレスとメンタルヘルス 第5回 職場の安全衛生4:復職支援 第6回 人的資源管理1:採用と面接 第7回 人的資源管理2:人事評価 第8回 人的資源管理3:キャリア発達 第9回 人的資源管理4:能力開発と教育研修 第10回 組織行動1:ワーク・モチベーション 第11回 組織行動2:組織の対人関係 第12回 組織行動3:組織のコミュニケーション 第13回 組織行動4:リーダーシップ 第14回 授業の振り返り 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	1. 講義で扱うテーマについて、事前に参考書等を読み概要を把握しておくこと(30時間) 2. 講義内で配布された資料および作成したノートを読み返し、毎回の内容の理解を深めること(30時間)			
学習到達目標	産業心理学の理論と知見を理解する。 社会における産業心理学の役割を理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	産業・組織心理学の理論や知見を理解したか。 社会における産業・組織心理学の役割を理解したか。 産業・組織心理学の各分野(職場の安全衛生、組織行動、人的資源管理、など)について概説できるか。		
	成績評価 方法	毎回のミニ・レポート30% 期末試験70%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書:特定の教科書は指定しない 参考図書:野島 一彦・繁樹 算男(監修)、新田 泰生(編集)、産業・組織心理学:公認心理師の基礎と実践20、遠見書房、2019、ISBN:978-4-86616-070-2			
備考				

科目名	社会・集団・家族心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火5
担当教員	高田 圭二			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会・集団・家族心理学では、社会心理学を軸に、対人心理学や家族心理学等の内容について取り扱う。社会とは複数の相互に関係のある人間の集まりを指し、その状況下における私たちの様々な心の動きについて概説する。				
授業方針	講義はパワーポイントを使用して進める。授業ごとに重要な理論や用語についての解説を行う。授業ごとに簡単なレポートの提出を求める。各学生の授業への能動的な参加を期待する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンスと社会心理学について 第2回 対人認知 第3回 自己 第4回 態度・態度変容 第5回 感情 第6回 対人関係 第7回 向社会行動 第8回 対人コミュニケーション 第9回 差別・偏見・ステレオタイプ 第10回 集団と個人 第11回 メディアと個人 第12回 文化と個人 第13回 集合現象 第14回 家族 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各テーマに関してインターネットや書籍を通して自分なりに概要を把握しておくこと(30時間)。講義で配布された資料や作成したノートを読み返し、授業内容の理解を深めること(30時間)。				
学習到達目標	社会・集団・家族心理学の基本的な知識や理論を理解し説明できる。 社会・集団・家族における問題点や課題について、得られた知識を用いて取り組むことができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業内容の理解ができているかどうか。 得られた知識をもって、社会・集団・家族の問題点と解決方法を考察できるか。			
	成績評価 方法	毎回の小レポート30%、期末試験70%で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	特定の教科書は指定しない。 授業内で資料を配布する。				
備考					

科目名	<b>社会心理学</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	田中 道弘			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会心理学は、日常における人間の認知や行動がどのような心理的過程を経て生じるかを明らかにしようとする学問である。この講義では、社会心理学研究の中でも特に重要とされる研究古典的研究に焦点を当て、その後の発展研究なども取り上げながら、人間の認知や行動について理解を深めることを目的とする。				
授業方針	講義では、各テーマに関する基本的な用語や概念の説明、それらに関する具体的な研究を紹介する。講義は主に教科書とパワーポイントを使用し進めるが、必要に応じて映像教材なども使用する。毎回の講義の終わりにはリアクションペーパーにより、ミニレポートを作成し、提出する。この作業は、講義で学んだ知識を整理するうえで重要であること、成績評価にも影響するため、積極的に取り組むことが求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 はじめに(社会心理学とは) 第2回 社会的促進と社会的手抜き 第3回 態度と行動 第4回 認知的不協和 第5回 規範形成 第6回 同調 第7回 少数派の影響 第8回 服従 第9回 暴政 第10回 集団間関係と葛藤 第11回 差別 第12回 ステレオタイプと偏見 第13回 緊急時の援助行動 第14回 近年の社会心理学の問題、及びまとめ 第15回 試験				
準備学習	1. 毎回指定された教科書の当該箇所を読み、事前に概要を把握しておくこと(15時間) 2. 講義内で配布された資料を読み返し、毎回の内容の理解を深めること(15時間)				
学習到達目標	1. 本講義で学んだ社会心理学の知見や研究方法を理解し、説明できるようになる。 2. 日常生活におけるさまざまな事柄について本講義で学習した理論や知見から理解し、説明できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 社会心理学で扱われる基本的な概念や現象について理解し、説明できるか。 2. 本講義で学んだ内容を日常生活に適用し、日常の出来事を社会心理学的に解釈し、説明できるか。			
	成績評価 方法	講義時に提示するリアクションペーパー(小テスト、小レポートを含む)の理解度や内容、クイズへの正解率などを、授業への参加度へ反映する。比率は、期末試験の得点70%、授業への参加度30%である。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書: ジョアンヌ・R・スミス/S・アレクサンダー・ハスラム(編). 社会心理学再入門: ブレークスルーを生んだ12の研究 新曜社 参考書: 適宜紹介する 配付資料: 必要に応じて配布する				
備考	・学習内容は進度により多少前後する場合がある。 ・毎回出席を取る(遠隔の場合、授業中に説明するキーワードを提出してもらう予定)。 ・対面授業の場合スマートフォン等の使用は認めない。授業中の動画の撮影等を禁じる。				

科目名	消費者理解の心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1
担当教員	村中 昌紀			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学の枠組から消費者行動を理解するという応用的視点の獲得を目的とする。購買意思決定などの消費活動を人間の認知や態度、行動などの心理学的要因の観点から講義を行う。 【実務経験】この科目は企業内における臨床経験に基づいて行う科目である。				
授業方針	スライドを活用した講義形式による授業を行う。授業時には受講生自身の消費者としての行動を内省しながら考察する小課題を毎回実施する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 消費者と消費行動 第2回 知覚と感性 第3回 心理的財布 第4回 広告の心理学 第5回 衝動買いと嗜好 第6回 消費者の知識構造 第7回 ブランドロイヤリティ 第8回 消費者の意思決定 第9回 消費者の感情 第10回 マーケティングとメディア 第11回 潜在的情報処理 第12回 消費者アイデンティティ 第13回 消費者の対人的影響力 第14回 苦情行動 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習しておくこと。(15時間) 自分や身近な他者の購買行動を観察し、その誘因を多角的に検討すること。(25時間) 最終試験に向けて授業内容を復習しておくこと。(20時間)				
学習到達目標	①自分や身近な他者の購買行動を、消費者の心理という観点から多角的に理解することができる。 ②身近なマーケティング活動について、それが想定する消費者行動への影響を理解し、実際の影響を推察することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①自分や身近な他者の購買行動を、消費者の心理という観点から多角的に理解できるようになったか。 ②身近なマーケティング活動について、それが想定する消費者行動への影響を理解し、実際の影響を推察できるようになったか。			
	成績評価 方法	授業の3分の2以上を出席した受講生について、出席・授業への参加状況30%、期末試験の成績70%の比率で最終評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 使用しない。 参考書 必要に応じてそのつど紹介する。 その他 必要な資料等は授業時に配布する。				
備考					

科目名	障害者・障害児心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	山崎 晃史,金子 まどか			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	障害に関わる心理支援についての基本的知識を身につけ、支援の実際を学ぶ。特に、インクルーシブな支援のあり方が理解できるようになる。また、市民、隣人、家族、支援者、施策立案者、職場の同僚などいかなる立場にあっても、必要に応じていつでもコミットしうる素地を養う。				
授業方針	基礎知識編と支援の実際編に分け、2人の担当講師が分担する。各回の授業は、ポイントの説明を行ったうえで、事例等をもとに理解を深める。リアクションペーパーの提出などを通じ学生の積極的な参加を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1.オリエンテーション 2.診断論(障害の診断的理解1) 3.診断論(障害の診断的理解2) 4.障害論(人権とノーマライゼーション) 5.原因論(障害の原因を巡る考え方) 6.心理支援の原理(関係性と生態学的視点の重要性) 7.アセスメント(生育歴聴取1) 8.アセスメント(生育歴聴取2) 9.アセスメント(心理検査1) 10.アセスメント(心理検査2) 11.療育の実際(心理支援と多職種連携) 12.ソーシャルスキルトレーニング 13.応用行動分析 14.精神疾患への支援 15.まとめと試験				
準備学習	①教科書や参考書の該当箇所を読み込み理解していること。(30時間) ②各回の授業内容を復習すること。(30時間)				
学習到達目標	1)障害を人権との関連で理解できるようになる。 2)障害に関わる基本的な知識を獲得する。 3)障害を巡る心理支援の実際がイメージできるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1)さまざまな障害を診断、原因、生態学的、人権の視点から多面的に説明できる。 2)障害を巡るアセスメントの基本事項が説明できる。 3)障害を巡る心理支援の基本事項が説明できる。			
	成績評価 方法	筆記試験(50%) リアクションペーパー提出(25%) 調べ学習課題(25%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	大石幸二監修・山崎晃史(編著)(2019)公認心理師・臨床心理士のための発達障害論(学苑社)				
備考					

科目名	情報処理心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	知覚に重点を置いて、感性的・認知的な情報処理特性の講義を行う。種々の知覚現象について説明し、さらにそれらに関連する情報処理機構がどのように解明(推定)されているか、その内容と考え方を解説する。これらの話題に触れることで、この分野の手法や基礎的知見、代表的な理論を理解することを目的とする。				
授業方針	感性的・認知的な知覚現象について、評価法を知り、またその現象を生み出す情報処理機構を知る。錯覚や順応のような知覚現象については、視聴覚教材によるデモンストレーション等を通して実際に体験する。授業で必要な神経学的・生理学的概念については授業の中で説明する。知覚刺激から人間が何を体験するのかと、その経験がどのような制約によってもたらされるのかを考える授業にしたい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 情報処理心理学概説 第2回 認知と感性を調べる手法 第3回 パターン認知 第4回 色 第5回 空間 第6回 時間 第7回 音 第8回 多感覚統合 第9回 情報選択:注意と視線の動き 第10回 無意識的な処理 第11回 身体と認知 第12回 社会的認知 第13回 情報処理の神経基盤 第14回 ヒューマン・インターフェースとヒューマン・エラー 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指定した資料を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(10時間) 毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(25時間) 最終試験に向けて授業内容を復習しておくこと。(25時間)				
学習到達目標	感性的・認知的な情報処理に関する現象を知る。 知覚現象や情報処理機構を理解するための研究手法を知る。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	感性的・認知的な情報処理に関する現象を知ることができたか。 知覚現象や情報処理機構を理解するための研究手法を知ることができたか。			
	成績評価 方法	授業への参加度30%, 学期末試験の成績70%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書 使用しない。 参考書 必要に応じてそのつど紹介する。 その他 必要な資料等は講義にて配布する。				
備考					

科目名	心理データ解析法			
クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
			曜日・時限	月2
担当教員	河原 哲雄		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	質問紙調査や実験など、量的データを用いる卒業研究を実施するために必要な心理データ解析の基礎的な知識とスキルを身につけるための授業である。統計解析ソフトウェアとして、フリーソフトであるHADを採用する。実習の内容は、HADを用いたデータ入力・ハンドリング、記述統計、グラフ、検定、実験計画法、多変量解析に及ぶ。また、これらの統計解析技法を、実際の心理学研究の場面で用いる際の問題についても扱う。			
授業方針	PC/LL教室を用いたハイフレックス実習形式の授業である。心理データ解析の基本的な考え方と、HADによる統計解析の実施方法について、配付資料またはPC画面に教員が提示した内容を学習した後に、PC上で実際に操作を行うことで学習する。ただし、授業内容を理解するためには、各自のPCにインストールしたHADを用いて予習と復習を行い、さらには実習課題を欠かさず提出することが必要である。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 HADの紹介とインストール 第2回 HADの基本操作と心理統計の基本事項 第3回 データ入力と記述統計・グラフ 第4回 相関係数と無相関検定 第5回 カイ二乗検定 第6回 t検定 第7回 1要因の分散分析 第8回 2要因の分散分析 第9回 重回帰分析の基礎 第10回 重回帰分析の応用 第11回 因子分析の基礎 第12回 因子分析の応用 第13回 クラスタ分析 第14回 パス解析と共分散構造分析 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(10時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので、復習をしておくこと。(30時間) (3)授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)			
学習到達目標	心理データ解析の基礎的な知識と手順を理解し、自らの研究を実施・分析できるようになることを目標とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理データ解析の基礎的な知識と手順を理解し、実施・分析できるか。		
	成績評価 方法	単元ごとの確認課題の得点50%、期末レポートの得点50%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 小宮あすか・布井雅人(著)「Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける」講談社 (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する			
備考				

科目名	心理学と職業				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	木4
担当教員	曾我 重司,小野 広明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義においては、心理学の専門の道に進むか、一般企業に進むかを問わず、心理学という学問を大学で学ぶことにより、その知識をどのように役立てることができるかについて学ぶ。 毎回、心理学を大学で学んだ講師(本学出身者のみとは限らない)を招き、実体験に基づいた講義を行う。				
授業方針	心理学の専門家による、専門家としての体験、どのような知識が必要かなどの講義だけではなく、一般企業に働く講師からは、大学での心理学の知識がどのように役立っているかなどについて講義する。(オムニバス形式)				
学習内容 (授業 スケジュール)	講義担当者は毎回異なるため下のリストの担当者は前年度のものを参考として示している。内容・順番は講師の都合により変更することがある。 第1回 ものづくりと心理学(文具メーカー) 第2回 教育出版と心理学(教科書会社) 第3回 匂いと心理学(香料メーカー) 第4回 広告と心理学(広告代理店) 第5回 専門書籍と心理学(出版社) 第6回 販売と心理学(菓子メーカー) 第7回 犯罪と心理学(法務省) 第8回 スクールカウンセラーの実際(臨床心理士) 第9回 児童心理の現場(臨床心理士) 第10回 犯罪被害者支援と心理学(臨床心理士) 第11回 基礎心理学の販売への応用(自動車部品販売) 第12回 基礎心理学から臨床心理学へ(臨床心理士) 第13回 アパレルと心理学(アパレルメーカー) 第14回 行政と心理学(公務員) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1 さまざまな方面で活躍する講師の講義を通して、受け身ではなく社会に出たときの自らの方向性を考えておくこと。(20時間) 2 積極的に発言できるようにしておくこと。(20時間) 3 全ての回について、その内容を理解しておくこと。(20時間)				
学習到達目標	自らの将来に対して、大学で学んだ心理学をどのように役立てるかについて、きちんとした立脚点をもって考えられるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	臨床心理士などの専門職に進むか、一般企業に進むかにかかわらず、心理学という立脚点をもった考えができるようになったか。			
	成績評価 方法	授業態度(講義時に適宜課す課題)50%、および期末レポートの内容50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書および参考書類は特に指定しない。				
備考	毎回、異なった講師が、異なった分野での発表を行う。もし自分の興味がない分野の講義の場合でも必ず出席し内容を理解しておくこと。				

科目名	心理学研究法応用(心理学研究法II)			
クラス	対象学年	3年	開講学期	後期
			曜日・時限	水3
担当教員	褒岩 秀章,友田 貴子,藤巻 るり		単位区分	◎(必修),_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	心理学研究法 I においては、科学としての心理学の方法を学び、主に基礎心理学領域の研究法に触れた。心理学研究法 II では、臨床心理学における研究法を学ぶため、広い意味での実証的な方法を用いてクライアントの抱える問題や社会的現実にアプローチする姿勢と心理臨床における研究のあり方について触れる			
授業方針	臨床心理学の領域は理論や臨床現場によって非常に幅広い。それに応じ研究方法も多様性である。本講では臨床心理学の様々なテーマごとに各教員がすでに発表した研究報告を取り上げて具体的な心理臨床の研究を例示し、特にその方法論に焦点を当てて考察を行う。また、臨床心理領域では特に、研究を行う際に人権に配慮する必要がある場合が多い。そこで研究倫理についても併せて解説する。さらに、これらの研究法を理解した上で、学生自身が自分の興味関心に則り、今後どのような研究をしていくことができるかをイメージし、レポートにまとめる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 臨床心理学における方法(褒岩) 第 2回 事例研究法 (藤巻) 第 3回 観察研究法 (藤巻) 第 4回 観察調査法 (藤巻) 第 5回 面接調査法 (藤巻) 第 6回 行動観察法 (藤巻) 第 7回 調査法(友田) 第 8回 調査法(友田) 第 9回 調査法(友田) 第10回 倫理について(友田) 第11回 質問紙法(褒岩) 第12回 質問紙法(褒岩) 第13回 事例法 (褒岩) 第14回 研究計画(褒岩) 第15回 まとめ及び試験  ※講師及び扱う研究報告の内容や各回の担当教員の順番には変更がありうる。			
準備学習	「心理学研究法基礎」の授業をきちんと受け、基礎心理学の研究法を理解しておくこと。			
学習到達目標	1) 臨床心理学領域における研究法の多様性を理解すること 2) 自分の今後の研究について方法やテーマがイメージできるようになること 3) 研究倫理の大切さが理解できるようになること			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 臨床心理学領域における研究法の多様性が理解できたか 2) 自分の今後の研究について方法やテーマがイメージできたか 3) 研究倫理の大切さが理解できたか		
	成績評価 方法	授業への参加度50%、各回のレポート50%。期末試験は実施しない。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書は特に指定しない。講義時に適宜資料・文献を配布または指示する 参考書は、講義中に適宜指示するが、「臨床心理学研究の技法」 下山晴彦(編著) 福村出版(2000) など			
備考				

科目名	心理学的支援法				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	藤巻 るり			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	公認心理師や臨床心理士等の心理職が行う支援の具体的な方法論について、その歴史、意義、適応及び限界について全般的に学ぶことを目的とする。 本講義は、教育・福祉・医療現場で心理職として関わってきた実務経験を活かし、心理学的な支援について、具体的な場面を取り上げて解説する。 【実務】				
授業方針	代表的な心理療法(およびカウンセリング)の理論や技法の特徴について、また具体的な支援場面で気をつけるべき事柄について講義する。また模擬事例の検討やコミュニケーションワークなど、具体的な支援場面で必要となる技能を学ぶ体験的な学習も行う。 【この授業は対面で行う】				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学的な支援とは 第2回 他職種との比較 第3回 心理療法とは 第4回 心理療法における諸学派 第4回 代表的な心理療法① 第5回 代表的な心理療法② 第6回 代表的な心理療法③ 第7回 心理療法に共通する要素 第8回 さまざまな心理学的支援(アウトリーチ、地域支援、多職種連携) 第9回 心理職と自己覚知 第10回 コミュニケーションと自己覚知 第11回 価値観と他者理解 第12回 事例の検討① 第13回 事例の検討② 第14回 心の健康教育と心理職自身の心の健康 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①代表的な心理療法や心理療法全般に共通する考え方について、授業内容の予習復習を行う(20時間) ②コミュニケーションの方法について、授業で学んだことを復習する。(10時間) ③授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(30時間)				
学習到達目標	1) 代表的な心理療法をはじめとする、心理学的な支援の方法について学び、理解する。 2) 具体的な事例を通して、心理学的に支援するとはどのようなことであるか、イメージすることができる。 3) 心理学的な支援にはどのような意義があるのか、またどのような限界があるのか、自分なりに考え、説明することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 代表的な心理療法をはじめとする、心理学的な支援の方法について学び、具体的な場面に応用して理解することができるか。 2) 心理学的な支援の意義や限界について理解し、説明することができるか。			
	成績評価 方法	平常点(リアクションペーパー)50%、期末レポート50%の割合で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	1) 教科書。特になし。 2) 参考書。適宜紹介する。				
備考	この講義はグループによる演習を含むため、遅刻はしないこと。				

科目名	心理実習I				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月5
担当教員	三浦 和夫, 巖 秀章, 友田 貴子, 藤巻 るり, 高木 絢子, 村中 昌紀			単位区分	○(選必)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	心理に関する支援の実態に対する理解を促す観点から、主要な五分野(保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働)の中の保険医療・福祉・教育の三領域及び臨床心理センターの施設見学を中心に実習を行う。尚、保健医療機関は必須見学である。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピー経験に基づいた指導を行う科目である。【実務】				
授業方針	事前指導(各領域の概要及び見学準備、疑問・質問事項の整理など)を受けてから実際の見学を行う。見学は5名前後の班行動になる。見学施設が遠方にあることも多く、また施設側の諸事情から月曜日以外や夏季休業期間に見学が実施される場合もある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>* オリエンテーションをオリ、レクチャーをレクを表記する。</p> <p>第1回 全体オリエンテーション  第2回 レク:福祉領域における心理支援/準備 昴  第3回 レク:臨床心理センター(幼児グループ)における心理支援/幼児G準備:臨床心理センター(幼児グループ)  第4回 レク:保健医療領域における心理支援 / 準備:みどりクリニック  第5回 準備:長谷川病院 クボタクリニック  第6回 レク:教育領域(教育研究所)における心理支援 / 準備:深谷市教育研究所  第7回 準備:長谷川病院 / 準備:みどりクリニック  第8回 準備:クボタクリニック  第9回 準備:深谷市教育研究所 / 準備:正智深谷高校  第10回 準備:昴  見学:昴  見学:臨床心理センター(心理相談室)  見学:長谷川病院  見学:クボタクリニック  見学:正智深谷高校(カウンセリングルーム)  見学:深谷市教育研究所  見学:臨床心理センター(幼児グループ)  見学:みどりクリニック  見学:深谷市保健センター</p>				
準備学習	1)事前に配布された資料の精読 2)見学すべきポイントや質問の事前整理				
学習到達目標	保健医療機関および主要分野の施設を見学し、そこに勤務する心理職の役割や具体的な業務内容を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	保健医療機関および主要分野の施設を見学し、そこに勤務する心理職の役割や具体的な業務内容を理解できたか。			
	成績評価 方法	事前準備および見学と授業への参加度を加味する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。			
教材	適時紹介する。				
備考	本講座は、外部施設の見学を中心とするため、その施設の見学ルールを守れることや、集団行動がとれることを受講の条件とします。具体的には、基礎実験演習IIなどの出欠や受講態度から受講の可否を原則として前年度末に決定します。				

科目名	心理実習II				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月5
担当教員	三浦 和夫, 巖 秀章, 友田 貴子, 藤巻 るり, 高木 絢子, 村中 昌紀			単位区分	○(選必)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	臨床心理実習IIにおいて保健医療機関および主要分野の施設を見学し、そこに勤務する心理職の役割や具体的な業務内容を理解し、さらにその内容を発表することによって理解を深める。 この科目は、臨床心理士としてのカウンセリングやプレイセラピー経験に基づいた指導を行う科目である。【実務】				
授業方針	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規や心理職の役割や業務内容等を整理し発表する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 発表準備: 昴(チボリ・カンパーニュ) 第2回 発表準備: 臨床心理センター(幼児グループ) 第3回 発表準備: 長谷川病院 第4回 発表準備: みどりクリニック 第5回 発表準備: クボタクリニック 第6回 発表準備: 深谷市教育研究所 第7回 発表準備: 正智深谷高校 第8回 発表準備: 臨床心理センター(心理相談室) 第9回 発表準備: 深谷市保健センター 第10回 発表: 昴(チボリ・カンパーニュ) 幼児グループ 第11回 発表: クボタクリニック 長谷川病院 第12回 発表: みどりクリニック 深谷市教育研究所 第13回 発表: 正智深谷高校 心理相談室 第14回 発表: 深谷市保健センター 第15回 レポート作成				
準備学習	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規、心理職の役割や業務内容等を整理し、配布資料や教材を使いながら発表準備をする。				
学習到達目標	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規、心理職の役割や業務内容等を整理し、配布資料や教材を使いながら発表準備し、発表する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	見学した施設の設置目的やその業務にかかわる関連法規、心理職の役割や業務内容等を整理し、配布資料や教材を使いながら発表準備し、発表できる。			
	成績評価 方法	発表準備および発表と授業への参加度、見学した施設と発表を聞いた施設1箇所のレポートを評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規定14条に定める。			
教材	適時紹介する。				
備考	臨床心理実習Iの受講を受講条件とする。				

科目名	心理調査概論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4
担当教員	飯田 成敏			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	現代社会では、様々なメディアで社会調査の結果と出会う機会は多く、情報リテラシーの重要性が強く認識されている。また、心理学では実験と並んで調査法は重要な研究手法の一つとなっている。本講義では、社会調査の意義と基本的な事項について概説する。また、特に量的調査における実施方法からデータの集計・解析手法まで、基本的な事項を解説し、簡単な質問紙調査を実施し集計・解析する知識と、様々な社会調査を適切に理解する力の獲得を目指す。				
授業方針	本講義は、PCルームを使用して行う。社会調査の全般的な話や、質問紙調査の作成に関する講義は、主にPower Pointで資料を提示しながら講義形式で実施する。一方、データの集計と分析は、各自がPCを使用して実際にデータ整理を通して体験的に学んでいく。また、心理統計の基礎についても随時補足していく予定である。使用する統計ソフトは、ExcelとRを予定している。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 イン트로ダクション 講義の進め方と、社会調査の概論について解説する。</p> <p>第2回 社会調査の基礎(1) 調査の実施方法について解説する。</p> <p>第3回 社会調査の基礎(2) 標本調査の基本について解説する。</p> <p>第4回 調査計画 調査計画や仮説の立て方について解説する。</p> <p>第5回 質問紙調査の実施(1) 調査の実施と倫理 質問紙調査におけるフェイスシート作成について解説する。</p> <p>第6回 質問紙調査の実施(2) 質問項目の作成 質問紙調査における質問項目作成について解説する。</p> <p>第7回 データ集計の基礎 データのまとめ方について学ぶ。</p> <p>第8回 結果の表示法 グラフの作成方法や注意点について体験的に学ぶ。</p> <p>第9回 比率の検定 度数の比率の比較について体験的に学ぶ。</p> <p>第10回 連関係数 特にクロス表における連関係数について学ぶ。</p> <p>第11回 相関分析 相関係数の基本について体験的に学ぶ。</p> <p>第12回 回帰分析入門 単回帰分析を例に、回帰分析の基礎について体験的に学ぶ。</p> <p>第13回 重回帰分析 多変量解析について概説し、重回帰分析について体験的に学ぶ。</p> <p>第14回 分析手法の復習 試験対策と解析手法のまとめを実施する。</p> <p>第15回 まとめ及び試験 学期末試験の実施。</p>				
準備学習	データの集計や分析手法の習得においては、授業内での体験だけでは、時間的にも体験できる量に限界がある。そこで、授業内で出される課題(宿題)の他にも、Excelを使用しての学んだ内容を追体験するなど、自主的な復習により学習内容の習得をより確かなものにする事が望まれる。 ①授業終了時に課す課題の実施(40時間) ②毎回の授業後の自主的な復習(20時間)				
学習到達目標	①心理学における調査法について理解する。 ②質問紙調査の作成・実施にあたって重要な点を理解する。 ③データの集計法について学び、Excelを用いてデータと集計とグラフの作成ができる。 ④データの解析法について学び、Excelを用いて代表的な統計的解析が実行できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①標本抽出について理解し、説明できるか。 ②調査実施時に注意すべき倫理について理解し、適切なフェイスシート作成ができるか。 ③質問紙作成時に質問項目の設定の注意点を理解し、適切な質問項目の作成ができるか。 ④Excelの基本的な使い方を理解し、基本的な統計量の算出とグラフの作成はできるか。 ⑤Excelを用いて、t検定や回帰分析などの代表的な統計解析が実施できるか。			
	成績評価 方法	学期末に課す試験(50%)の他、授業内で課す小テスト(50%)を総合して評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書は特に指定しない。必要な資料は毎回配布する。 参考となる図書は、適宜授業の中で紹介する。				
備考					

科目名	心理的アセスメントI				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	村中 昌紀			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	面接を用いて対象者を理解するための実践的な理論と技法を学ぶ。 【実務経験】この科目は臨床心理士、公認心理師としての実務経験に基づいて行う科目である。				
授業方針	相手を理解するとはどういうことか、理解の主体としての自己はどうあるべきかという基本的な問題を常に考えながら、面接による心理査定 <sup>の</sup> 在り方について授業を進めていく。担当教員と受講生との双方向的な授業にするため、受講生には講義内容への感想や意見、自分で調べたり考えたりしたことを積極的に発言することを求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理アセスメントの意義 第2回 アセスメントとケースフォーミュレーション 第3回 疾患・障害のアセスメントⅠ うつ病・躁うつ病 第4回 疾患・障害のアセスメントⅡ 統合失調症 第5回 疾患・障害のアセスメントⅢ 発達障害 第6回 疾患・障害のアセスメントⅣ パーソナリティの障害 第7回 アセスメントの実際Ⅰ 感情のアセスメント 第8回 アセスメントの実際Ⅱ 行動のアセスメント 第9回 アセスメントの実際Ⅲ 身体・生理的側面のアセスメント 第10回 アセスメントの実際Ⅳ 認知的側面のアセスメント 第11回 対人関係とアセスメントⅠ 社会適応から考える 第12回 対人関係とアセスメントⅡ 治療関係から考える 第13回 心理査定面接演習Ⅰ 第14回 心理査定面接演習Ⅱ 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	授業で取り扱うテーマに関する予習(30時間) 授業で作成した資料、ノートを用いた復習(30時間)				
学習到達目標	有効な心理査定・面接を行うために必要な基本的かつ重要な知識と技能を習得する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	講義内容を十分理解した上で自分の考えを整理できること(毎回の授業における感想や意見の発表と、期末試験レポートで評価する)。			
	成績評価 方法	期末レポートの内容60%、授業への参加度40%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 適宜紹介する。 (2)参考書 心理的アセスメント 津川律子・遠藤裕乃(編) 公認心理師の基礎と実践14 遠見書房 (3)その他 講義時に資料を配布する。				
備考	特になし。				

科目名	心理的アセスメントII			
クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
			曜日・時限	月2
担当教員	藤巻 るり		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	本演習は、心理職の主要な業務の一つである心理検査を臨床場面で実際に用いることができるよう、知識及び技能の習得を目的とする。福祉・教育・医療現場で心理職として検査を施行してきた実務経験に基づき、実践的な講義および検査の施行演習を行う。【実務】			
授業方針	前半は講義形式、後半はロールプレイングを基本として実際に心理検査を施行し、検査者／被検査者双方の体験をすることを通して心理検査の方法に習熟する。 【この授業は対面で行う】			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理査定(見立て)とは 第2回 各種心理検査の特徴① 第3回 各種心理検査の特徴② 第4回 各種心理検査の特徴③ 第5回 各種心理検査の特徴④ 第6回 心理検査実習1 第7回 心理検査実習2 第8回 心理検査実習3 第9回 心理検査実習4 第10回 心理検査実習5 第11回 心理検査実習6 第12回 心理検査実習7 第13回 心理検査実習8 第14回 心理査定レポートの書き方 第15回 まとめおよび試験			
準備学習	①毎回の授業内容の予習・復習を行うこと(45時間) ③授業時間内に施行した心理検査事例(ロールプレイ)についてのテストレポートを作成すること(15時間)			
学習到達目標	心理検査全般についての知識を習得する。 主要な心理検査の実施、分析および解釈の方法の基礎を習得する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	主な心理検査についての知識を習得できたか。 心理検査を適切な方法で実施し、得られた結果を適切に解釈して報告書にまとめることができたか。		
	成績評価 方法	平常点(心理検査の実施)50点、レポート50点		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	適宜参考図書を指定する。			
備考				

科目名	深層心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	三浦 和夫			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	深層心理学はS.フロイトの精神分析学から始まり、ユングによってさらに深化した。現在では、深層心理学はフロイトの精神分析学というよりもユング心理学を指していることが多い。フロイト後期の精神分析は深層心理学とは言い難い。全体を3部構成とする。1部は初期フロイト、2部はユング心理学、3部はユング心理学を背景にもつ箱庭療法やその他様々なトピックを文学や民俗学などの様々な接点を模索しながら進めたい。				
授業方針	「無意識の構造」をテキストに使う。またできるだけ実際の事例や夢、箱庭等のイメージ、映画や昔話等も織り込んでゆく予定である。尚、ライブキャンパスのアンケートを使い、できるだけ受講生の疑問や要望に答える形で授業を進行したい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 深層心理学とは何か 深層心理学前史 第 2回 初期フロイトの心理学1 無意識の発見とヒステリー 第 3回 初期フロイトの心理学2 世紀末ウィーンとフロイト 第 4回 初期フロイトの心理学3 「オイディプス王」を観る 第 5回 初期フロイトの心理学4 エディプスコンプレックスとは 第 6回 ユングの心理学1 ユングの一生 第 7回 ユングの心理学2 ペルソナ 第 8回 ユングの心理学3 影 第 9回 ユングの心理学4 アニマ1 第 10回 ユングの心理学5 アニマ2 第 11回 ユングの心理学6 マンダラ 第 12回 箱庭療法の世界1 第 13回 箱庭療法の世界2 第 14回 トピック 第 15回 まとめ及び試験				
準備学習	必ず教科書を読んでおくこと				
学習到達目標	精神分析学、ユング心理学の基本的な概念を理解することができたか				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	精神分析学、ユング心理学の基本的な概念について説明することができる。			
	成績評価 方法	授業への参加度50%とレポート50%の割合で評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	「無意識の構造」河合隼雄著 中公新書				
備考					

科目名	神経・生理心理学				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	亀谷 秀樹			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	本講義では、視覚、記憶、言語、行為などの重要な心の働きに関係する脳の仕組みについて、発展著しい最新の脳科学研究の成果に基づいて概説する。さらに、脳梗塞や認知症などの脳障害で起きる高次脳機能障害について、失認、失語、失読、失行、健忘などの神経心理学的な症例を取り上げながら解説する。				
授業方針	視聴覚教材を使用して、視覚的、具体的に理解できるように努める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 脳の構造 第 2回 ブロードマンの脳地図と脳機能の局在 第 3回 視覚の仕組み 第 4回 視覚失認 第 5回 相貌失認 第 6回 記憶と学習の脳メカニズム 第 7回 記憶障害 第 8回 脳の加齢変化と認知症 第 9回 言語と脳 第10回 失語症 第11回 失読症 第12回 失行 第13回 脳の左右差 第14回 離断症候群 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	あらかじめ、シラバスをよく読み、図書館などで文献検索を行い、予備知識を得ておくこと。				
学習到達目標	脳科学および神経心理学における基本的で重要な概念を理解し、日常生活の様々な事例に応用ができること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	脳科学の基本的な概念に関する理解が得られたか。 神経心理学の基本的な概念に関する理解が得られたか。 日常生活における具体的な事例に得た知識を応用できるか。			
	成績評価 方法	課題レポート50%、期末試験成績50%の割合で、総合的に評価を行う。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	(1)教科書:特に指定しない。 (2)参考書:泰羅 雅登・中村 克樹(監訳)「カールソン神経科学テキスト 脳と行動」第4版 丸善出版 (3)視聴覚教材を使用する。また教材は資料として配布する				
備考	自分が興味をもった内容については、図書館などを利用して自発的に学習して知識を深めるように努力して下さい。				

科目名	人格心理学(感情・人格心理学II)				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	金3
担当教員	石井 国雄			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	日常生活の中で私たちはしばしば「性格」について言及するが、そもそも性格とは何なのだろうか。この講義では人のパーソナリティ(人格, 性格)に関する心理学の研究史を解説しながら、主要な知見を解説していく。				
授業方針	パワーポイントを使った講義形式で行う。毎回の授業終了前にリアクションペーパーを記入し、次の週に質疑応答を行う。なお、パーソナリティに関する理解を深めるため、授業内で調査や実験を行うことがある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 ガイダンス: 人格心理学とは 第2回 類型論と特性論1: 類型論 第3回 類型論と特性論2: 特性論 第4回 パーソナリティの諸理論1: 状況理論 第5回 パーソナリティの諸理論2: 精神分析理論 第6回 パーソナリティの測定方法 第7回 中間まとめ及び試験 第8回 パーソナリティの発達1: 気質 第9回 パーソナリティの発達2: 双生児研究ときょうだい 第10回 パーソナリティの発達3: 自己 第11回 文化とパーソナリティ 第12回 ジェンダー 第13回 パーソナリティの適応 第14回 適性 第15回 期末まとめ及び試験				
準備学習	①事前に指定した資料を通読する(15時間) ②授業時に配布する資料を基に復習をする(15時間) ③授業内で紹介する文献や情報について、自分の関心のあるものを選び、調べる(15時間)				
学習到達目標	パーソナリティに関する心理学の主要な知見を理解し、パーソナリティを捉える理論的枠組みや具体的な測定法について説明ができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	パーソナリティを捉える理論的枠組みについて説明できるか。 パーソナリティの概念や形成過程について説明できるか。 パーソナリティの具体的な測定法に関し、理解し、説明できるか。			
	成績評価 方法	授業内課題30%, 中間の確認テスト30%, 期末試験40%として、総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	【教科書】なし。授業時に毎回資料を配布する。 【参考書】詫摩武俊ほか(2017)性格心理学への招待: 自分を知り他者を理解するために サイエンス社				
備考					

科目名	精神疾患とその治療			
クラス	対象学年	2年	開講学期	後期
			曜日・時限	月2
担当教員	友田 貴子		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	この科目は、担当者の精神保健研究所での研究活動経験を生かし行われる講義科目である。心理学、なかでも臨床心理学を学ぶ上では精神医学の知識は欠かせないものである。また、心理師(士)として保健・医療分野で働く際、またそこでの多職種連携のためにも一定程度の精神医学の知識が必要である。本講では心理学を学ぶ者が知っておくべき精神疾患とその治療について講義を行う。なお、この科目は公認心理師カリキュラムに含まれる科目である。【実務】			
授業方針	精神疾患の理解は精神科症状学と精神科診断学をバランスよく学ぶことが大切である。主要な精神疾患については症例を紹介することでより深い理解を促す。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 精神疾患とは何か その概念と歴史 第2回 精神症状のみかた(1) 精神症状の分類, 意識, 知覚の異常 第3回 精神症状のみかた(2) 思考, 感情, 意欲と意志の異常 第4回 精神疾患の診断(1) 診断とは何か 第5回 精神疾患の診断(2) 面接時の留意点 第6回 精神疾患と薬物療法, リエゾン精神医学・多職種協働における心理支援 第7回 精神疾患の理解(1) うつ病, 双極性障害① 成因, 症状, 診断法, 治療法, 経過, 支援 第8回 精神疾患の理解(2) うつ病, 双極性障害② 症例検討(1) 第9回 精神疾患の理解(3) うつ病, 双極性障害③ 症例検討(2) 第10回 精神疾患の理解(4) 統合失調症① 成因, 症状, 診断法, 治療法, 経過, 支援 第11回 精神疾患の理解(5) 統合失調症② 症例検討 第12回 精神疾患の理解(6) 統合失調症③ 当事者の実際 第13回 精神疾患の理解(7) 認知症 第14回 精神疾患の理解(8) その他の精神疾患 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	教科書の各回の該当部分を読んで予習してくること(各回2時間)。また、授業終了後、教科書の該当部分を読んで復習し知識の定着を図ること(各回2時間)。			
学習到達目標	代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できること。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できること。医療機関との連携について説明できること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できるかどうか。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できるかどうか。医療機関との連携について説明できるかどうか。		
	成績評価 方法	最終評価はレポート課題を課す(40%)。平常点として、平常の課題を加味し(60%)、総合的に評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	1)教科書 公認心理師カリキュラム準拠「精神疾患とその治療」三村将・幸田るみ子・成田迅(編) 医歯薬出版株式会社 2)参考書 適宜紹介する 3)その他 必要に応じて資料を配布する			
備考	教科書が手元にあるという前提で授業を行うので、必ず教科書持参で授業に臨むこと。			

科目名	知覚心理学(知覚・認知心理学I)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	曾我 重司			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	知覚心理学は、ヒトを含む有機体が、その生きている世界の認識をする有り様を記述し整理する学問である。本講義においては、さまざまな認識のあり方がどのようなものであるかを知らしめてくれる様々な知覚現象を知り、客観的な手法で、それらをどのように記述していくかを考える				
授業方針	知覚心理学における代表的な研究対象についての基礎的な知識を習得し、それらについての現象を体験し、記述する態度を学ぶことを主とする				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 知覚研究の概観 第2回 知覚研究の歴史 第3回 感覚器官 第4回 眼球の構造と機能 第5回 色の知覚 第6回 明るさの知覚 第7回 面の知覚 第8回 かたちの知覚 第9回 錯視現象 第10回 奥行き知覚 単眼手がかりによる奥行き 第11回 奥行き知覚 両眼・運動手がかりによる奥行き 第12回 動きの知覚 第13回 動きの表現としてのアニメーション 第14回 時間の知覚、生態学的視覚論について 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1 心理学の基礎知識を復習しておくこと。(30時間) 2 講義中に課す課題について、毎回レポート他を準備すること。(30時間)				
学習到達目標	自らが視て、聴いて、感じているものについて、知覚心理学的な視点から記述できるようになること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	知覚心理学の基礎的な知識が習得できたか。その知識を実際の研究に役立てることができるか。現象の記述ができるか。			
	成績評価 方法	授業時に課す課題への提出物の内容50%および期末レポートの内容50%で評価する			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書・参考書は特に指定しない。資料を適宜配布する				
備考	特になし				

科目名	動機づけと情動(感情・人格心理学I)				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	木3
担当教員	田邊 資章			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	動機づけとは、個体に何らかの反応を起こさせ、方向づけ、維持させる一連のプロセスのことである。欲望(欲求)は、良い意味でも悪い意味でも使われることがあるが、いずれにしても意欲や行動の原動力になっているのは確かであろう。そして、欲求が満たされたときには満足感を味わい、満たされなかったときには苛立ちを感じるというように、欲求と情動には一定の関係があるといえる。動機づけと情動に関して、心理学でどのように表現されているか整理していく。				
授業方針	心理学における動機づけと情動の様々な扱われ方について整理する。その整理に基づいて、発展的なことがらについても触れていきたいと考えている。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 欲求と動機づけの関係 第2回 生理的欲求と社会的欲求 第3回 動機づけと学習 第4回 フラストレーションと葛藤 第5回 情動の理論 第6回 情動の生物学的基盤 第7回 情動の役割 第8回 情動と学習 第9回 情動をコントロールする 第10回 表情やしぐさのとコミュニケーション機能 第11回 情動の発達 第12回 情動を言葉にする 第13回 不安や落ち込んだ気持ちから立ち直る 第14回 サイバー空間と現実空間の間の乖離 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	事前に授業に関連することを調べ、専門用語の意味などを理解していること(40時間)。心理学の研究手法や各回の内容について復習すること(20時間)。				
学習到達目標	動機づけと情動には様々な側面があることを理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	日常場面における欲求や情動について、心理学的な見方ができるようになったか。			
	成績評価 方法	期末試験80%、毎回のコメントシート20%により評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	教科書:講義中に適宜紹介する。 参考書:講義中に適宜紹介する。				
備考					

科目名	認知心理学(知覚・認知心理学II)				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	河原 哲雄			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	認知心理学(認知科学)の基礎を学ぶ。記憶, 学習, 知識, 推論, イメージといった, 認知心理学の基本的な研究成果を知るのが最大の目標である。同時に, 広い意味での「情報処理システム」としての人間について考える上で必要となる, 基礎的な教養とセンスを身につけることも目指す。神経科学や人工知能, ロボット研究, 哲学, 言語学など隣接科学の関連する話題や, 日常生活やビジネスにおける応用についても触れる。				
授業方針	PCプロジェクタを用いたハイフレックス講義形式による授業である。教室スクリーンに表示されるPowerPointスライド(図・表を含む)のうち, 主要なものをプリントに掲載してLiveCampusからダウンロード可能にする。動画やビデオ教材, 心理学実験のデモンストレーション(受講生が被験者として参加する場合もある)等を多用する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 認知心理学(認知科学)入門 第2回 認知の基本的特性 第3回 記憶のメカニズム(1)ワーキングメモリ 第4回 記憶のメカニズム(2)長期記憶 第5回 記憶のメカニズム(3)日常記憶 第6回 知覚とイメージ 第7回 知識の表象と構造 第8回 問題解決と推論 第9回 学習と知識獲得 第10回 注意のメカニズム 第11回 社会的認知 第12回 顔と表情の認知 第13回 認知・思考の障害 第14回 身体性認知科学 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)指定した参考書や論文を事前に読み, 専門用語の意味などを理解していること。(10時間) (2)毎回の授業は前回授業内容に基づくので, 復習をしておくこと。(20時間) (3)期末レポートに向けて学習内容の総復習を行うこと。(30時間)				
学習到達目標	認知心理学の基礎的な知識と考え方を理解し, 人の認知・思考等の機序およびその障害について理解・説明できるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	認知心理学の基礎的な知識と考え方を理解し, 人の認知・思考等の機序およびその障害について理解・説明できるか。			
	成績評価 方法	単元ごとの確認課題の得点50%, 期末レポートの得点50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 指定しない (2)参考書 授業中に紹介する (3)その他 必要に応じて課題や補助教材を配布する				
備考	前提となる知識は特に問わない				

科目名	発達心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	藤巻 るり			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	この科目は、乳児期から老年期までの、人の生涯にわたる心理的な成長・変化のありようを概観し、認知機能・社会性・自我について、発達的な視点から理解する。 また幼児相談室・教育相談室・クリニックなどの臨床現場に臨床心理職として関わってきた実務経験から、発達障害をはじめとする非定型発達についても解説する。【実務】				
授業方針	発達心理学の主要な概念や各年代の心理発達のな特徴について講義を行う。 授業への主体的な参加方法として毎回短いコメント(質問や感想)を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 発達という概念① 第2回 発達という概念② 第3回 胎児期から出生へ 第4回 新生児～乳児期 第5回 幼児期① 第6回 幼児期② 第7回 児童期 第8回 青年期前期(思春期) 第9回 青年期後期&成人期初期 第10回 成人期後期 第11回 他者との関わりと発達 第12回 愛着理論 第13回 発達障害① 第14回 発達障害② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	出生から死までのライフサイクルの考え方について各回ごとに学んだ内容を復習する(20時間)。 認知的発達、社会的発達、自己・自我の発達について自分なりに説明できるよう、講義の内容を復習する(20時間)。 発達障害など、非定型発達について学んだ内容を復習する(20時間)。				
学習到達目標	発達という概念を多角的な視点から見るができること。 人の生涯にわたる心理的な発達のありようを理解し、心理臨床において必要となる発達的な視点を獲得すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	認知機能・社会性・自我の発達について理解することができる。 人のそれぞれの発達段階の特徴を理解し、自分なりに説明することができる。 発達障害をはじめとする非定型発達についての基本的な知識を身につける。			
	成績評価 方法	期末レポート50%, 講義に対するリアクションペーパー50%。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程14条に定める。			
教材	参考書は適宜紹介する。				
備考					

科目名	犯罪心理学(司法・犯罪心理学)			
クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
			曜日・時限	金3
担当教員	鈴木 明人		単位区分	_(選択),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	司法・犯罪心理学に関する基礎的知識及び理論を習得することを目的とする。これに当たり、司法制度の概要等についても解説するとともに、矯正施設における犯罪・非行臨床の実務経験等を踏まえた講義を行う。			
授業方針	担当教員による講義に加えて、受講生には随時、小グループによる討議等を求めて意見交換の活性化を図り、理解の深化を促す。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 司法・犯罪心理学を学ぶにあたって 第2回 犯罪・非行研究の基礎理論 第3回 犯罪行動理解のための心理学的アプローチ 第4回 対人暴力被害が及ぼす影響 第5回 基本法と司法制度の概要 第6回 捜査・裁判 第7回 矯正施設の処遇 第8回 更生保護・医療観察法制度 第9回 被害者支援 第10回 司法・犯罪の心理臨床の基礎 第11回 犯罪者・非行少年のアセスメント 第12回 グループ・アプローチ 第13回 認知行動療法・自助グループ 第14回 トラウマインフォームドケア・コミュニティ復帰 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	①第1回目の講義時、受講者全員に対して犯罪・非行に関して今まで考えてきたこと、今後学習したいこと等についてのアンケートを実施するので、事前に考えを整理しておくこと。(1時間) ②毎回の授業の予習・復習を行うこと。(45時間) ③期末試験に備えて授業全体の復習をすること。(14時間)			
学習到達目標	司法・犯罪心理学の基礎的知識及び理論について、概要を理解し、説明できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	司法・犯罪心理学の基礎的知識及び理論について、概要を理解し、説明できるか。		
	成績評価 方法	期末試験の得点60%, 平常の授業への参加度40%。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書として「司法・犯罪心理学 藤岡淳子編 有斐閣ブックス」(有斐閣、2020)を指定する。			
備考				

科目名	福祉心理学				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月1
担当教員	金子 まどか, 島崎 明代			単位区分	_(選択), O(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	福祉心理学は、福祉＝well-beingおよびwelfareに関わる心理学である。私たちはこれを、「人々の幸せのための心理学」という原理的側面と、「福祉領域の現場に即した心理支援」という実践的側面の両面から考えることができる。本講義ではこれらをふまえ、「生活」および「生活のしづらさ」を鍵概念としながら、福祉的視点による心理支援の実際をライフサイクルに沿って概観する。				
授業方針	3人の担当講師が、それぞれが臨床業務を行っている／いた領域に即して分担する。各回の授業は、重要事項の説明を行ったうえで、エピソード的な事例をもとに理解を深める。最後に、リアクションペーパーの提出を求める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 福祉心理学とは何か 第2回 福祉心理学をめぐるさまざまな視点1 第3回 子育て支援(子育て世代包括支援) 第4回 児童家庭福祉1(児童家庭福祉と心理支援) 第5回 児童家庭福祉2(要保護児童対策) 第6回 児童家庭福祉3(少年法) 第7回 障害福祉と心理支援1(相談支援) 第8回 障害福祉と心理支援2(児童) 第9回 障害福祉と心理支援3(就労) 第10回 障害福祉と心理支援4(成人) 第11回 社会的諸問題と心理支援1(貧困、ひきこもり等) 第12回 社会的諸問題と心理支援2(司法福祉) 第13回 高齢者と心理支援 第14回 福祉心理学をめぐるさまざまな視点2 第15回 まとめと試験				
準備学習	①教科書や参考書の該当箇所を読み込み理解していること。(30時間) ②各回の授業内容を復習すること。(30時間)				
学習到達目標	1)福祉(well-being)の考え方が理解できるようになる。 2)福祉制度や機関、関係職種について、その法的根拠、内容、役割について説明できるようになる。 3)福祉の現場における心理支援のポイントが理解できるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1)精神的健康の実現にとってのwell-beingとその周辺概念の意義について説明ができる。 2)福祉制度や機関、関係職種について、その法的根拠、内容、役割について説明ができる。 3)福祉領域における心理支援のポイントが説明できる。			
	成績評価 方法	筆記試験(50%) リアクションペーパー提出(25%) 調べ学習課題(25%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	大石幸二監修・山崎晃史(編著)(2019)公認心理師・臨床心理士のための発達障害論(学苑社)				
備考					

科目名	教職論				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火5
担当教員	小川 毅			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教職とはどのような職業なのかを学ぶ授業である。教師の仕事(授業、生徒・進路指導、校内校外との連携など)、教師のキャリア形成と専門的成長、社会における教師の捉えられ方や、教師に課せられた役割や使命など、さまざまな側面から講義する。特に、学校現場における様々な事例を参考にアクティブラーニングの視点を取り入れ、主体的な学習を学ぶ。				
授業方針	主に講義形式で進行するが、適宜、統計資料や新聞雑誌記事、教師自身によって書かれた記録、映像資料などを提示し、受講者に考えてもらうアクティブ・ラーニングによる授業展開を設ける。講義の内容や、作業、考察したことなどを書きとめるワークシートを毎回使用し、適宜提出してもらう。最終的に、講義全体を踏まえたレポートを課す(1回)。				
学習内容 (授業 スケジュール)	講義は、受講者の理解を踏まえながら、以下のように進行する予定である。 1. 教職とはどんな仕事か 2. 教師の仕事(1):授業をつくる(学習指導要領と授業づくり) 3. 教師の仕事(2):子どもを育む(学級経営・生徒指導・生活指導) 4. 教師の仕事(3):子どもを育む(進路指導・キャリア教育・安全教育) 5. 教師の仕事(4):保護者・地域との連携(保護者、地域、ほかの学校や組織との関わり) 6. 教師として生きる(1):教師になる(教員養成、教員の資格、採用) 7. 教師として生きる(2):教師に求められる資質能力(研修、現職教育) 8. 教師として生きる(3):教員の職務と法律関係 9. 教師として生きる(4):教員の地位と身分保障、待遇と労働条件 10. 教師として生きる(5):学校の管理・運営 11. 時代の中の教師(1):「先生」の登場と形成(明治・大正・昭和初期) 12. 時代の中の教師(2):教育専門家としての教師(戦後) 13. 時代の中の教師(3):学校教育の諸課題と教師 14. 時代の中の教師(4):社会の変化と学校・教師 15. まとめ				
準備学習	①指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) ②授業終了時に示す課題について、適宜レポートを作成すること。(30時間) ③授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを適宜実施するので、復讐をしておくこと(10時間)				
学習到達目標	(1)教師の仕事の性質について理解し、記述できる。 (2)教師の成長の道筋とその機会について理解し、記述できる。 (3)教師像の歴史的な形成について理解し、記述できる。 (4)自分のこれまで抱いてきた教師像について相対化し、見直すことができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。			
	成績評価 方法	小テスト20%、課題60%、レポート20%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に準ずる。			
教材	中学校学習指導要領(平成29年告示)および授業中に資料を適宜配布し、参考文献等を紹介する。				
備考					

科目名	<b>教育原理</b>				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水5
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育原理」は最も基礎的で中心的な教職課程科目です。「教育とは何か」をいくつかの素材をもとに考え、日本及び西洋諸国の近代公教育について、歴史的な変遷を踏まえて学んでいきます。教職の「はじめの一歩」の位置づけで、教師になるにはどのようなことに興味や関心、そして知識を持つことが大事なのかを学びます。				
授業方針	授業は講義形式が中心になります。教職を履修するうえで最低限、身につけておいて欲しい知識の習得を目指します。毎回の授業の最後に「本日のまとめ」として内容を振り返り、自身の感想を踏まえて3行以内で記入してもらいます。この記述は平常点として評価に反映されます。知識を増やすこと、その知識をもとに考えることの両方を大切にしていきたいと思っています。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教職課程と教育原理 第2回 教育とは何か 人間の成長と遺伝・環境 第3回 教育とは何か 「教」と「育」 第4回 教育とは何か 西洋の教育思想から学ぶ① 第5回 教育とは何か 西洋の教育思想から学ぶ② 第6回 教育とは何か 西洋の教育思想から学ぶ③ 第7回 教育とは何か 公教育の発達 第8回 日本における近代公教育 ①学制期 第9回 日本における近代公教育 ②教育令期 第10回 日本における近代公教育 ③森文政期 第11回 日本における近代公教育 ④大正デモクラシーと新教育運動期 第12回 日本における近代公教育 ⑤軍国主義時代 第13回 戦後の公教育の理念① 第14回 戦後の公教育の理念② 第15回 総括 教育とは何か・近代公教育の理念:まとめ及び試験				
準備学習	1) 指定したテキストや参考文献の該当箇所を事前に読んで、専門用語の意味などを調べておくこと。(20時間) 2) 授業で配布するレジュメをもとに学習したことを整理して次時の学習に臨むこと。(30時間) 3) 現代の教育に関する新聞記事等に目を通しておくこと。(10時間)				
学習到達目標	1) 「教育とは何か」について様々な教育思想を理解し、自分の考えをもつことができる。 2) 日本における近代公教育の史的変遷や戦後の公教育の理念について理解し、現代の教育について考えるための知識の基盤を形成する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 「教育とは何か」について様々な教育思想を理解し、自分の考えをもつことができたか。 2) 日本における近代公教育の史的変遷や戦後の公教育の理念について理解し、現代の教育について考えるための知識の基盤を形成することができたか。			
	成績評価 方法	平常点30% 期末試験(あるいは期末レポート)70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	古賀毅編『やさしく学ぶ教職課程 教育原理』学文社				
備考	学習内容は多少前後する場合があります。また、教育関係の時事問題を取り上げます。				

科目名	<b>発達・学習論</b>			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 水3
担当教員	高橋 優			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	成長過程にある生徒を理解し効果的な指導を展開する上で、発達・学習に関する知識は不可欠である。成長に伴い子どもたちがどのような変化を遂げるのか、またその際に経験はどのような影響を与えるかを理解することは、生徒の心を理解し指導していく上で重要である。この授業では、これらの基礎的な知識を獲得し、発達を踏まえた指導について理解することを目標とする。			
授業方針	本講義では発達と学習に関する基礎的な内容について講義する。さらに、教育場面における応用や、発達・学習に関連する諸問題についても考えていくこととする。各テーマに関する講義に加え、テーマに関連した内容での小レポート課題を課す。単なる知識の羅列としてではなく、実際の教育現場にどのように結びつくのかを考えてもらいたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階と発達の規程因</li> <li>2. 新生児期・乳児期・児童期</li> <li>3. 心理社会的発達、道徳的発達：エリクソン／コールバーグの理論</li> <li>4. 認知発達：ピアジェの理論</li> <li>5. 知能</li> <li>6. 思春期・青年期</li> <li>7. 前半のまとめ：発達の過程を振り返る</li> <li>8. 教育評価</li> <li>9. 行動主義と条件づけ</li> <li>10. 認知主義的アプローチと記憶</li> <li>11. 学習法・教授法と個人差</li> <li>12. 主体的な学習活動を支える指導</li> <li>13. 動機づけ</li> <li>14. 後半まとめ：学習の諸相を振り返る</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
準備学習	事前に教科書の当該箇所を読み、不明な語について心理学事典などを利用して確認しておくこと。授業後は復習を行うこと。予習及び復習時間はそれぞれ2時間程度とする。			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の基礎的な理論を理解する。</li> <li>2. 学習の基礎的な理論を理解する。</li> <li>3. 教師として生徒を理解し、適切な教育的働きかけを行うための視座を得る。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の基礎的な理論を理解できたか。</li> <li>2. 学習の基礎的な理論を理解できたか。</li> <li>3. 教師として生徒を理解し、適切な教育的働きかけを行うための視座を得られたか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	小課題(20%)と試験(80%)を合計したものを成績評価基準にあてはめて決定する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書「教職ベーシック 発達・学習の心理学[新版]」柏崎秀子 編著 北樹出版 ISBN978-4-7793-0591-7			
備考	教職の必修科目なので、1～3年のうちに必ず履修すること。			

科目名	情報科教育法I			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	月5
担当教員	関口 久美子		単位区分	◎(必修)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校における教科「情報」を指導するために必要とされる知識・技能を修得することを目標とする。ここでは、特に共通教科「情報」に焦点を置き、その教育目標や内容を理解するとともに、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようにする。			
授業方針	教科「情報」の全体、および共通必修科目「情報Ⅰ」、選択科目「情報Ⅱ」の各科目の教育目標や内容を明らかにする。また、指導計画の作成、教材研究、模擬授業の実施、評価等の実践的な演習をとおしてその指導方法を学んでいく。さらに情報機器及び教材などの「教育の情報化」を意識した効果的な指導方法を学ぶ。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 教科「情報」と情報教育のねらい 第2講 情報教育の現状 第3講 共通教科「情報」の内容と目標(学習指導要領使用) 第4講 年間の指導計画 第5講 教育の方法及び技術(教育の情報化) 第6講 「情報Ⅰ」における指導方法 第7講 教材研究 第8講 指導案の作成 第9講 模擬授業と評価1(情報社会と問題解決) 第10講 模擬授業と評価2(デジタル情報と情報の活用) 第11講 模擬授業と評価3(ネットワークとセキュリティ) 第12講 「情報Ⅱ」における指導方法 第13講 教材研究・指導案の作成 第14講 模擬授業と評価4(情報の解析と活用) 第15講 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 指定した学習指導要領(情報)の該当部分を事前に読み、各科目の学習目標や学習内容を理解しておくこと。(15時間) (2) 模擬授業を実施するにあたって、授業計画書の作成や教材準備、リハーサルなど十分な準備を行うこと。(20時間) (3) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(25時間)			
学習到達目標	(1) 「情報教育」、教科「情報」の成立の背景から、その意義と役割を理解できる。 (2) 共通教科「情報」の教育の内容と目標を説明できる。 (3) 共通教科「情報」の授業計画書を作成し、それに沿った模擬授業を実施できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) 「情報教育」、教科「情報」の意義と役割を説明できるか。 (2) 共通教科「情報」の教育の内容と目標を説明できるか。 (3) 授業計画書を作成し、それに沿って模擬授業を行えるか。 (4) 模擬授業に対し、自他の評価ができるか。		
	成績評価 方法	模擬授業50%、学習指導案の作成30%、課題20%により、総合的に評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書 高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 開隆堂出版 参考書: 情報科教育法 第2版 岡本 敏雄他 丸善出版 その他 高校で使用した情報の教科書			
備考	コンピュータリテラシーの知識や技術を習得済みであること。			

科目名	情報科教育法II			
クラス		対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月5
担当教員	関口 久美子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	高等学校における教科「情報」を指導するために必要とされる知識・技能を修得することを目標とする。ここでは、専門教科「情報」に焦点を置き、多岐にわたる専門科目それぞれの教育目標や内容を理解するとともに、科目に応じた指導方法を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができるようにする。また、プログラミングについても同様に教育目標を理解するとともに授業設計を行うことができるようにする。			
授業方針	多数の科目からなる専門教科「情報」について、それぞれの学習内容と教育目標を明らかにするとともに、各科目の特性に応じた指導方法を実践的な演習をとおして学んでいく。プログラミング教育については共通教科と専門教科における教育目標の違いを理解し、それぞれに適切な指導方法を学ぶ。さらに急速に変化する情報社会に対応した教育が行えるよう、新たな情報技術の調査研究を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1講 専門教科「情報」の内容と目標(学習指導要領使用) 第2講 専門教科「情報」の指導方法1(データの分析・活用・表現) 第3講 教材研究と指導案の作成1(データの分析・活用・表現) 第4講 模擬授業と評価1(データの分析・活用・表現) 第5講 専門教科「情報」の指導方法2(システムの設計とコンテンツの制作) 第6講 教材研究と指導案の作成2(システムの設計とコンテンツの制作) 第7講 模擬授業と評価2(システムの設計とコンテンツの制作) 第8講 プログラミングの指導方法 第9講 教材研究と指導案の作成3(アルゴリズムと問題解決) 第10講 模擬授業と評価3(アルゴリズムと問題解決) 第11講 教材研究と指導案の作成4(プログラミング) 第12講 模擬授業と評価4(プログラミング) 第13講 新たな情報技術 第14講 これからの情報化社会と情報教育 第15講 まとめ及び試験			
準備学習	(1) 指定した学習指導要領(情報)の該当部分を事前に読み、各科目の学習目標や学習内容を理解しておくこと。(15時間) (2) 模擬授業を実施するにあたって、授業計画書の作成や教材準備、リハーサルなど十分な準備を行うこと。(20時間) (3) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(25時間)			
学習到達目標	(1) 「情報教育」、教科「情報」の成立の背景から、その意義と役割を理解できる。 (2) 専門教科「情報」の教育の内容と目標を説明できる。 (3) 専門教科「情報」の授業計画書を作成し、それに沿った模擬授業を実施できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1) 「情報教育」、教科「情報」の意義と役割を説明できるか。 (2) 専門教科「情報」の教育の内容と目標を説明できるか。 (3) 授業計画書を作成し、それに沿って模擬授業を行えるか。 (4) 模擬授業に対し、自他の評価ができるか。		
	成績評価 方法	模擬授業50%、学習指導案の作成30%、課題20%により、総合的に評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	教科書 高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省 開隆堂出版 参考書 情報科教育法 第2版 岡本 敏雄他 丸善出版 その他 高校で使用した情報の教科書			
備考				

科目名	<b>社会科・公民科教育法I</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学習指導要領の内容、教育課程上の教科の位置づけを理解し、中学校社会科、高等学校公民科教員として必要な指導上の知識・技能を習得するとともに、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な力を身に付ける。なお、最新の学習指導要領にもとづき授業を実施する。				
授業方針	学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解する。社会科・公民科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実践的な技能を習得する。現代社会が抱えている諸問題について意欲的に考え、授業案に盛り込めるような方法を受講生達に考えてもらう。知識の習得だけでなく、市民性の概念と倫理観を踏まえた授業案を考えられるように講義を進める				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回授業の概要及び進め方 第2回社会科教育の歴史について 第3回教育課程上の教科の位置づけ、学習指導要領の解説、内容と改訂、改訂の経緯について 第4回社会科・公民科分野の特色と内容、指導上の留意点(1)（「現代社会」「倫理」分野） 第5回社会科・公民科分野の特色と内容、指導上の留意点(2)（「政治・経済」分野） 第6回社会科・公民科と関連分野との関係 第7回公民科の理念、公民的資質、道徳との関係 第8回公民科の教科構造と関連諸科学について 第9回義務と権利、責任について、自己と他者の共存の在り方について 第10回学習指導案の研究(1)（学習指導案の作成方法） 第11回学習指導案の研究(2)（授業展開と板書計画） 第12回学習指導案の研究(3)（生徒評価の観点） 第13回作成した学習指導案に基づく模擬授業 第14回模擬授業の振り返り 第15回まとめ及び試験				
準備学習	1 現代社会が抱える諸問題についての情報収集(新聞、ニュース、インターネット等)(10時間) 2 学習指導案の作成、単元の内容精査、模擬授業の準備(30時間) 3 学期末試験のための試験勉強(講義内容の復習)(20時間)				
学習到達目標	学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解する。 社会科・公民科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実践的な技能を習得する。 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解する。 義務と権利、責任という概念を深く理解し、自己と他者の共存の在り方について自分なりの考えが持てるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解できたか。(試験による評価) 2 学習指導案の作成、模擬授業を意欲的に行うことができたか。(学習指導案の提出、模擬授業の振り返りからの評価) 3 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解できたか。(試験による評価) 4 義務と権利、責任という概念を深く理解し、自己と他者の共存の在り方について自分なりの考えを持てたか。(模擬授業、学習指導案による評価)			
	成績評価 方法	最終授業日に行う試験(50%)、学習指導案と模擬授業(30%)、授業時のコメントシート(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	最新の『中学校学習指導要領 社会編』及び『高等学校学習指導要領 公民編』(文部科学省)、その他の参考文献は講義中に適宜紹介する。				
備考	中学校社会科と高等学校公民科教員免許状取得のための必修科目である。教員を目指す心構えをもって、講義に参加してもらいたい。				

科目名	<b>社会科・公民科教育法II</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	中学校社会科、高等学校公民科教員として生徒に政治や経済に対する関心をもたせ、公民的資質を養う知識・技能を習得する。また倫理分野を中心に道徳性を養う観点を踏まえた指導力を習得する。学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な力を身に付ける。なお、最新の学習指導要領にもとづき授業を実施する。				
授業方針	学習指導要領における社会科、公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解した上で、より発展的な授業案が考えられるように講義を進める。公民科各科目の学習指導案を作成し、作成した学習指導案に基づき模擬授業を行ってもらう。現代社会において必要な公民的資質とは何かを理解して生徒を指導する方法について考えてもらう。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回授業の概要及び進め方 第2回国際社会と日本 第3回現代社会における公民的資質について 第4回社会科・公民科の授業を通して生徒に政治に関心を持たせる方法(発表・意見交換)(人間の倫理、現代の政治) 第5回社会科・公民科の授業を通して生徒に経済に関心を持たせる方法(発表・意見交換)(現代の経済) 第6回倫理分野の指導方法と留意点(発表・意見交換) 第7回ナショナリズム 第8回国際関係理論 第9回憲法について考える(発表・意見交換) 第10回学習指導案の研究(1)(教材研究) 第11回学習指導案の研究(2)(授業展開と板書計画) 第12回学習指導案の研究(3)(生徒評価の観点) 第13回作成した学習指導案に基づく模擬授業 第14回模擬授業の振り返り 第15回まとめ及び試験				
準備学習	1 現代社会が抱える諸問題に関する情報収集(新聞、ニュース、インターネット等)、(10時間) 2 学習指導案の作成と単元の内容精査、模擬授業の準備(30時間) 3 学期末試験のための試験勉強(講義内容の復習)(20時間)				
学習到達目標	学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容、指導上の留意点を理解した上で、より発展的に現代社会に即した指導の在り方を習得する。 社会科・公民科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実践的な技能を習得する。 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解する。 現代社会において必要な公民的資質とは何かを理解し、現代社会の課題を踏まえつつ市民性を養う指導について自分なりの考えを持てるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1 社会科・公民科について、より発展的な現代社会に即した授業案を作成できたか。(学習指導案による評価) 2 学習指導案を意欲的に作成し、模擬授業を意欲的に行うことができたか。(学習指導案、模擬授業による評価) 3 社会科・公民科の指導内容、学習評価の考え方を理解できたか。(学習指導案による評価) 4 公民的資質とは何かを理解し、生徒達にその力を養う指導について自分なりの考えを持てたか。(試験、学習指導案による評価)			
	成績評価 方法	学習指導案・模擬授業50%、期末試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	最新の『中学校学習指導要領 社会編』及び『高等学校学習指導要領 公民編』(文部科学省)、その他の参考文献については講義内に適宜紹介する。				
備考	中学校社会科と高等学校公民科教員免許状取得のための必修科目である。 教員を目指す心構えをもって、講義に参加すること。				

科目名	<b>社会科・地歴科教育法I</b>			
クラス	対象学年	2年	開講学期	前期
			曜日・時限	月3
担当教員	平田 文子		単位区分	◎(必修),○(選必)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科・地歴科教育法Iでは、社会科・地歴科がどのような経緯で成立し、時代的、社会的な影響を受けながらどんな変遷を遂げてきたのか、現行の学習指導要領ではどのような目標・学習内容が掲げられているのかなど、社会科・地歴科全般に関する基礎的事項を理解するとともに、教科に関する基礎的な知識と、学習指導案や授業プリントの作成など、授業づくりに必要な基礎的技術を習得する。			
授業方針	社会科に関する専門的な知識と授業をおこなううえでの技法を身につけていくため、授業は演習形式でおこなう。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 社会科の歩み① 社会科成立の背景・社会科が目指したもの 第2回 社会科の歩み② 学習指導要領の変遷と社会科・地歴科の学習内容の変遷 第3回 現行の学習指導要領中学校社会科・高等学校地歴科の解説 第4回 社会科(地理・歴史)・地歴科の基礎知識の確認① 第5回 社会科(地理・歴史)・地歴科の基礎知識の確認② 第6回 中学校、高等学校で用いられる教科書、教材、教育方法及び技術 第7回 基本的な学習指導案の作成 ①授業のねらいを考える 第8回 基本的な学習指導案の作成 ②本時の指導計画を立てる 第9回 基本的な学習指導案の作成 ③観点別評価に基き授業を点検する 第10回 学習プリントの作成 内容構成・見やすい紙面を考える 第11回 模擬授業と指導方法の検討① 地理分野 第12回 模擬授業と指導方法の検討② 地理分野(続) 第13回 模擬授業と指導方法の検討③ 歴史分野 第14回 模擬授業と指導方法の検討④ 歴史分野(続) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	1) 中学校社会科、高等学校地歴科の学習指導要領を精読しておくこと。(20時間) 2) 中学校社会科地歴分野、高等学校地歴科の教科書や資料集を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(30時間) 3) 模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること。(10時間)			
学習到達目標	1) 社会科の歩みや、学習指導要領に示された高等学校地歴科や中学校社会科の目標や内容、指導上の留意点について理解し、授業づくりの基本的な技法を身につける。 2) 地歴科の単元を用いて基本的な学習指導案の作成、及び模擬授業を行うことができる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 社会科の歩みや、学習指導要領に示された高等学校地歴科や中学校社会科の目標や内容、指導上の留意点について理解し、授業づくりの基本的な技法を身につけることができたか。 2) 地歴科の単元を用いて基本的な学習指導案の作成、及び模擬授業を行うことができたか。		
	成績評価 方法	平常点(模擬授業や指導方法の検討)30%、提出物(学習指導案・教材・レポートまたは試験)70%		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める		
教材	(1)教科書 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』, 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考文献は授業のなかで紹介。必要に応じてプリントを配布。			
備考	毎回、必ず出席すること。			

科目名	<b>社会科・地歴科教育法II</b>				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科・地歴科教育法IIでは、中学校社会科地理歴史分野と高等学校地歴科の授業実践を念頭において、プレゼン、学習指導案の作成、模擬授業を行う。地理・歴史の授業はともすれば重要事項の解説に終始しがちで、生徒にとっては暗記科目のイメージが強い。本来の地理・歴史教育の目的を再確認し、教材研究を深め、様々な教育方法について学び、授業の技法を身につける。				
授業方針	内容精査と学習指導案の作成、模擬授業など演習形式の授業を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 高等学校地歴科(日本史・世界史)の目標と学習単元・教材について 第2回 高等学校で用いられる教育方法及び技術 -板書と発問- 第3回 人物プレゼン 第4回 単元の決定と内容精査① 第5回 内容精査② 第6回 学習指導案の作成 第7回 解説の演習①歴史用語 第8回 解説の演習②歴史の流れ 第9回 さまざまな授業と学習指導案の検討① 第10回 さまざまな授業と学習指導案の検討② 第11回 模擬授業と指導方法の検討① 中学社会科地歴分野 第12回 模擬授業と指導方法の検討② 世界史 第13回 模擬授業と指導方法の検討③ 日本史 第14回 模擬授業と指導方法の検討④ 地理 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1) 中学校社会科、高等学校地歴科の学習指導要領を精読しておくこと。(20時間) 2) 中学校社会科地理・歴史分野、高等学校の世界史・日本史・地理の教科書や資料集を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(30時間) 3) 模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること。(10時間)				
学習到達目標	中学校社会科、高等学校地歴科の目標や内容を理解し、解説や発問、板書の演習を通して授業の方法を身につける。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①ひとつの単元について徹底した内容精査をすることができたか。②授業構想を学習指導案にまとめることができたか。③模擬授業を通じて、改善点を克服することができたか。			
	成績評価 方法	平常点(模擬授業や指導方法の検討)30%、提出物(学習指導案・教材・レポートまたは試験)70%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』, 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考文献は授業のなかで紹介。必要に応じてプリントを配布。				
備考	毎回、必ず出席すること。履修者数によって授業スケジュールを変更することもある。				

科目名	<b>社会科教育法Ⅲ</b>				
クラス		対象学年	3年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科教育法Ⅲは、中学校社会科の教員免許状取得を希望する学生を対象に行う科目である。特に教育法Ⅲでは、選択社会やテーマ学習を行うことも念頭に、中学校社会科の単元をつかった授業づくりを行う。既に社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会科・地歴科教育法Ⅰ、Ⅱで基礎的事項や学習指導案の作成方法については学習しているので、その応用編と位置づけている。				
授業方針	演習形式の授業となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 社会科公民分野の基礎的事項の復習 第2回 公民の教科書からの単元選び 第3回 授業づくり① 単元の内容精査 第4回 授業づくり② 単元の目標 第5回 授業づくり③ 単元の指導計画 第6回 授業づくり④ 本時の内容精査 第7回 授業づくり⑤ 本時の目標と指導計画 第8回 授業づくり⑥ 学習指導案の作成 第9回 授業づくり⑦ 教材の作成・準備 第10回 授業づくり⑧ 発問・板書計画 第11回 模擬授業と意見交換①人間を尊重する日本国憲法 第12回 模擬授業と意見交換②わたしたちの暮らしと民主政治 第13回 模擬授業と意見交換③わたしたちの暮らしと経済 第14回 模擬授業と意見交換④国際社会に生きるわたしたち 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1)『中学校学習指導要領解説 社会編』を事前に読んでおくこと。(20時間) 2)中学校社会科の教科書や資料集を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(30時間) 3)模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること。(10時間)				
学習到達目標	1)「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりの一連のプロセスに真剣に取り組み、完成することができる。 2)他者の授業について、良い点、改善すべき点を的確に指摘し共有することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1)「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりの一連のプロセスに真剣に取り組み、完成することができたか。 2)他者の授業について、良い点、改善すべき点を的確に指摘し共有することができたか。			
	成績評価 方法	模擬授業や指導方法の検討40%、提出物(学習指導案・教材・レポート)60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考書 参考文献は授業のなかで紹介。 (3)その他 必要に応じてプリントを配布。				
備考	社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ、または社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱの単位を取得してから履修することを原則とする。毎回必ず出席すること。				

科目名	社会科教育法Ⅳ				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	社会科教育法Ⅳは、中学校社会科の教員免許状の取得を希望する学生を対象に行う科目である。中学校社会科3分野のなかから好きな単元を自分で選び、内容精査、授業計画(学習指導案の作成)、教材の選定・準備、模擬授業を行う。				
授業方針	教育法Ⅰ～Ⅲで学んだこと(学習指導案や教材の作成、授業方法)を総括する意味で個人演習のかたちで行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 さまざまな社会科の授業(地理) 第2回 さまざまな社会科の授業(歴史) 第3回 さまざまな社会科の授業(公民) 第4回 授業づくり① 授業目的は何か 第5回 授業づくり② 単元の内容精査 第6回 授業づくり③ 学習指導案の作成・授業概要 第7回 授業づくり④ 学習指導案の作成・本時の指導計画 第8回 授業づくり⑤ 教材の作成・準備 第9回 授業づくり⑥ 発問・板書計画 第10回 模擬授業と意見交換①地理分野 第11回 模擬授業と意見交換②歴史分野(近世以前) 第12回 模擬授業と意見交換③歴史分野(近現代) 第13回 模擬授業と意見交換④公民分野 第14回 社会科の授業で大切にしたいこと 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1)これまでに作成した学習指導案や教材、模擬授業などを振り返り、改善すべき点を確認しておくこと。(10時間) 2)中学校社会科3分野から選択した単元について、学習指導要領の該当箇所を事前に読んでおくこと。(15時間) 3)中学校社会科3分野から選択した単元について、教科書や資料集の該当箇所を精読し、学習指導案作成の準備をしておくこと。(25時間) 4)模擬授業での改善点を踏まえた学習指導案を作成すること。(10時間)				
学習到達目標	1)中学校社会科3分野のなかから単元を選び、単元全体の内容精査、学習指導案および教材の作成、模擬授業を個人でやり遂げる。 2)他者の模擬授業や意見交換に積極的に参加し改善点を共有することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1)単元全体の内容精査、学習指導案および教材の作成、模擬授業を個人でやり遂げることができたか。 2)他者の模擬授業や意見交換に積極的に参加し改善点を共有することができたか。			
	成績評価 方法	模擬授業や指導方法の検討40%、提出物(学習指導案・教材・レポート)60%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める			
教材	(1)教科書 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 (2)参考書 参考文献は授業のなかで紹介。 (3)その他 必要に応じてプリントを配布。				
備考	社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ、または社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会科教育法Ⅲの単位を取得してから履修することを原則とする。毎回必ず出席すること。				

科目名	教育方法・技術論				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	高橋 優			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	授業では、教育に関わる基礎理論および授業を構成する要件を概観した上で、具体的な授業方法や指導技術について学ぶ。さらに、学校と授業に大きな変化をもたらしている情報機器活用のための知識と技能(スキル)を修得する。				
授業方針	前半では教育方法論や指導の技術について、後半では情報機器の利活用について授業を行う。いずれも講義だけではなく演習を取り入れ、より実践的な知識と技術の習得を目指す。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の基礎理論</li> <li>2. 授業を構成する要件</li> <li>3. 多様な教育方法1(一斉・個別・グループ)</li> <li>4. 多様な教育方法2(アクティブ・ラーニング)</li> <li>5. 授業における指導技術1(学習指導案・板書)</li> <li>6. 授業における指導技術2(発問・机間指導)</li> <li>7. 授業における評価技法</li> <li>8. メールによるコミュニケーション</li> <li>9. 校務文書・授業プリントの作成</li> <li>10. 学習評価の効率化と表計算ソフト</li> <li>11. 視覚教材の作成と加工</li> <li>12. 調べもの学習とウェブ検索</li> <li>13. 授業における著作物の利用</li> <li>14. 情報のセキュアな管理</li> <li>15. まとめ及び試験</li> </ol>				
準備学習	1年次に履修した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。 コンピュータの操作が必須となるので、1年次のコンピュータの入門科目の内容を完全に修得しておくこと。 毎回、予習・復習でそれぞれ2時間程度必要である。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の基礎理論を理解する。</li> <li>2. 授業の構成要件と教育方法を学び、基本的な指導の技術を習得する。</li> <li>3. 教育場面における情報機器の効果的活用ための知識・技術を獲得する。</li> </ol>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記学習到達目標3点を達成できたか。			
	成績評価 方法	授業内の課題により評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	『三訂版 教育の方法と技術』(平沢茂編著, 図書文化社)を使用する。また、必要に応じてプリントを配布する。参考文献も随時紹介する。				
備考					

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 火5
担当教員	小池 幸			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	特別活動は「為すことによって学ぶ」ことを指導原理に置き、集団活動・自主的活動・実践的活動を特質としている。本授業では、新学習指導要領をもとに、学級活動・ホームルーム活動、児童会生徒会活動、並びに学校行事、総合的な学習の時間における指導の実際をよりリアルに意識化・可視化することにより、教師としての「児童生徒一人一人を生かす集団活動の構築・展開能力」及び探究課題解決能力を身に付ける。			
授業方針	授業展開のベースとして、これまでの小・中・高等学校における受講生一人一人の特別活動及び総合的な学習の時間に係る体験とその時の教師の係わり方におき、学校現場での各校種の実際の映像視聴や学習指導案の作成、授業の振り返り小レポートの作成、自身の児童生徒の係わり方や指導方法に関する小論文の作成、さらに、グループや全体でのディスカッション、模擬授業等を通して進めていく。			
学習内容 (授業スケジュール)	本授業では、アクティブラーニングの視点から、グループワークやグループディスカッション等を積極的に取り入れる。また、主体的な授業実践を図るため、受講者一人一人の考え、意見、思い等を持つことを強く求める。 第1回:オリエンテーション(特別活動・総合的な学習の時間の意義と各種教育法規との関連) 第2回:特別活動・総合的な学習の時間と学習指導要領、特別活動とキャリア教育・主権者教育、小論文作成 第3回:特別活動・総合的な学習の時間における年間指導計画の作成、グループ討議 第4回:特別活動・総合的な学習の時間と各教科等の関連と育成すべき資質・能力、小論文作成 第5回:特別活動・総合的な学習の時間における3つの学びと指導の在り方、グループ・全体討議 第6回:特別活動・総合的な学習の時間の評価と改善、小論文作成 第7回:学級活動・ホームルーム活動の特質と指導の実際、グループ・全体討議 第8回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案の作成(内容(1)(2)(3)) 第9回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(1))、全体討議 第10回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(2))、全体討議 第11回:学級活動・ホームルーム活動学習指導案を基にした模擬授業の展開(内容(3))、全体討議 第12回:児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と指導の実際、グループ・全体討議 第13回:児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の活動実施計画の作成 第14回:特別活動が目指す社会参画の在り方と実際、グループ・全体討議 第15回:まとめ及び試験			
準備学習	【授業開始前】においては、①授業内容に係る教科書を熟読しておくこと。②要点をまとめたノート、配布資料を再確認しておくこと。(30時間) 【授業開始後】においては、①毎回の授業毎にA4一枚程度に授業内容を要約し記録に残すこと。②模擬指導案や課題レポートを作成し、授業に課題意識を持って参加すること。(30時間)			
学習到達目標	(1)特別活動・総合的な学習(探究)の時間の意義、特別活動の各活動・学校行事と総合的な学習(探究)の時間等との関連、各種法規等についてその概要を説明することができる。 (2)総合的な学習の時間の指導過程を理解することができる。 (3)一人一人を生かす集団作りができる。 (4)主に、学級活動、ホームルーム活動の授業展開ができるようになる。 (5)学校現場において、特別活動の展開に向けた意欲を持つことができる。			
成績評価基準	達成度評価基準	(1)特別活動・総合的な学習(探究)の時間の意義、特別活動の各活動・学校行事と総合的な学習(探究)の時間等との関連、各種法規等についてその概要を説明することができるか。 (2)総合的な学習の時間の指導過程を理解できているか。 (3)一人一人を生かす集団作りができるか。 (4)主に、学級活動、ホームルーム活動の授業展開ができるようになっているか。 (5)学校現場において、特別活動の展開に向けた意欲を持つことができているか。		
	成績評価方法	授業後の振り返りカード30%、小テスト・小論文等成果物等30%、期末試験40%で総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条・埼玉工業大学工学部規程第14条に定める。		
教材	◆教科書:①文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」(東山書房)・②文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編」(東山書房) ◆参考書:文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)」(東山書房)・文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」(東山書房)・「中学校教育課程実践講座 特別活動」(ぎょうせい) ◆その他:必要に応じて随時プリントを配布する。			
備考	授業の進行の中で変更がある場合はその都度お知らせします。			

科目名	生徒・進路指導の理論と方法			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	小川 隆二			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本授業は学校教育における生徒指導・進路指導の理論と指導方法を理解し、子どもたちにかかわる生徒指導上の現状と背景を理解する。そして、いじめ・不登校・規範意識の低下など子ども・学校・家庭をめぐる問題に対し、学校として教師としていかなる対応が的確であるかを探求する。生徒指導や進路指導(キャリア教育)について理解が深められるよう、時事的な話題・データを紹介しながら今日的な課題と背景を的確に踏まえた実践的指導方法を探求する。			
授業方針	①講義形式を基本としつつ、グループ討議等を取り入れ受講者が主体的に授業に参加し双方向対話型による授業を行う。 ②講義の内容や考察したことについて自分の言葉で的確かつ簡潔にわかりやすく表現する場面を多く取り入れる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1 生徒指導・進路指導における基本的概念 オリエンテーション 2 生徒指導・進路指導の理論と変遷 3 生徒指導の基礎理論、教育相談の歴史と理念 4 直面する課題(1)いじめ問題の予防と対応 5 直面する課題(2)不登校問題の予防と対応 6 直面する課題(3)規範意識の低下 非行問題行動 7 問題の背景(1)子どもの貧困、家庭や地域の教育力低下 8 問題の背景(2)人権教育・特別支援教育と生徒指導 9 問題の背景(3)思春期・青年期のこころの問題 10 進路指導(キャリア教育)の理論・方法・課題(1)進路指導の実態と課題 11 進路指導(キャリア教育)の理論・方法・課題(2)進路指導の組織と運営 12 生徒指導と教育課程 教科指導―道徳・特別活動 13 取り組みの実際(1)学校の指導体制と子どもの居場所としての学級づくり・授業づくり 14 取り組みの実際(2)学校・保護者・地域をつなぐ学校づくり 15 まとめ及び試験			
準備学習	①日頃から子ども・教師・学校についてのメディア報道に関心を持ち、生徒指導・進路指導における課題を認識して授業にのぞむ。 ②授業で配布する資料等を事前に確認し、自分の考えをもち用語等を理解しておく。 ③生徒指導や進路指導に係る自己の経験や体験を踏まえ考察する姿勢を常にもつ。予習・復習を含めて授業時間外の学習時間を確保すること。(60時間)			
学習到達目標	①子どもを取り巻く問題とその背景を知り、予防と対応について理解する。 ②生徒指導・進路指導において学校や教師が果たすべき役割について理解する。 ③生徒指導・進路指導の基本的な知識を身につけ、学校現場の様々な場面で教員に求められる能力と態度を養う。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	「学習到達目標」で記した諸点を達成できたか。		
	成績評価 方法	平常点(学習への取組・ワークシートの評価・レポート)50%と試験50%により評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に準ずる。		
教材	生徒指導提要(文部科学省・教育図書) 学習指導要領解説「特別活動編」(文部科学省・ぎょうせい)			
備考				

科目名	道徳教育の理論と方法				
クラス		対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修)_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>中学校・高等学校の教員免許状取得を目指す学生を対象として道徳教育の理論と実践方法について学ぶ教科である。道徳理論の思想的背景や、社会的・経済的背景との関係などを講義に盛り込む。学習指導要領の道徳教育の内容を理解し、道徳の学習指導案を作成し、導入部分をプレゼンしてもらう。受講者各々には、「道徳」に関する自分なりの考えを持ってもらい、生徒達が自身の道徳観を理解できる授業案を作成できることが本講義の目的である。</p>				
授業方針	<p>道徳教育に関する基本的な知識を身に付け、実践方法を学ぶ。日本の道徳教育の歴史を踏まえ、現在求められている道徳教育の実践方法を学ぶ。学習指導案の作成、教材や指導方法の工夫など、学校現場での実践を想定した授業案を作成してもらう。受講者が「道徳」に関する自分なりの考えを持ち、主体的に道徳教育について考えることが出来るよう講義を進める。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本講義の目的、概要。</li> <li>② 関連法規、学習指導要領における道徳教育の位置づけ</li> <li>③ 日本の道徳教育の歴史的経緯</li> <li>④ 道徳性の発達理論(ピアジェ、エリクソン、コールバーグ)</li> <li>⑤ 経済的背景と倫理観(ネオ・リベラリズムにおける質的倫理と量的倫理)</li> <li>⑥ エミール・デュルケームの道徳理論</li> <li>⑦ 宗教と道徳</li> <li>⑧ 価値観と態度(価値観と倫理的態度)</li> <li>⑨ 学校現場が抱える諸問題と道徳教育(いじめ、不登校、学級崩壊など)</li> <li>⑩ 道徳の授業の実践方法(1) 学習指導案の研究</li> <li>⑪ 道徳の授業の実践方法(2) 学習指導案の作成と教材開発</li> <li>⑫ 道徳の授業の実践方法(3) 模擬授業、振り返り、学習指導案の提出</li> <li>⑬ 各教科と道徳教育(教科横断的道徳教育、道徳の評価方法)</li> <li>⑭ これからの道徳教育</li> <li>⑮ まとめ及び試験</li> </ol>				
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業で提示された参考文献や資料を使って学習指導案を作成すること。(30時間)</li> <li>② 現代社会における諸問題について、メディアを通じて意識的に情報収集すること。(10時間)</li> <li>③ 試験を実施するので授業内容を復習しておくこと。(20時間)</li> </ol>				
学習到達目標	<p>中学校学習指導要領の特別の教科「道徳」の内容を理解する。道徳教育に関する基本的な知識を身に付け、実践方法を学ぶ。日本の道徳教育の歴史を踏まえ、現在求められている道徳教育の実践方法を学ぶ。「道徳」に関する自分なりの観念を持てるようにする</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員を目指す大学生として、道徳教育に関する的確な知見を有しているか。(課題・試験による評価)</li> <li>・現代社会が抱えている諸問題に関心を持ち、幅広い視野をもって生徒を指導しようとする意欲を有しているか。(学習指導案の内容の評価)</li> <li>・学習指導案の作成、プレゼンを意欲的に行えたか。</li> <li>・自身が道徳を教える立場として相応しい学習態度であるか。</li> </ul>			
	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点・課題(20%)</li> <li>・学習指導案(40%)</li> <li>・期末テスト(40%)</li> </ul>			
	成績評価	<p>埼玉工業大学工学部規定第14条・人間社会学部規定第14条に定める。</p>			
教材	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』。その他必要と思われる文献や資料を授業で紹介する。</p>				
備考	<p>なぜ今、道徳教育が取り上げられ、その重要性が叫ばれているのか？一緒に考えましょう。その上で自分なりの意見を持ってほしいです。</p>				

科目名	特別支援教育概論			
クラス	対象学年	1年	開講学期	後期
			曜日・時限	金5
担当教員	岩橋 翔		単位区分	◎(必修)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	特別支援教育の制度の理念や仕組みのもと、通常学級に在籍する発達障害等を中心とした障害をもつ生徒、障害はないが教育的ニーズをもつ生徒の、学習および生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対し組織的に支援を行うための知識と支援方法を理解する。なお、最新の学習指導要領にもとづき授業を実施する。			
授業方針	本講義では、特別支援教育に関する基礎的な内容について、幅広く講義する。特別支援教育は、通常学級においても実践されるものであり、教育現場で実践する上では各自がより深めていくことが求められる。従って、特別支援教育に関する基礎的な内容をもとに、あらゆる教職に関する科目との関連を鑑みながら、自身がどのような実践を営むことができるのか、また営むべきか、共に考えていく姿勢で臨んでいただきたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1.授業の概要と進め方、インクルーシブ教育システムについて 2.インクルーシブ教育システム(1) 障害に関する世界や日本の動向とインクルーシブ教育システム 3.インクルーシブ教育システム(2) 就学相談・支援、合理的配慮、学校間連携等 4.インクルーシブ教育システム(3) 特別支援教育の理念や対象、個別の教育支援計画、教育課程等 5.障害の理解と教育の基本(1) ADHD、LD 6.障害の理解と教育の基本(2) ASD、知的障害 7.障害の理解と教育の基本(3) 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、重複障害 8.障害の理解と教育の基本(4) 言語障害、情緒障害、病弱・身体虚弱 9.特別支援学校の教育 教育課程、自立活動、特別支援教育コーディネーター、センター的機能等 10.中学校等の特別支援教育(1) 支援体制の構築、個別の指導計画、交流及び共同学習等 11.中学校等の特別支援教育(2) 特別支援学級、通級による指導の仕組み、関係機関や家庭との連携等 12.中学校等の特別支援教育(3) 「発達障害の子どもたち “自立”を目指して」DVD視聴(レポート) 13.中学校等の特別支援教育(4) 障害をもつ特別の教育的ニーズをもつ児童への支援の実際 14.中学校等の特別支援教育(5) 障害はないが個別の教育的ニーズをもつ児童への支援の実際 15.まとめ及び試験			
準備学習	事前に、授業内容にかかる文部科学省HPにある資料や学習指導要領、参考資料等を読み、理解できていること、不明なことなどを確認する。授業後は復習を行う。予習及び復習時間はそれぞれ2時間程度とする。			
学習到達目標	1.共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠な特別支援教育の、その制度の理念や教育課程などの仕組みを理解する。 2.個別の教育的ニーズをもつ生徒を理解するために必要な知識を理解し、個別の教育的ニーズに対し、関係機関などと連携し組織的に生徒の生きる力を育むための支援方法を理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1.共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠な特別支援教育の、その制度の理念や教育課程などの仕組みを理解することができたか。 2.個別の教育的ニーズをもつ生徒を理解するために必要な知識を理解することができ、個別の教育的ニーズに対し、関係機関などと連携し組織的に生徒の生きる力を育むための支援方法を理解することができたか。		
	成績評価 方法	レポート(40%)、試験(60%)を合計したものを成績評価基準にあてはめて決定する		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程・人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』『特別支援学校高等部学習指導要領』 国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育の基礎・基本』ジヤース教育新社			
備考				

科目名	<b>教育相談</b>				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火5
担当教員	高橋 優			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。本科目では生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。				
授業方針	授業では、発達過程にある生徒の心と体に関する基礎的な理解、教育相談の進め方とその技法(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)、その際に必要となる組織的な取り組みと連携について論じる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談とは何か</li> <li>2. 「教師に相談する」ということ</li> <li>3. 児童期・青年期のパーソナリティ</li> <li>4. パーソナリティの理論と測定</li> <li>5. 児童期・青年期の自己意識と人間関係</li> <li>6. カウンセリングの理論(1)行動療法, 認知行動療法</li> <li>7. カウンセリングの理論(2)クライアント中心療法</li> <li>8. カウンセリングの理論(3)教師とカウンセリング</li> <li>9. 学校の教育相談体制</li> <li>10. 生徒との面談</li> <li>11. スクールカウンセラーとの連携</li> <li>12. 児童期・青年期の不適応</li> <li>13. 保護者との面談</li> <li>14. 学部専門機関との連携</li> <li>15. レポート作成</li> </ol>				
準備学習	教科書の該当章を事前に読み不明な箇所を調べておくことに加えて、前時の復習をすることが次時に向けての準備となる。指示された課題に取り組み、期日までに提出すること。準備学習と課題それぞれ2時間程度を想定している。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談活動の位置づけを理解する。</li> <li>2. 児童期・青年期における心理的課題を理解する。</li> <li>3. カウンセリングの基礎概念を理解する。</li> <li>4. 教師として生徒に働きかけていくために必要な心構えを持つ。</li> </ol>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談活動を適切に位置づけることができたか。</li> <li>2. 児童期・青年期における心理的課題を理解できたか。</li> <li>3. カウンセリングの基礎概念を理解できたか。</li> <li>4. 教師として生徒に接する心構えを持つことができたか。</li> </ol>			
	成績評価 方法	授業時の課題とレポートにより評価する。内訳は課題60%, レポート40%である。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条・人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	<b>教科書</b> 嶋崎政男『新訂版 学校教育相談 基礎の基礎』(学事出版), ISBN978-4-7619-2548-2 <b>参考書</b> 文部科学省『生徒指導提要』(教育図書), ISBN978-4-87730-274-0 <b>参考書</b> 近藤邦夫『教師と子どもの関係づくり 学校の臨床心理学』(東京大学出版会), ISBN978-4-13-013300-5 <b>その他</b> 『中学校学習指導要領』, 『高等学校学習指導要領』を適宜参照する				
備考	教職の必修科目なので、1～3年のうちに必ず履修すること。				

科目名	<b>教育実習I</b>			
クラス	[01クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	小川 毅			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	教育実習 I は教職課程を履修する3年生の科目である。次年度の教育実習に備え、教職の意義及び教員の役割を再確認する。模擬授業では受講者間でその内容や方法について相互に批評し合い、各自の課題を確認する。教育実習において授業実習が可能な水準に到達するまで、模擬授業は繰り返し行われる。教育実習に臨むうえでの自分自身の目標と課題を明確にすることが最終的なねらいである。			
授業方針	教育実習の徹底した事前指導を行う。1、2年時に学んだ教職に関する基本的な知識を再確認したうえで、授業を計画する能力、授業を進める技能が身についているかの見極めを行う。時間や約束の厳守、挨拶など日常の基本的な振る舞いが身についているかも同時に確認し、水準に達していない、または実習前までに改善の見込みがないと判断した場合、単位は出さない。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育実習の意義 第 2回 教員の役割 第 3回 生徒理解と生徒の人権 第 4回 学習指導案の作成(学習指導要領を踏まえて) 第 5回 模擬授業と授業の相互評価(高校数学) 第 6回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・生物) 第 7回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・化学) 第 8回 模擬授業と授業の相互評価(高校工業) 第 9回 模擬授業と授業の相互評価(高校情報) 第10回 模擬授業と授業の相互評価(高校公民・現代社会) 第11回 模擬授業と授業の相互評価(中学校理科) 第12回 模擬授業と授業の相互評価(中学校数学) 第13回 模擬授業と授業の相互評価(中学校社会) 第14回 模擬授業と授業の相互評価(中学校技術) 第15回 まとめ－教育実習における目標と課題の設定－			
準備学習	①これまでに受講した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。(20時間) ②単元の内容精査を行い、学習指導案を作成して模擬授業の準備をすること。(35時間) ③友人の模擬授業等から学んだことを整理して、自分自身の授業に活かす準備をすること。(5時間)			
学習到達目標	①教職の意義及び教員の役割等について再確認する。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につける。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正する。 ④教育実習における目標と課題を設定する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教職の意義及び教員の役割等について再確認することができたか。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につけることができたか。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正することができたか。 ④教育実習における目標と課題を設定することができたか。		
	成績評価 方法	学習指導案40%、模擬授業50%、参加姿勢(コメント)10%で評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』			
備考				

科目名	<b>教育実習I</b>			
クラス	[02クラス]	対象学年	3年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	高橋 優			単位区分 ◎(必修)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	教育実習 I は教職課程を履修する3年生の科目である。次年度の教育実習に備え、教職の意義及び教員の役割を再確認する。模擬授業では受講者間でその内容や方法について相互に批評し合い、各自の課題を確認する。教育実習において授業実習が可能な水準に到達するまで、模擬授業は繰り返し行われる。教育実習に臨むうえでの自分自身の目標と課題を明確にすることが最終的なねらいである。			
授業方針	教育実習の徹底した事前指導を行う。1、2年時に学んだ教職に関する基本的な知識を再確認したうえで、授業を計画する能力、授業を進める技能が身についているかの見極めを行う。時間や約束の厳守、挨拶など日常の基本的な振る舞いが身についているかも同時に確認し、水準に達していない、または実習前までに改善の見込みがないと判断した場合、単位は出さない。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育実習の意義 第 2回 教員の役割 第 3回 生徒理解と生徒の人権 第 4回 学習指導案の作成(学習指導要領を踏まえて) 第 5回 模擬授業と授業の相互評価(高校数学) 第 6回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・生物) 第 7回 模擬授業と授業の相互評価(高校理科・化学) 第 8回 模擬授業と授業の相互評価(高校工業) 第 9回 模擬授業と授業の相互評価(高校情報) 第10回 模擬授業と授業の相互評価(高校公民・現代社会) 第11回 模擬授業と授業の相互評価(中学校数学) 第12回 模擬授業と授業の相互評価(中学校理科) 第13回 模擬授業と授業の相互評価(中学校技術) 第14回 模擬授業と授業の相互評価(中学校社会) 第15回 まとめー教育実習における目標と課題の設定ー			
準備学習	①これまでに受講した教職に関する科目の内容を復習しておくこと。(20時間) ②単元の内容精査を行い、学習指導案を作成して模擬授業の準備をすること。(35時間) ③友人の模擬授業等から学んだことを整理して、自分自身の授業に活かす準備をすること。(5時間)			
学習到達目標	①教職の意義及び教員の役割等について再確認する。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につける。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正する。 ④教育実習における目標と課題を設定する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①教職の意義及び教員の役割等について再確認する。 ②学習指導案作成や授業を構成する諸要素について確認し身につけることができたか。 ③模擬授業を行い相互に批評し合うことで各自の目標と課題を明確にし修正することができたか。 ④教育実習における目標と課題を設定することができたか。		
	成績評価 方法	学習指導案40%、模擬授業50%、参加姿勢10%(コメント)で評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』			
備考				

科目名	教育実習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	1. 「教育実習テキスト」を熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	高橋 優			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校の教員免許のみ取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自2週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	1.「教育実習テキスト」を熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習II				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	小川 毅			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校の教員免許のみ取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自2週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	1. 「教育実習テキスト」を熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	高橋 優,小川 毅,平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	高等学校の教員免許のみ取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自2週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	1. 「教育実習テキスト」を熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習Ⅲ				
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	1. 教育実習テキストを熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習Ⅲ				
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	高橋 優			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	1. 教育実習テキストを熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習Ⅲ				
クラス	[03クラス]	対象学年	4年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4
担当教員	小川 毅			単位区分	◎(必修),○(選必)
				単位数	4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。				
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成				
準備学習	1. 教育実習テキストを熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)				
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。			
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』				
備考					

科目名	教育実習Ⅲ			
クラス	[04クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	高橋 優,小川 毅,平田 文子			単位区分 ◎(必修),○(選必)
				単位数 4
概要 (目的・内容)	中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前中学校(または中学校と高校の両方)の教員免許を取得する学生を対象とする。教育実習直前の事前指導を受け、教材研究や模擬授業を行ったうえで各自3週間の教育実習を行う。実習から戻った後は、実習を通じて学んだことを持ち寄りディスカッションを行うことで、自己の教育実習を相対化し課題を整理する。後期の教職実践演習ではその課題を克服していくことになる。			
授業方針	教職課程の集大成として教育実習を行う。前半はより充実した教育実習が行えるように直前の準備を行う。実習後は実習校で学んできたことを交換し合い、個人個人で課題を整理することになるため、ディスカッションの機会を設ける。積極的な参加が期待される。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 教育実習中の過ごし方 第2回 「教育実習の記録」の記入について 第3回 模擬授業と教材研究1 第4回 模擬授業と教材研究2 第5回 教育実習または個別指導(教育実習準備)1 第6回 教育実習または個別指導(教育実習準備)2 第7回 教育実習または個別指導(教育実習準備)3 第8回 教育実習または個別指導(教育実習準備)4 第9回 教育実習または個別指導(教育実習準備)5 第10回 教育実習または「教育実習の記録」の整理1 第11回 教育実習または「教育実習の記録」の整理2 第12回 教育実習の報告と総括1 第13回 教育実習の報告と総括2 第14回 教育実習の報告と総括3 第15回 レポートの作成			
準備学習	1. 教育実習テキストを熟読すること(10時間) 2. 授業実習を行う単元を予習し学習指導案を作成すること(40時間) 3. 教育実習を振り返り自分なりに総括して報告の準備を行うこと(10時間)			
学習到達目標	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高める。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教育実習を行うことで、授業や生徒指導、学校教育全般にわたる教員の職務を理解し、授業力、指導力を高めることができたか。 2. 教育実習で学んだことを互いに報告し、ディスカッションを行うことで、自分にとっての今後の課題を整理することができたか。		
	成績評価 方法	教育実習校からの評価60%、期末レポート30%、授業への参加態度10%		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『教育実習テキスト』			
備考				

科目名	メディア教育論				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	水5
担当教員	高橋 優			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータやネットワークの発達に伴い、メディア教育は新たな展開を迎えている。多様なツールの特性を見極め、学習者にとって最適なツールを選択しそれを使いこなすことで、これまで以上に効果的な教育実践が可能となる。本講ではこうしたメディアの理解と実践のための技術の習得を目的とする。ツールの理解だけでなく、ネットワークの発展に伴う倫理的側面や認知科学的側面についても触れていきたい。				
授業方針	授業は座学と実習の両方を含み、授業外の時間での作業も少なくない。意気込みのある者の受講を望む。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディア教育の意義:コミュニケーションメディアの特性</li> <li>2. 授業におけるメディアの特性</li> <li>3. 教育現場における著作物の利用:発表資料を例として</li> <li>4. 情報機器の操作:視聴覚機器の操作と注意点</li> <li>5. マルチメディア基礎:画像の特性と操作</li> <li>6. 電子ファイルの共同編集と公開</li> <li>7. 発表実習(1):教具の特性とは</li> <li>8. 発表実習(2):教育におけるPCの利用</li> <li>9. マルチメディア応用</li> <li>10. ネットワークと教育(1):情報機器とプライバシー</li> <li>11. ネットワークと教育(2):情報検索の課題</li> <li>12. ネットワークと教育(3):知る権利・忘れられる権利</li> <li>13. ネットワークと教育(4):子どもたちとネット</li> <li>14. 成果発表と相互評価:成果物の発表</li> <li>15. レポート作成</li> </ol>				
準備学習	授業内で指示された課題に取り組み、期日までに提出すること。課題に必要な時間は、平均して毎回4時間程度だが、発表準備などではこれを大きく上回るものと思われる。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとネットワークの基本的特性を理解する。</li> <li>2. 用途に応じたツールの選択と教育活動への活用ができるようになる。</li> <li>3. ツールやネットワーク・サービスの発達が教育におよぼす影響を考察することができるようになる。</li> </ol>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとネットワークの基本的特性を理解したか。</li> <li>2. 用途に応じたツールの選択と教育活動への活用ができるようになったか。</li> <li>3. ツールやネットワーク・サービスの発達が教育におよぼす影響を考察することができるようになったか。</li> </ol>			
	成績評価 方法	授業内の課題(レポート、発表)80%、授業への参加(授業への参加、発表へのコメント)20%とする。			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	教科書	指定なし			
	参考書	授業の際に指示する			
	その他	適宜、必要な資料を配付する			
備考	授業ではPCを使用する。基本的な操作方法についてあらかじめ確認しておくこと。また、授業内で指示された課題は期日までに提出すること。				

科目名	教育制度論(教育課程を含む。)				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水5
担当教員	平田 文子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	「教育制度論」では日本の学校制度を中心に、近代学校制度がどのように構築されたのか、現行の学校制度や教育課程はどうなっているのか、どんな問題を抱えているのか、学校以外の教育制度はどうなっているのかを学んでいきます。また、諸外国の学校制度にも触れ、日本の学校制度の特徴や問題点について検討していきます。				
授業方針	授業は講義形式が中心になります。将来、学校で勤務することを念頭に置き、必要な知識を身につけるとともに、学校制度が抱える問題点について事例を紹介しながら考察を重ねていきます。毎回の授業の最後に「本日のまとめ」として簡単な課題を出します。毎回の授業の振り返り(「本日のまとめ」)は平常点として評価に反映されます。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 教育制度とは 第 2回 戦後の日本の教育－憲法と教育基本法－ 第 3回 教育法規にみる現在の教育 第 4回 日本の学校制度 第 5回 日本の学校制度(続) 第 6回 制度外の学校 第 7回 制度外の学校(続) 第 8回 教育の国際化 第 9回 教育課程を考える 第10回 教育課程を考える(続) 第11回 学習指導要領の変遷 第12回 学習指導要領の変遷(続) 第13回 諸外国の学校制度と教育課程① 第14回 諸外国の学校制度と教育課程② 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1) 指定したテキストや参考文献の該当箇所を事前に読んで、専門用語の意味などを調べておくこと。(20時間) 2) 授業で配布するレジュメをもとに学習したことを整理して次時の学習に臨むこと。(30時間) 3) 現代の教育に関する新聞記事等に目を通しておくこと。(10時間)				
学習到達目標	1) 教育制度の構造・領域を理解し考察に活かすことができる。 2) 日本の教育(学校)制度と教育課程の史的変遷を理解し、現行の教育(学校)制度と教育課程の課題について考察することができる。 3) 諸外国の学校制度と教育課程を調査・理解し、日本の学校制度や教育課程と比較することによって現状の課題について考察することができる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 教育制度の構造・領域を理解し考察に活かすことができるか。 2) 日本の教育(学校)制度と教育課程の史的変遷を理解し、現行の教育(学校)制度と教育課程の課題について考察することができるか。 3) 諸外国の学校制度と教育課程を調査・理解し、日本の学校制度や教育課程と比較することによって現状の課題について考察することができるか。			
	成績評価 方法	平常点30% レポート・期末試験70%			
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	古賀毅編『やさしく学ぶ教職課程 教育原理』学文社(「教育原理」の教科書と共通)				
備考	学習内容は多少前後することがあります。教育関係の時事問題についても取り上げます。				

科目名	学習指導I			
クラス	対象学年	3年	開講学期	前期
			曜日・時限	月1
担当教員	小川 毅		単位区分	_(選択)
			単位数	2
概要 (目的・内容)	「教える」ことを学ぶ科目である。教えるためには当然その教科の学力がなければならないが、学力があれば教師はつとまるというわけではない。教えるということの意味を理解した上で、指導案の作成、授業の設計、授業中の態度・動作、板書の仕方など多くの要件をマスターしておく必要がある。授業とは教える者と学ぶ者の協同作業であり、教師は言語・非言語両方のメッセージにより場面を適切に導くことが求められる。			
授業方針	この講義は教師志望者のための授業技術入門をねらいとしている。教室での模擬授業を中心に、実践的な授業を展開する。実際の授業と同様の経験を重ねることで、「教育力」を向上を図る。自身の模擬授業だけでなく、他の受講者の模擬授業に「生徒」として参加することも大切である。自分ならどうするかを常に考えながら、積極的に実習に臨んでほしい。高等学校の授業見学も予定している。自分なりの問題意識を整理しておかなければ経験者から学ぶことはできない。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1: 学校教育の現状と課題 2: 中学・高校の学習指導要領、教育法規、通知・通達等 3: 中学・高校現場における授業づくり及び諸課題と授業改善 4: 教材研究と指導法 5: 学習指導案作成1(教材・指導観・展開・評価) 6: 学習指導案作成2(授業のねらい、まとめや情報機器の活用) 7: 附属高校の授業見学の事前調査・研究 8: 附属高校での授業見学(授業見学1) 9: 附属高校での授業見学(授業見学2) 10: 附属高校での授業見学の事後研究1(授業見学についての討議) 11: 附属高校での授業見学の事後研究2(授業見学の考察及び発表) 12: 模擬授業の実施1(課題の明確化や生徒の主体的な授業) 13: 模擬授業の実施2(課題の明確化や生徒の主体的な授業) 14: 模擬授業の講評 15: まとめ			
準備学習	① 次回の講義内容に関する参考文献等を読み、専門用語等の意味などを理解していること。 ② 授業にて小テストを実施するので復習しておくこと。			
学習到達目標	1. 教職に就く意味を理解する。 2. 授業を構成する要因を理解する。 3. 指導案の作成ができるようになる。 4. 教師の役割を理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 教職に就く意味を理解したか。 2. 授業を構成する要因を理解したか。 3. 指導案の作成ができるようになったか。 4. 教師の役割を理解したか。		
	成績評価 方法	指導案作成40%、模擬授業50%、模擬授業参観の取り組みおよび附属高校授業見学レポート10%とする。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	中・高等学校学習指導要領(総則・解説)			
備考	模擬授業の準備不足は他の受講者の学習機会を奪うことになる。熱意を持って受講することを求める。			

科目名	学習指導II				
クラス		対象学年	3年	開講学期	後期
				曜日・時限	月1
担当教員	小川 毅			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学習指導における基礎的な授業内容を基に、学校現場の様々な職務に対応できる教師力を育成する。学習指導は単に授業のみにあるものではなく、広範な学校教育に関わるものであることを意識して、実践的指導力を強化する。				
授業方針	学校現場の教育内容に合わせ、実践的な学習内容と生徒・進路指導等の総合的な教師養成の学びとする。教師として身に付ける具体例として教員採用試験対策を取り入れ、現実的な教師力を強化する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 学習指導と学校教育の現状・課題 2 学習指導と教育法規、学習指導要領、通知・通達等 3 実践的指導力の強化1(教育の意義に関する授業力) 4 実践的指導力の強化2(情報機器を活用した授業改善) 5 実践的指導力の強化3(ディスカッションを通じたコミュニケーション能力の開発) 6 実践的指導力の強化4(発展的授業指導力の研究) 7 演習:中学校授業見学 8 授業見学の振り返りと研究協議 9 模擬授業1(教科「中学理科」、「中学数学」) 10 模擬授業2(教科「高校理科」、「高校数学」) 11 模擬授業3(教科「中学社会」、「中学理科」) 12 模擬授業4(教科「地歴」、「公民」) 13 模擬授業5(教科「情報」、「工業」) 14 模擬授業の反省(討議) 15 まとめ				
準備学習	①次回の講義内容に関連する参考文献等を読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間) ②授業終了時に示す課題について、レポート・小論文を作成すること。(10時間) ③指導案作成・模擬授業の準備(30時間)				
学習到達目標	①学校現場の現状と課題を理解し、その改善策を自ら考え判断し、行動できる教師を目指す。 ②学校現場の状況を理解し、学習指導の改善及び強化を図る。 ③指導案作成、模擬授業により、実践的指導力を強化する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①レポート、小論文の内容が目標に達成しているか。 ②指導案作成が満足できるか。 ③模擬授業が満足できるか。			
	成績評価 方法	レポート10%、小論文30%、指導案30%、模擬授業30%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。			
教材	学習指導要領(総則編、解説編) および毎回の授業で教材を適宜配布する。				
備考					

科目名	教職実践演習(中・高)			
クラス	[01クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 火2
担当教員	小川 毅			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	これまで学んだことを振り返り、改めて教師としての資質とは何かを考える。また、指導は講義だけでなく、履修者間のディスカッションや学校教育現場への見学、現職教員を招いての講話などにより、教師としての実践的な指導力を養成する。履修者は、積極的にこの演習に取り組み、自ら教師として成長していくための課題を明らかにし、教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を身につける。			
授業方針	これまで学んできた教職課程のすべてについて総合的に理解し、教師としての知識、技能を補完する。具体的には、学校教育現場への見学や現職教員をゲストティーチャーとして招いたレクチャーを通じて、学校教育が直面しているより現実的な課題について把握する。また、履修者間で活発なディスカッションを通じて、自らが教師となったとき教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を養成する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学修を振り返る</li> <li>2. 教職の意義、教員に求められる資質を考える</li> <li>3. 学級経営に求められるもの</li> <li>4. 保護者・地域との連携</li> <li>5. 生徒理解の実際(1): 青年期の心理と行動の理解</li> <li>6. 生徒理解の実際(2): 教育実習を踏まえて</li> <li>7. 学校現場の理解(1): 附属高校の教員を招いて</li> <li>8. 学校現場の理解(2): 附属高校での授業参観</li> <li>9. 学校現場の理解(3): 授業参観を終えてのディスカッション</li> <li>10. 模擬授業(1): 教材提示</li> <li>11. 模擬授業(2): 発問と解説</li> <li>12. 模擬授業(3): 履修者による模擬授業と討論</li> <li>13. 教科内容の指導力を高めるには</li> <li>14. 教職課程を振り返る</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 指定した教科書や参考書を事前に読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間)</li> <li>② 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(30時間)</li> <li>③ 毎回授業の最初に前回授業内容にかかわる小テストを実施するので復習しておくこと。(10時間)</li> </ol>			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになる。</li> <li>2. 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになる。</li> <li>3. 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができる。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになったか。</li> <li>2. 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになったか。</li> <li>3. 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができるようになったか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	発表内容30%、課題・レポート70%の総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『三訂 教育実習テキスト』			
備考	教師として働く意志を持って受講すること。			

科目名	教職実践演習(中・高)			
クラス	[02クラス]	対象学年	4年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	高橋 優			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	これまで学んだことを振り返り、改めて教師としての資質とは何かを考える。また、指導は講義だけでなく、履修者間のディスカッションや学校教育現場への見学、現職教員を招いての講話などにより、教師としての実践的な指導力を養成する。履修者は、積極的にこの演習に取り組み、自ら教師として成長していくための課題を明らかにし、教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を身につける。			
授業方針	これまで学んできた教職課程のすべてについて総合的に理解し、教師としての知識、技能を補完する。具体的には、学校教育現場への見学や現職教員をゲストティーチャーとして招いたレクチャーを通じて、学校教育が直面しているより現実的な課題について把握する。また、履修者間で活発なディスカッションを通じて、自らが教師となったとき教育現場の諸課題に対して実践的に解決できる資質・能力を養成する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学修を振り返る</li> <li>2. 教職の意義、教員に求められる資質を考える</li> <li>3. 学級経営に求められるもの</li> <li>4. 保護者・地域との連携</li> <li>5. 生徒理解の実際(1): 青年期の心理と行動の理解</li> <li>6. 生徒理解の実際(2): 教育実習を踏まえて</li> <li>7. 学校現場の理解(1): 附属高校の教員を招いて</li> <li>8. 学校現場の理解(2): 附属高校での授業参観</li> <li>9. 学校現場の理解(3): 授業参観を終えてのディスカッション</li> <li>10. 模擬授業(1): 教材提示</li> <li>11. 模擬授業(2): 発問と解説</li> <li>12. 模擬授業(3): 履修者による模擬授業と討論</li> <li>13. 教科内容の指導力を高めるには</li> <li>14. 教職課程を振り返る</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 次回の講義内容に関連する参考文献等を読み、専門用語の意味などを理解していること。(20時間)</li> <li>② 事前にこれまでの教科、教職科目および各自の教育実習での課題を再確認すること。(30時間)</li> <li>③ 授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。(10時間)</li> </ol>			
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになる。</li> <li>② 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになる。</li> <li>③ 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができる。</li> </ol>			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育に対する使命感、倫理観、規範意識が持てるようになったか。</li> <li>② 生徒を理解し、規律ある学級経営ができる資質・能力が持てるようになったか。</li> <li>③ 自己の教育的課題を発見し、解決を図ることができるようになったか。</li> </ol>		
	成績評価 方法	発表内容30%、課題・レポート70%の総点を求め評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学工学部規程第14条、および人間社会学部規程第14条に定める。		
教材	埼玉工業大学教職課程編『三訂 教育実習テキスト』			
備考	教師として働く意志を持って受講すること。			